

市民の生活等に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報 告 書

令和 8 年 8 月

札 幌 市

目 次

1 調査報告書

(1) 無作為抽出アンケート調査	1
① 調査の概要	2
ア) 調査目的	2
イ) 調査項目	2
ウ) 調査対象	2
エ) 調査時期	2
オ) 調査方法	2
カ) 回収結果	2
② 広義のひきこもり群の定義	3
ア) 広義のひきこもり群	3
イ) 一般群	4
ウ) 世帯内のひきこもり状態の方について	7
③ 調査の結果	8
(2) 当事者及び家族向けアンケート調査	51
① 調査の概要	52
ア) 調査目的	52
イ) 調査項目	52
ウ) 調査対象	52
エ) 調査時期	52
オ) 調査方法	52
カ) 回収結果	52
② ひきこもり状態(現在ひきこもり群・過去ひきこもり群)の定義	53
③ 調査の結果	54

(3) 関係機関向けアンケート調査	85
① 調査の概要	86
ア)調査目的	86
イ)調査項目	86
ウ)調査対象	86
エ)調査時期	86
オ)調査方法	86
カ)回収結果	86
② 調査の結果	87
(4) 8050 問題に関するアンケート調査	97
① 調査の概要	98
ア)調査目的	98
イ)調査項目	98
ウ)調査対象	98
エ)調査時期	98
オ)調査方法	98
カ)回収結果	98
② ひきこもり類型(いる(子:8050)群・いる(子以外)群・いない群)の定義	99
ア)いる(子:8050)群	99
イ)いる(子以外)群	99
ウ)いない群	100
③ 調査の結果	101

1 調査報告書

(1) 無作為抽出アンケート調査

1-(1) 調査報告書 無作為抽出アンケート調査

① 調査の概要

ア)調査目的

本市では、ひきこもりの実態把握及び当事者の状態や意向等に即した、多面的・包括的な支援対策の検討に資する基礎資料の作成を目的として、平成30年度に「市民の生活等に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」(以下、「前回調査」という。)を実施した。

本調査は、ひきこもり当事者及び家族の多様性を踏まえて、適切な相談・支援に繋げるための対策を検討する基礎資料の作成を目的として実施する。

イ)調査項目

- a. 基本属性について(Q1～Q6)
- b. 就労に関すること(Q7～Q8)
- c. 普段の活動に関すること(Q9～12)
- d. 本人のひきこもりの状態に関すること(Q13)
- e. 世帯内のひきこもりの状態の方に関すること(Q14～15)
- f. 相談経験に関すること(Q16～17)
- g. ひきこもり状態への認識に関すること(Q18)
- h. ひきこもり状態になったときの相談・支援に関すること(Q19～22)

ウ)調査対象

- a. 母集団 札幌市在住の15歳以上64歳以下の者
- b. 標本数 4,000人
- c. 抽出方法 等間隔無作為抽出法

エ)調査時期

令和7年11月17日～12月19日

オ)調査方法

郵送配布・郵送回収又はWEB回答

カ)回収結果

回収数(率) 1,505人(37.6%)
【郵送 699人(17.5%)、Web回答 806人(20.2%)】

② 広義のひきこもり群の定義

ア)広義のひきこもり群

広義のひきこもり群については、前回調査及び令和4年度に内閣府が実施した「こども・若者の意識に関する調査」の定義を基に、以下の定義を用いた。

本調査における広義のひきこもり群は、

「Q12 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

であって、

「Q13-3 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ① 「身体的な病気・ケガ」を選択した者
- ② 「精神的な病気(病名)」を選択し、病名に統合失調症を記入した者
- ③ 「妊娠した」を選択した者
- ④ 「在宅ワークを始めた」を選択した者
- ⑤ 「その他()」を選択し、()に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

「Q7 現在の主な就労・就学等の状況についてお答えください。」で、

- ① 「勤めている(正社員)」を選択した者
- ② 「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト【学生のアルバイトは除く】)」を選択した者
- ③ 「自営業・自由業」を選択した者
- ④ 「専業主婦・主夫又は家事手伝い」を選択した者
- ⑤ 「働いている(その他)」を選択した者

「Q9 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。」で、

- ① 「仕事をする」を選択した者
- ② 「家事・育児をする」を選択した者

を除いた人数。

なお、

「Q13-1 現在の状態になってどのくらい経ちますか。」について、6 か月以上と回答した者

の設問について、前回調査では「6か月未満」を選択した者も除外しているが、令和7年1月に厚労省が発行した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」により、ひきこもり支援の対象者は、「その状態にある期間は問わない」こととなったため、期間に関する除外要件は用いていない。

イ)一般群

全回答者から、「広義のひきこもり群」に該当する者を除いた者を「一般群」とする。

令和7年10月1日現在の札幌市「住民基本台帳」による人口から、年代別(15歳～39歳・40歳～59歳・60歳～64歳)における広義のひきこもりの推計数は以下のとおり。

a. 15歳～39歳

札幌市「住民基本台帳」15歳～39歳人口： 496,172 人
有効回収数： 519 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	13	2.50	12,428
一般群	506	97.50	483,744
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	10	1.93	9,560

※表中の「有効回答数に占める割合」は、小数点第3位以下を四捨五入した数値であるため、当該数値を用いた推計数の算出では、表中の「札幌市全体の推計数」の数値にならない場合がある。以下同じ。

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」15歳～39歳人口： 529,793 人
有効回収数： 1,444 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	18	1.25	6,604

b. 40歳～59歳

札幌市「住民基本台帳」40歳～59歳人口： 564,644 人
有効回収数： 772 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	9	1.17	6,583
一般群	763	98.83	558,061
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	8	1.04	5,851

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」40歳～59歳人口: 560,775 人

有効回収数: 1,932 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	28	1.45	8,128

c. 60歳～64歳

札幌市「住民基本台帳」60歳～64歳人口: 130,056 人

有効回収数: 212 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	6	2.83	3,681
一般群	206	97.17	126,375
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	5	2.36	3,067

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」60歳～64歳人口: 124,605 人

有効回収数: 514 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	21	4.09	5,091

ウ)世帯内のひきこもり状態の方について

本調査は、本人の回答を前記の定義に基づいて「広義のひきこもり群」と「一般群」に分類しているため、自身が「広義のひきこもり群」の定義に該当しているかについて、必ずしも回答者本人の意識と一致しない。

同じ世帯内におけるひきこもり状態の方に関する調査項目については、「広義のひきこもり群」の定義に基づいた分類は行わず、本人自身の意識に基づいた整理を行った。

具体的には、Q14において、本人自身の意識に基づいた「世帯内のひきこもりの状態の方の有無」についての質問し、回答によってそれぞれ以下の調査を行った。

世帯内にひきこもり状態の方がいると回答した者

【対象者】

「Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。」で、

- ① 「あなた以外の家族に当てはまる人がいる」を選択した者
- ② 「あなた自身のみ当てはまる」を選択した者

【調査内容】

- ・①の人に関するひきこもりの状態について(Q15)
- ・①と②の人に関する相談経験に関して(Q16～17)

世帯内にひきこもり状態の方がいないと回答した者

【対象者】

「Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。」で、

- ③ 「世帯に当てはまる人はいない」を選択した者

【調査内容】

- ・ひきこもり状態への認識に関すること(Q18)

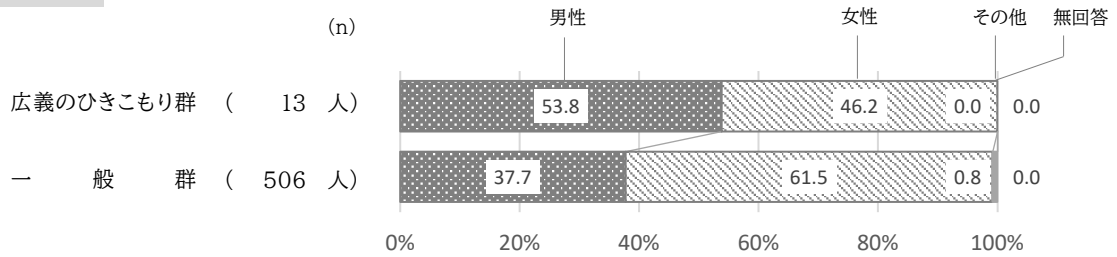
③ 調査の結果

※回答者全員がすべての質問に回答しているわけではないため、全体の数と内訳の合計が一致しない場合があります。

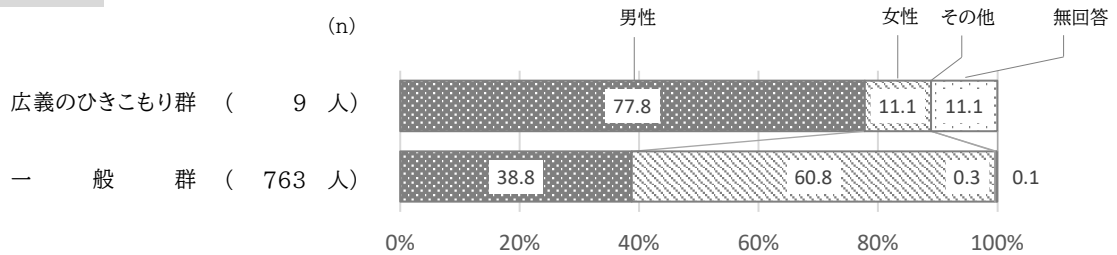
a. 基本属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

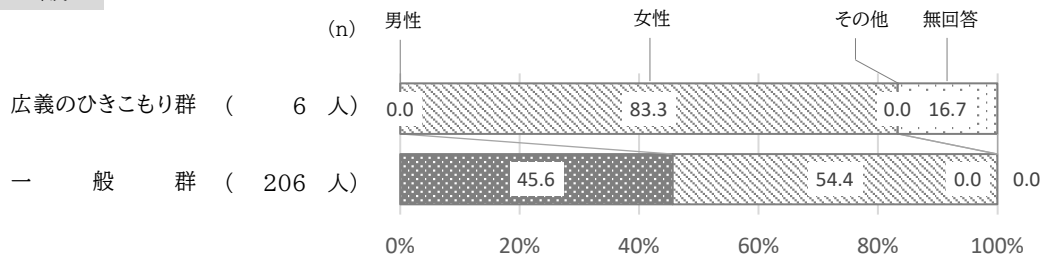
15歳～39歳



40歳～59歳

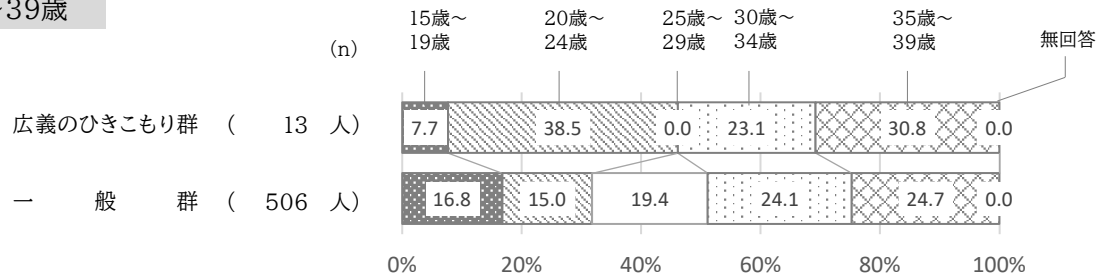


60歳～64歳

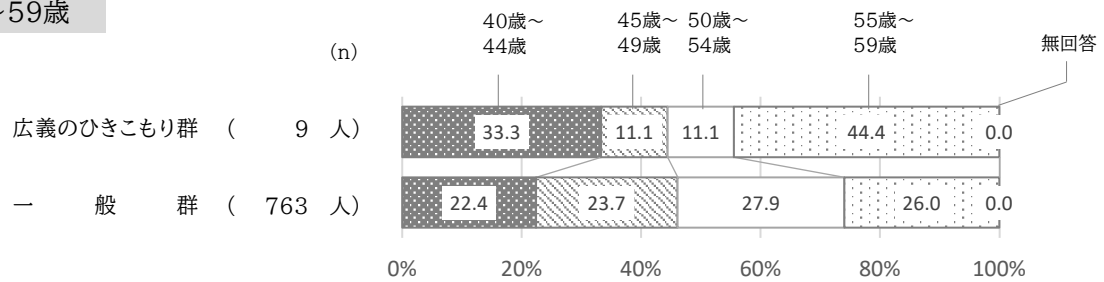


Q2 あなたの年齢(令和7年9月24日現在)をお答えください。(〇はひとつだけ)

15歳～39歳



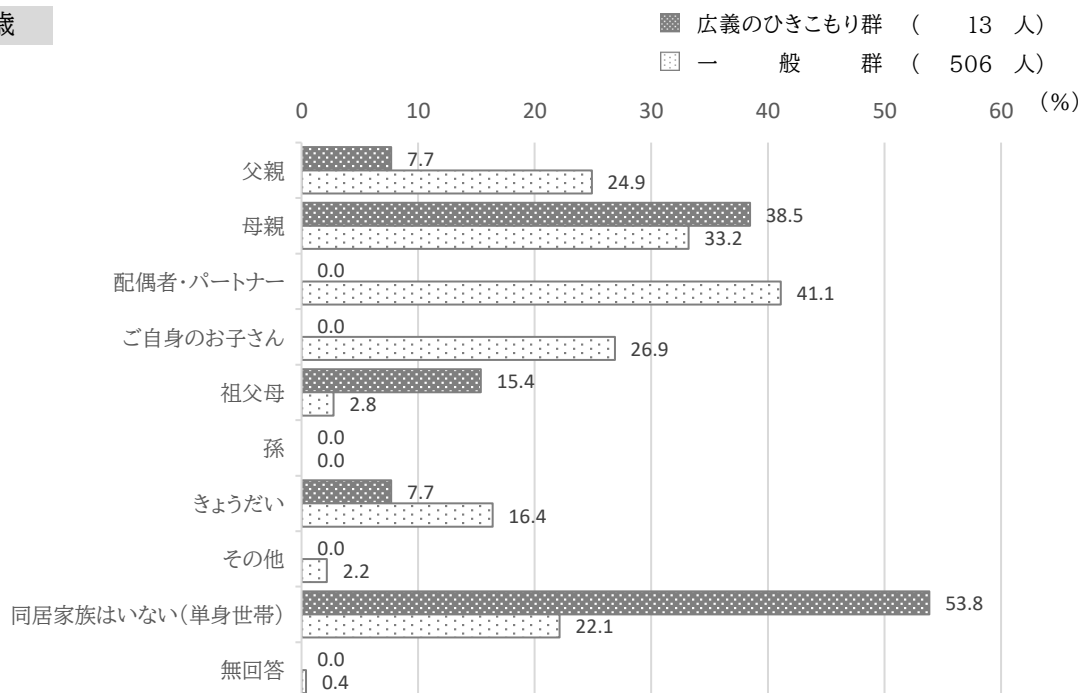
40歳～59歳



※60歳～64歳は、回答選択肢が「60歳～64歳」の1つとなるため省略

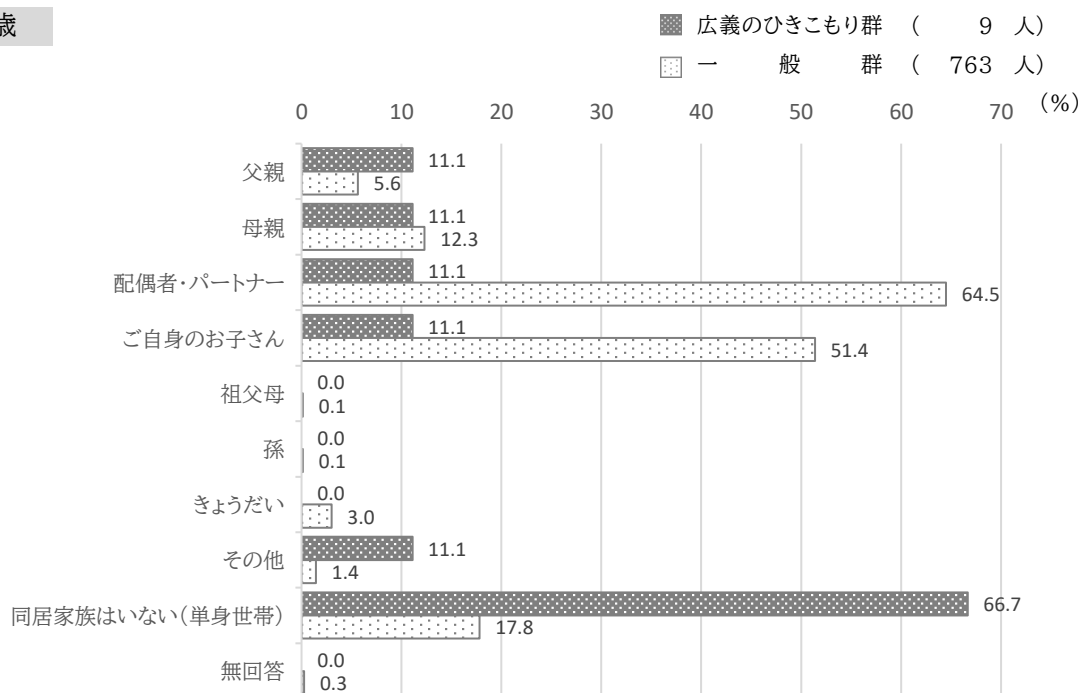
Q3 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

15歳～39歳



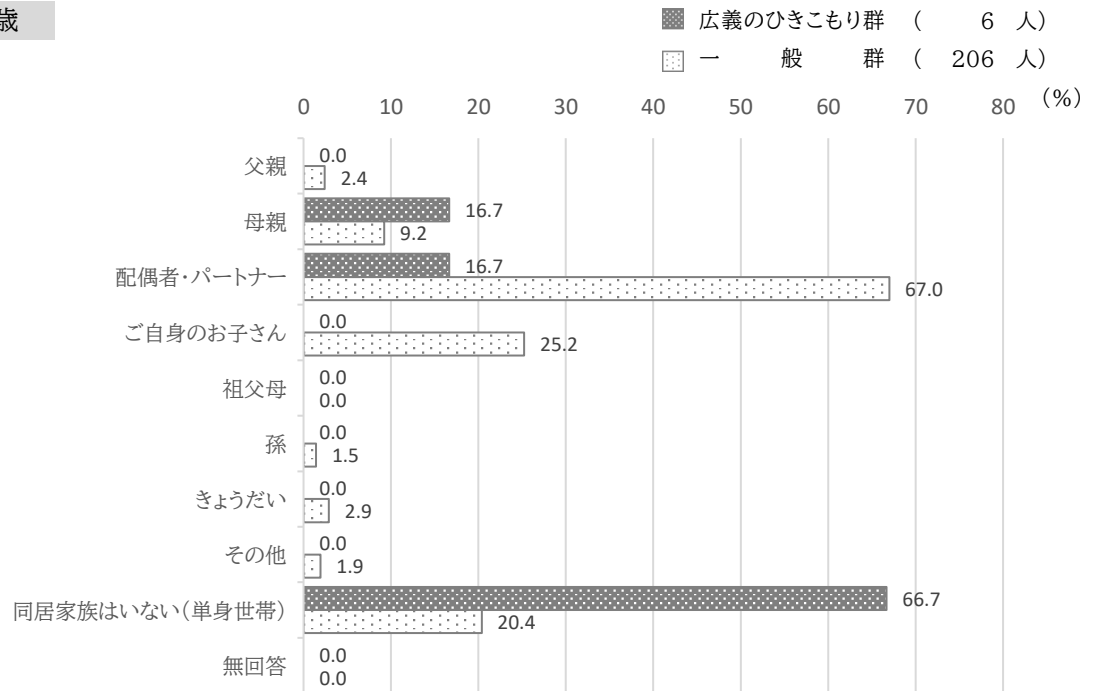
同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が53.8%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「ご自身のお子さん」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が66.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「ご自身のお子さん」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

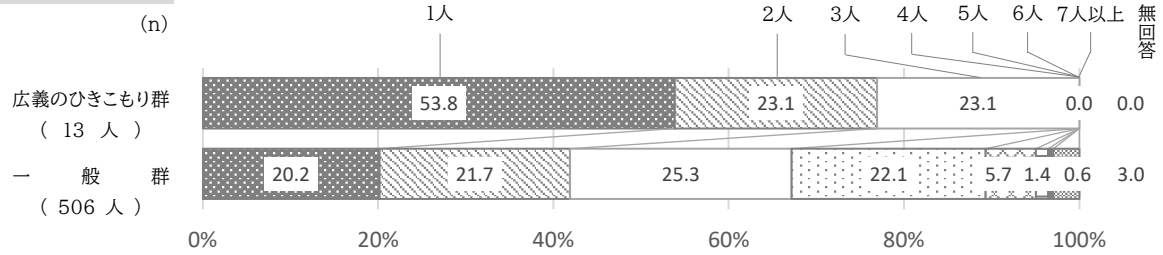
60歳～64歳



同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が66.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が16.7%、「ご自身のお子さん」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

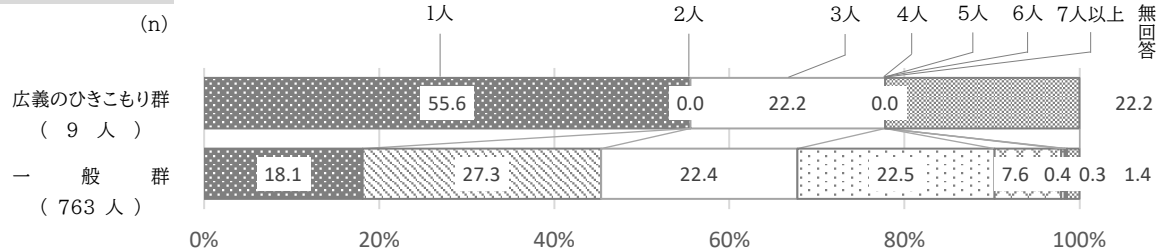
Q4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

15歳～39歳



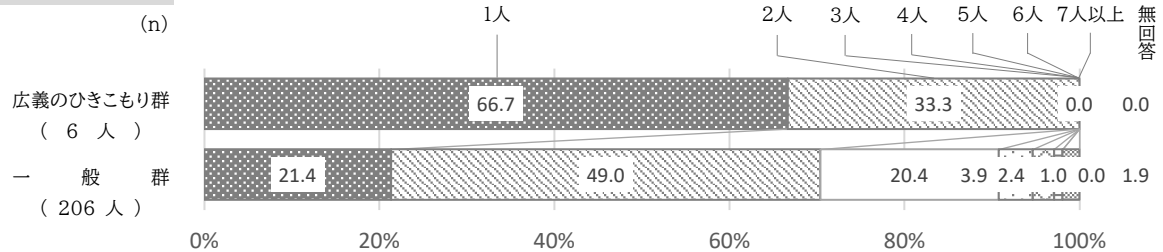
同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が53.8%で一般群に比べて多く、「4人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が55.6%で一般群に比べて多く、「2人」及び「4人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

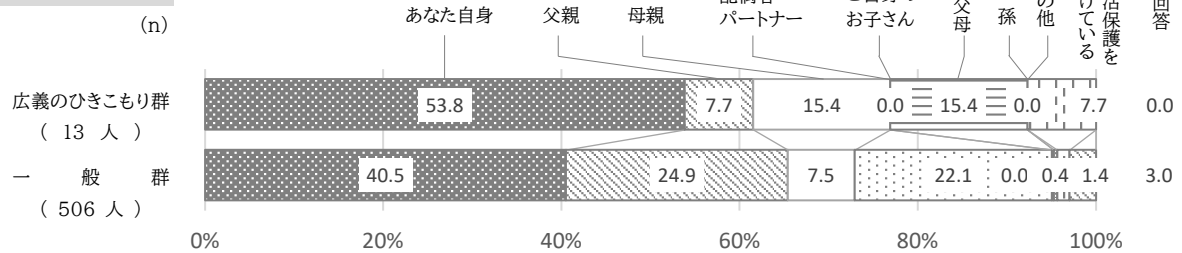
60歳～64歳



同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が66.7%で一般群に比べて多く、「3人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

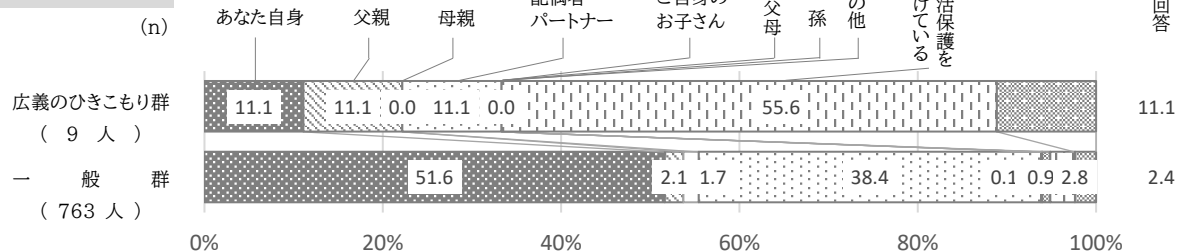
Q5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)

15歳～39歳



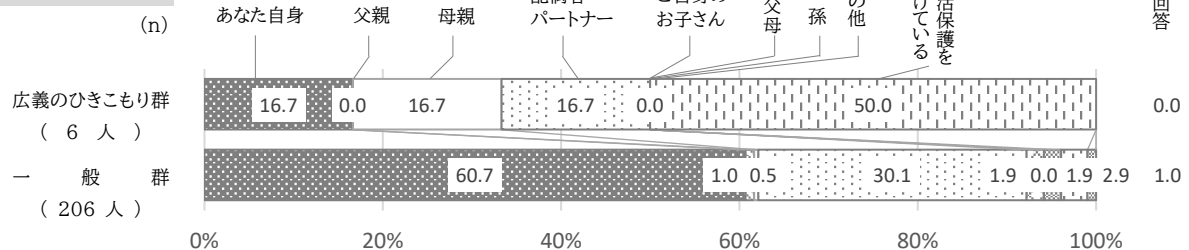
主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「あなた自身」が53.8%で一般群と同様に多く、「配偶者・パートナー」が0.0%、「父親」が7.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「生活保護を受けている」が55.6%で一般群に比べて多く、「あなた自身」及び「配偶者・パートナー」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

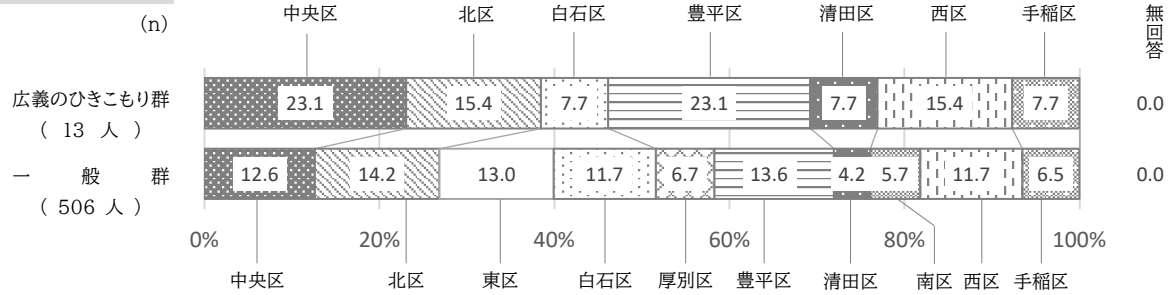
60歳～64歳



主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「生活保護を受けている」が50.0%、「母親」が16.7%で一般群に比べて多く、「あなた自身」及び「配偶者・パートナー」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

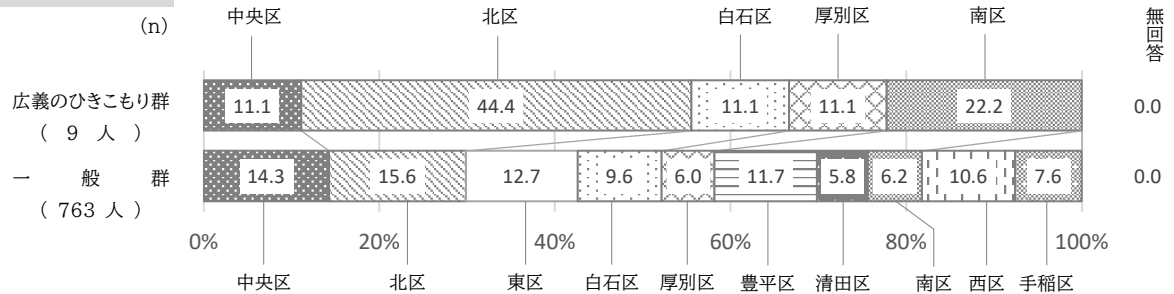
Q6 あなたがお住まいの地域に○をつけてください。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



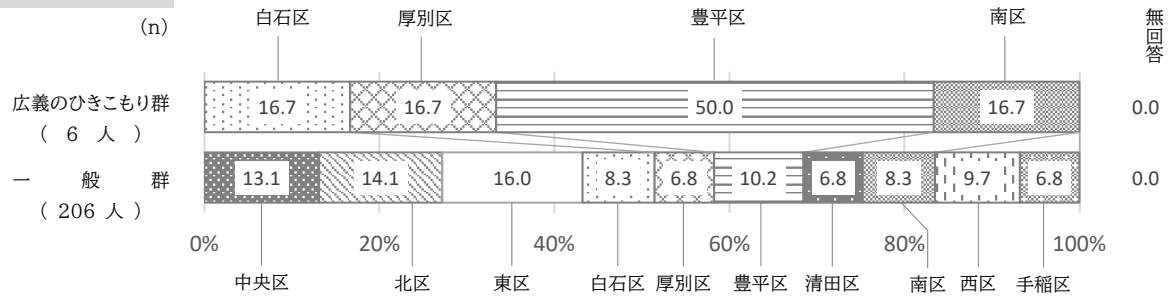
広義のひきこもり群における東区、厚別区、南区は、0人のため表示していない。

40歳～59歳



広義のひきこもり群における東区、豊平区、清田区、西区、手稲区は、0人のため表示していない。

60歳～64歳



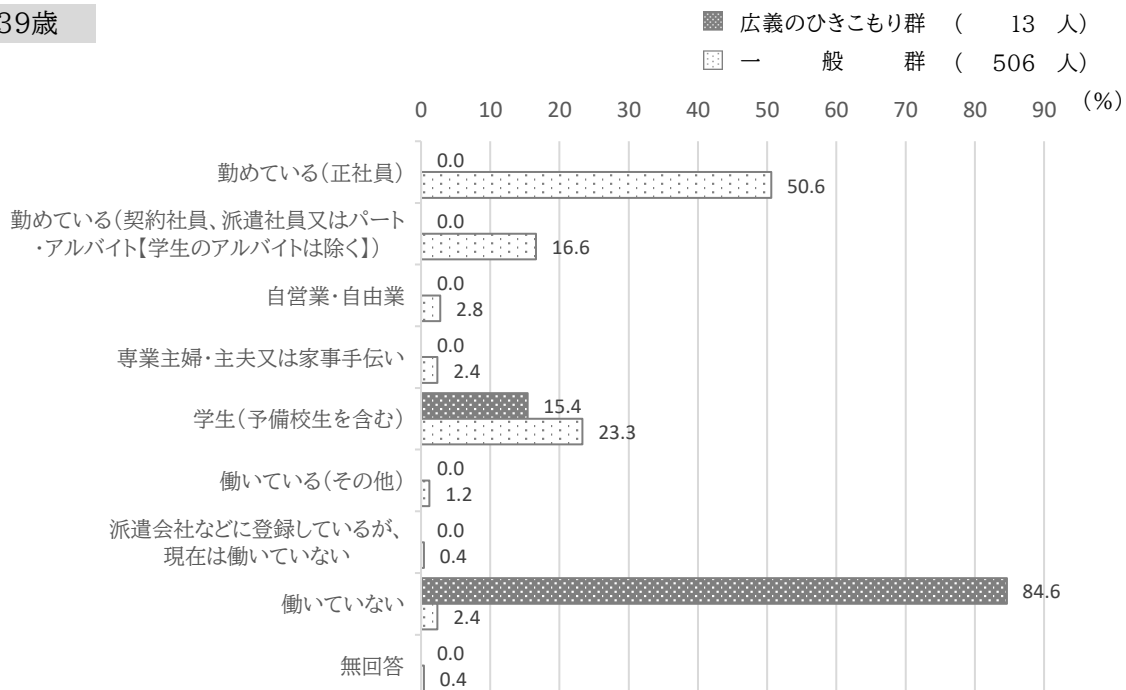
広義のひきこもり群における中央区、北区、東区、清田区、西区、手稲区は、0人のため表示していない。

b. 就労に関すること

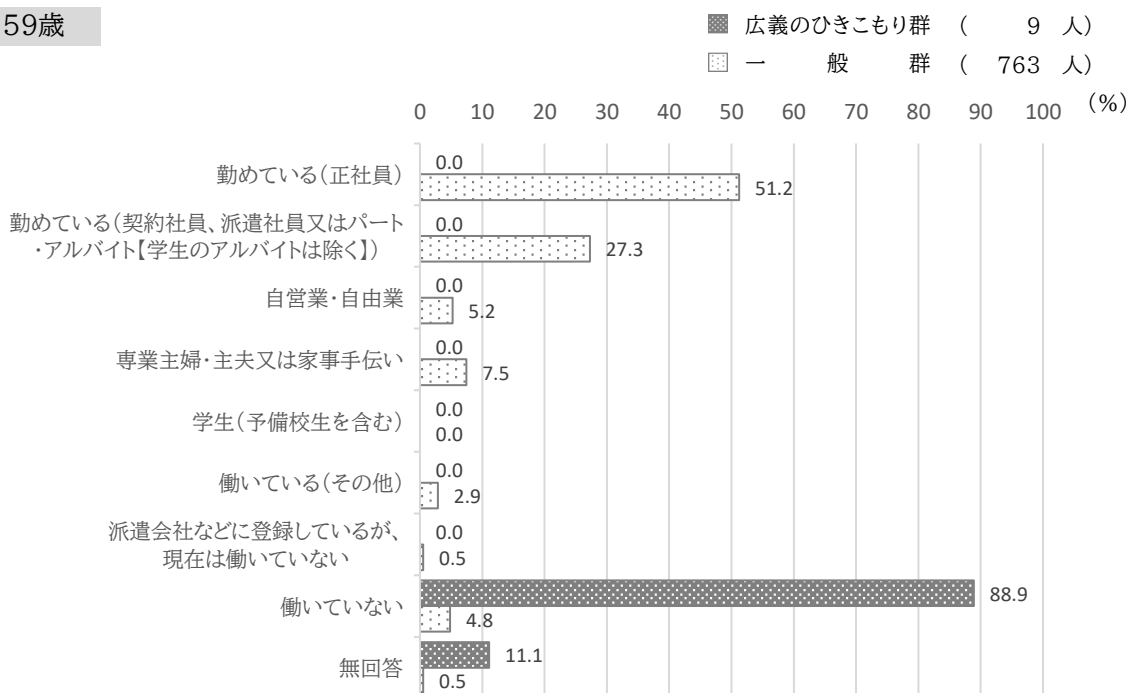
Q7 あなたの現在の主な就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

※Q7の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

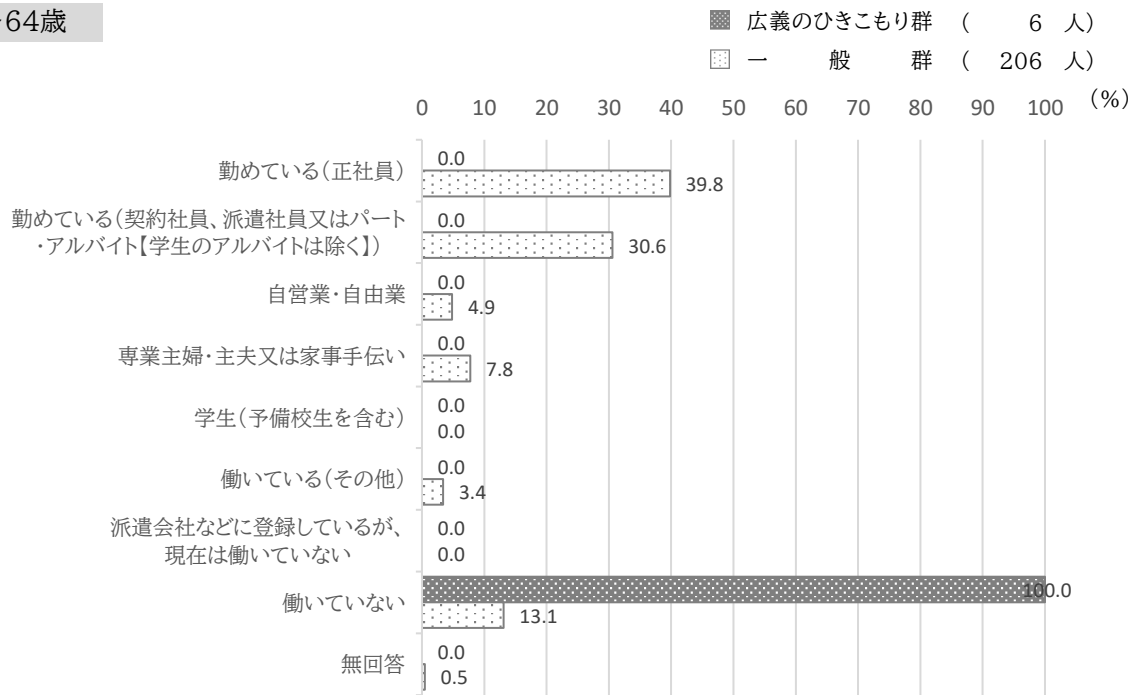
15歳～39歳



40歳～59歳



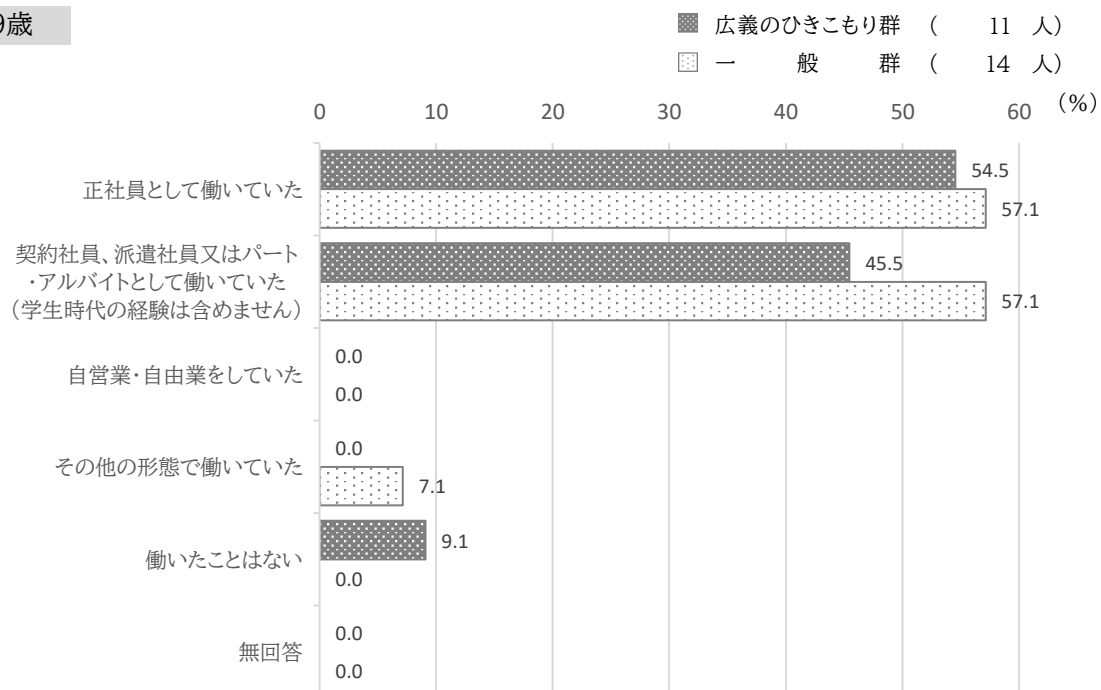
60歳～64歳



【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

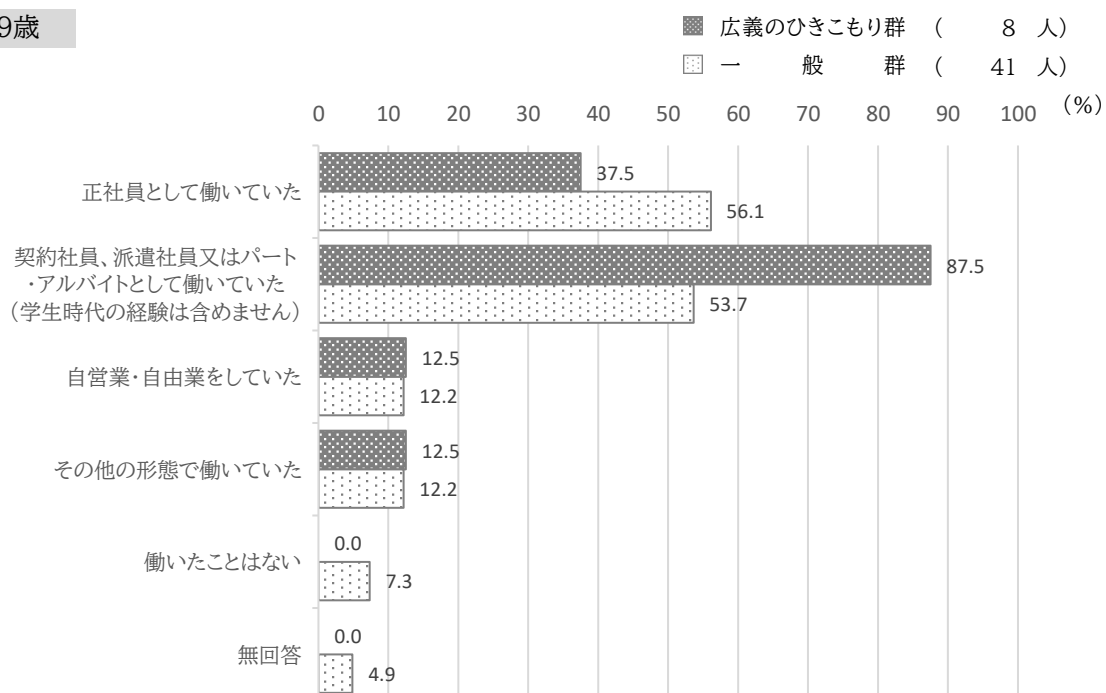
Q8-1 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(○はいくつでも)

15歳～39歳



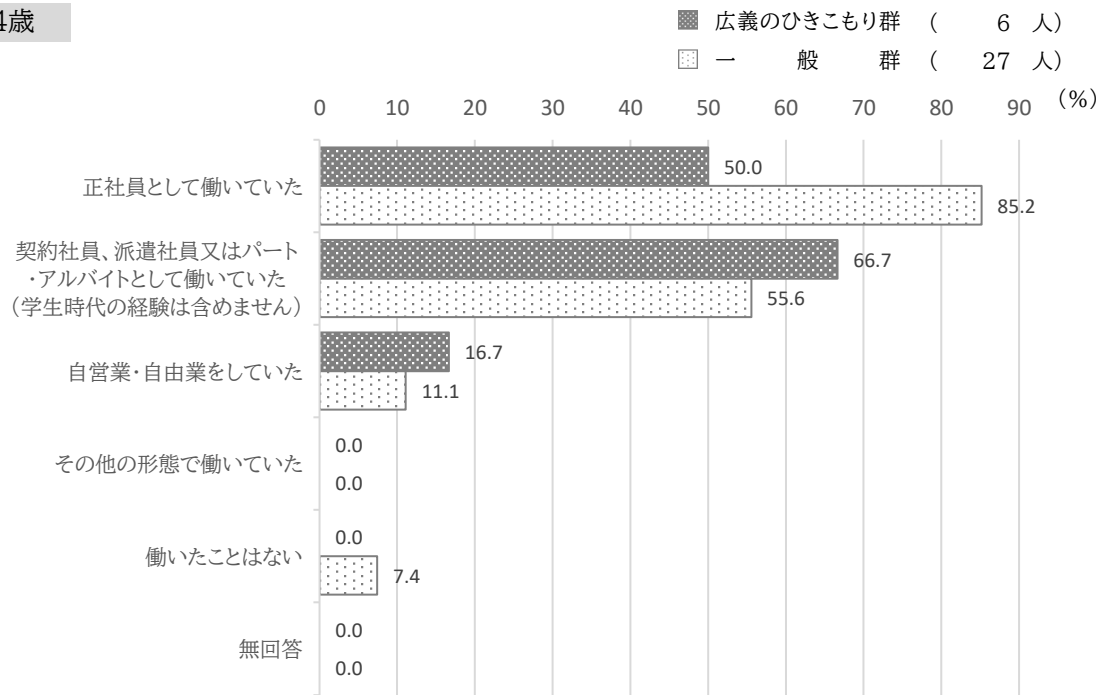
Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「正社員として働いていた」が54.5%、ついで「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が45.5%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が87.5%で一般群に比べて多く、「正社員として働いていた」が37.5%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳

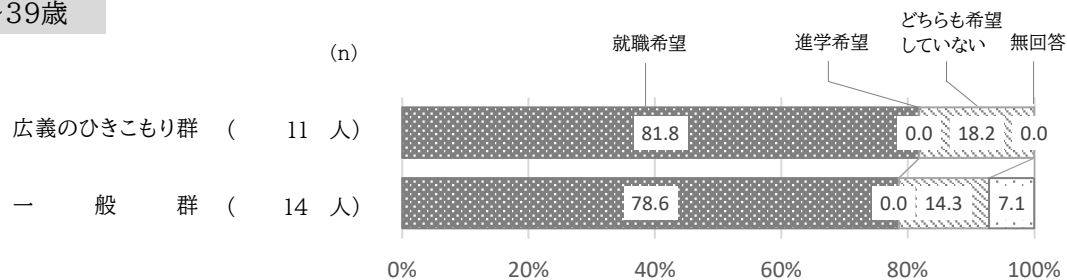


Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が66.7%で、ついで「正社員として働いていた」が50.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

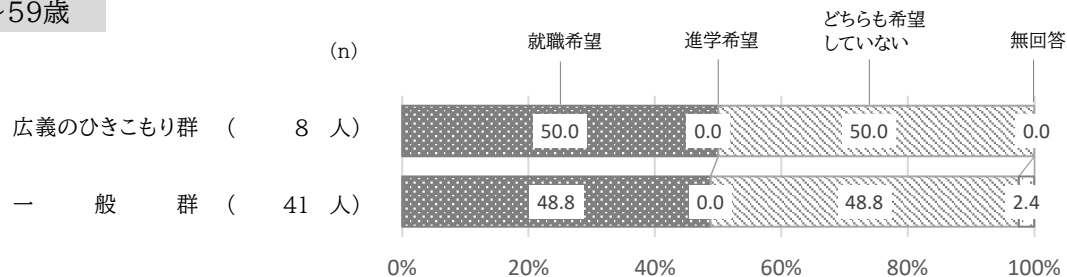
Q8-2 あなたは現在就職又は進学を希望していますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



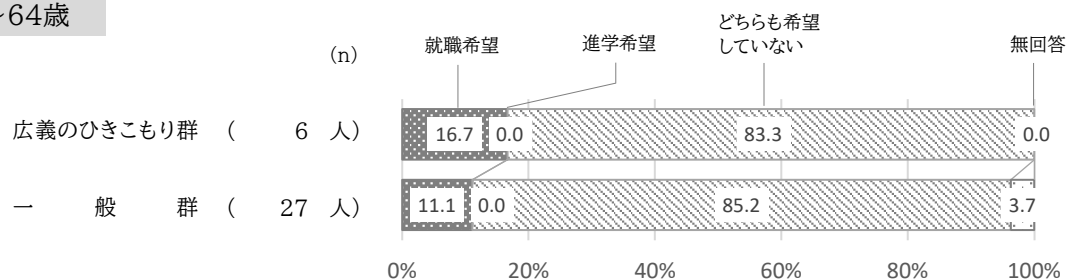
Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「希望就職」が81.8%、「どちらも希望していない」が18.2%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「希望就職」及び「どちらも希望していない」が50.0%であった。

60歳～64歳

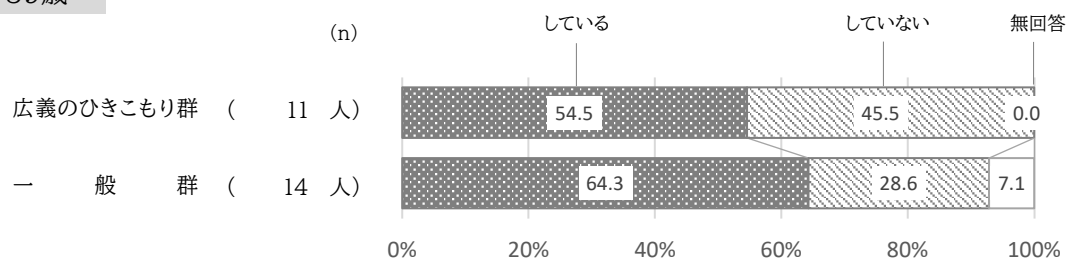


Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「希望就職」が16.7%、「どちらも希望していない」が83.3%であった。

【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

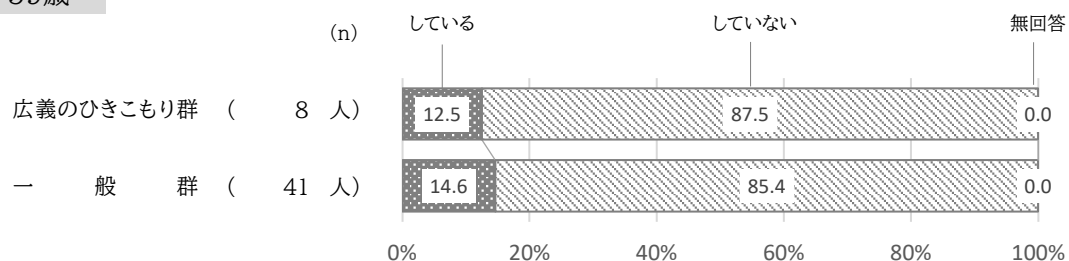
Q8-3 あなたは現在就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



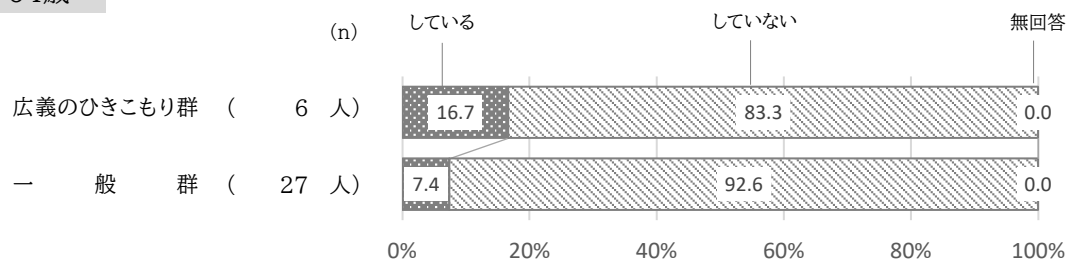
Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が54.5%、「していない」が45.5%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が12.5%、「していない」が87.5%であった。

60歳～64歳



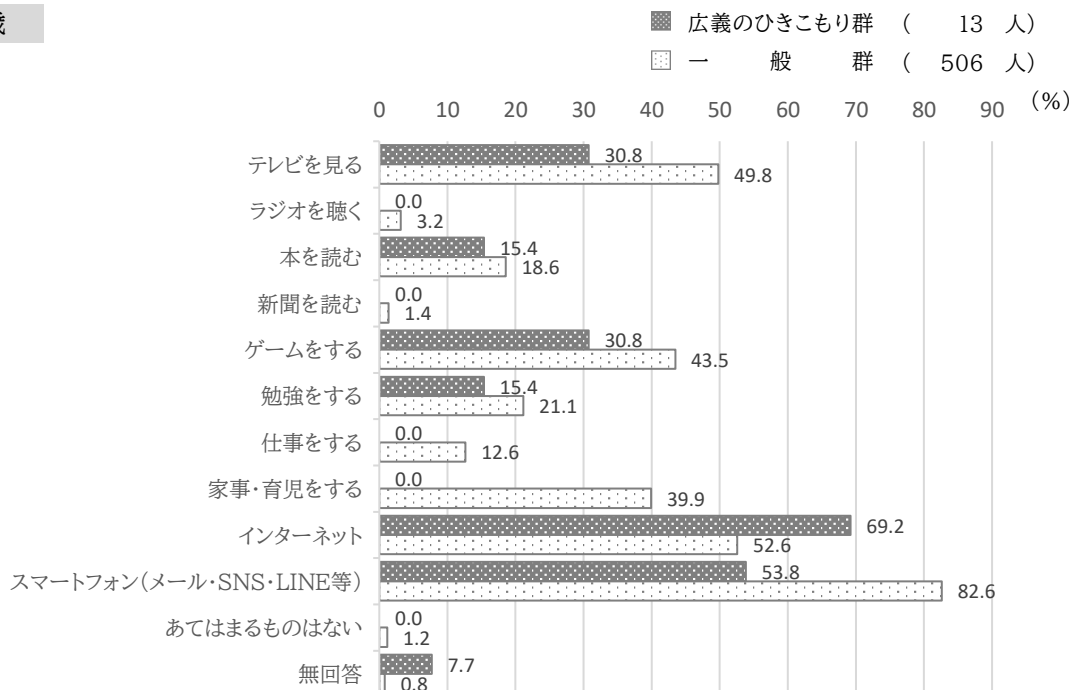
Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が16.7%、「していない」が83.3%であった。

c. 普段の活動に関すること

Q9 あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

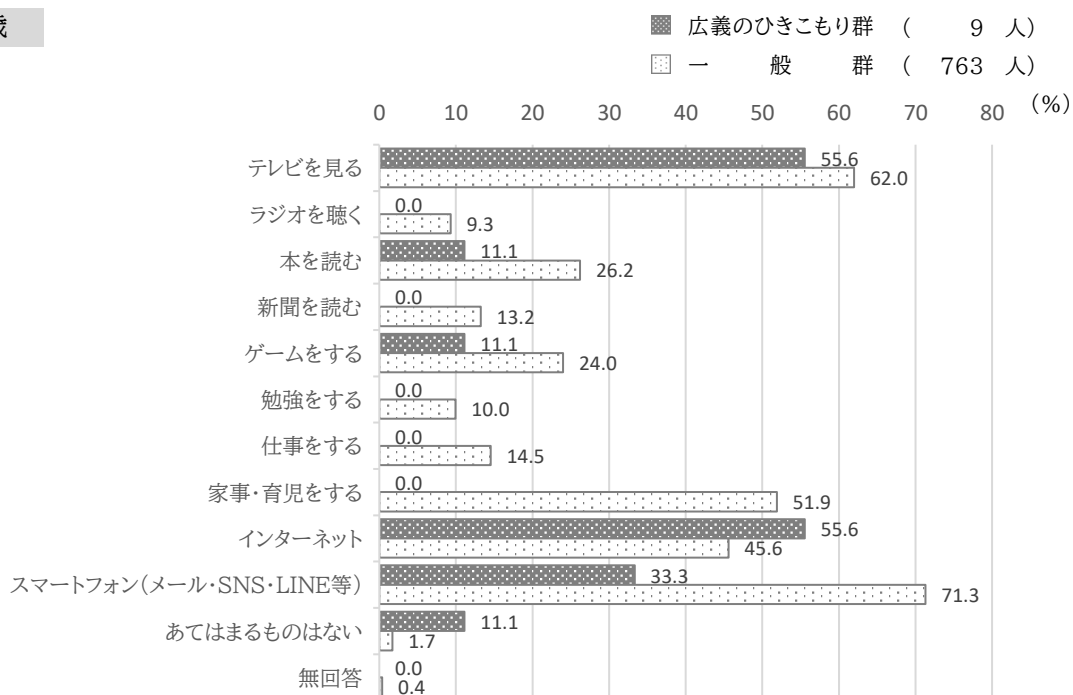
※Q9の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

15歳～39歳



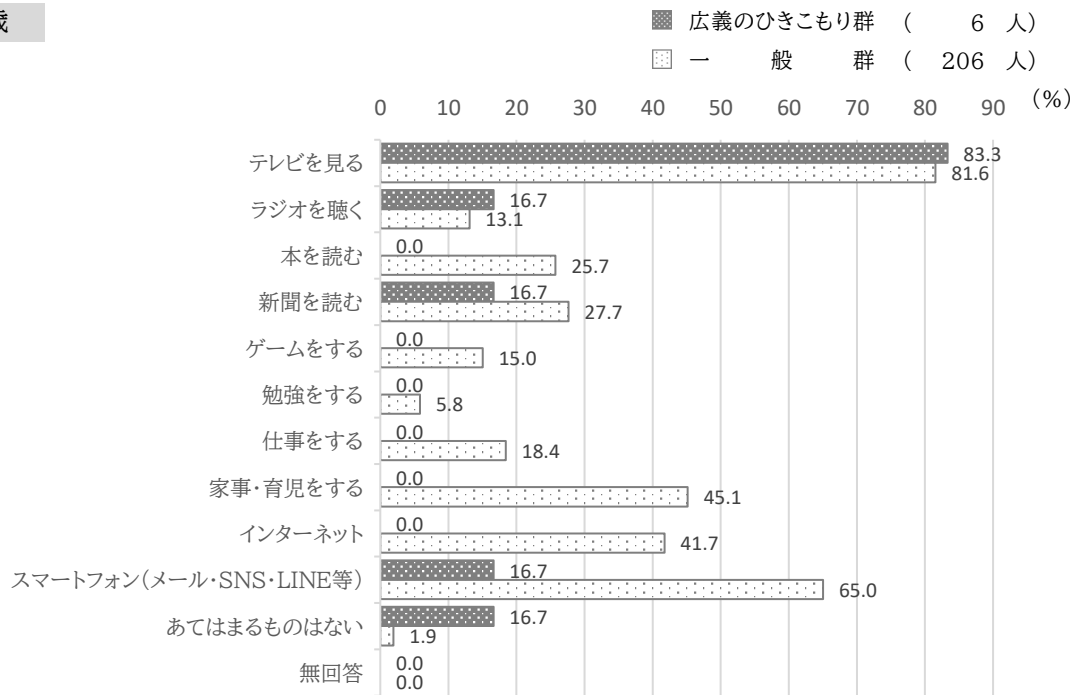
ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、最も多い「インターネット」が69.2%で一般群に比べて多く、「テレビを見る」が30.8%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が53.8%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、「テレビを見る」及び「インターネット」が55.6%で最も多かった。「本を読む」及び「ゲームをする」が11.1%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が33.3%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

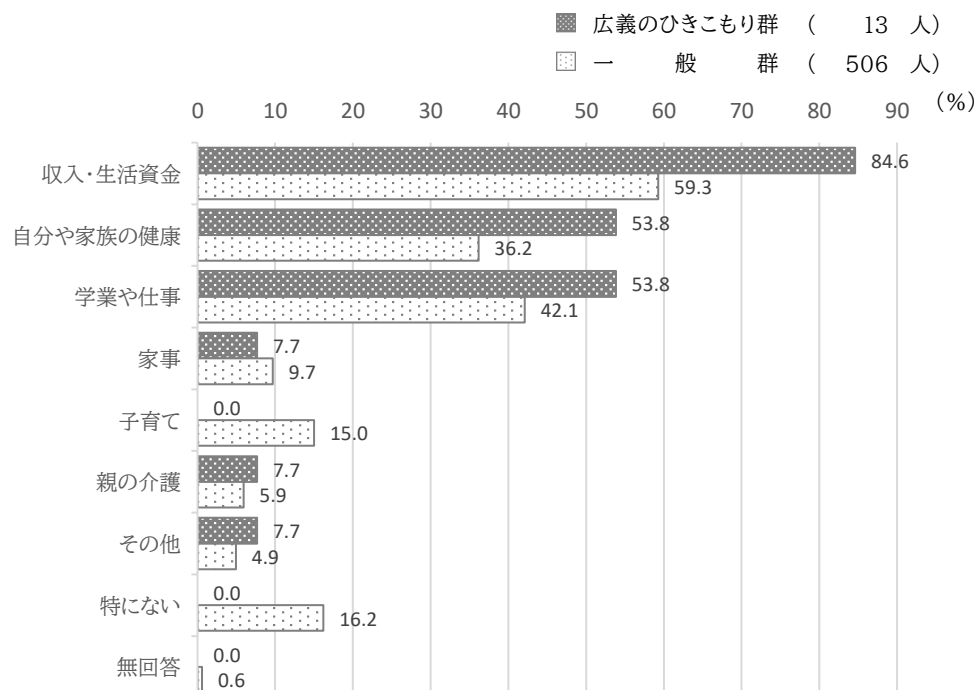
60歳～64歳



ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、「テレビを見る」が83.3%で最も多かった。「本を読む」及び「インターネット」が0.0%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

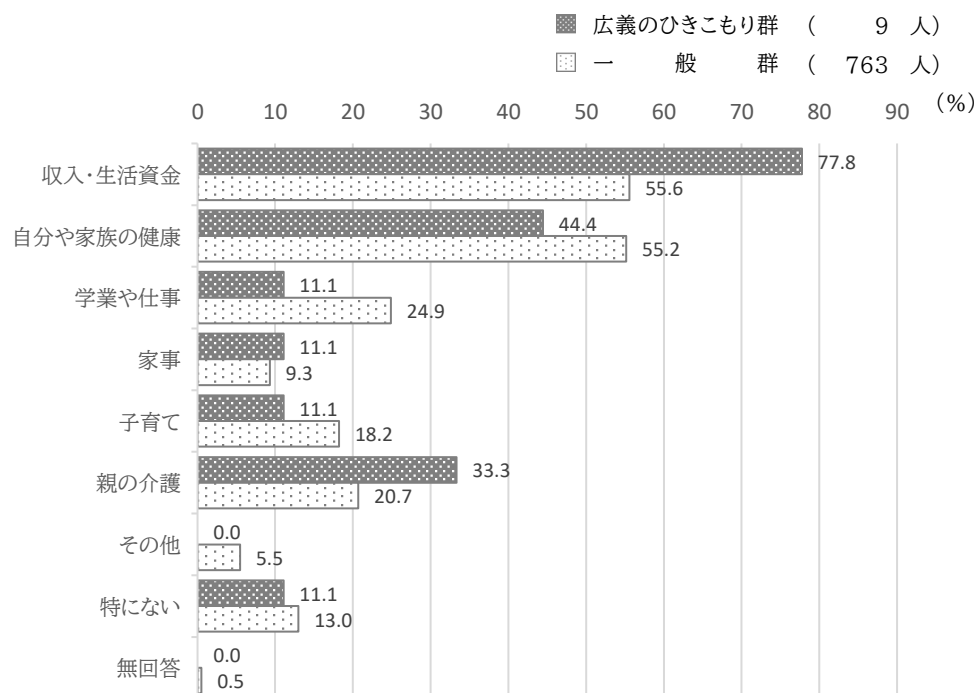
Q10 あなたが現在、日常生活において不安や悩みに思っている事柄は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳



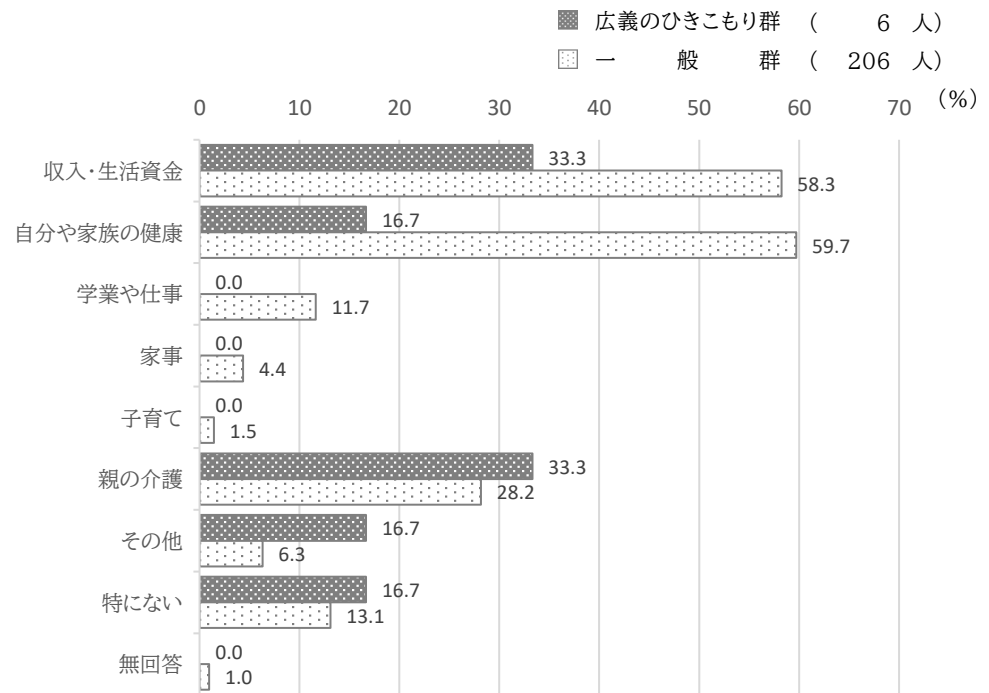
日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が84.6%、「自分や家族の健康」及び「学業や仕事」が53.8%で一般群に比べて多く、「子育て」及び「特にない」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が77.8%、「親の介護」が33.3%で一般群に比べて多く、「学業や仕事」及び「子育て」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳



日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が33.3%、「自分や家族の健康」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

その他の内容

年代	内容
すべて	将来・老後のこと(30件) 家族のこと(9件) 住宅・住民のこと(4件) 人間関係・異性関係のこと(7件) 介護のこと(3件) 政治・物価のこと(7件) 病気・障害のこと(6件) 動物のこと(2件)

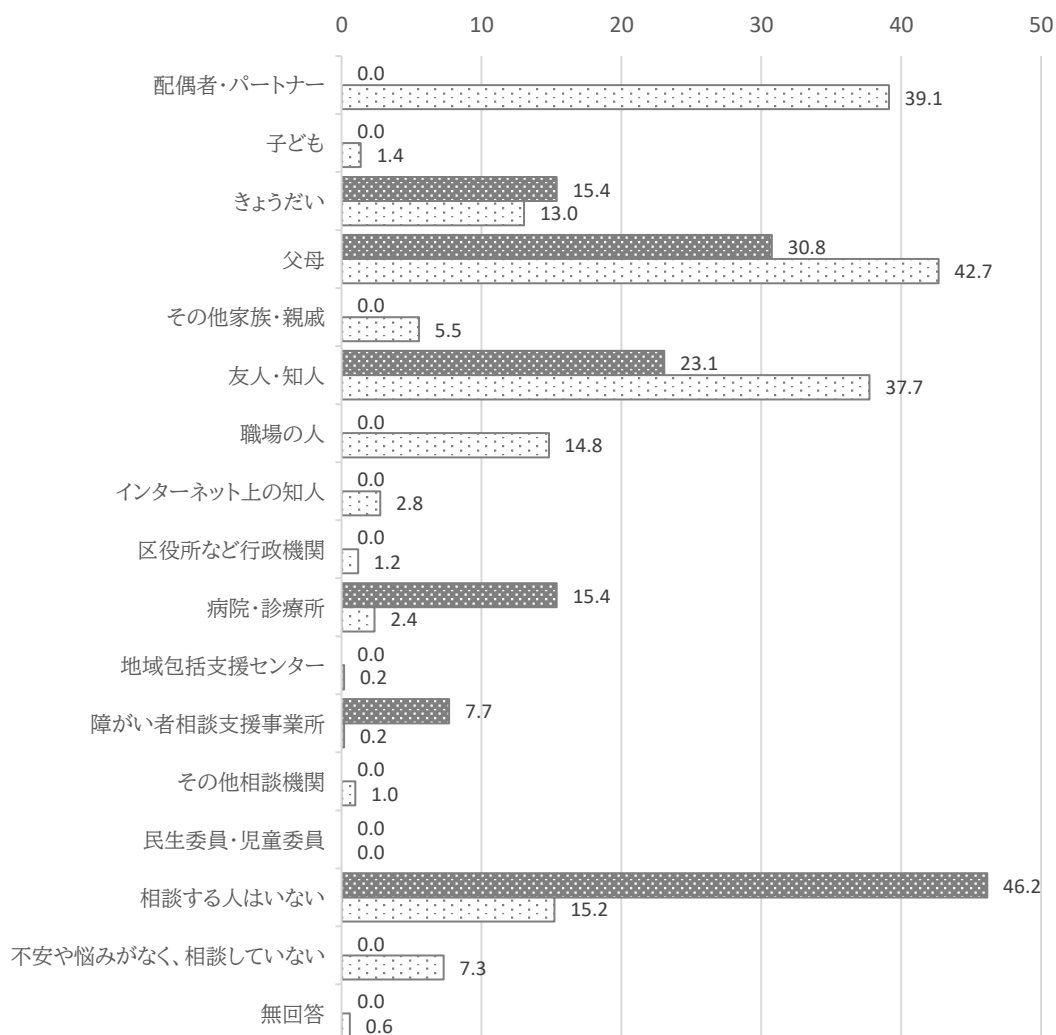
Q11 あなたは現在、日常生活の不安や悩みを誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳

■ 広義のひきこもり群 (13 人)

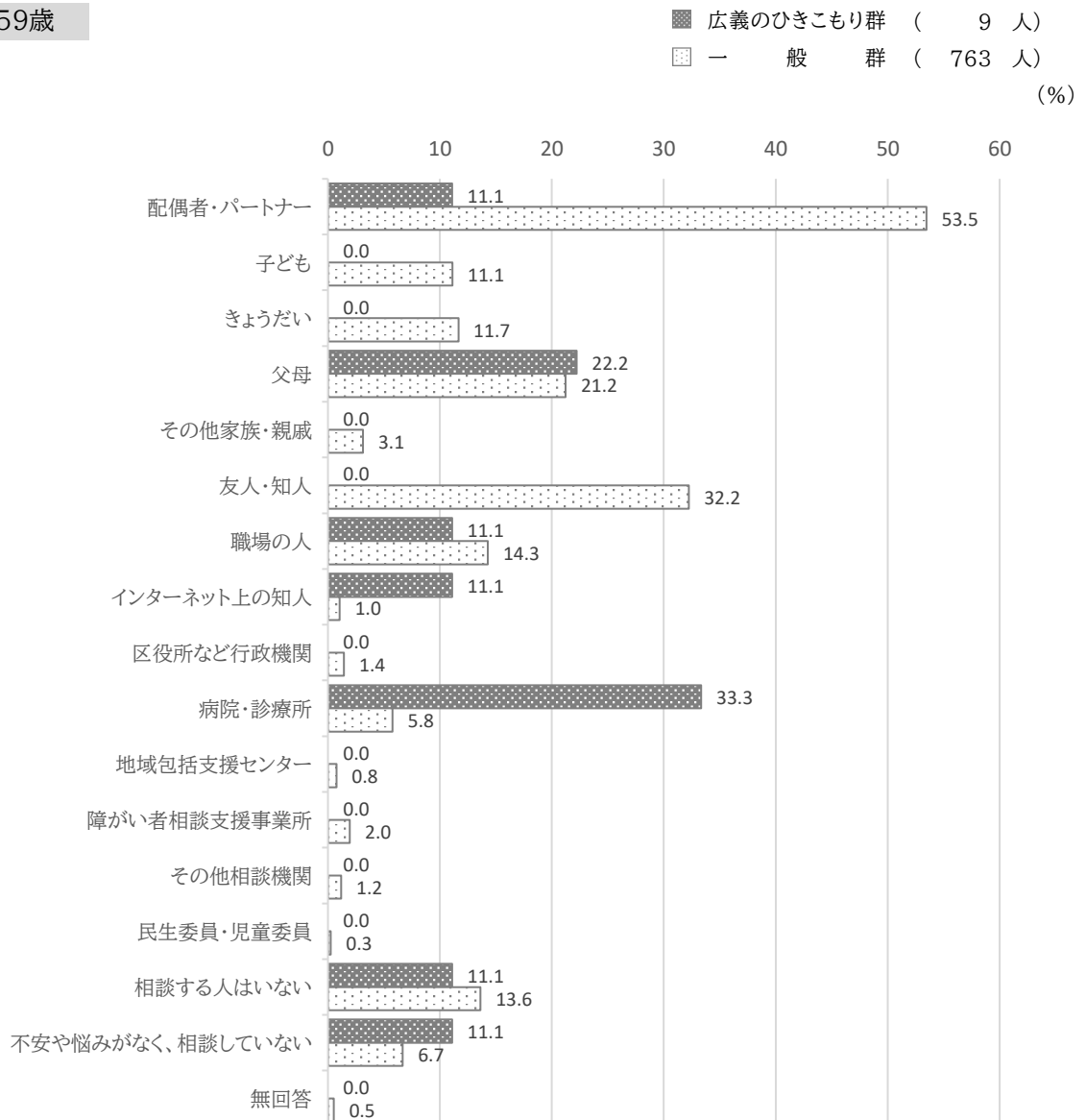
□ 一 般 群 (506 人)

(%)



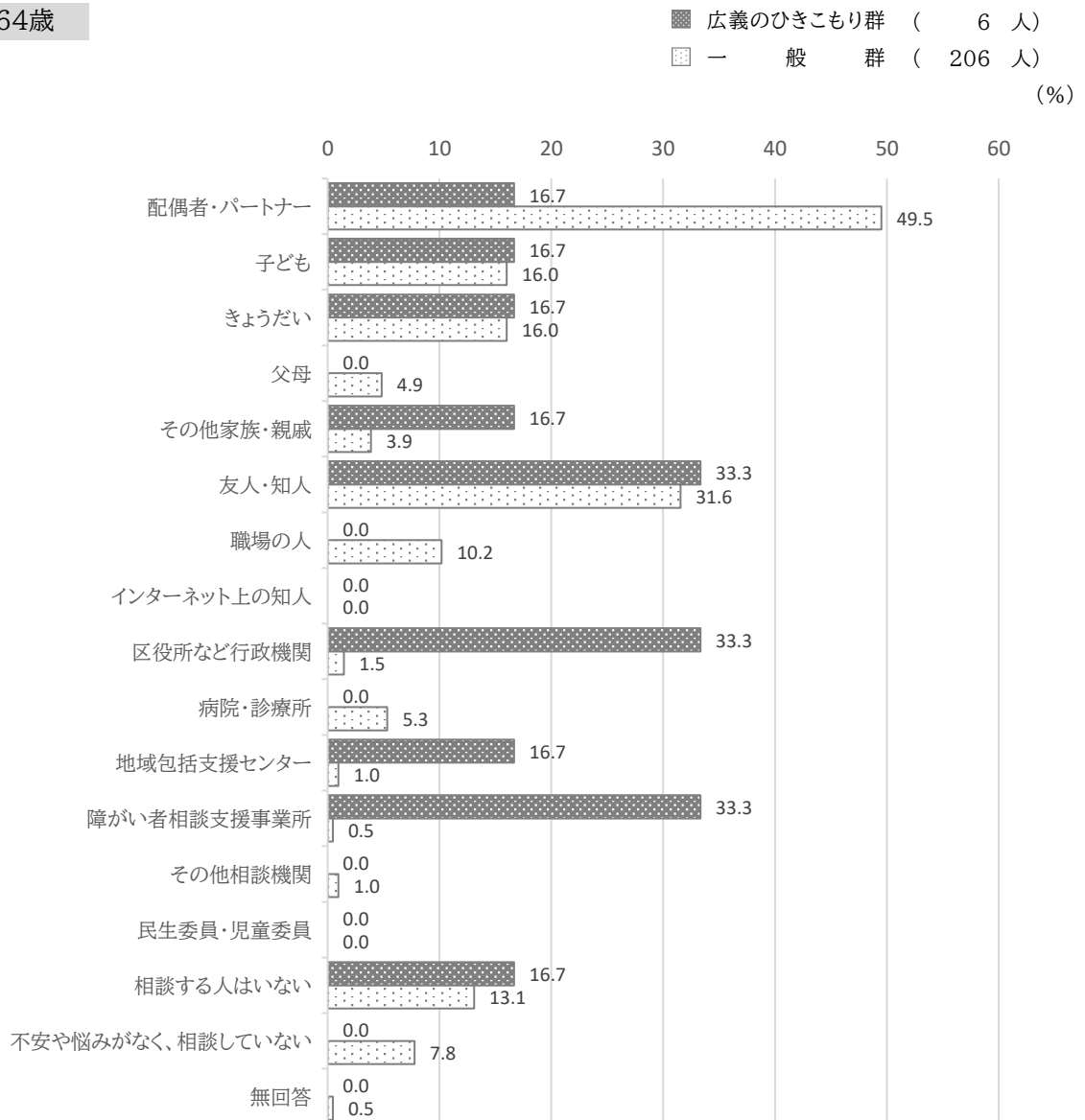
日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、最も多い「相談する人はいない」が46.2%、「病院・診療所」が15.4%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「職場の人」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、最も多い「病院・診療所」が33.3%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が11.1%、「友人・知人」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳

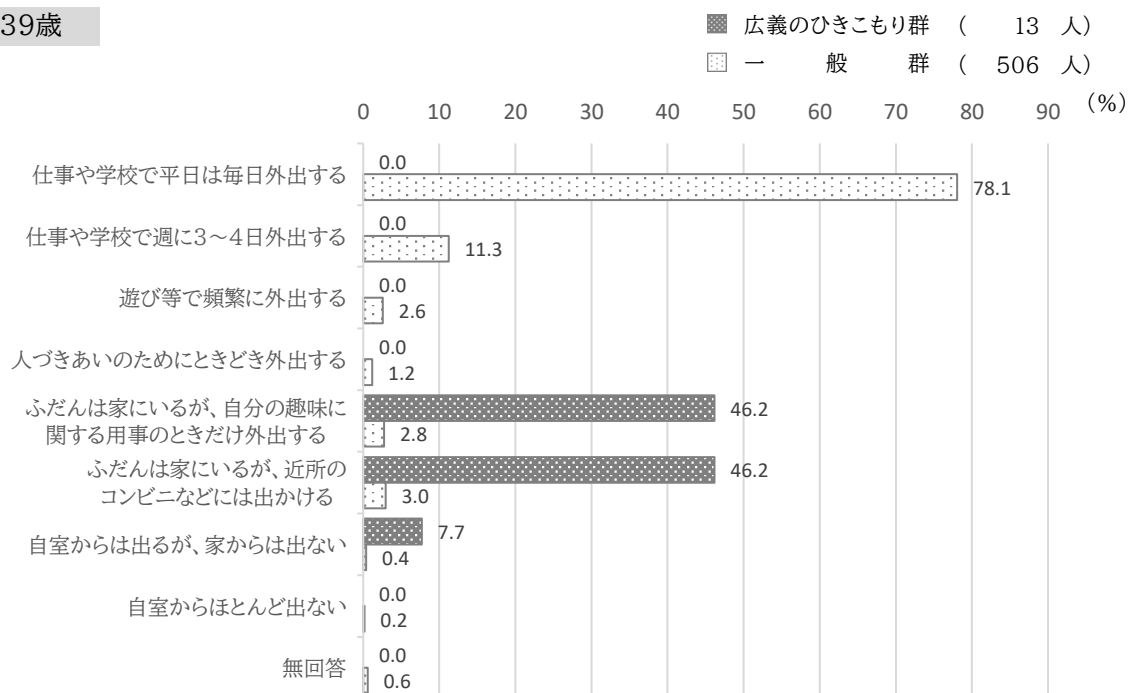


日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、「区役所など行政機関」及び「障がい者相談支援事業所」が33.3%、「その他家族・親戚」及び「地域包括支援センター」が16.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

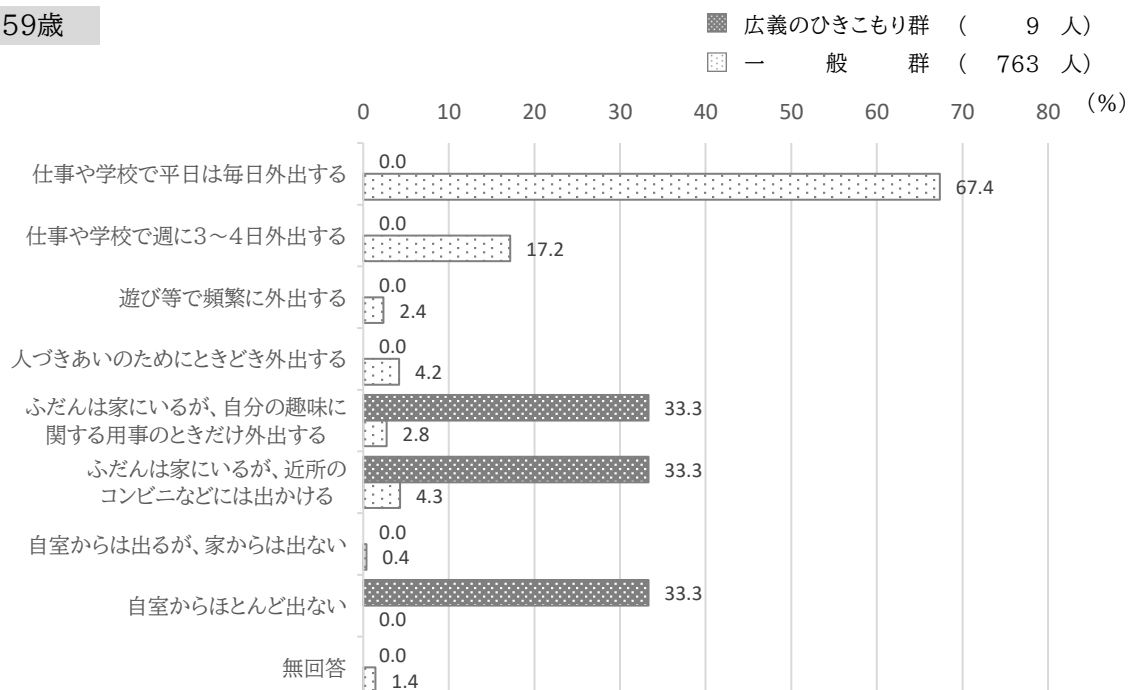
Q12 あなたはふだんのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

※Q12の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

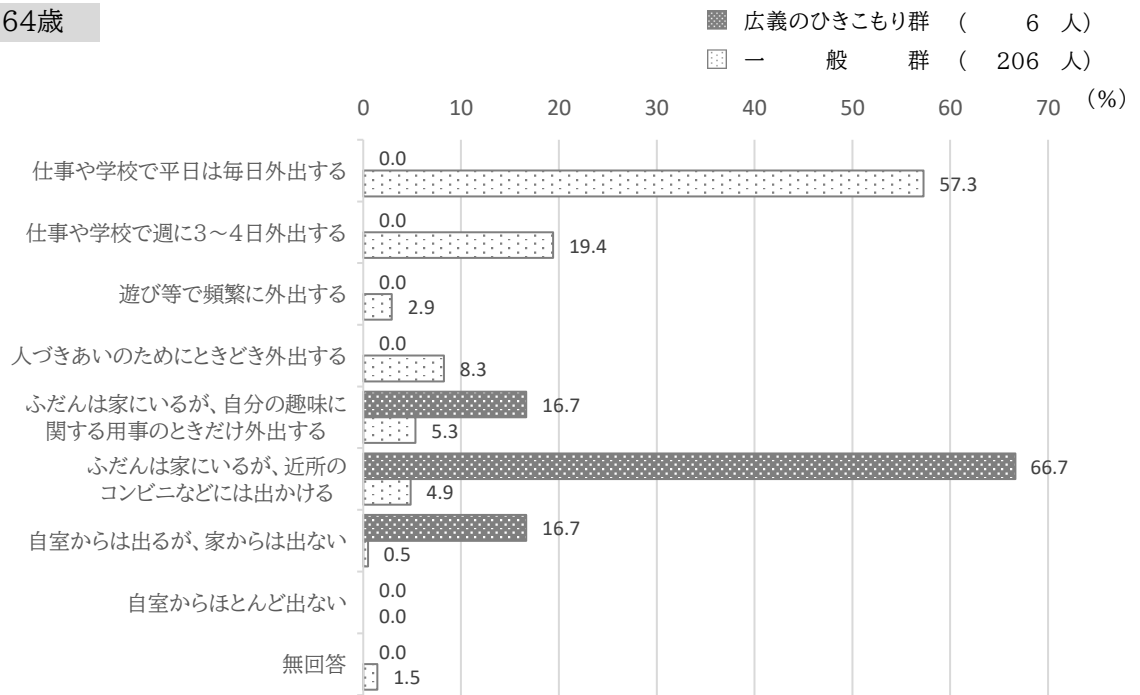
15歳～39歳



40歳～59歳



60歳～64歳

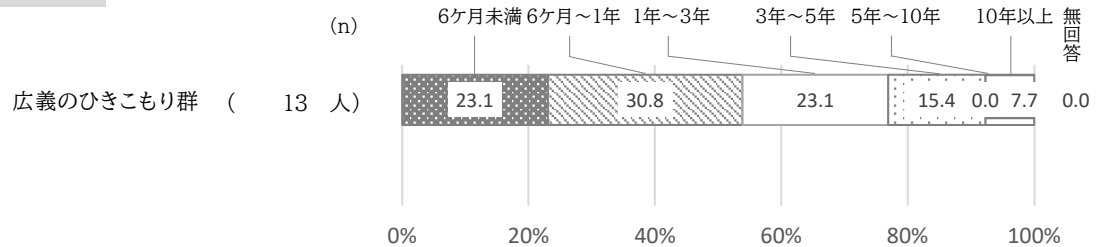


d. 本人のひきこもりの状態に関すること

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

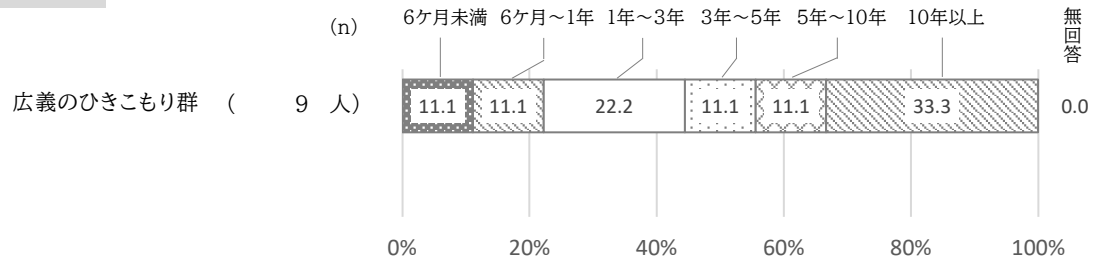
Q13-1 外出について、あなたが現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



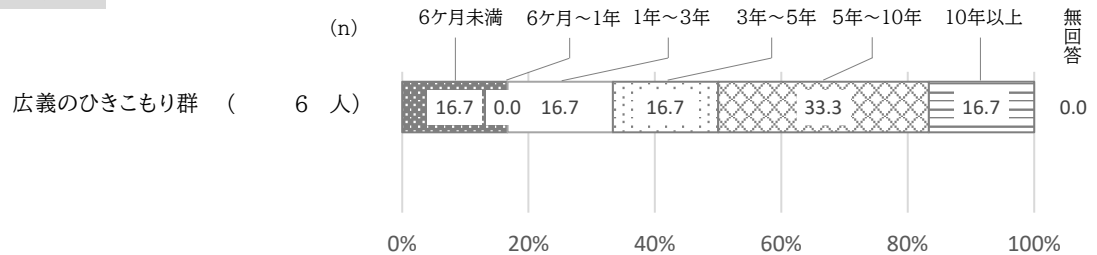
現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「6ヶ月以上～1年未満」が30.8%で最も多かった。

40歳～59歳



現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「10年以上」が33.3%で最も多かった。

60歳～64歳

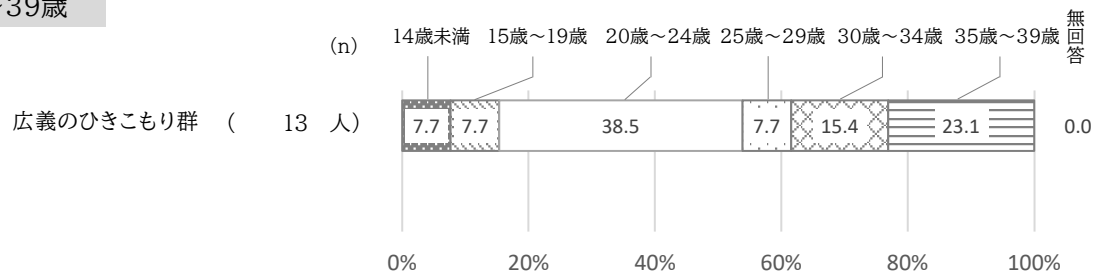


現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「5年以上～10年未満」が33.3%で最も多かった。

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

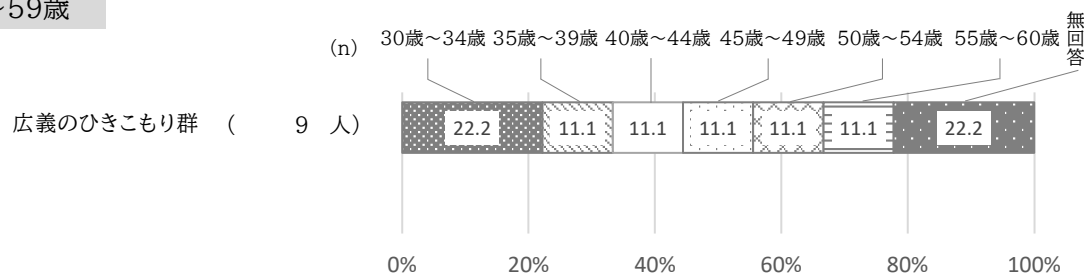
Q13-2 あなたが現在の状態になったのは、何歳頃ですか。(数字で具体的に)

15歳～39歳



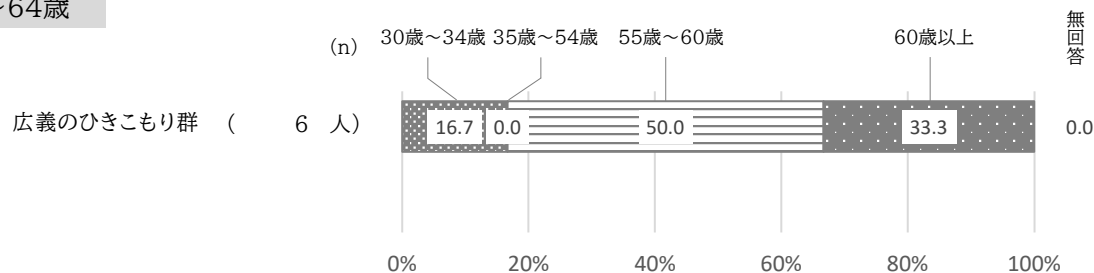
現在の状態になった年齢は、「20歳～24歳」が38.5%が最も多く、ついで「35歳～39歳」が23.1%であった。

40歳～59歳



現在の状態になった年齢は、「30歳～34歳」が22.2%が最も多く、「30歳未満」は0.0%であった。

60歳～64歳



現在の状態になった年齢は、「55歳～60歳」が50.0%が最も多く、ついで「60歳以上」が33.3%であった。

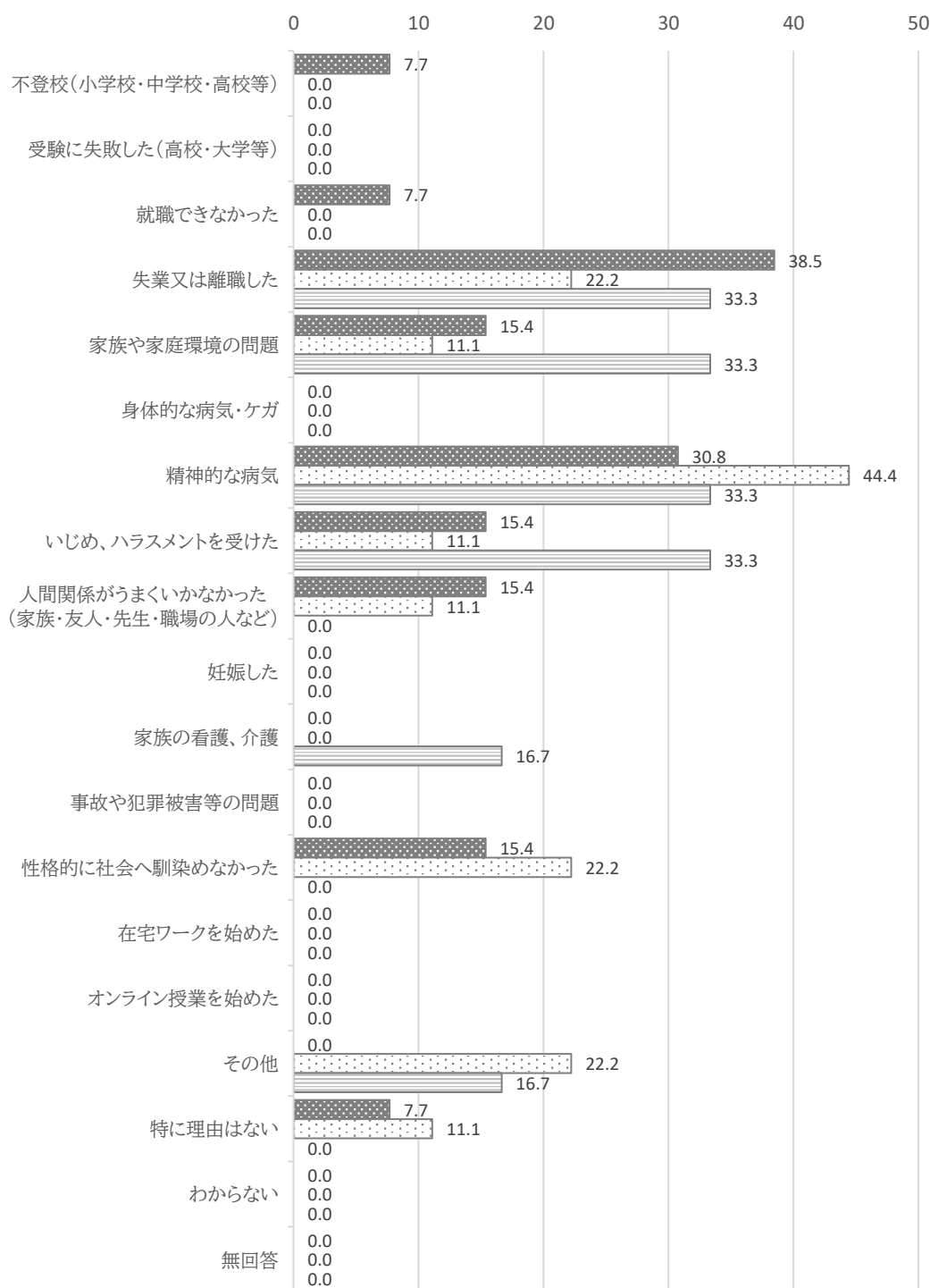
【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

Q13-3 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

※Q13-3の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

広義のひきこもり群

■ 15 歳 ～ 39 歳 (13 人)
 □ 40 歳 ～ 59 歳 (9 人)
 ▨ 60 歳 ～ 64 歳 (6 人)
 (%)

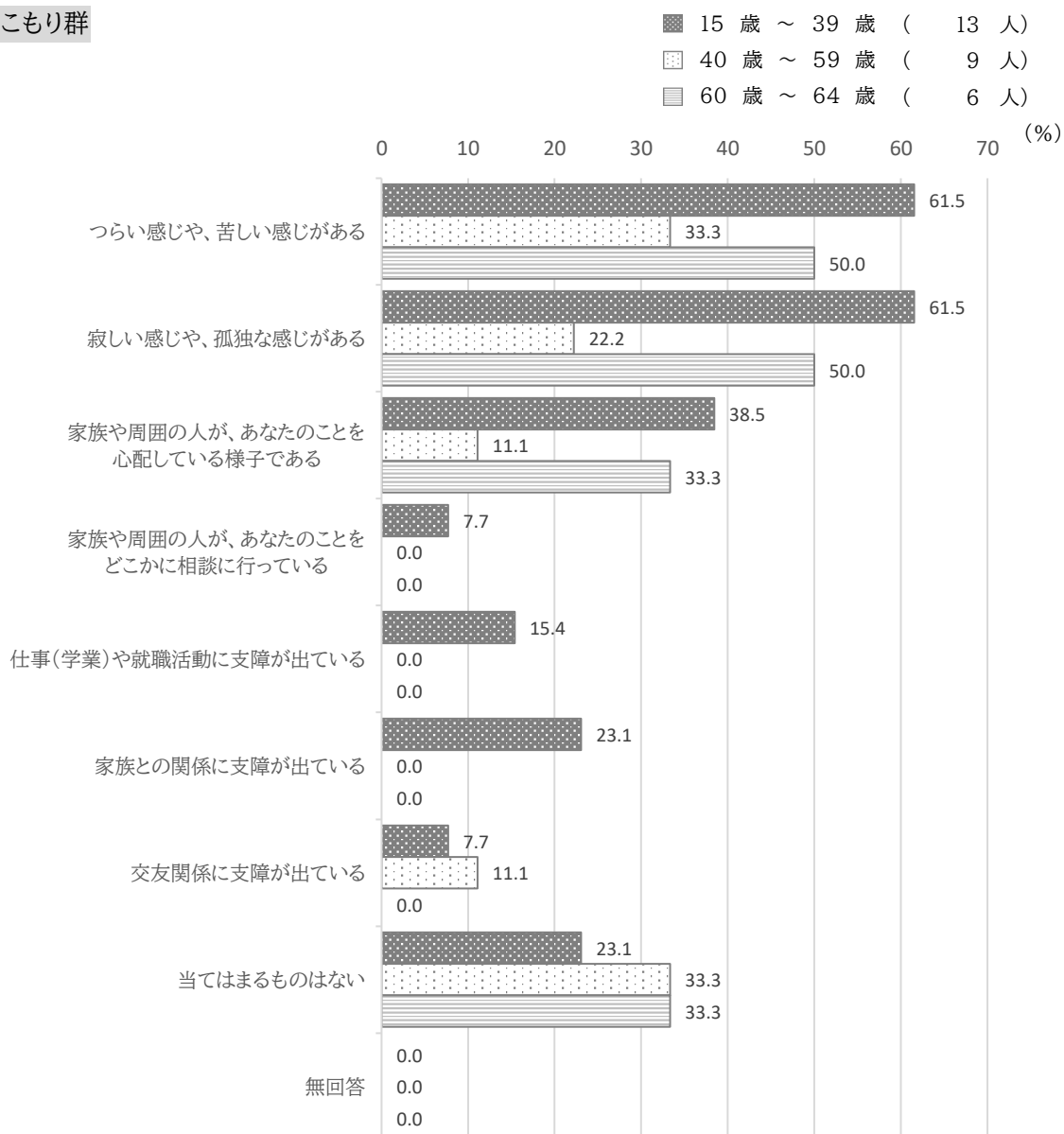


現在の状態になったきっかけについては、「15歳～39歳」では「失業又は離職した」が38.5%、「40歳～59歳」では「精神的な病気」が44.4%が最も多く、「60歳～64歳」では「失業又は離職した」、「家族や家庭環境の問題」、「精神的な病気」、「いじめ、ハラスメントを受けた」がともに33.3%であり、回答が分かれた。

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

Q13-4 あなたの外出状況に関連した現在の状態について、当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

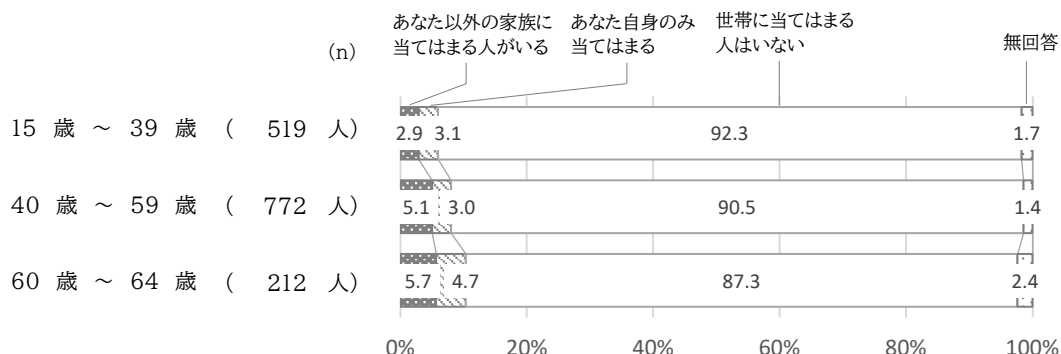
広義のひきこもり群



外出状況に関連した現在の状態については、「15歳～39歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「寂しい感じや、孤独な感じがある」が61.5%、「40歳～59歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「当てはまるものはない」が33.3%、「60歳～64歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「寂しい感じや、孤独な感じがある」が50.0%で最も多かった。

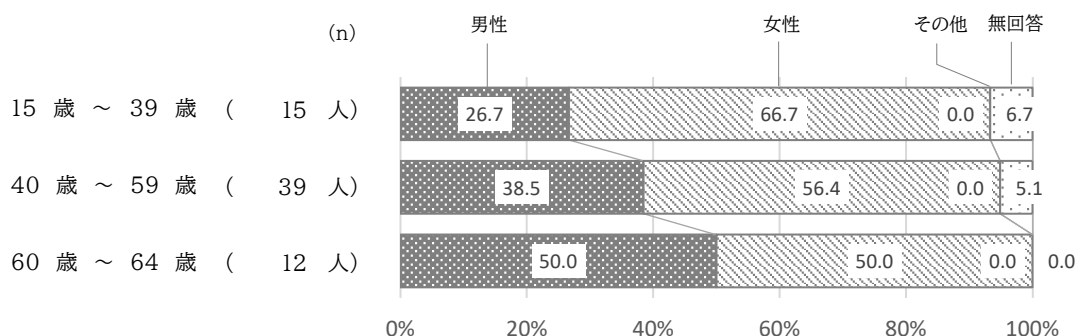
e. 世帯内のひきこもりの状態の方に関すること

Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。(○はひとつだけ)



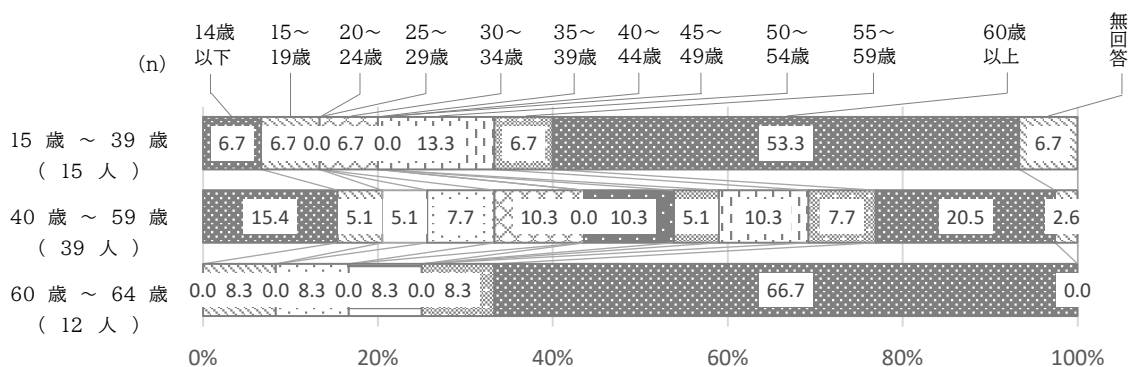
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-1 その方の性別をお答えください。(○はひとつだけ)



【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

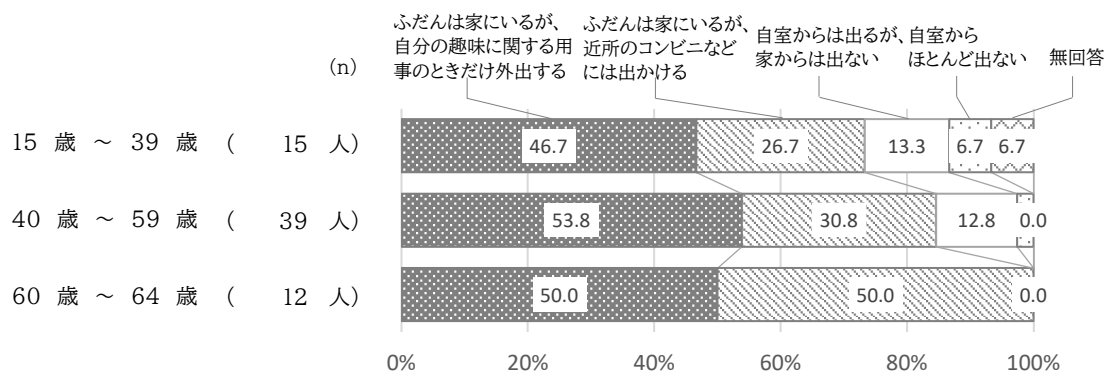
Q15-2 その方の現在(令和7年9月24日現在)の年齢をお答えください。(数字で具体的に)



同居している家族でひきこもり状態の方の年齢は、回答者の年代が「40歳～59歳」では各年齢に回答が分かれたのに対し、回答者の年代が「15歳～39歳」及び「60歳～64歳」では半数以上が「60歳以上」という回答であった。

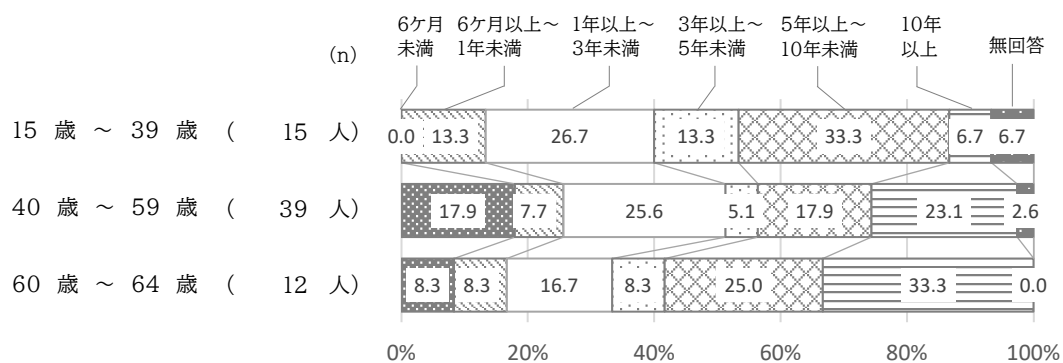
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-3 その方の外出の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)



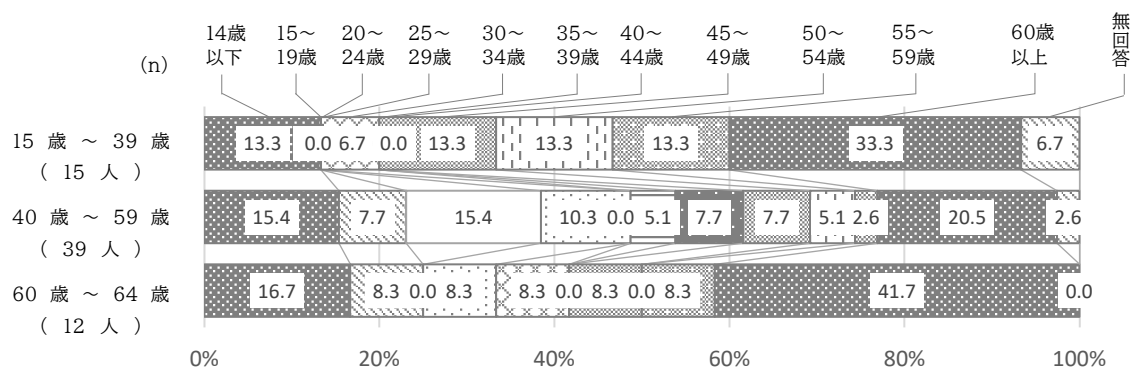
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-4 その方の外出の状況が、現在の状態になってどのぐらい経ちますか。(○はひとつだけ)



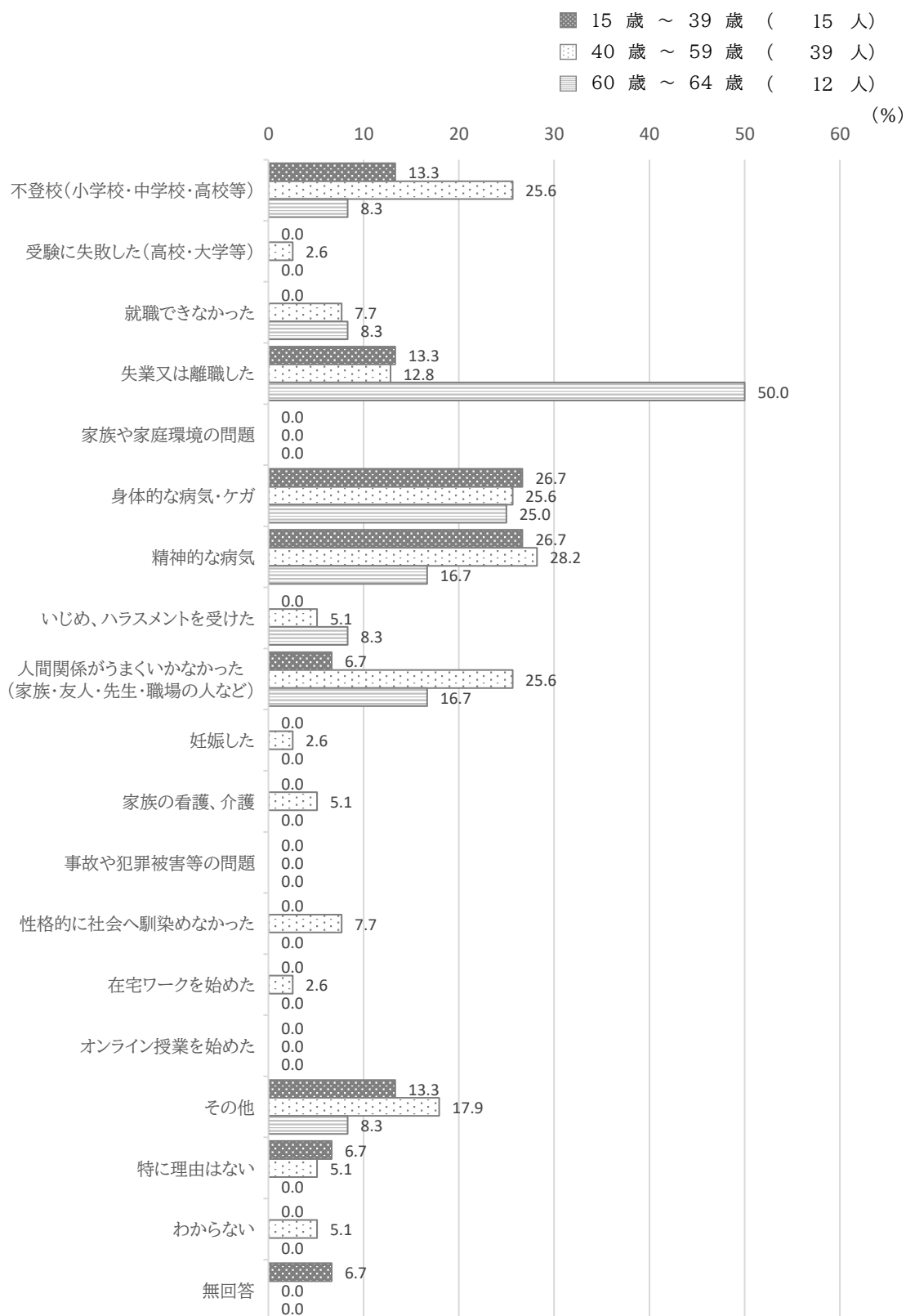
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-5 その方の外出の状況が、現在の状態になったのは何歳頃ですか。(数字で具体的に)



【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-6 その方の外出の状況が、現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

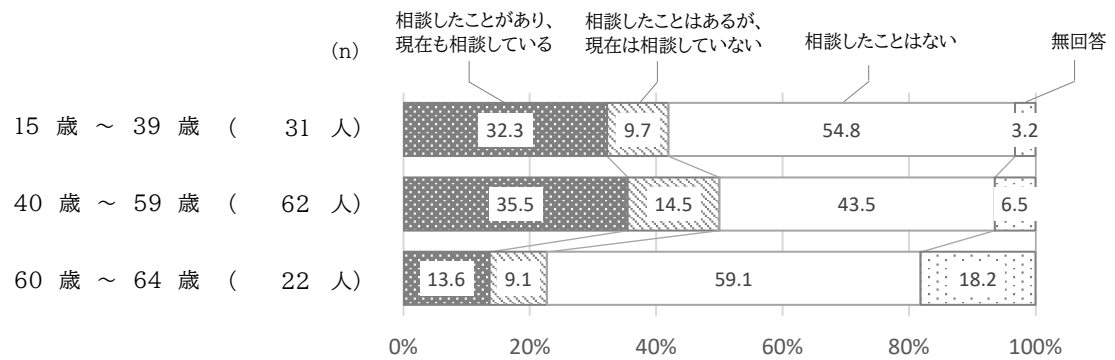


現在の状態になったきっかけについては、「15歳～39歳」では「身体的な病気・ケガ」及び「精神的な病気」が26.7%、「60歳～64歳」では「失業又は離職した」が50.0%が最も多く、「40歳～59歳」では「精神的な病気」が28.2%、「不登校(小学校・中学校・高校等)」、「身体的な病気・ケガ」及び「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が25.6%であり、回答が分かれた。

f. 相談経験に関すること

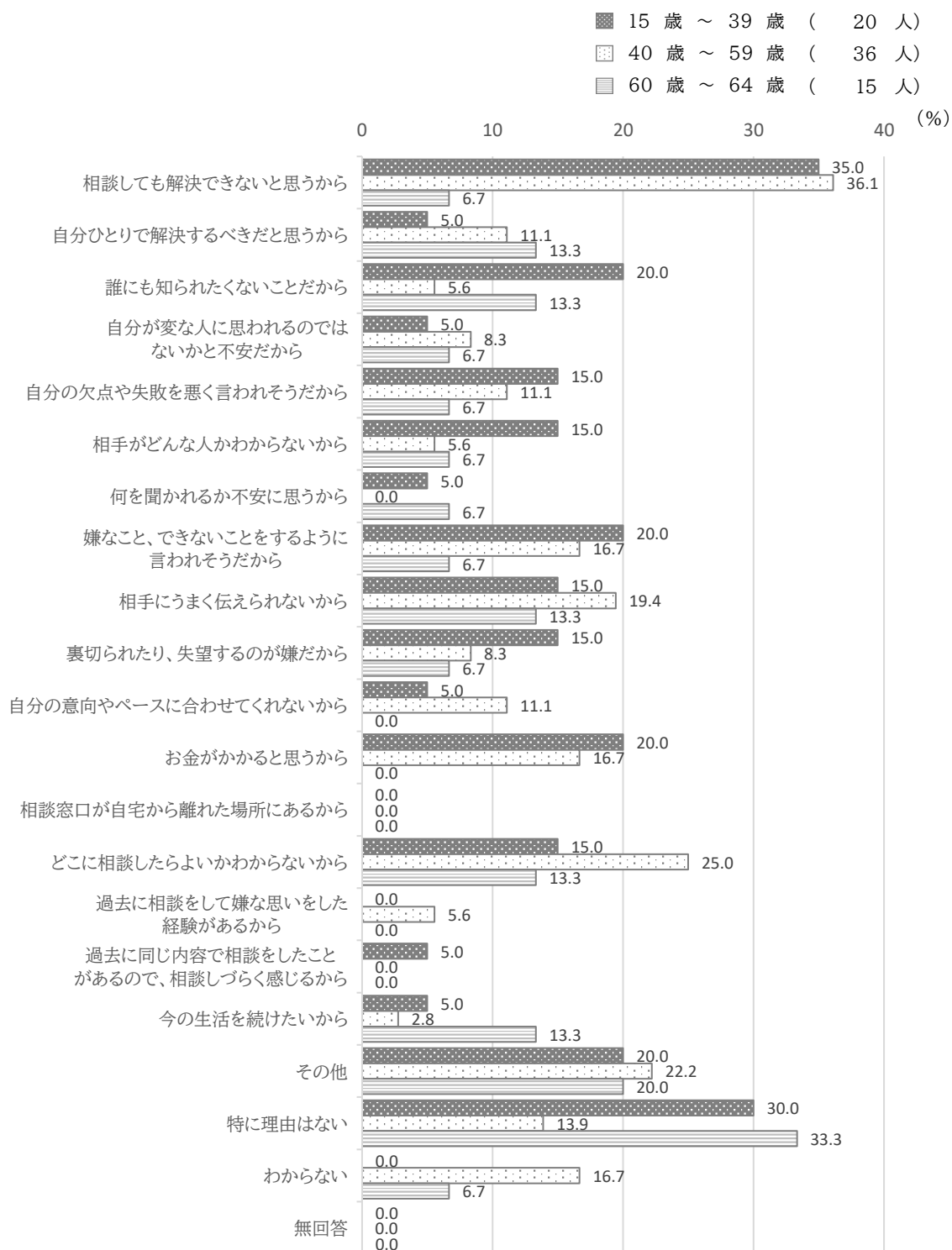
【Q14で、1～2に○をつけた方のみ回答】

Q16 「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態の方が世帯の中にいること」について、専門機関や医療機関などに相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



【Q16で、2～3に○をつけた方のみ回答】

Q17「相談したことはない」又は「相談したことはあるが、現在は相談していない」理由は何ですか。(○はいくつで



相談しない理由については、「相談しても解決できないと思うから」が「15歳～39歳」で35.0%、「40歳～59歳」で36.1%と最も多く、「60歳～64歳」では6.7%と低い傾向がみられた。

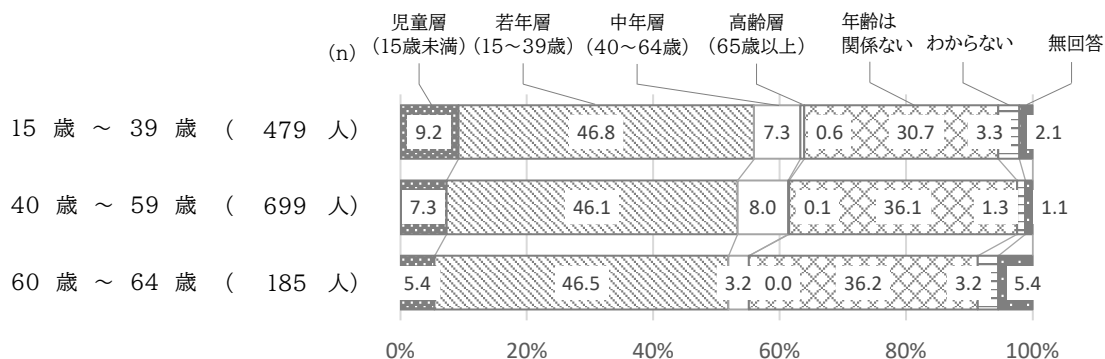
その他の内容

年代	内容	
すべて	相談する必要性がない(6件) 相談しても変わらない(2件) 一時的なものだから 信用したいがしづらい 本人が嫌がるため	気持ちの問題 うつ病なので長時間他人と関わるのが疲れる 継続的ではないが、都度主治医に相談する 躁鬱対応を優先 いろんな事に行き詰まり苦しくなってきた

g. ひきこもり状態への認識に関すること

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

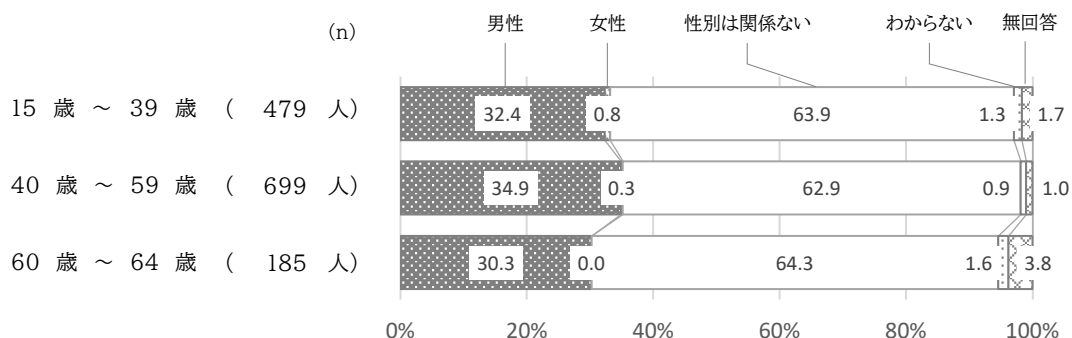
Q18-1 あなたは「ひきこもり」という言葉から、特にどの年齢層を思い浮かべますか。(○はひとつだけ)



「ひきこもり」という言葉から思い浮かべる年齢層は、各年代とも「若年層(15～39歳)」が最も多く、ついで「年齢は関係ない」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

Q18-2 あなたは「ひきこもり」という言葉から、どの性別を思い浮かべますか。(○はひとつだけ)

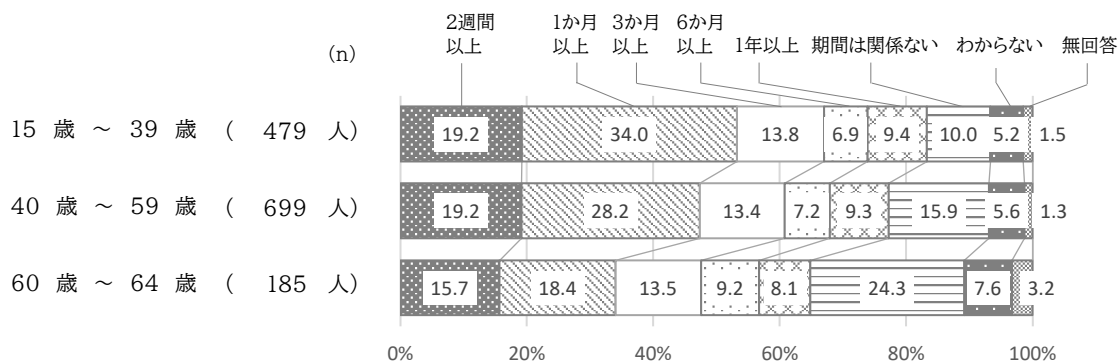


「ひきこもり」という言葉から思い浮かべる性別は、各年代とも「性別は関係ない」が最も多く、ついで「男性」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

Q18-3 あなたは、家や自室にどのくらいの期間ひきこもっていた場合、「ひきこもり」の状態にあると思いますか。

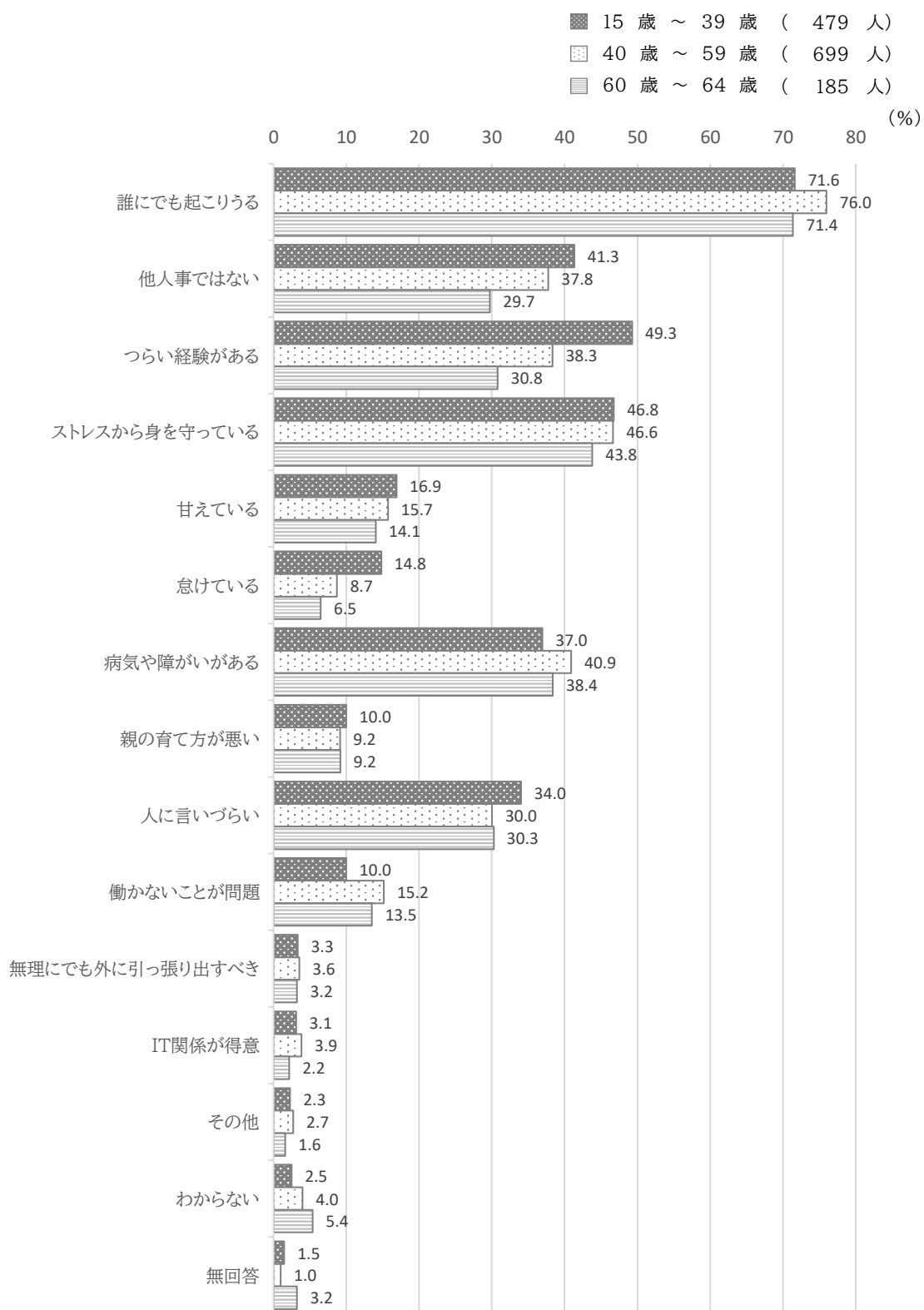
(○はひとつだけ)



「ひきこもり」と判断する期間については、「15歳～39歳」と「40歳～59歳」では「1か月以上」が最も多く、ついで「2週間以上」であった。「60歳～64歳」では「期間は関係ない」が最も多く、ついで「1か月以上」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

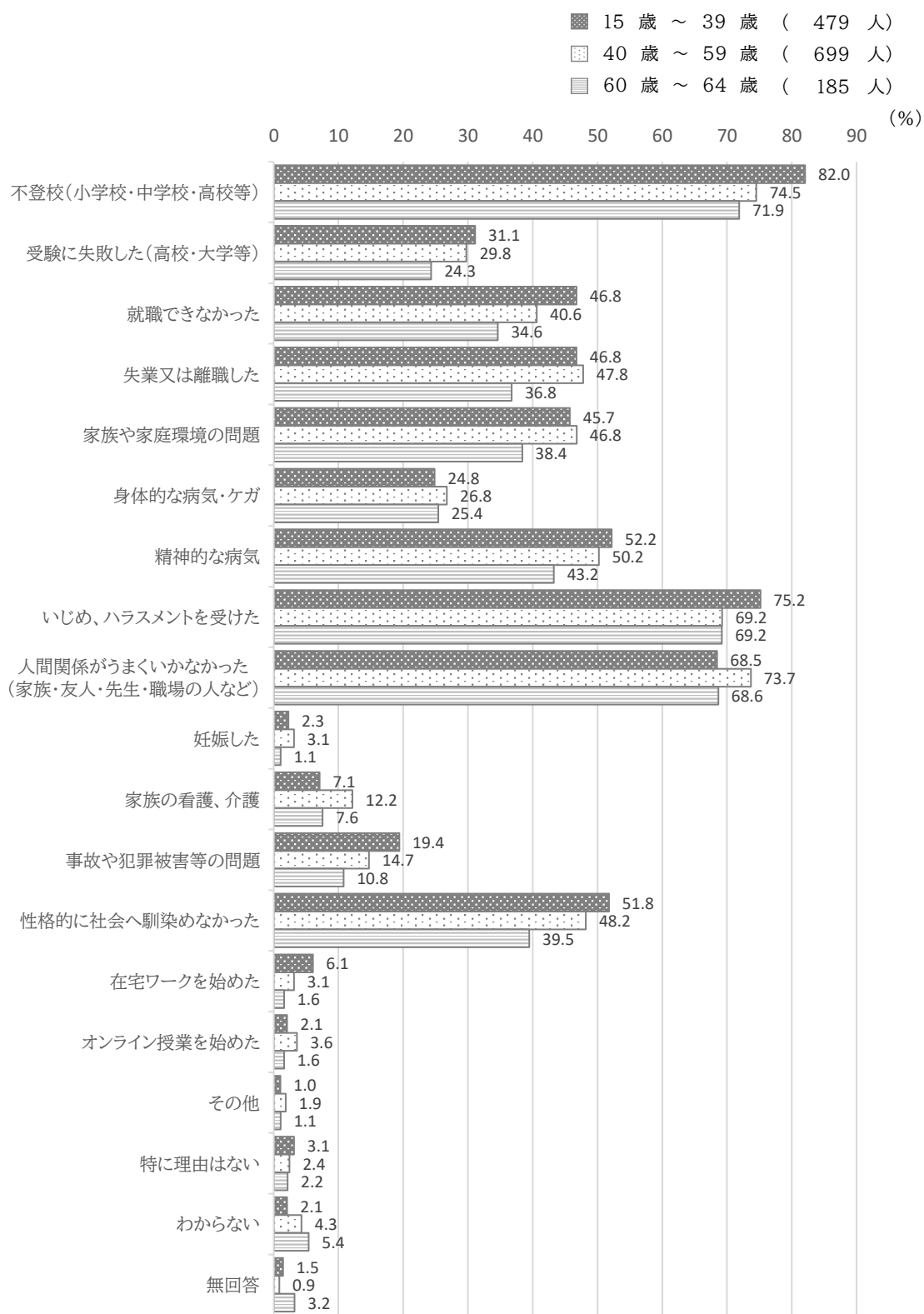
Q18-4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。この中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)



ひきこもり状態への印象や考え方は、各年代とも「誰にでも起こり得る」が最も多かった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

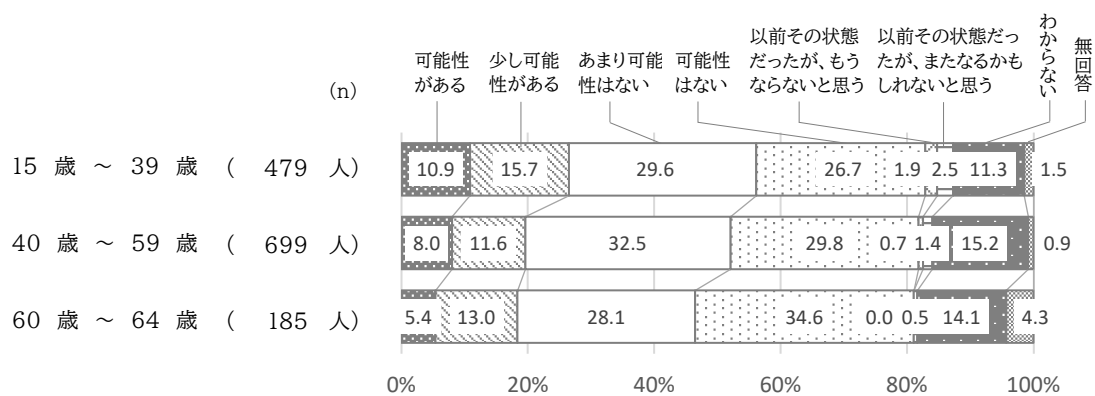
Q18-5 あなたは「ひきこもり」という状態になるきっかけとして、何が多いと思いますか。この中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)



ひきこもり状態になるきっかけとして考えられることは、各年代とも「不登校(小学校・中学校・高校等)」、「いじめ、ハラスメントを受けた」、「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」の回答が多かった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

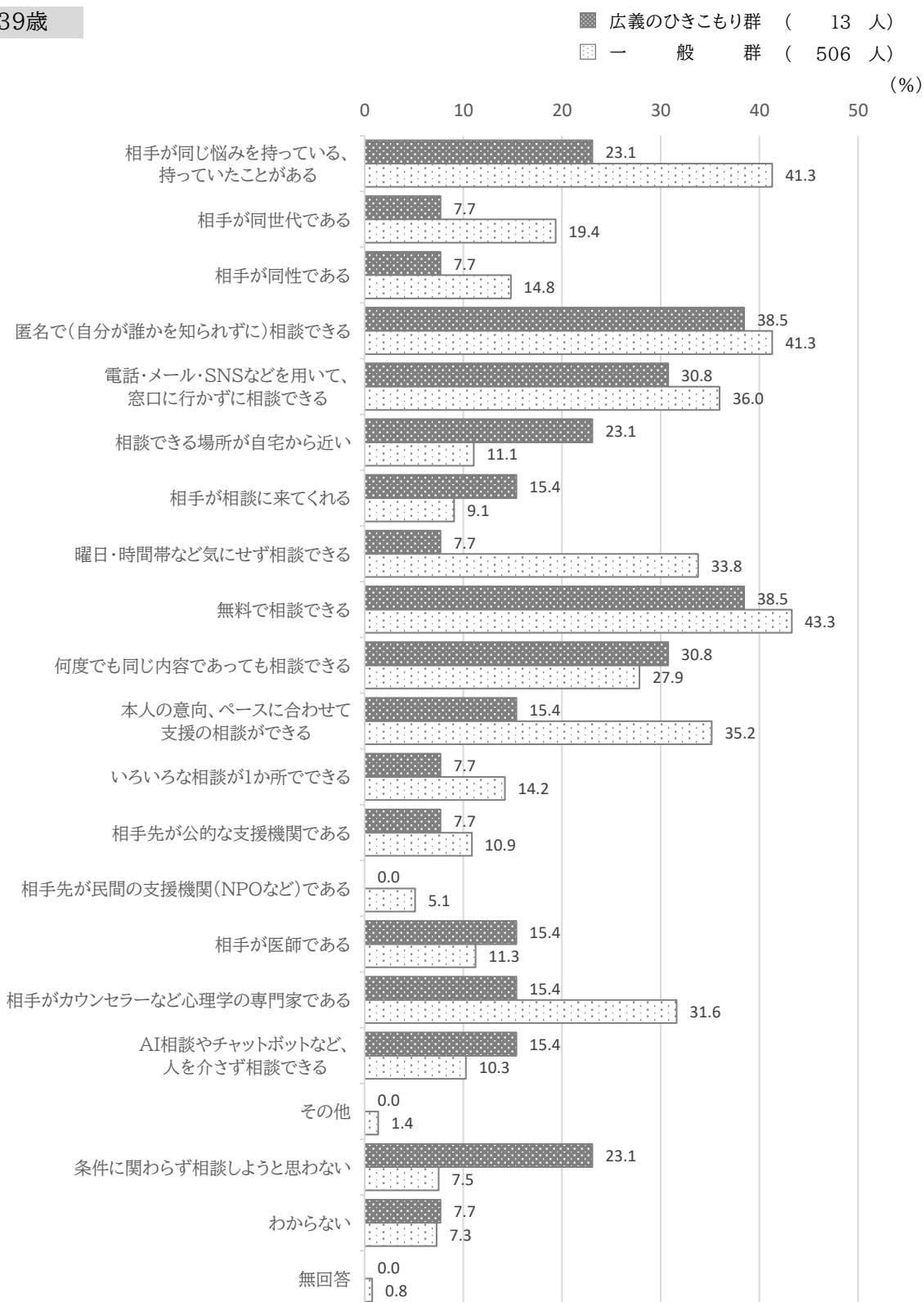
Q18-6 あなたは、ご自身がひきこもり状態になる可能性がありますか。(○はひとつだけ)



h. ひきこもり状態になったときの相談・支援に関すること

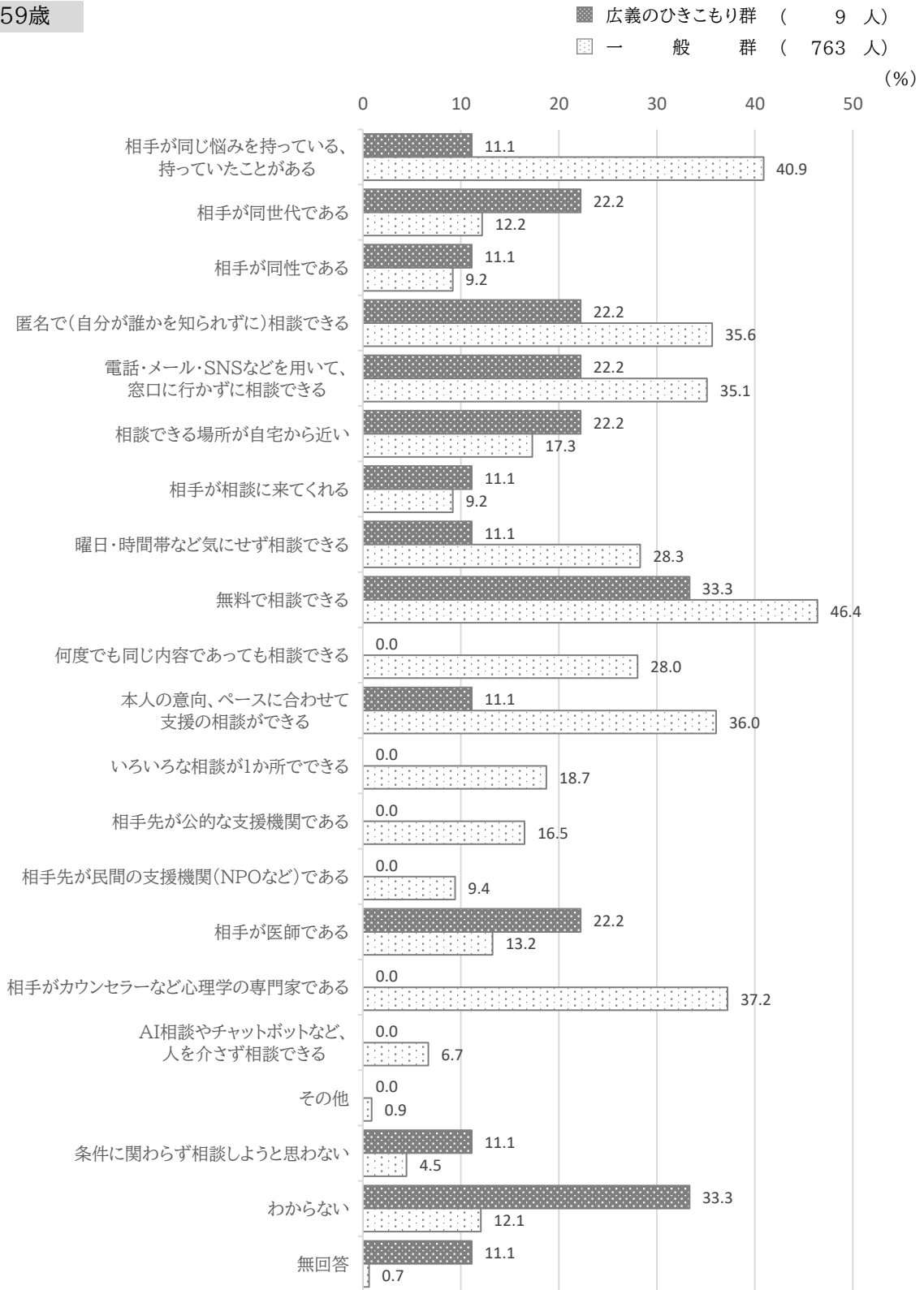
Q19 ひきこもりの状態になったとき、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳



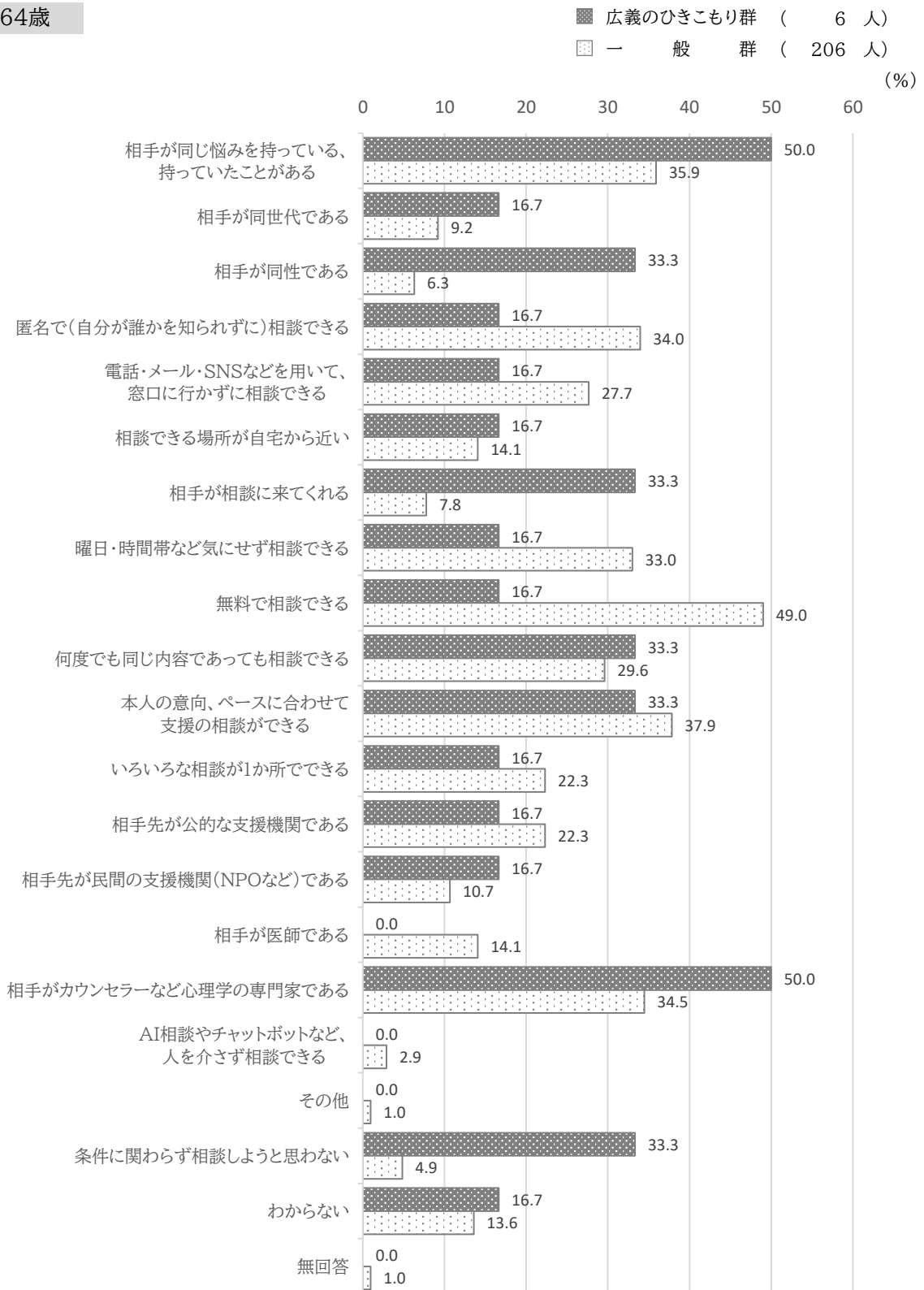
家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」及び「無料で相談できる」が38.5%で最も多かった。

40歳～59歳



家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、「無料で相談できる」及び「わからない」が33.3%で最も多かった。

60歳～64歳



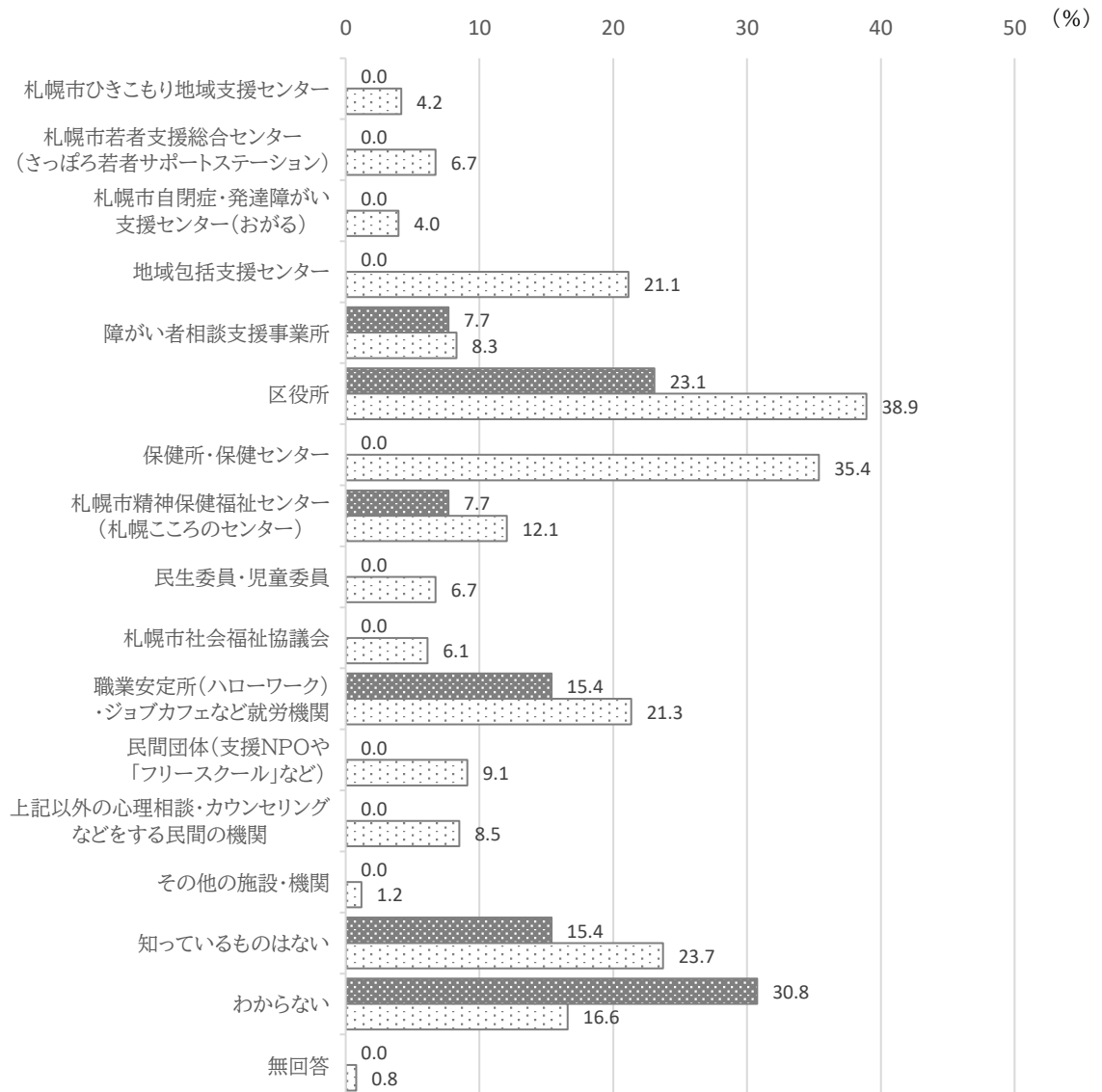
家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、最も多い「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」及び「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」が50.0%で多い傾向がみられた。

Q20 生活や困りごとについて相談できる窓口として、あなたが知っている窓口・相談機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

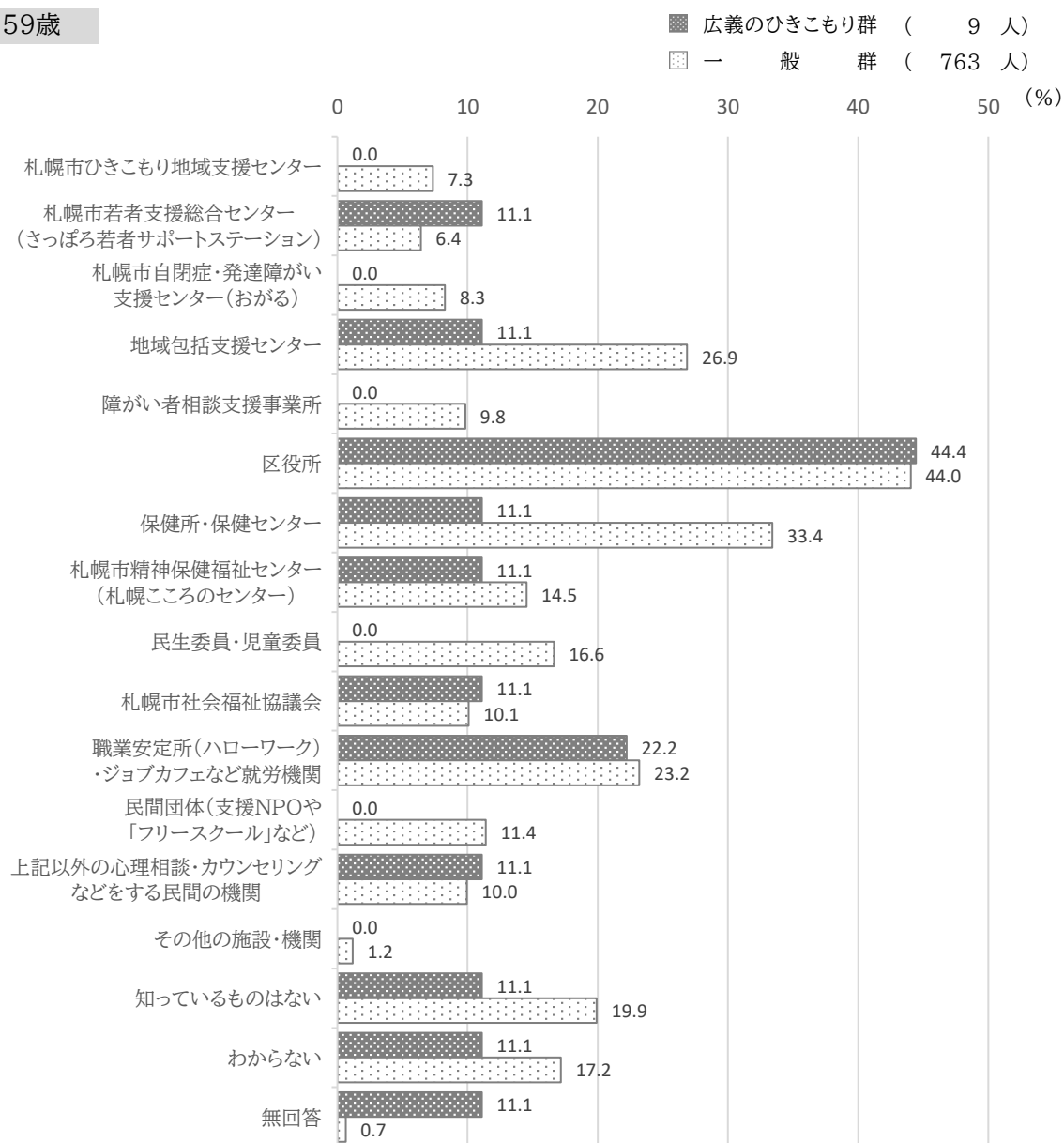
15歳～39歳

■ 広義のひきこもり群 (13 人)

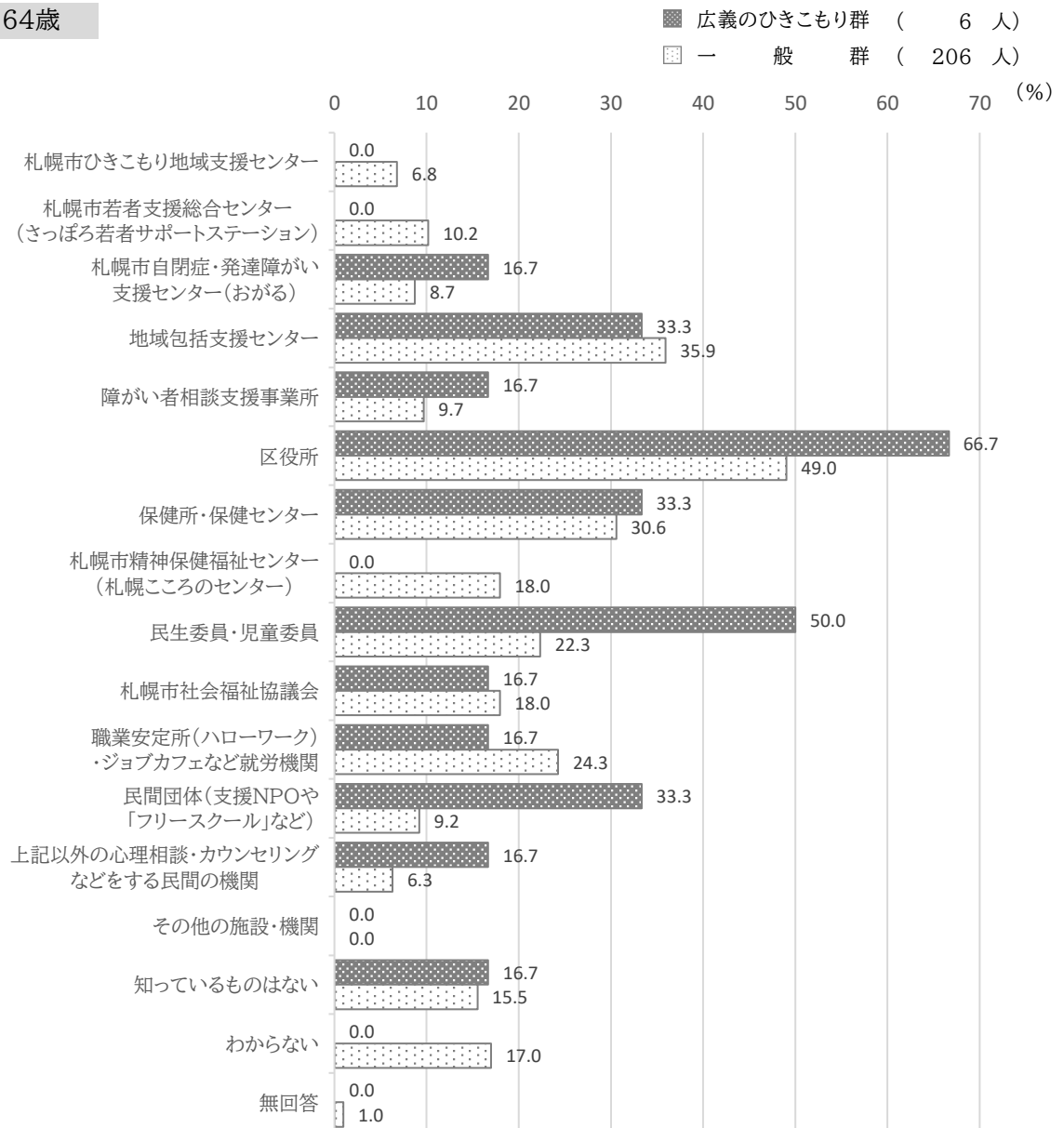
□ 一般群 (506 人)



40歳～59歳

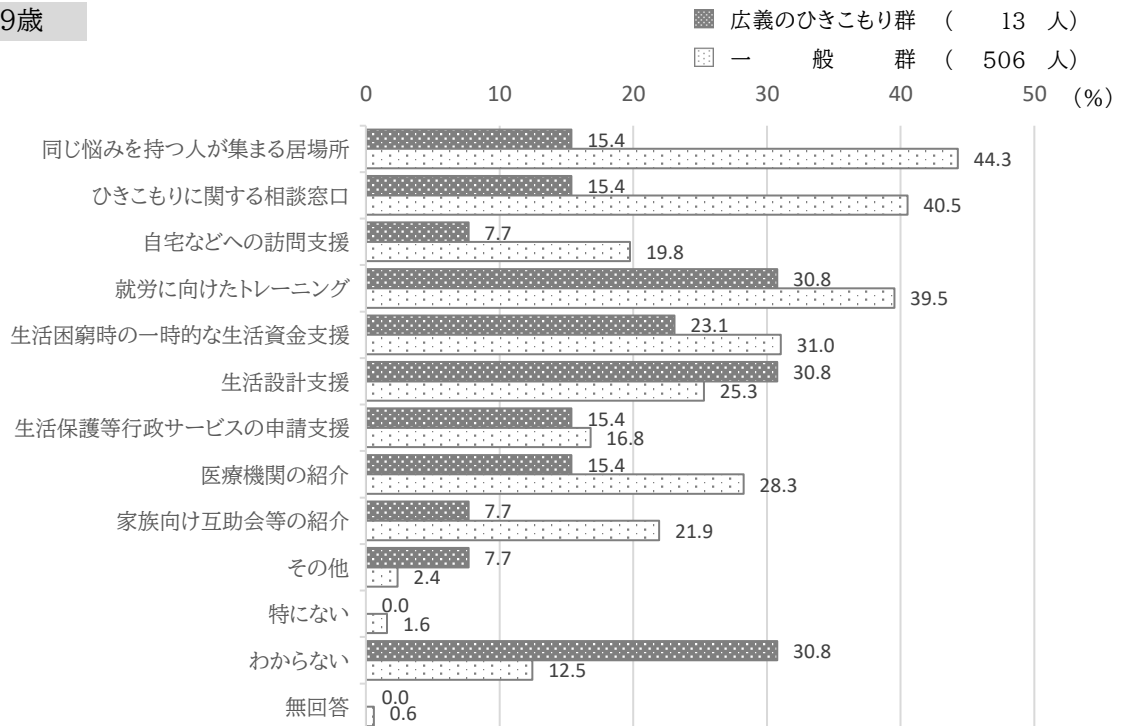


60歳～64歳



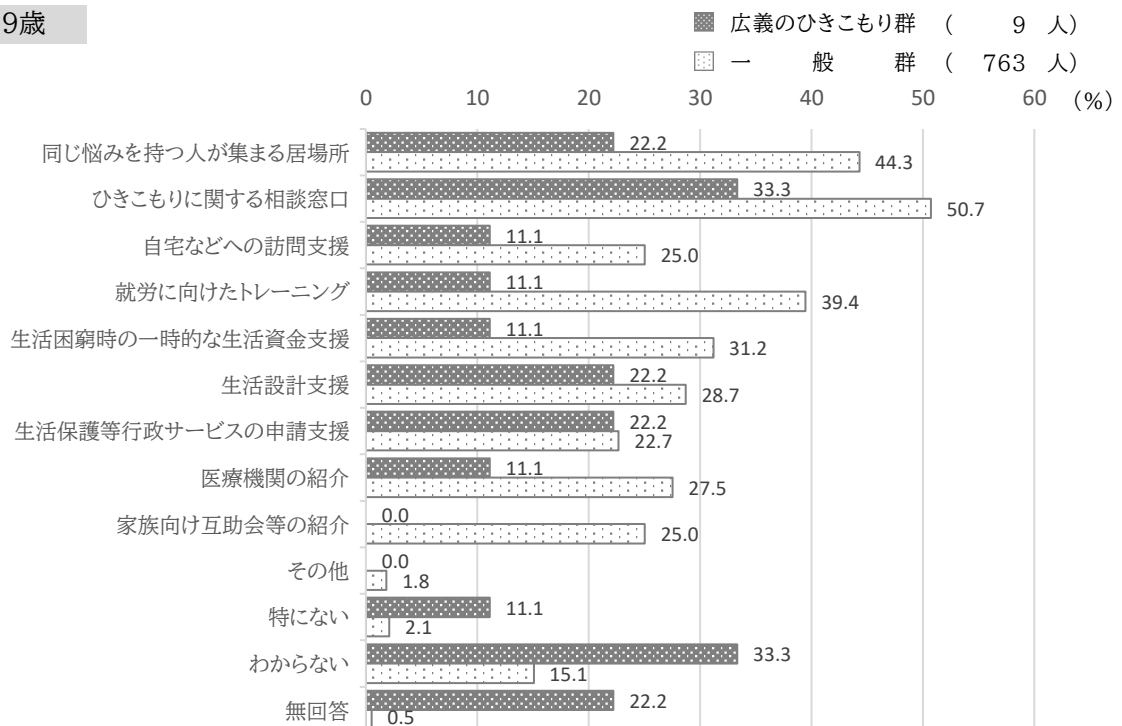
Q21 ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対して、どのような支援等があると良いと思いますか。
(〇はいくつでも)

15歳～39歳



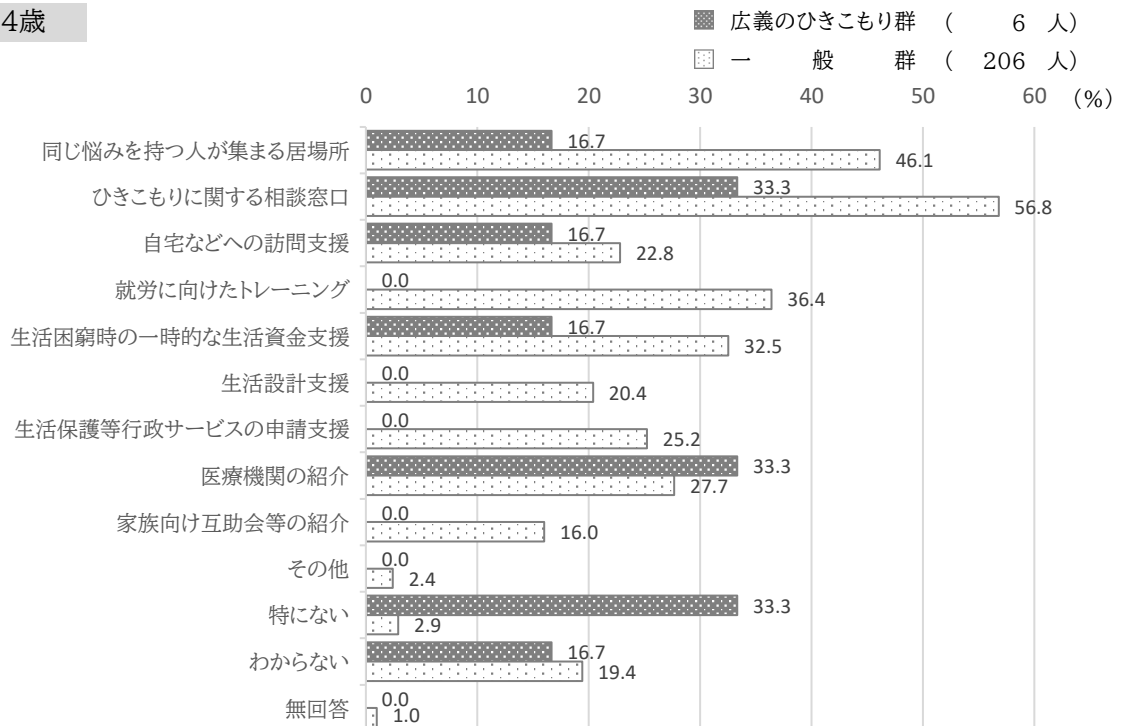
ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「就労に向けたトレーニング」、「生活設計支援」及び「わからない」が30.8%で多い傾向がみられた。

40歳～59歳



ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「ひきこもりに関する相談窓口」及び「わからない」が33.3%で多い傾向がみられた。

60歳～64歳



ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「ひきこもりに関する相談窓口」、「医療機関の紹介」及び「特にない」が33.3%で多い傾向がみられた。

その他の内容
(抜 粋)

年代	内容
すべて	カウンセラーの紹介、学校のカウンセラー(3件) 立場によって、本人・家族の悩みが違うので、聞いてくれる場所がどこか分かれば相談できる。まず窓口がわからない。 就労目的ではなく、自分が必要とされる場で働き報酬をえる体験ができる場 引きこもりの方が在宅でできる仕事を作る。在宅ワーク(2件) 児童・学生の場合学習支援

(2) 当事者及び家族向けアンケート調査

1-(2) 調査報告書 当事者及び家族向けアンケート調査

① 調査の概要

ア)調査目的

本調査は、ひきこもり状態にある本人及び家族の生活状況や、ひきこもりに関する相談機関の利用状況、相談した際に感じたこと等を把握し、ひきこもり当事者や家族が、より安心して相談できる環境を整備するための施策を検討する基礎資料の作成を目的として実施する。

イ)調査項目

- a. 基本属性について(Q1～Q7)
- b. 現在のひきこもり状態について(Q8)
- c. その方のひきこもり状態に関すること(Q9～13)
- d. ひきこもり状態の改善に関すること(Q14～15)
- e. 相談・支援に関すること(Q16～21)

ウ)調査対象

札幌市内のひきこもり支援を行っている団体(3団体)の利用者(ひきこもり当事者又はその家族)127人。

※家族が回答する場合は、一部、本人の立場で状況や考え等を記入

エ)調査時期

令和7年11月17日～12月19日

オ)調査方法

支援団体を通じた直接配布又は郵送配布・郵送回収又はWEB回答

【配布数内訳】

- 札幌市ひきこもり地域支援センター 30人
- 札幌若者サポートステーション 25人
- 特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク 72人

※ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」業務受託

カ)回収結果

回収数(率) 79人(62.2%)

【郵送 55人(43.3%)、Web回答 24人(18.9%)】

② ひきこもり状態(現在ひきこもり群・過去ひきこもり群)の定義

本調査では、全回答者を以下の定義で2つに分類する。

「Q8 あなた(その方)は現在、ひきこもり状態にありますか。」について

① 「ある」を選択した者

・現在ひきこもり群

② 「ないが、過去にあった」を選択した者

・過去ひきこもり群

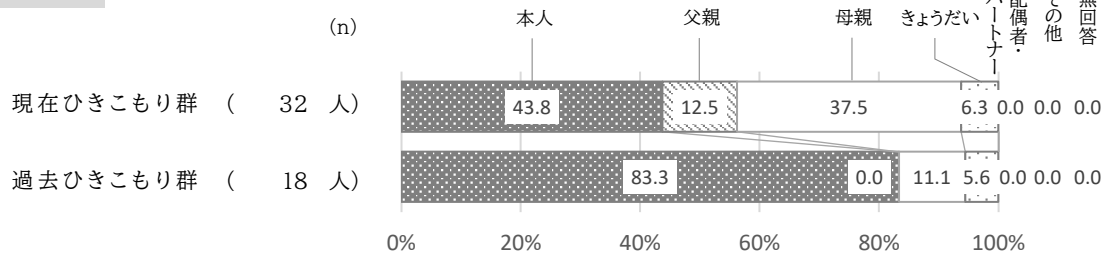
③ 調査の結果

※回答者全員がすべての質問に回答しているわけではないため、全体の数と内訳の合計が一致しない場合があります。

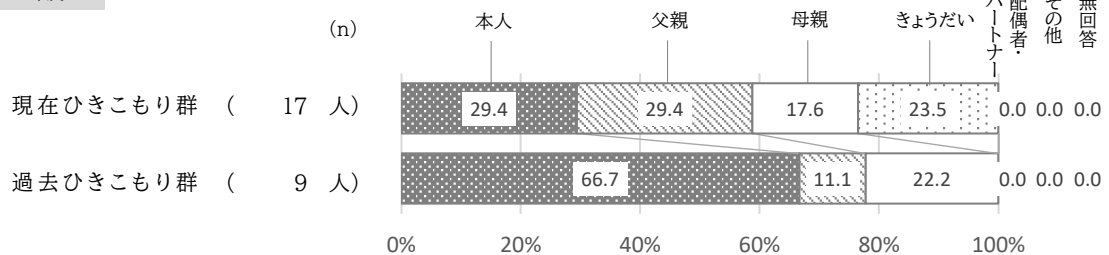
a. 基本属性について

Q1 アンケートを回答する方について、お尋ねします。ひきこもり状態の方(過去にひきこもり状態だった方を含む)本人から見て、どなたがお答えになっていますか。(○はひとつだけ)

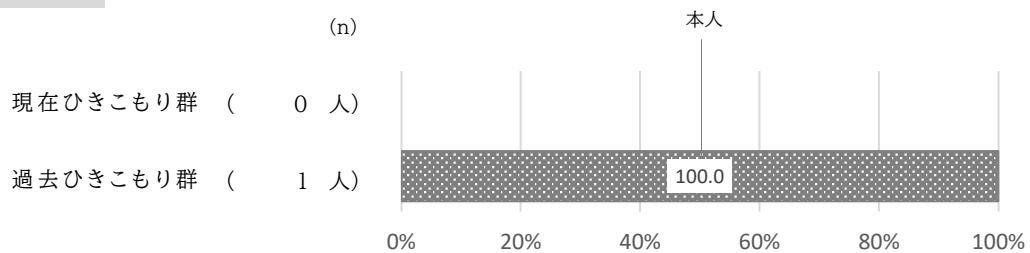
15歳～39歳



40歳～59歳

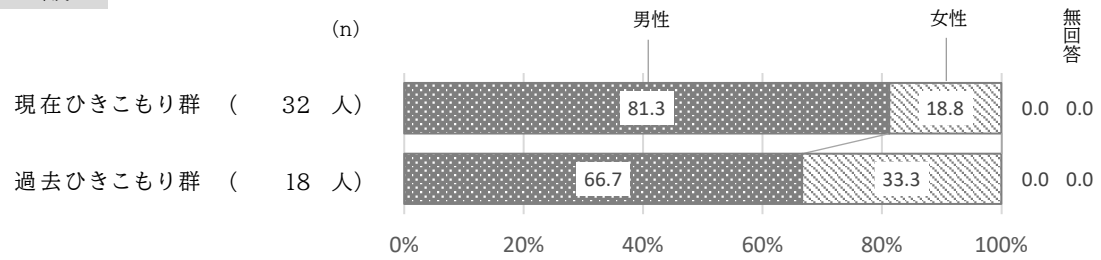


60歳～64歳

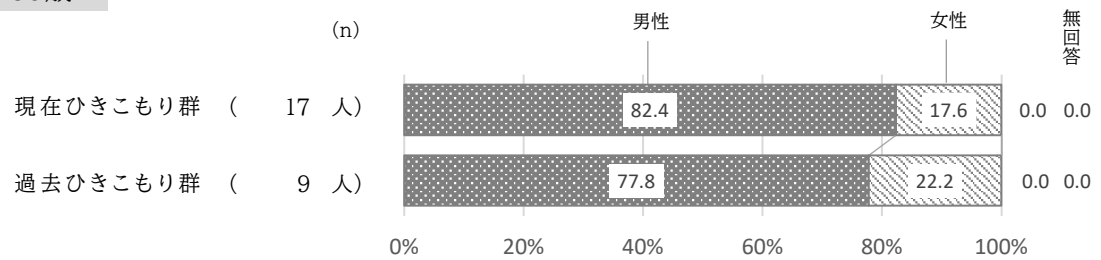


Q2 あなた(その方)の性別をお答えください。(○はひとつだけ)

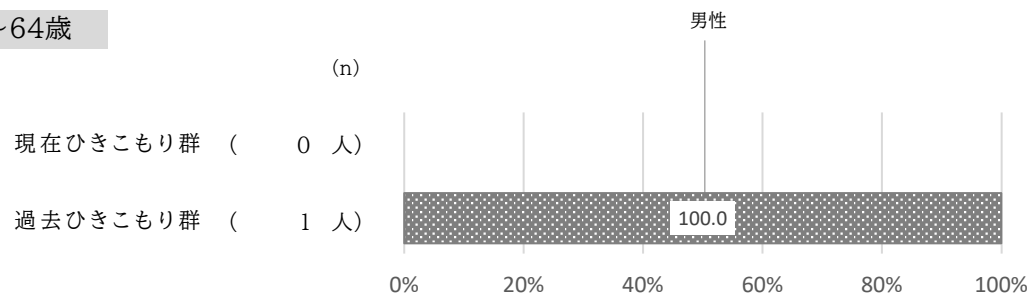
15歳～39歳



40歳～59歳

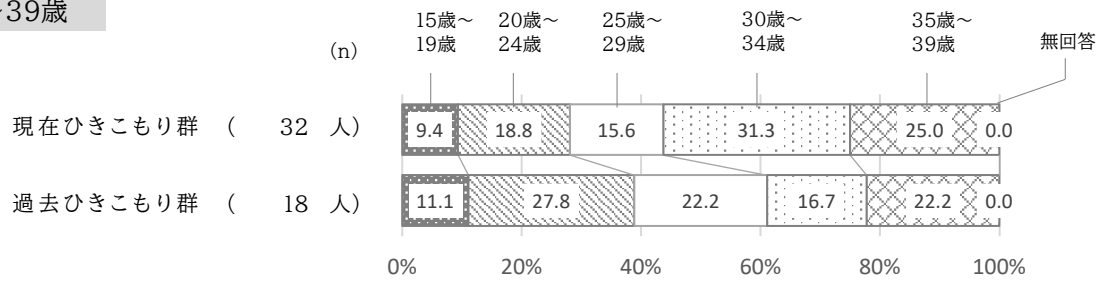


60歳～64歳

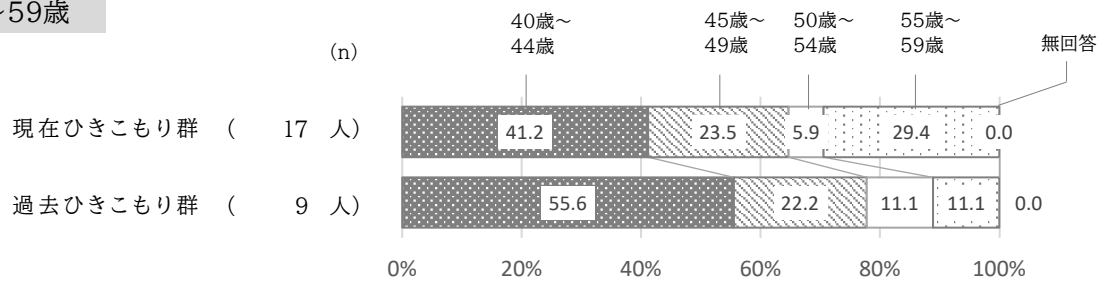


Q3 あなた(その方)の年齢(令和7年9月24日現在)をお答えください。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



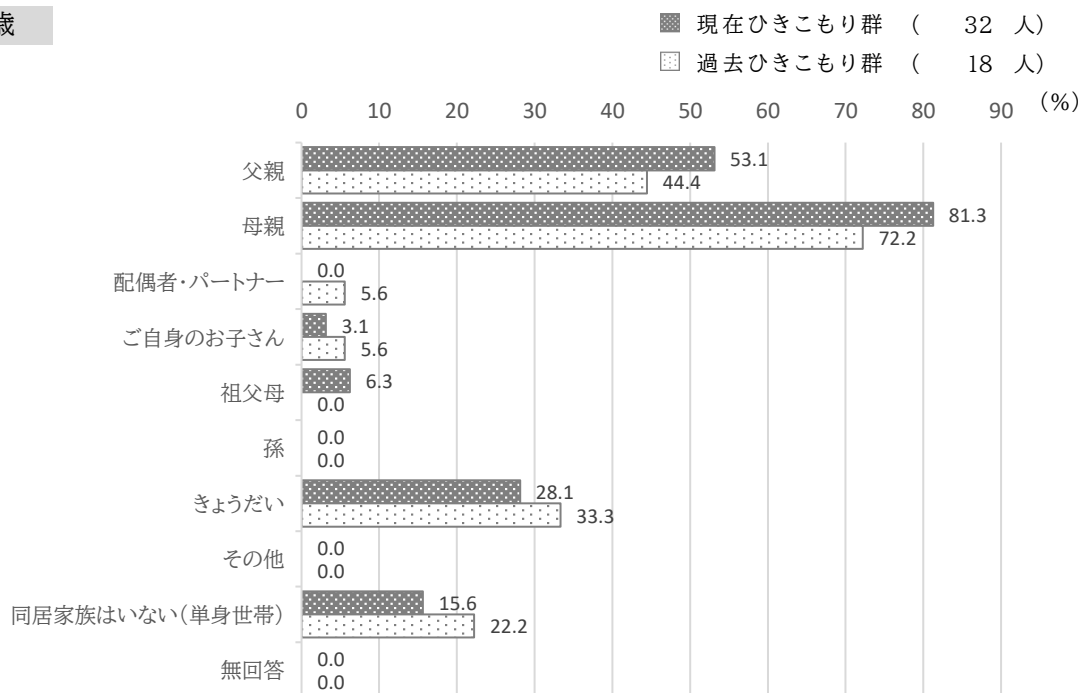
40歳～59歳



※60歳～64歳は、回答選択肢が「60歳～64歳」の1つとなるため省略

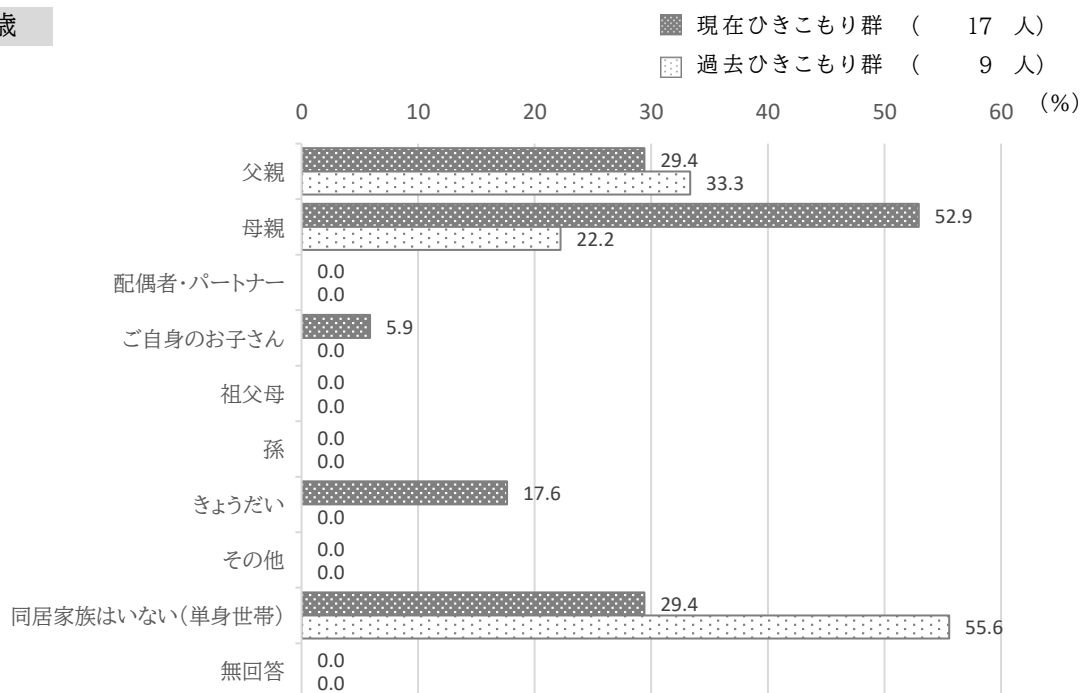
Q4 現在あなた(その方)と同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

15歳～39歳



同居家族は、現在ひきこもり群では「母親」が81.3%で最も多く、「同居家族はいない(単身世帯)」は15.6%であった。過去ひきこもり群でも同様に「母親」が72.2%で最も多く、「同居家族はいない(単身世帯)」は22.2%であった。

40歳～59歳



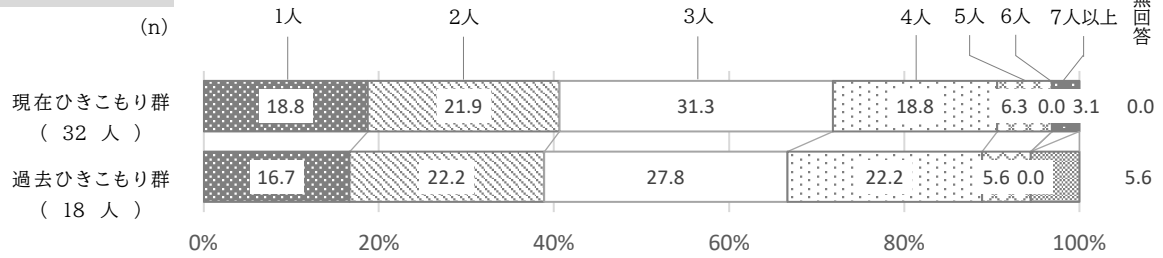
同居家族は、現在ひきこもり群では、「母親」が52.9%で過去ひきこもり群に比べて多く、「同居家族はいない(単身世帯)」が29.4%で過去ひきこもり群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳



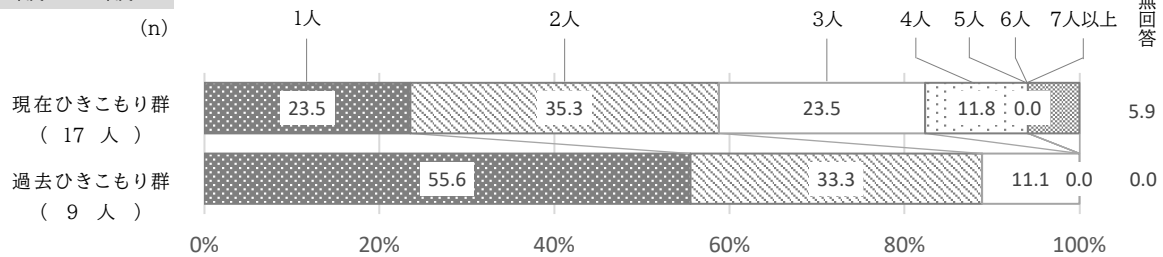
Q5 現在同居している人は合計で何人ですか。あなた(その方)も含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)

15歳～39歳



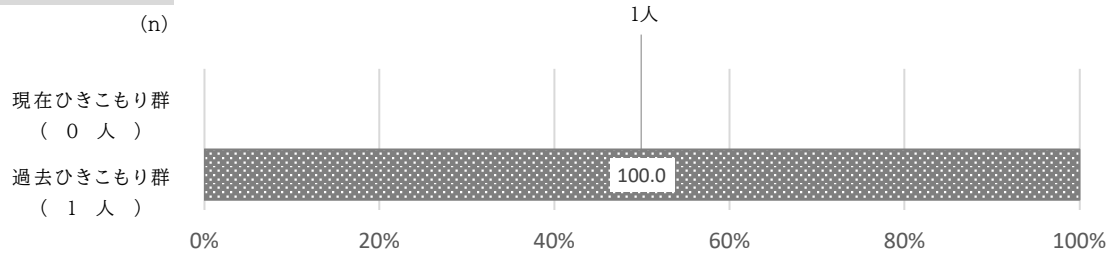
同居人数は、現在ひきこもり群では、「3人」が31.3%で最も多く、単身者である「1人」が18.8%であった。過去ひきこもり群では、「3人」が27.8%で最も多く、単身者である「1人」が16.7%であった。

40歳～59歳

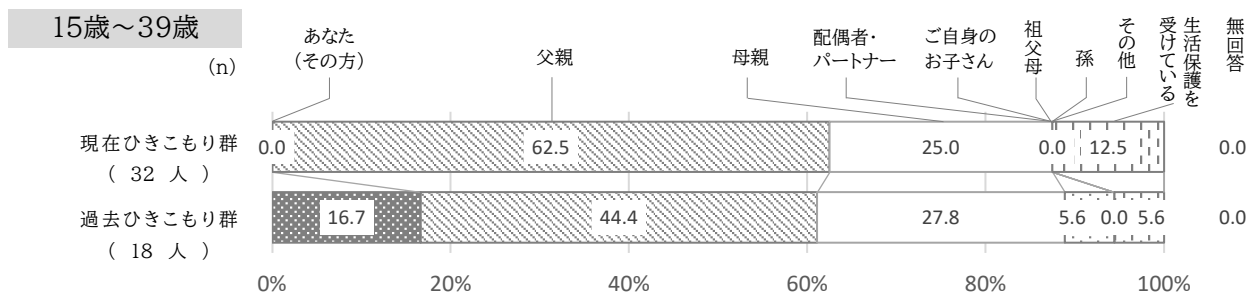


同居人数は、現在ひきこもり群では、「2人」が35.3%で最も多く、単身者である「1人」及び「3人」が23.5%であった。過去ひきこもり群では、単身者である「1人」が55.6%で最も多く、現在ひきこもり群に比べ多い傾向がみられた。

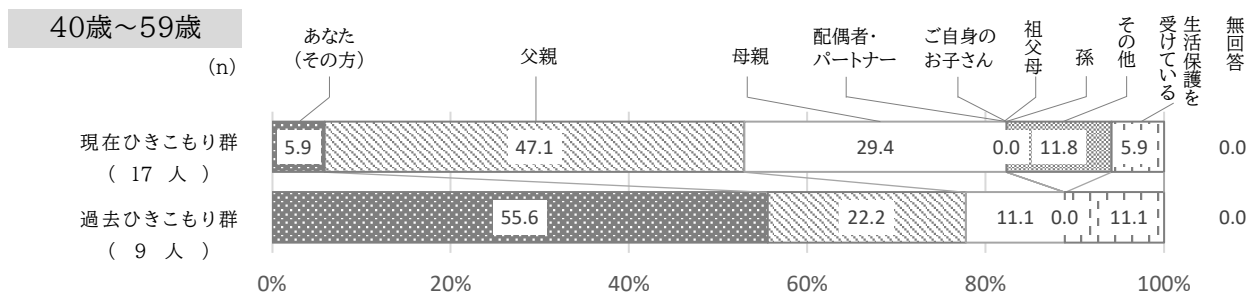
60歳～64歳



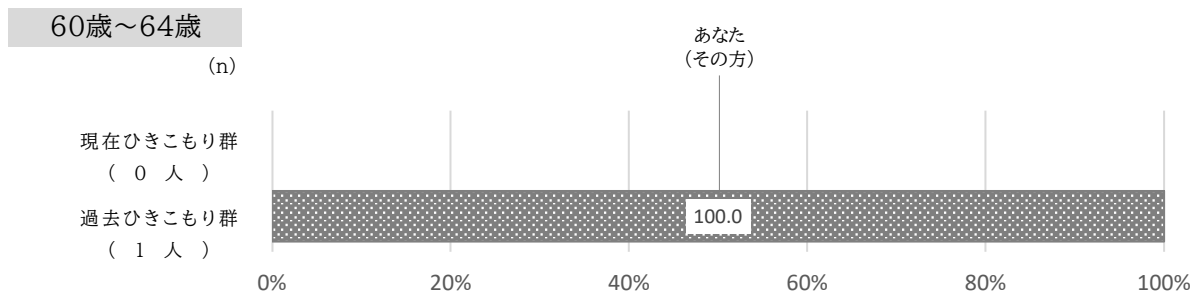
Q6 あなた(その方)の家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○はひとつだけ)



主な生計維持者については、現在ひきこもり群では、「父親」が62.5%で過去ひきこもり群の44.4%と同様に多く、「あなた(その方)」が0.0%で過去ひきこもり群の16.7%に比べて少ない傾向がみられた。

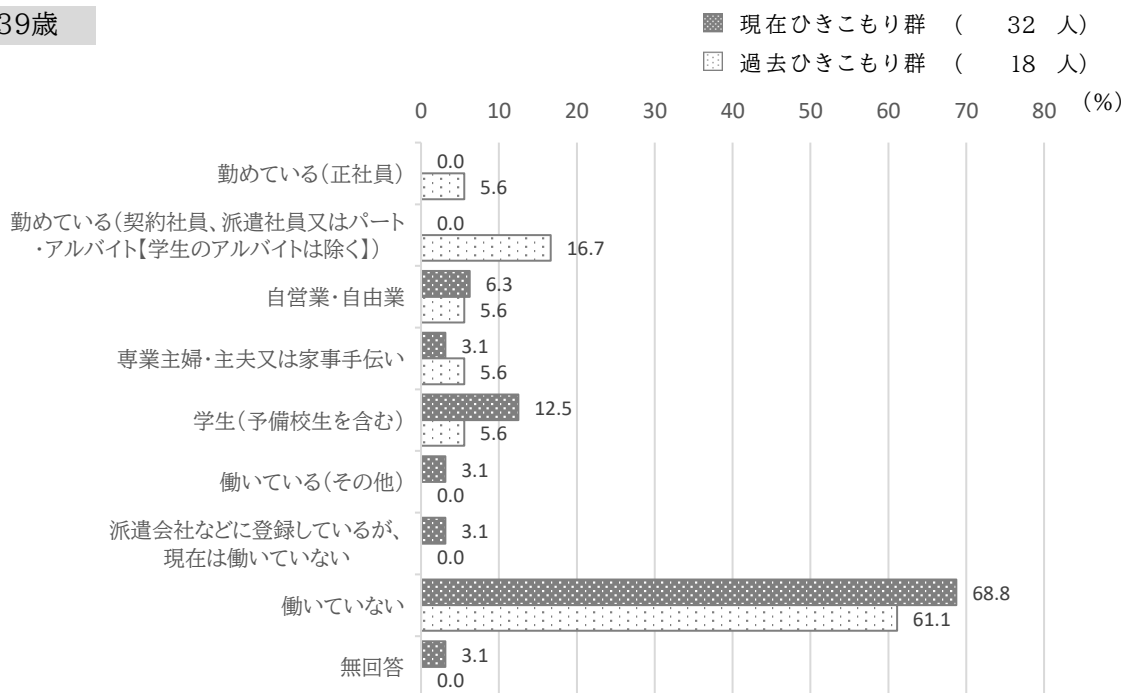


主な生計維持者については、現在ひきこもり群では、「父親」が47.1%で過去ひきこもり群の22.2%に比べて多く、「あなた(その方)」が5.9%で過去ひきこもり群の55.6%に比べて少ない傾向がみられた。



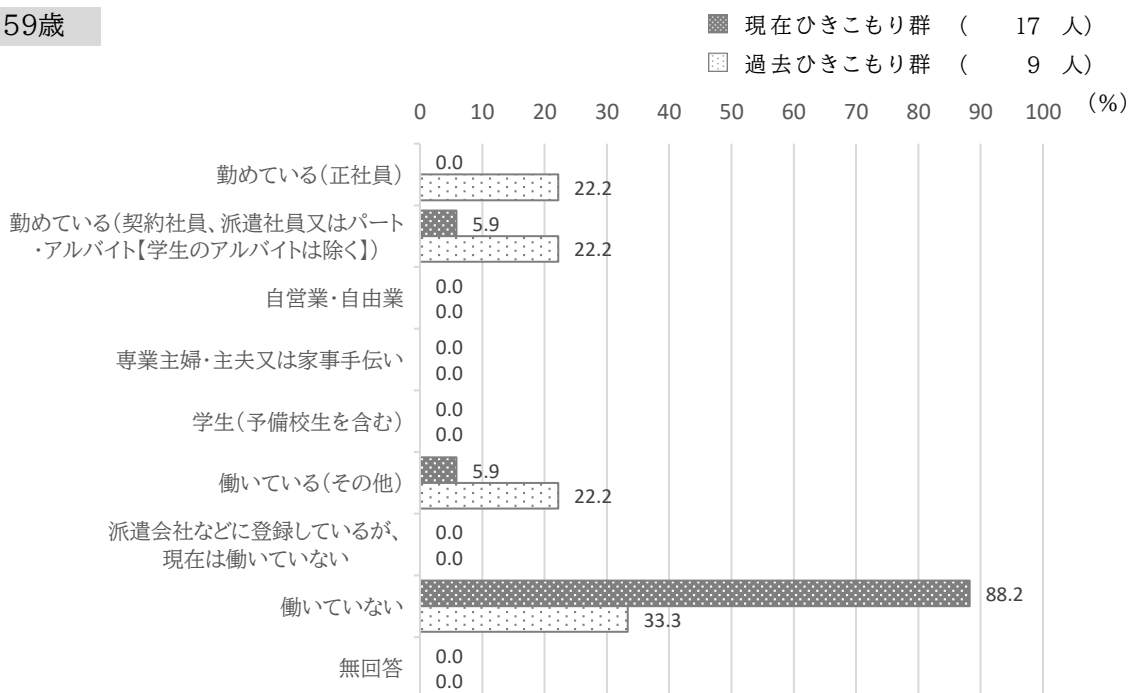
Q7 あなた(その方)の現在の主な就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



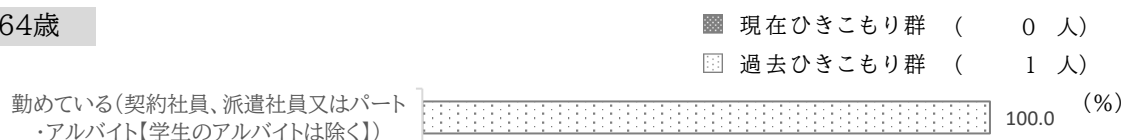
現在の就業状況については、現在ひきこもり群では、「働いていない」が68.8%で過去ひきこもり群と同様に最も多く、「勤めている(正社員)」及び「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト)」が0.0%で過去ひきこもり群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



現在の就業状況については、現在ひきこもり群では、「働いていない」が88.2%で過去ひきこもり群に比べて多く、「勤めている(正社員)」が0.0%、「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト)」及び「働いている(その他)」が5.9%で過去ひきこもり群に比べて少ない傾向がみられた。

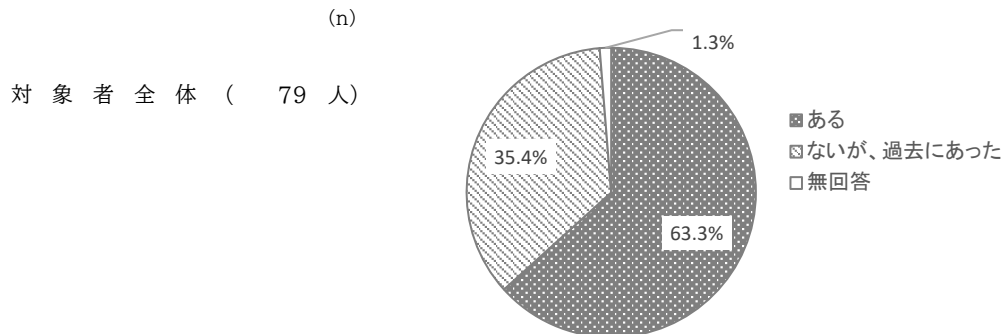
60歳～64歳



b. 現在のひきこもり状態について

Q8 あなた(その方)は現在、ひきこもり状態にありますか。(○はひとつだけ)

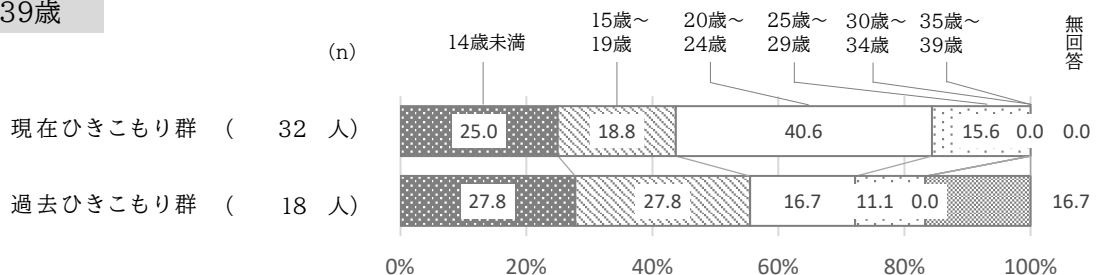
※Q8の設問は、現在ひきこもり群と過去ひきこもり群を定義するために使用



c. その方のひきこもり状態に関すること

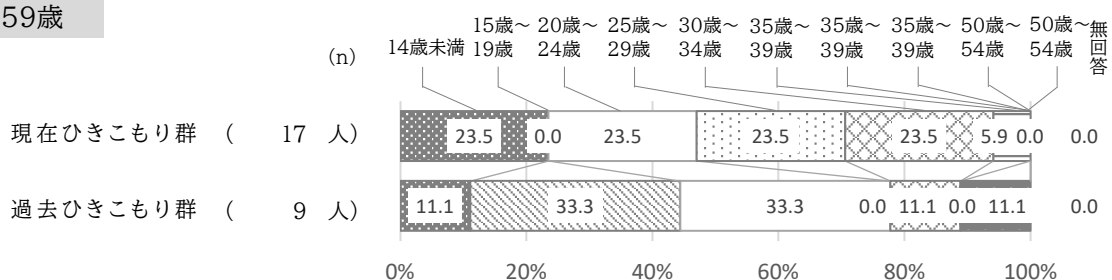
Q9 ひきこもり状態になったのは、あなた(その方)が何歳の頃ですか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったのは何歳の頃でしたか。)(数字で具体的に)

15歳～39歳



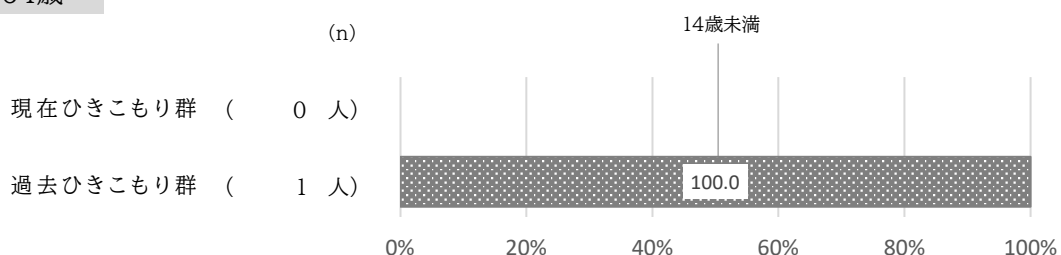
ひきこもり状態になった年齢は、現在ひきこもり群では「20歳～24歳」が40.6%で最も多く、過去ひきこもり群では「14歳未満」及び「15歳～19歳」が27.8%で最も多かった。

40歳～59歳



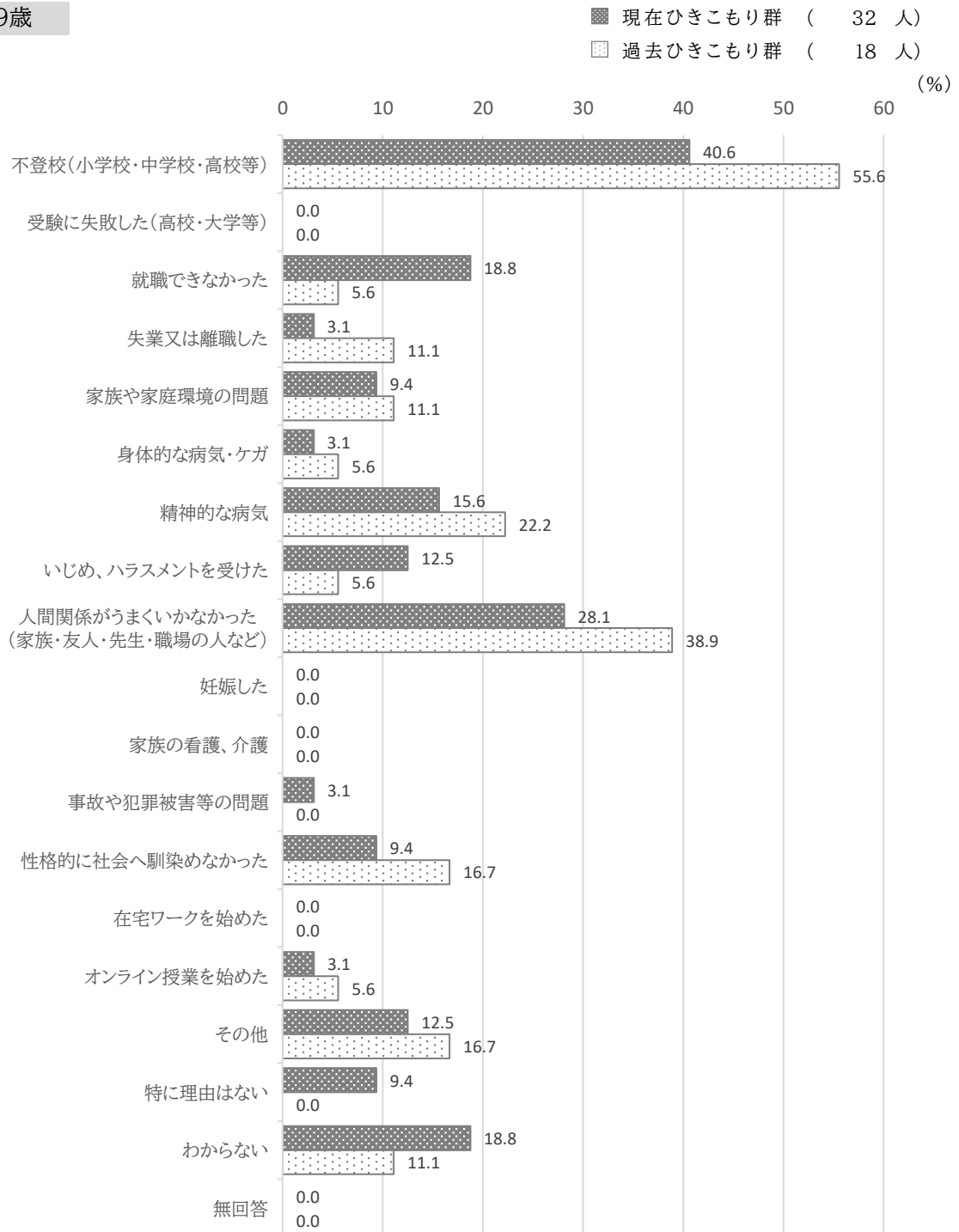
ひきこもり状態になった年齢は、現在ひきこもり群では「14歳未満」及び「20歳～24歳」、「25歳～29歳」、「30歳～34歳」が23.5%で回答が分かれ、過去ひきこもり群では「15歳～19歳」及び「20歳～24歳」が33.3%で最も多かった。

60歳～64歳



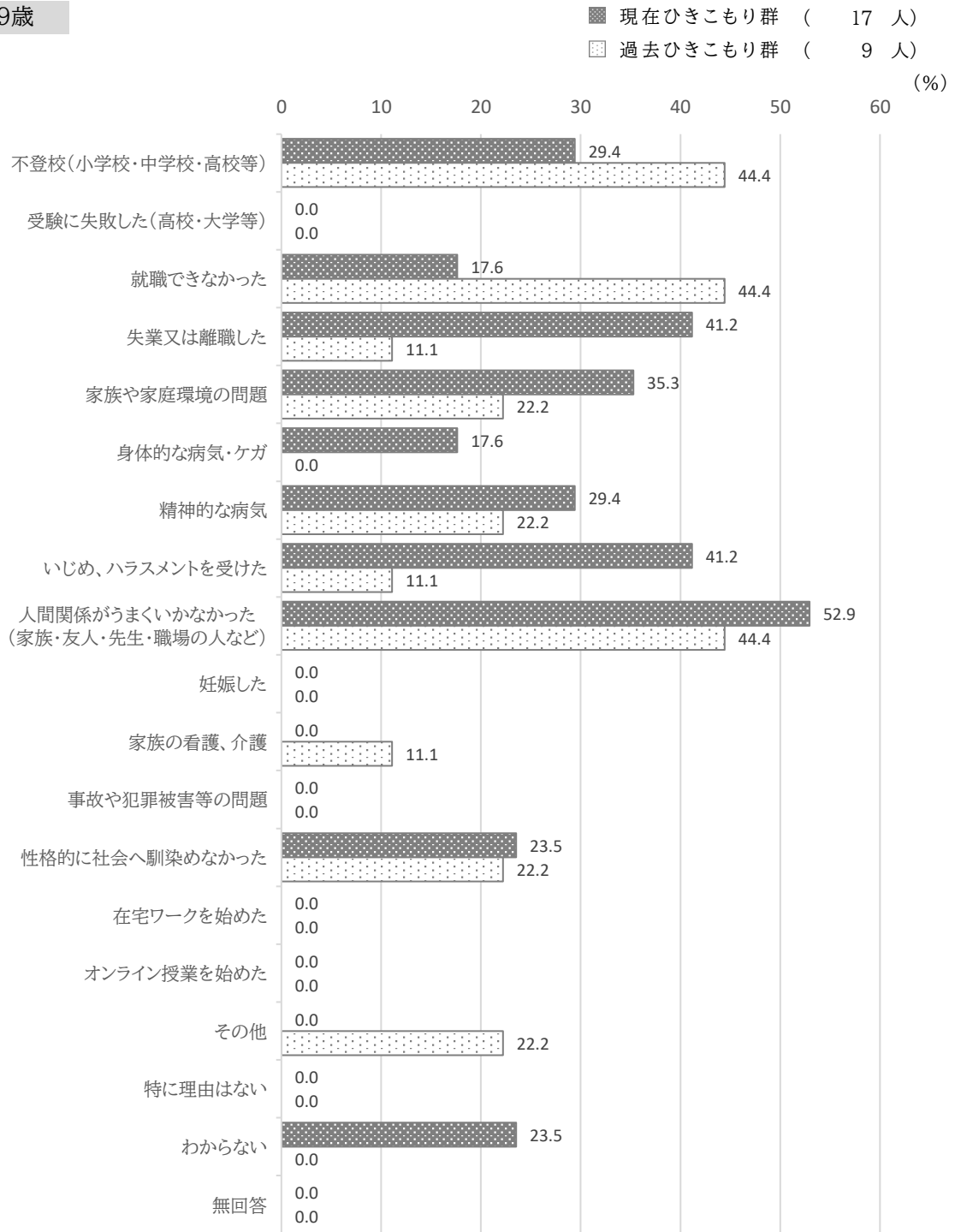
Q10 あなた(その方)が、ひきこもり状態になったきっかけは何ですか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったきっかけは何でしたか。)(○はいくつでも)

15歳～39歳



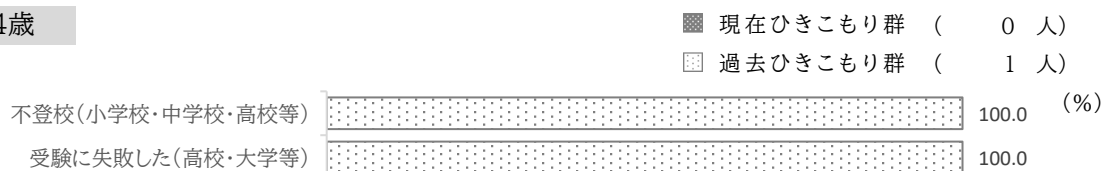
ひきこもり状態になったきっかけについては、現在ひきこもり群・過去ひきこもり群ともに「不登校(小学校・中学校・高校等)」が40.6%、55.6%で最も多く、ついで「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が28.1%、38.9%であった。現在ひきこもり群で「就職できなかった」が18.8%で、過去ひきこもり群に比べて多い傾向にあった。

40歳～59歳



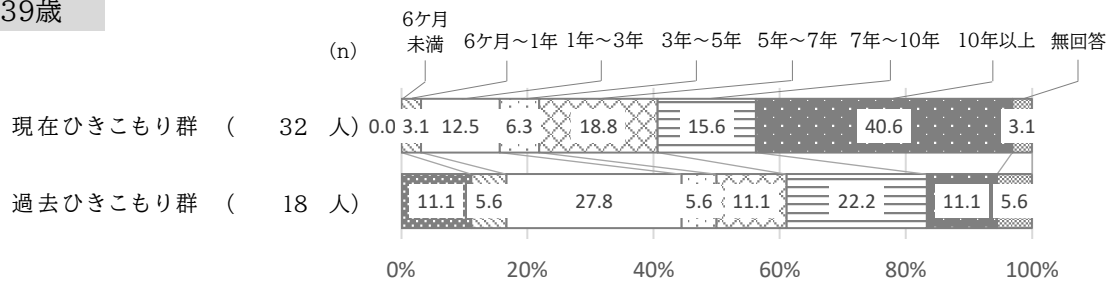
ひきこもり状態になったきっかけについては、現在ひきこもり群で「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が52.9%で最も多く、ついで「失業又は離職した」及び「いじめ、ハラスメントを受けた」が41.2%で、過去ひきこもり群に比べて多く、「就職できなかった」が17.6%で、過去ひきこもり群に比べて少ない傾向にあった。

60歳～64歳



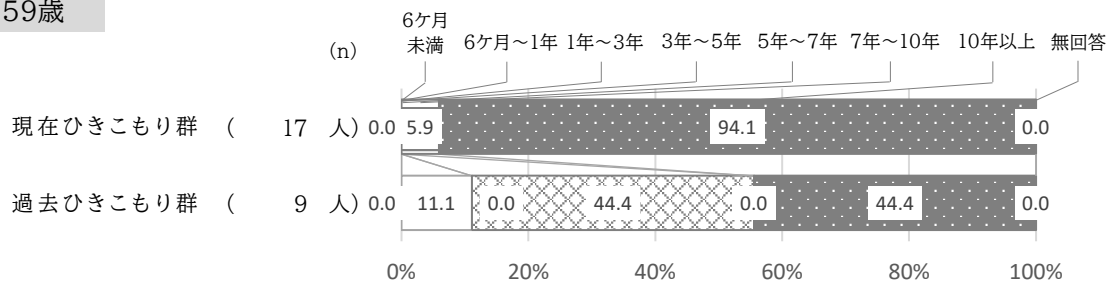
Q11 ひきこもり状態はどのくらい続いていますか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態はどのくらい続きましたか。)(○はひとつだけ)

15歳～39歳



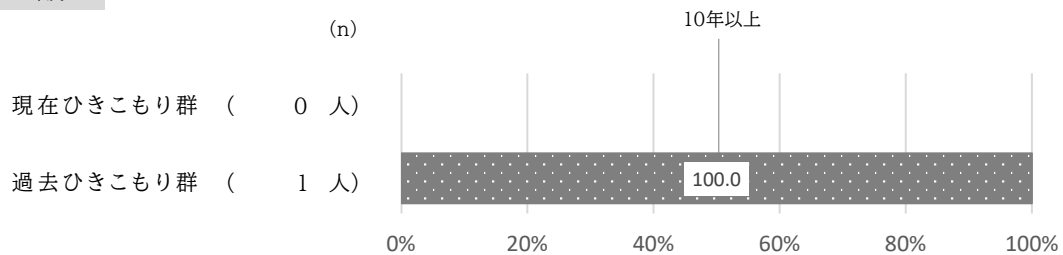
ひきこもり状況になってからの期間は、現在ひきこもり群では「10年以上」が40.6%、過去ひきこもり群では「1年以上～3年未満」が27.8%で最も多かった。

40歳～59歳



ひきこもり状況になってからの期間は、現在ひきこもり群では「10年以上」が94.1%、過去ひきこもり群では「5年以上～7年未満」及び「10年以上」が44.4%で最も多かった。

60歳～64歳

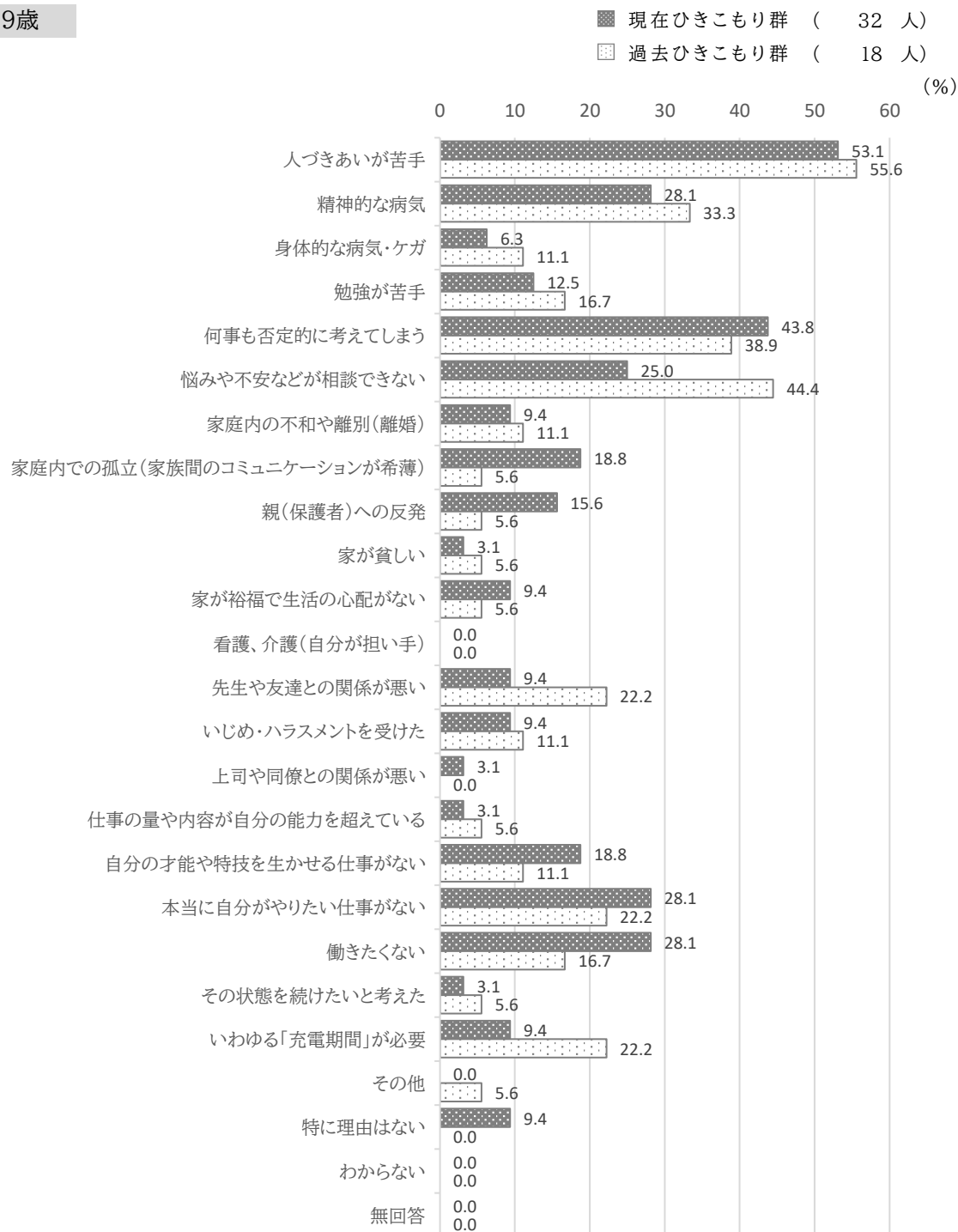


10年以上の内容

年代	内容
すべて	10～19年(18件) 20～29年(8件) 30～39年(4件) 無記入(7件)

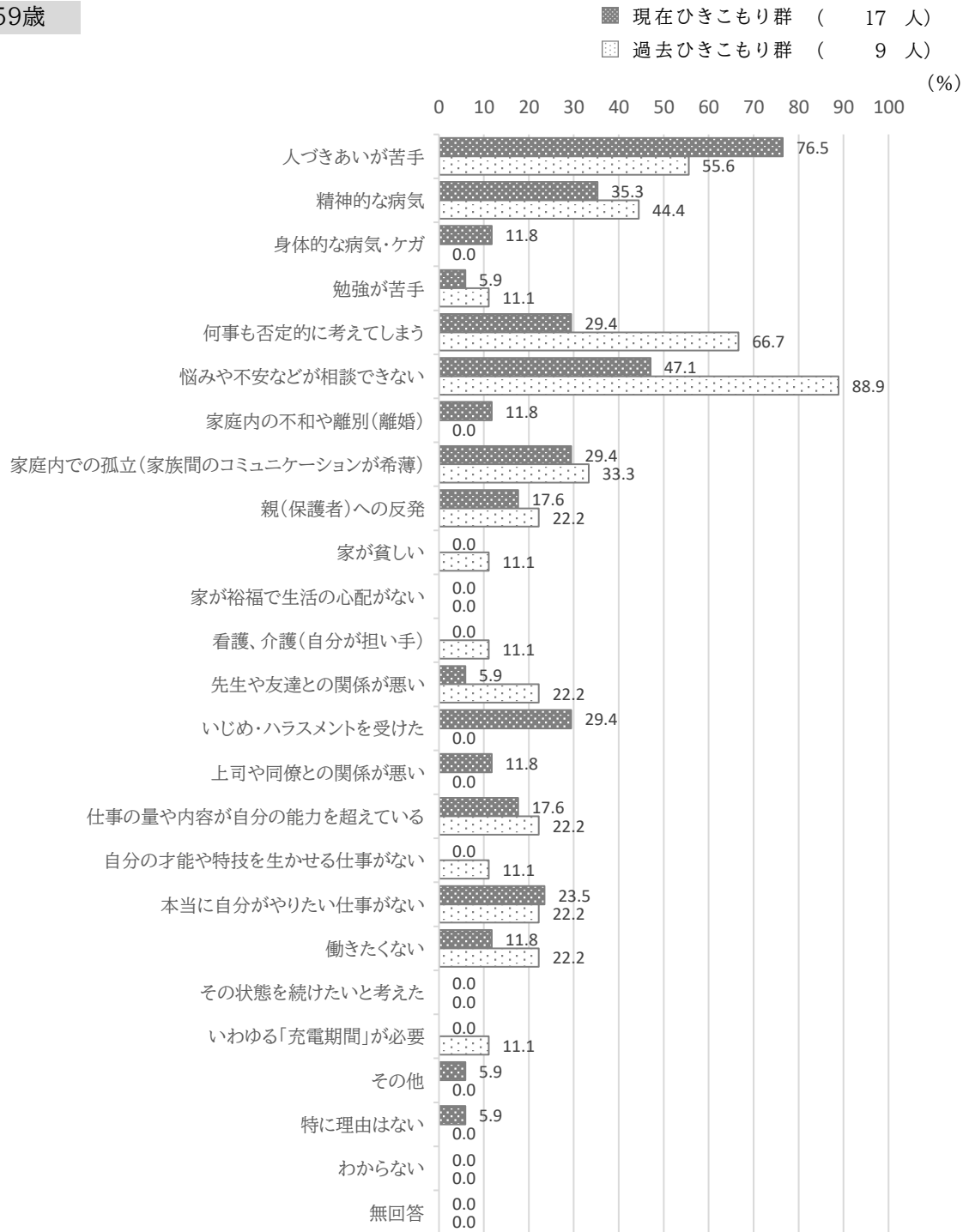
Q12 ひきこもり状態が続いている(過去にひきこもり状態だった方は、その状態が続いていたときの)主な原因・理由は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳



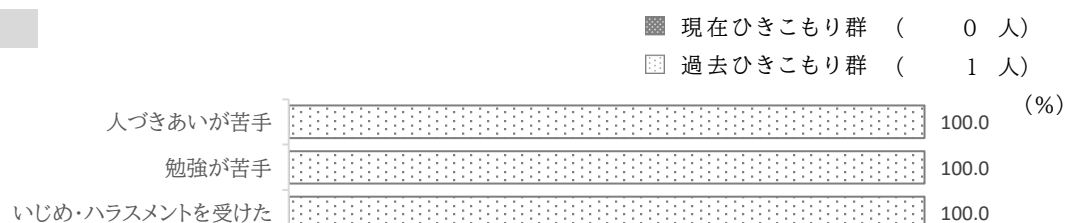
ひきこもり状態になった原因・理由については、現在ひきこもり群・過去ひきこもり群ともに「人づきあいが苦手」が53.1%、55.6%で最も多く、現在ひきこもり群では、「本当に自分がやりたい仕事がない」及び「働きたくない」が28.1%で、過去ひきこもり群に比べて多く、「悩みや不安などを相談できない」が25.0%で、過去ひきこもり群に比べて少ない傾向にあった。

40歳～59歳



ひきこもり状態になった原因・理由については、現在ひきこもり群では、「人づきあいが苦手」が76.5%で最も多く、過去ひきこもり群では、「悩みや不安などが相談できない」が88.9%、「何事も否定的に考えてしまう」が66.7%で多い傾向にあった。

60歳～64歳

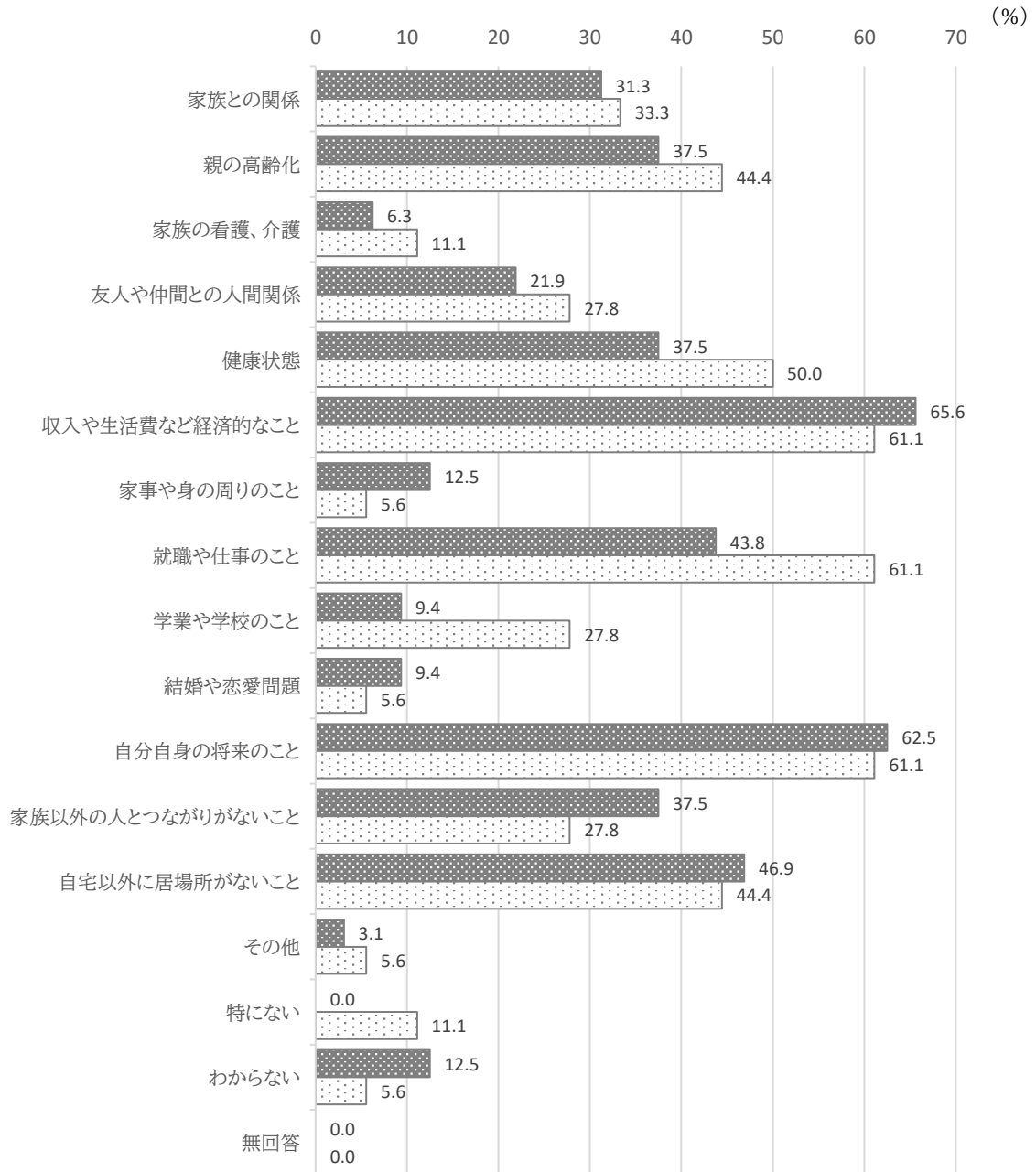


Q13 現在あなた(その方)が抱えている不安や危機感として、どのようなものがありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、ひきこもっているときに抱えていた不安や危機感としてどのようなものがありましたか)。(〇はいくつでも)

15歳～39歳

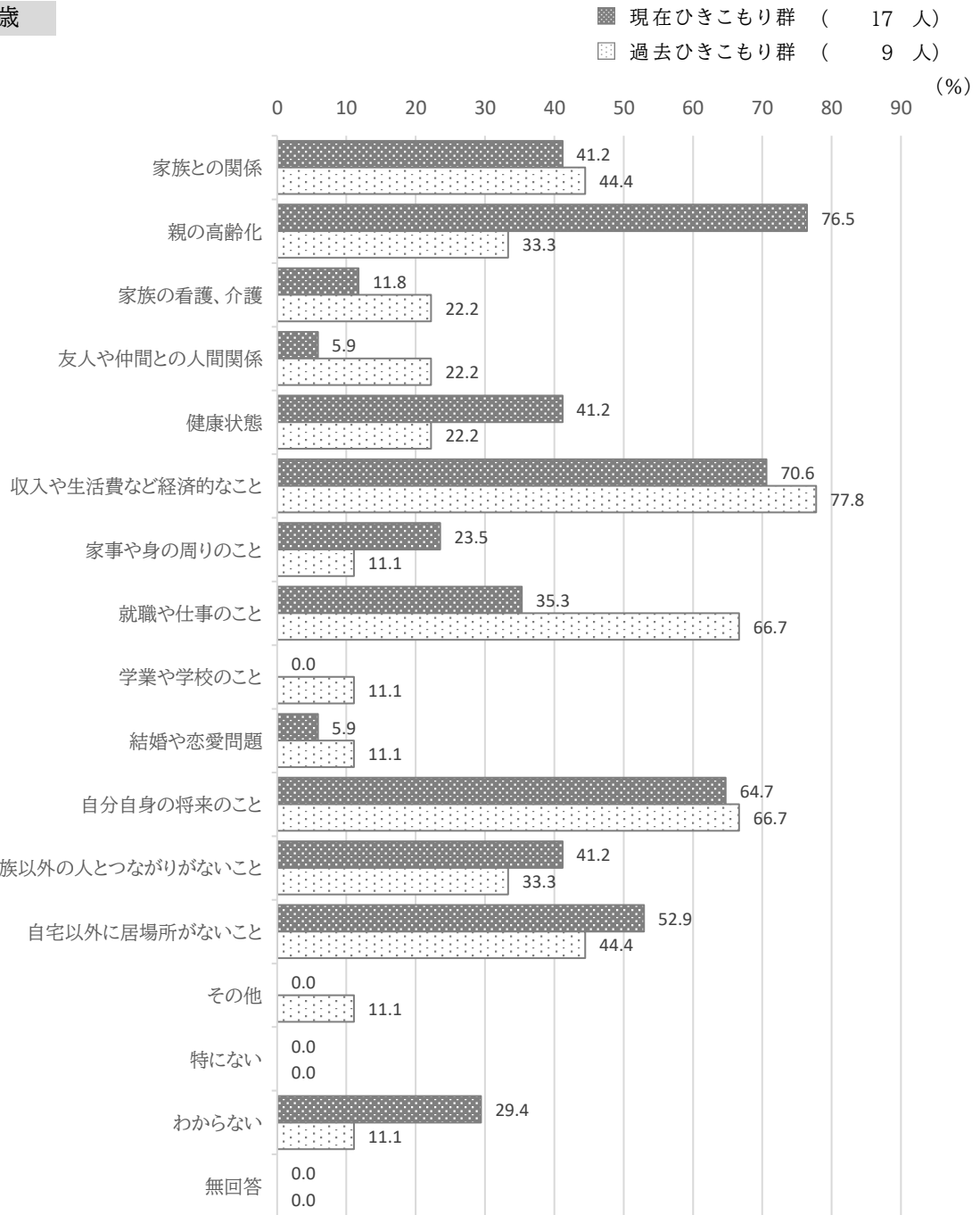
■ 現在ひきこもり群 (32 人)

□ 過去ひきこもり群 (18 人)



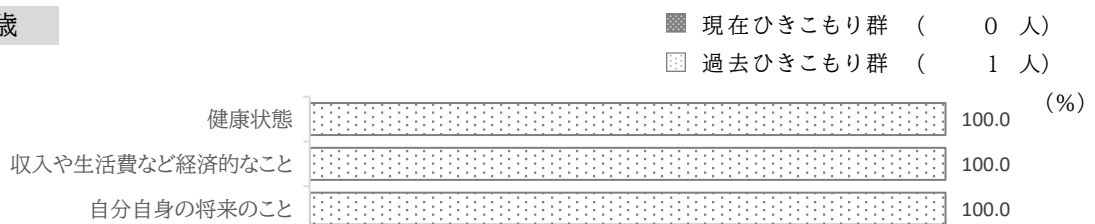
現在抱えている不安や危機感については、現在ひきこもり群では「収入や生活費など経済的なこと」が65.6%で最も多く、ついで「自分自身の将来のこと」が62.5%であった。

40歳～59歳



現在抱えている不安や危機感については、現在ひきこもり群では「親の高齢化」が76.5%で最も多く、ついで「収入や生活費など経済的なこと」が70.6%であった。「親の高齢化」が76.5%、「健康状態」が41.2%で、過去ひきこもり群に比べて多く、「就職や仕事のこと」が35.3%で、過去ひきこもり群に比べて少ない傾向にあった。

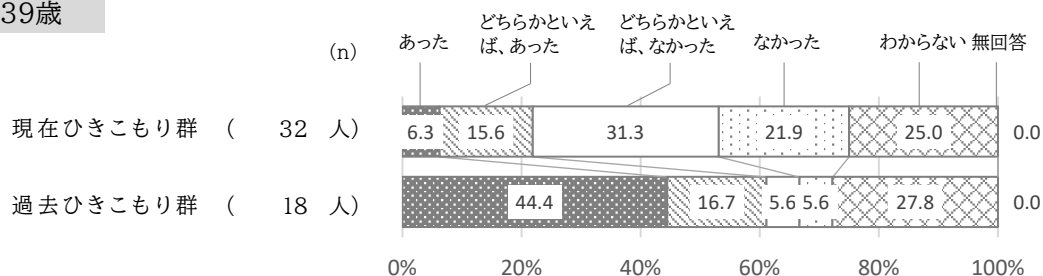
60歳～64歳



d. ひきこもり状態の改善に関すること

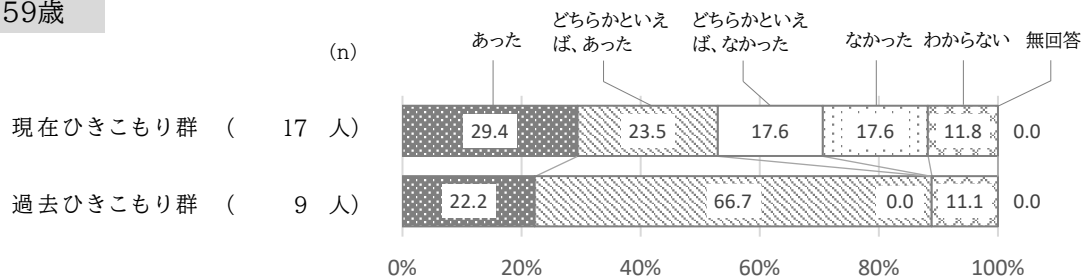
Q14 あなた(その方)は今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



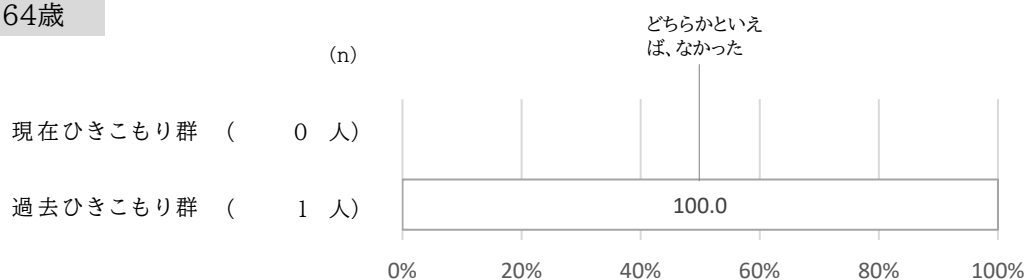
状態が改善した経験については、現在ひきこもり群では、最も多い「どちらかといえば、なかった」が31.3%で過去ひきこもり群に比べて多く、「あった」が6.3%で過去ひきこもり群で最も多い44.4%に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



状態が改善した経験については、現在ひきこもり群では、「あった」が29.4%で最も多く、「どちらかといえば、なかった」及び「なかった」が17.6%で過去ひきこもり群に比べて多く、「どちらかといえば、あった」が23.5%で過去ひきこもり群で最も多い66.7%に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳

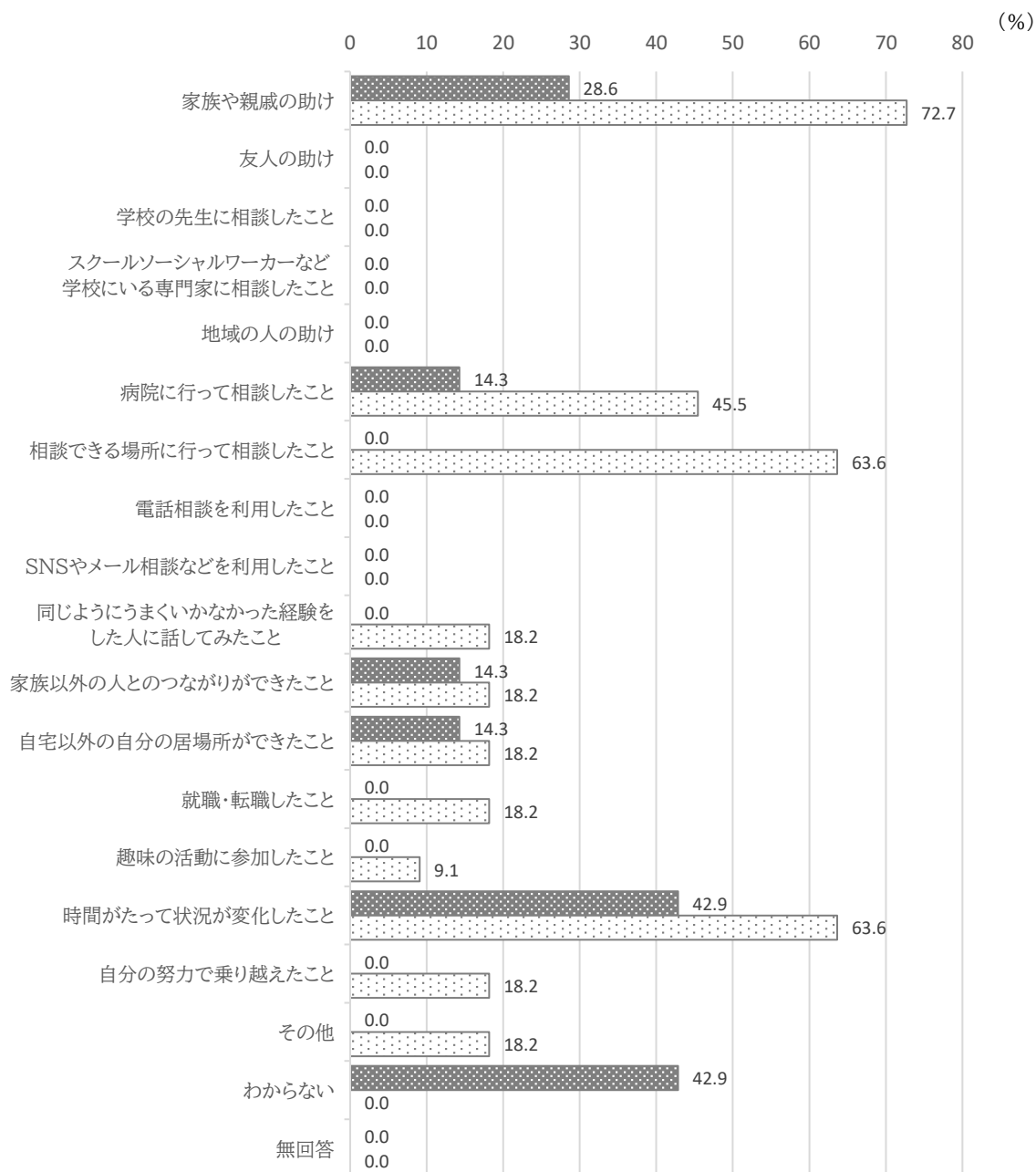


【Q14で、1～2に○をつけた方のみ回答】

Q15-1 状態の改善に役立ったことは何だと思いませんか。(○はいくつでも)

15歳～39歳

■ 現在ひきこもり群 (7 人)
 □ 過去ひきこもり群 (11 人)



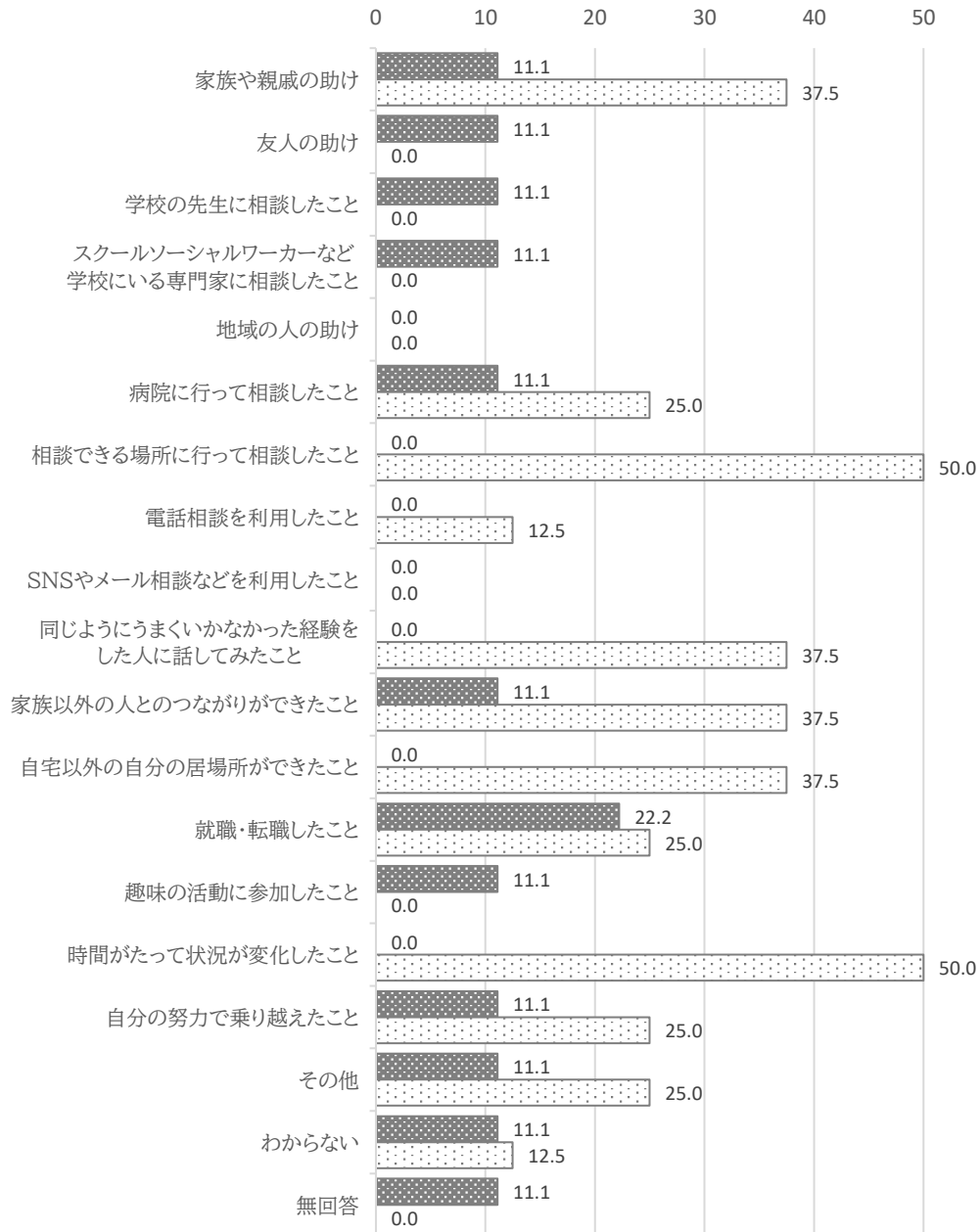
状態の改善に役立ったことは、過去ひきこもり群では、「家族や親戚の助け」が72.7%で最も多く、ついで「相談できる場所に行って相談したこと」及び「時間がたって状況が変化したこと」が63.6%と多い傾向にあった。

40歳～59歳

■ 現在ひきこもり群 (9 人)

□ 過去ひきこもり群 (8 人)

(%)



状態の改善に役立ったことは、過去ひきこもり群では、「相談できる場所に行って相談したこと」及び「時間がたって状況が変化したこと」が50.0%で最も多かった。

60歳～64歳

※回答者なし

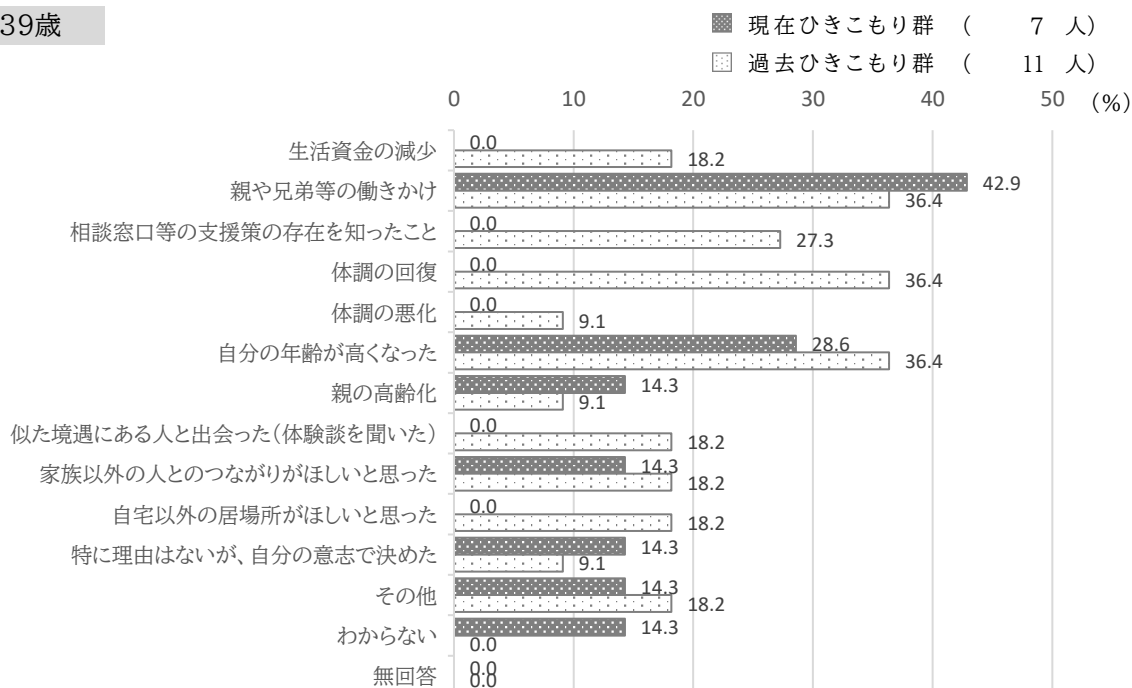
その他の内容
(抜粋)

年代	内容
すべて	今の自分の状態から抜け出す努力をした 時間が経って状況は変わらないものの自然と心境の変化があったこと、マッサージを受けるなど直接の解決にはならないものの、身体的なリラックスや人に触れてもらうなどによる安心感を得たこと 親が本人の現状を認めたので PCにて、ネットゲームの仮想空間でひきこもり仲間ができた 精神科医に相談し訪問看護、カウンセリングを受けた

【Q14で、1～2に○をつけた方のみ回答】

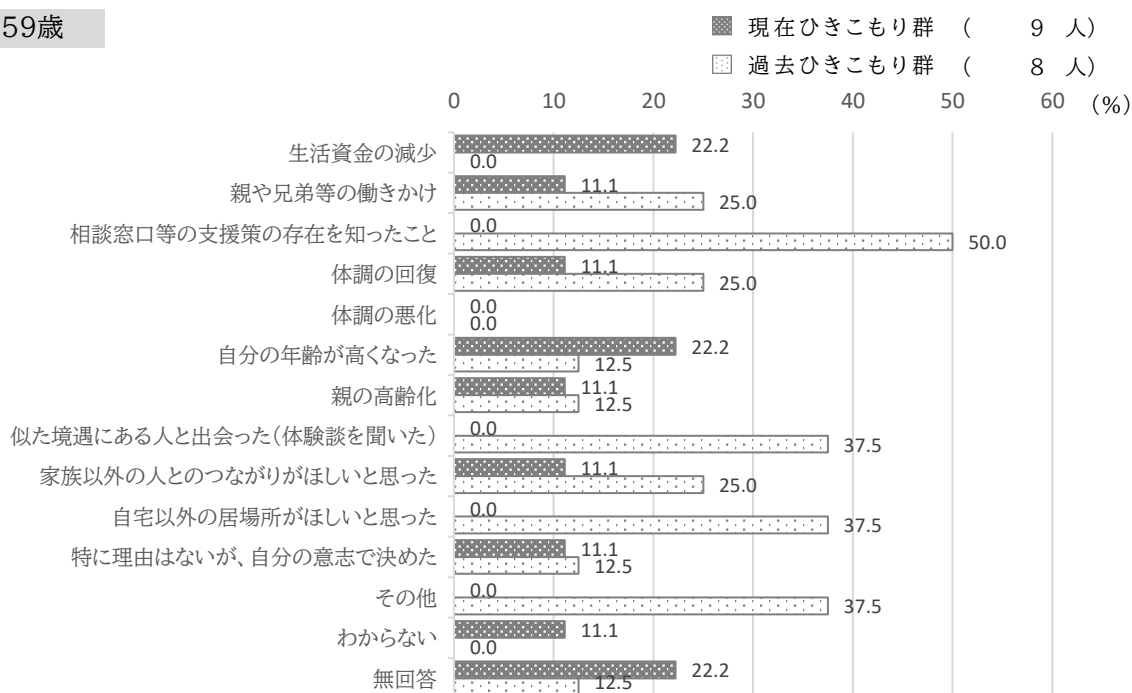
Q15-2 状態が改善するための行動を起こしたきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

15歳～39歳



状態が改善するための行動を起こしたきっかけは、過去ひきこもり群では、「親や兄弟等の働きかけ」、「体調の回復」及び「自分の年齢が高くなった」が36.4%で最も多かった。

40歳～59歳



状態が改善するための行動を起こしたきっかけは、過去ひきこもり群では、「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が50.0%と最も多く、ついで「似た境遇にある人と出会った(体験談を聞いた)」及び「自宅以外の居場所がほしいと思った」が37.5%と多い傾向にあった。

60歳～64歳

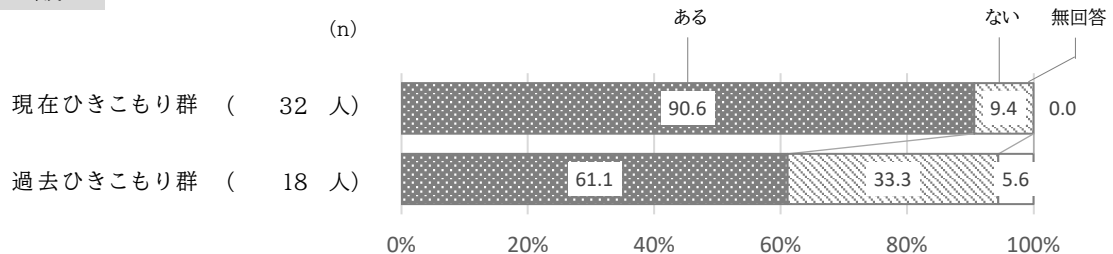
※回答者なし

e. 相談・支援に関すること

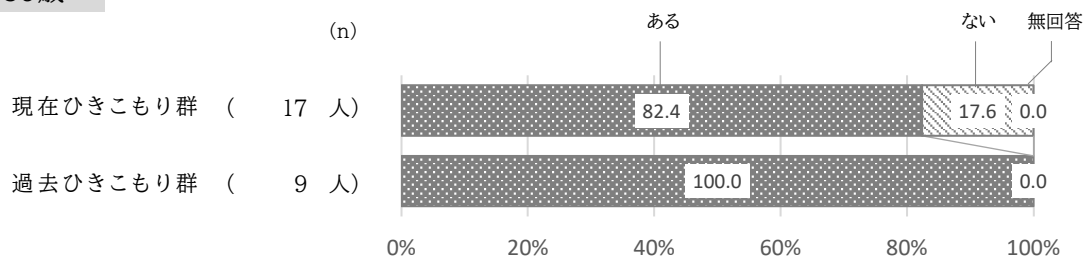
Q16 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、当時の状況について、関係機関に相談したことはありましたか。)(○はひとつだけ)

※あなた(ひきこもり状態の方本人)以外の方(家族等)が相談した場合も含みます。

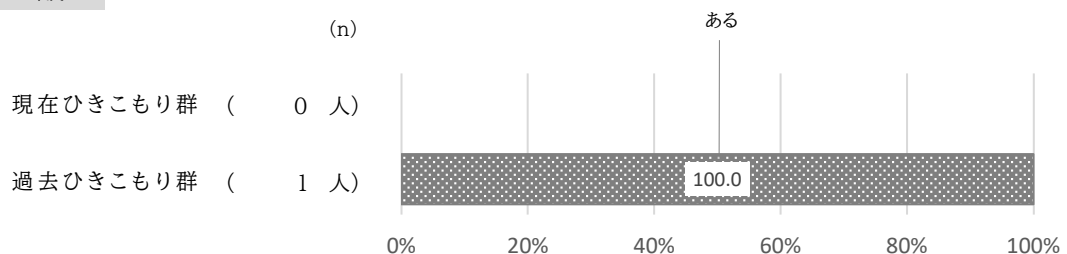
15歳～39歳



40歳～59歳



60歳～64歳

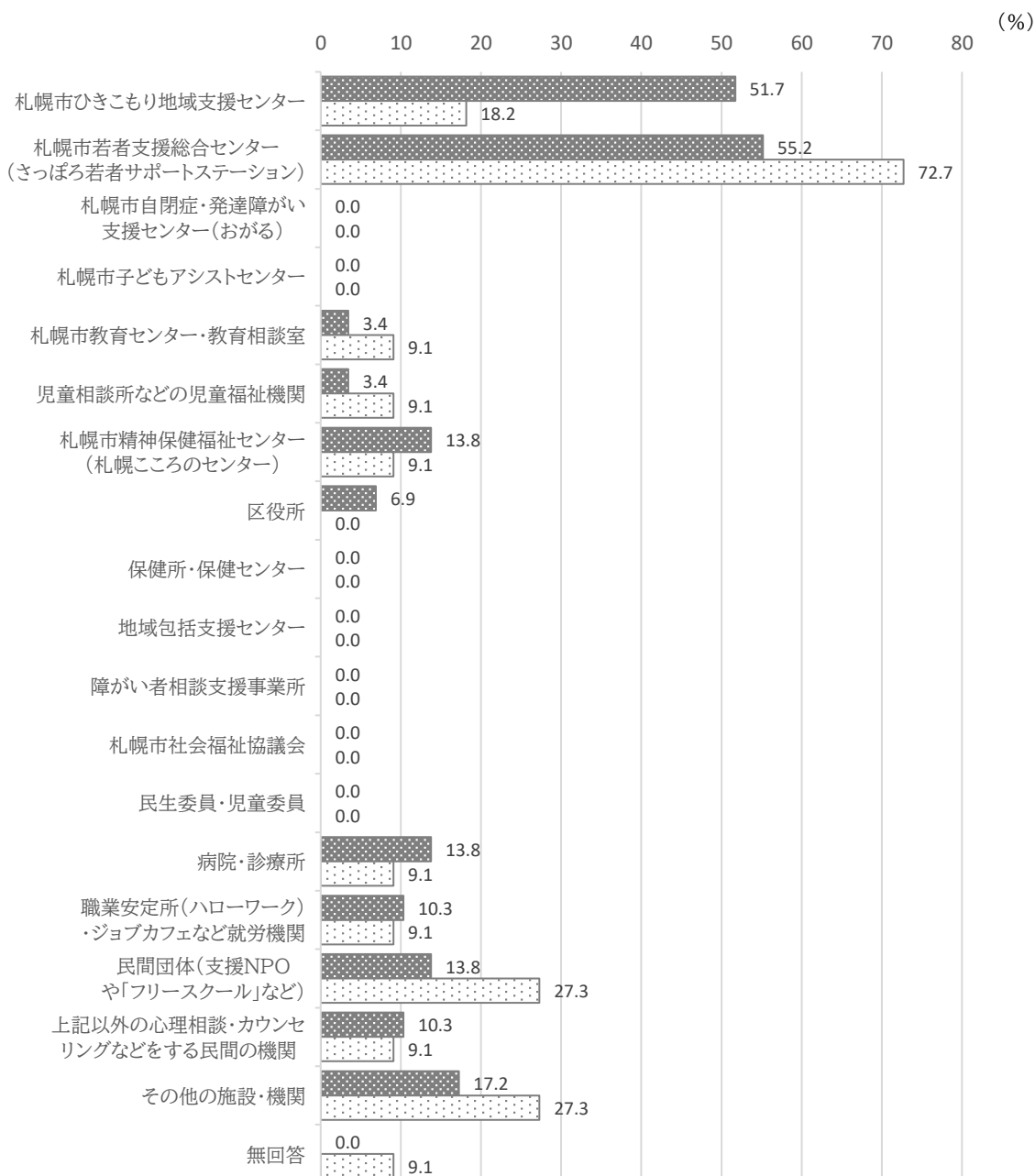


【Q16で、1に○をつけた方のみ回答】

Q17-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

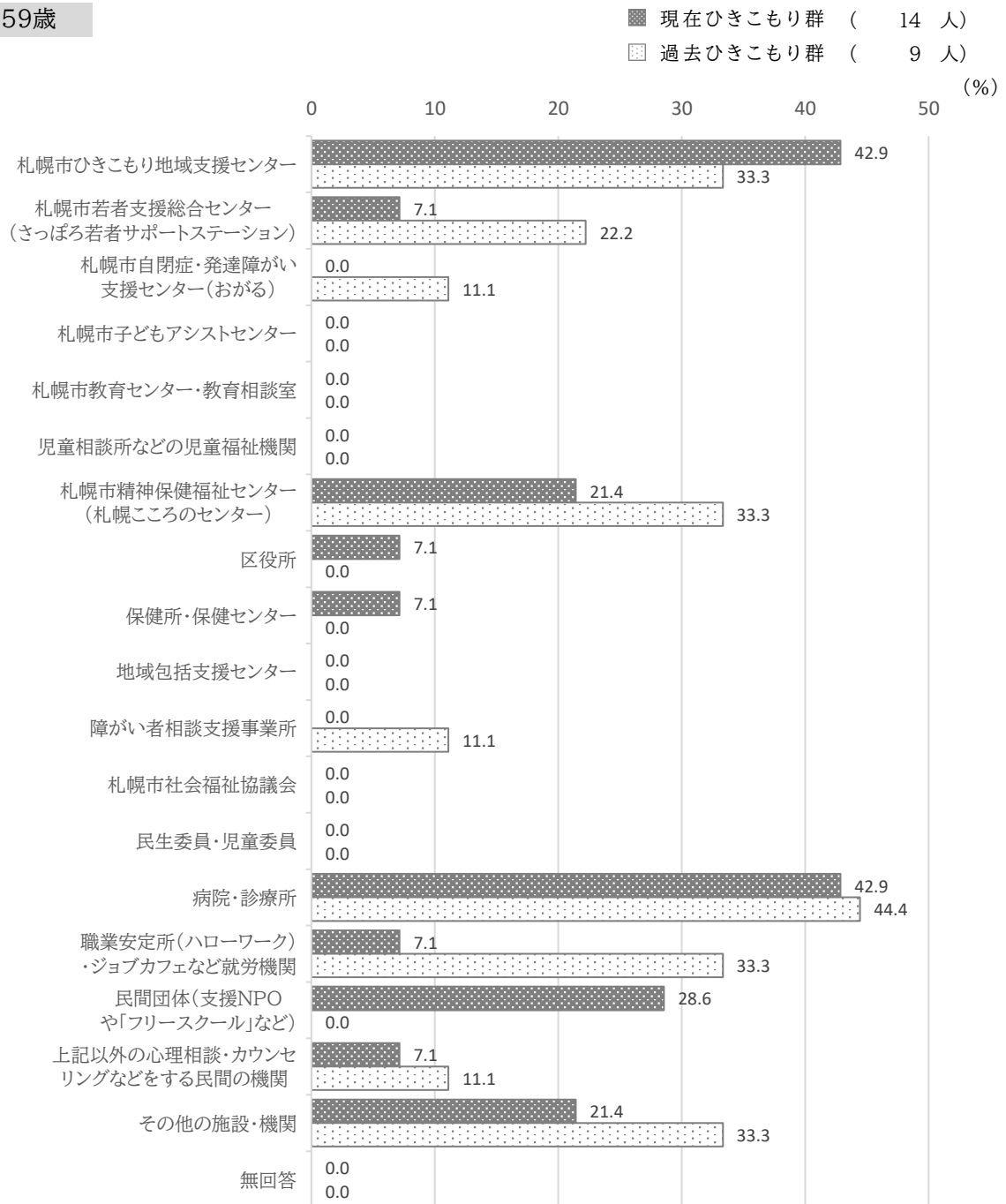
15歳～39歳

■ 現在ひきこもり群 (29 人)
 □ 過去ひきこもり群 (11 人)



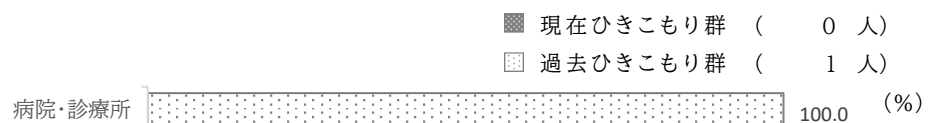
相談したことがある機関は、現在ひきこもり群では「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が55.2%で最も多く、ついで「札幌市ひきこもり地域支援センター」が51.7%であった。過去ひきこもり群では「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が72.7%で最も多かった。

40歳～59歳



相談したことのある機関は、現在ひきこもり群では、「札幌市ひきこもり地域支援センター」及び「病院・診療所」が42.9%で最も多く、過去ひきこもり群では、「病院・診療所」が44.4%で最も多かった。

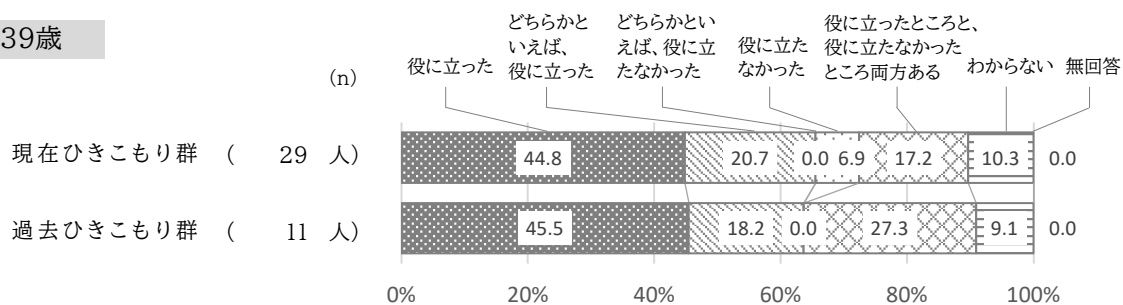
60歳～64歳



【Q16で、1に○をつけた方のみ回答】

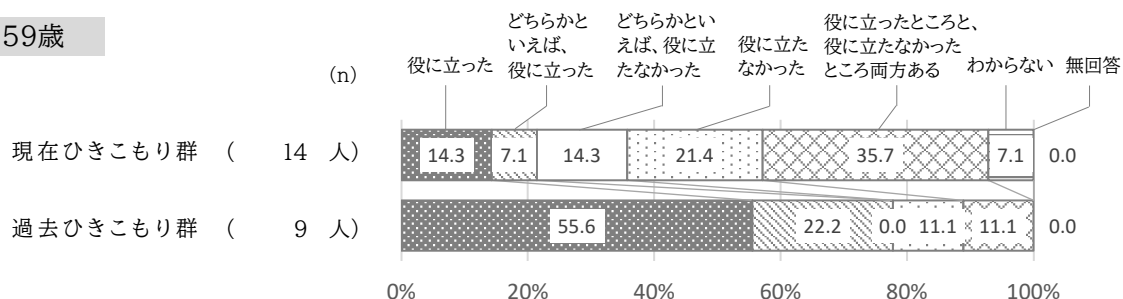
Q17-2 関係機関への相談は、あなた(その方)にとって役に立ちましたか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



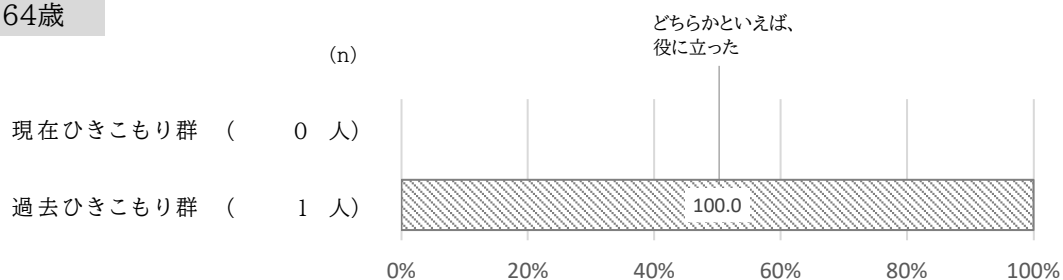
関係機関への相談については、現在ひきこもり群・過去ひきこもり群ともに、「役に立った」が最も多く、「どちらかといえば、役に立った」を含めると60%以上が「役に立った」と回答した。

40歳～59歳



関係機関への相談については、現在ひきこもり群では「役に立ったところと、役に立たなかったところ両方ある」が35.7%で最も多く、過去ひきこもり群では「役に立った」が55.6%で最も多かった。

60歳～64歳

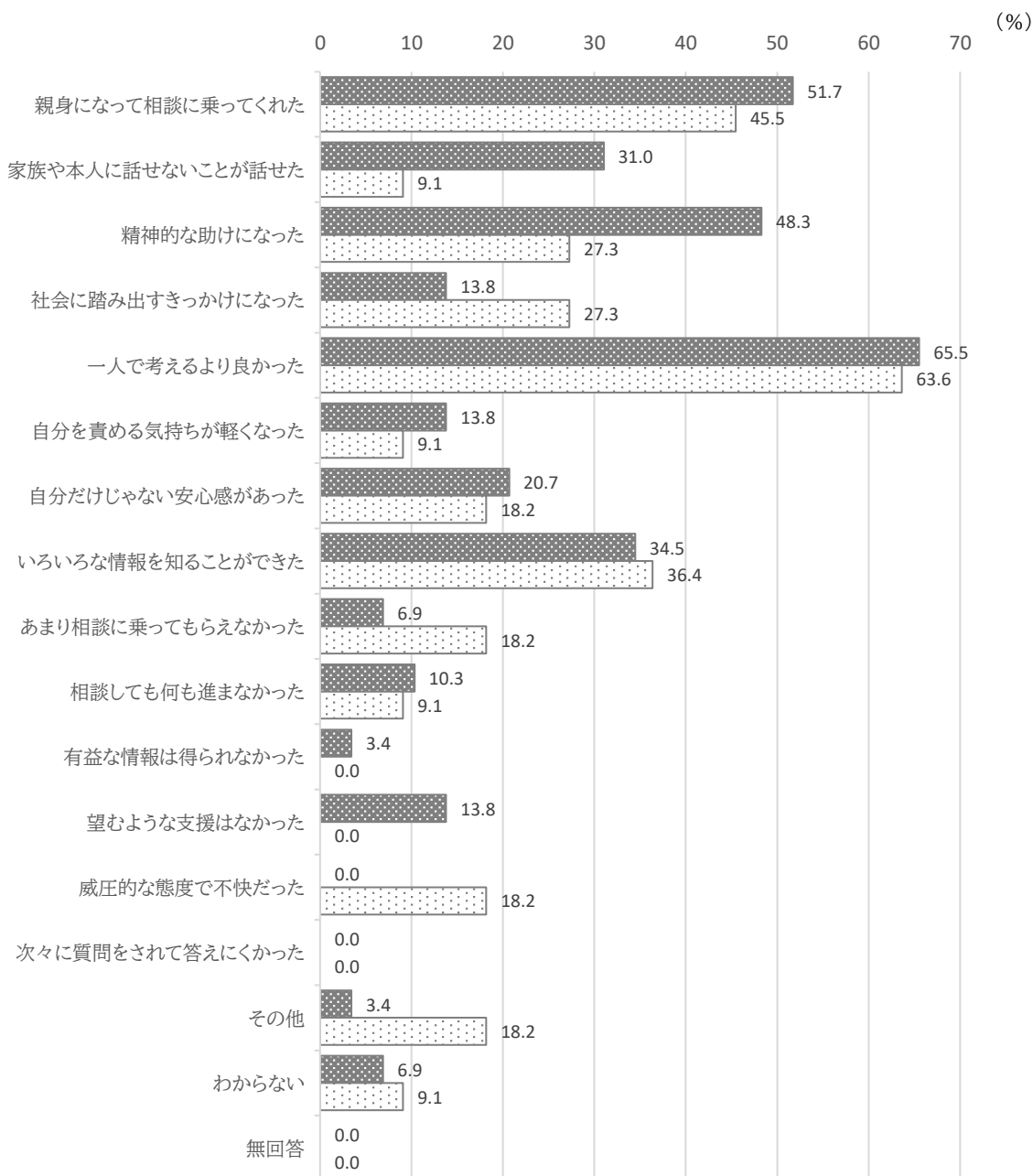


【Q16で、1に○をつけた方のみ回答】

Q17-3 関係機関に相談したとき、あなた(その方)はどのように感じましたか。(○はいくつでも)

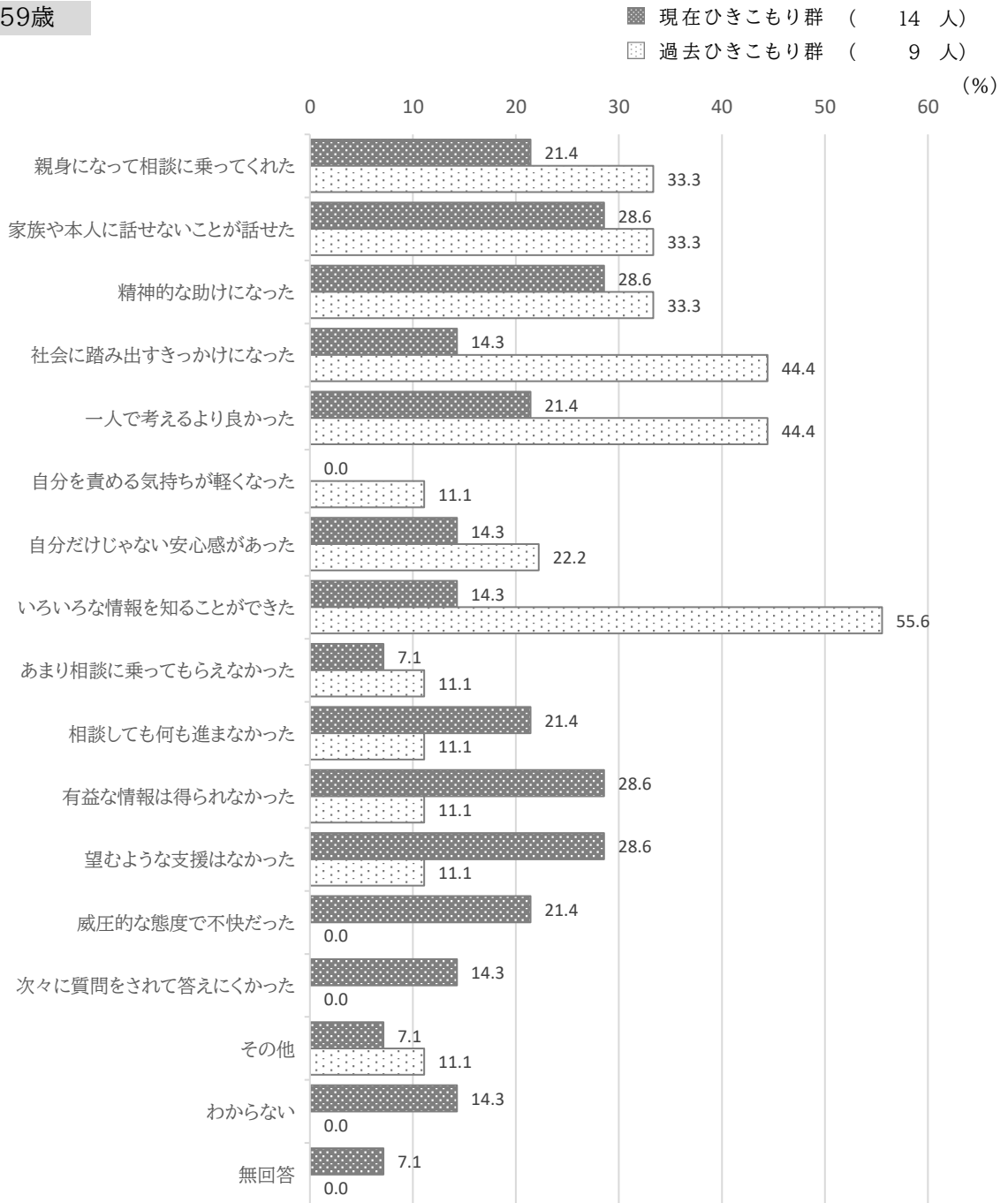
15歳～39歳

■ 現在ひきこもり群 (29 人)
 □ 過去ひきこもり群 (11 人)



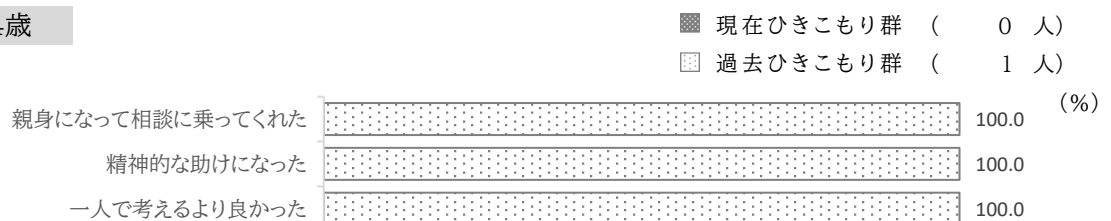
関係機関に相談したときの印象については、現在ひきこもり群・過去ひきこもり群ともに「一人で考えるより良かった」が65.5%・63.6%で最も多く、ついで「親身になって相談に乗ってくれた」が51.7%・45.5%が多かった。

40歳～59歳



関係機関に相談したときの印象については、過去ひきこもり群では、「いろいろな情報を知ることができた」が55.6%で最も多く、現在ひきこもり群では、「家族や本人に話せないことが話せた」、「精神的な助けになった」、「有益な情報は得られなかった」及び「望むような支援はなかった」が28.6%で回答が分かれた。

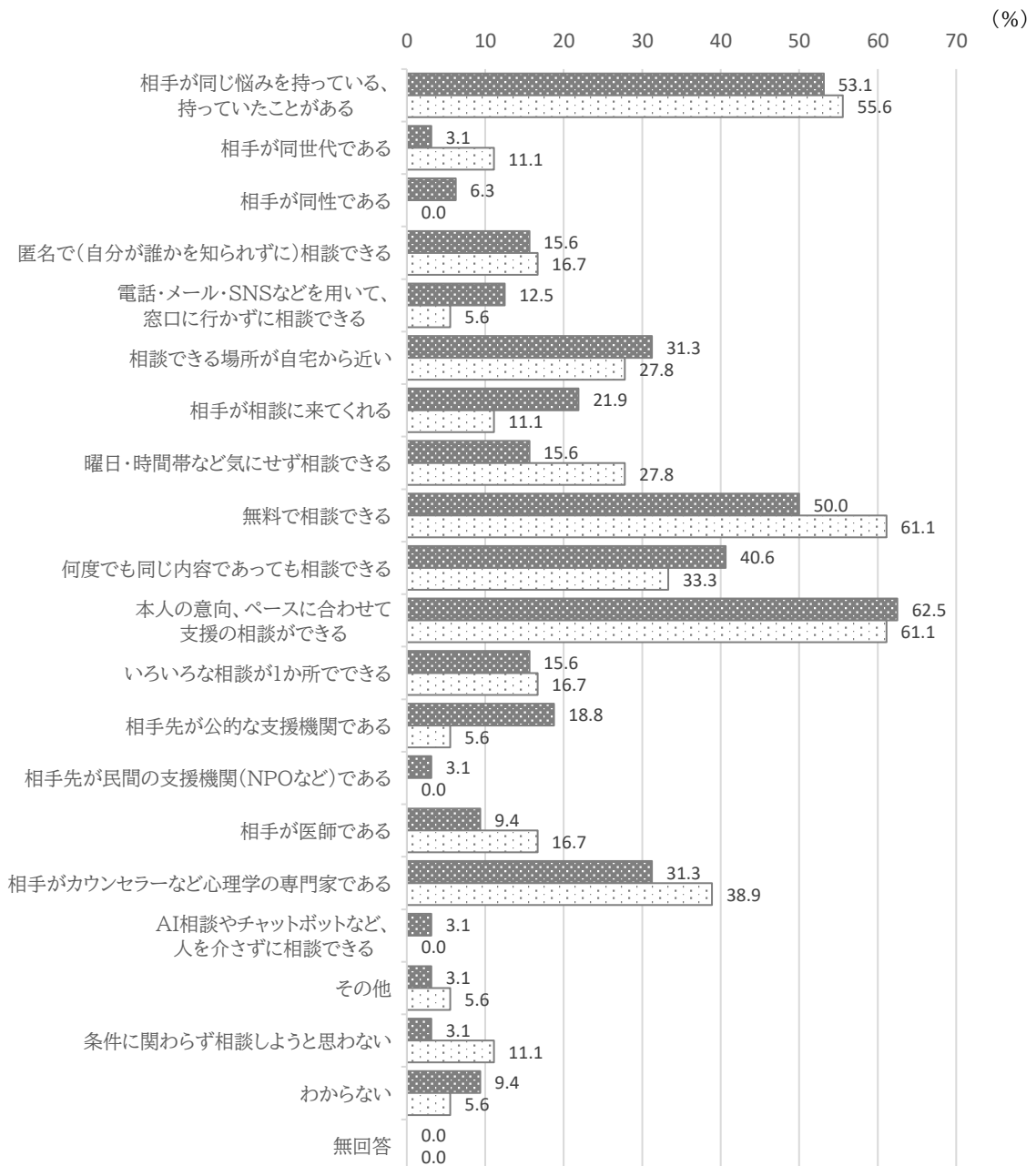
60歳～64歳



Q18 ひきこもりの状態になったとき、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと、あなたは思いますか。(〇はいくつでも)

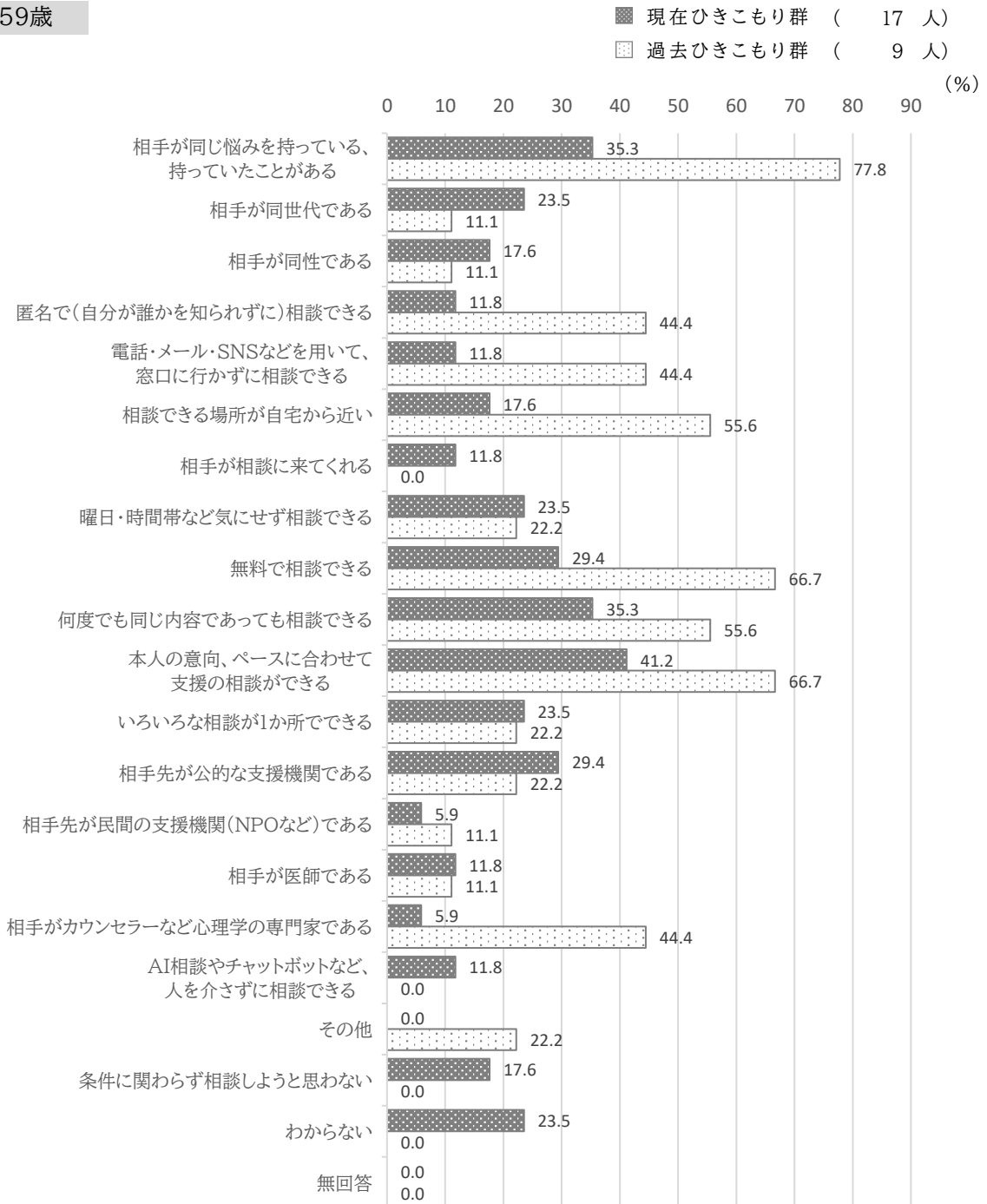
15歳～39歳

■ 現在ひきこもり群 (32 人)
 □ 過去ひきこもり群 (18 人)



ひきこもり状態になった時に相談する人や場所については、現在ひきこもり群では「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が62.5%で最も多く、ついで「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が53.1%であった。過去ひきこもり群では「無料で相談できる」及び「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が61.1%で最も多く、ついで「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が55.6%であった。

40歳～59歳



ひきこもり状態になった時に相談する人や場所については、現在ひきこもり群では「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が41.2%で最も多く、ついで「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」及び「何度でも同じ内容であっても相談できる」が35.3%であった。過去ひきこもり群では「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が77.8%で最も多く、ついで「無料で相談できる」及び「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が66.7%であった。

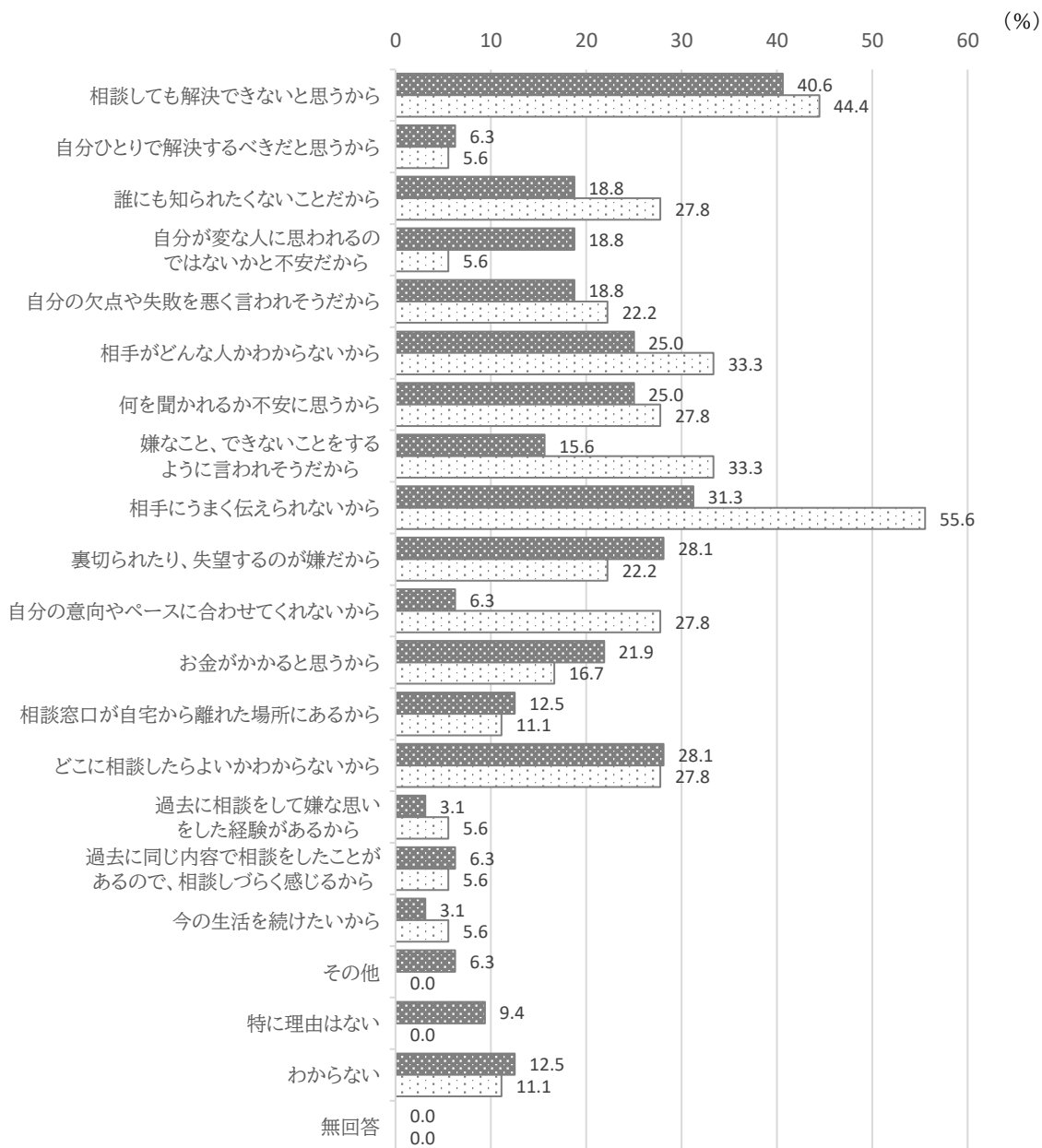
60歳～64歳



Q19 あなたが相談することができない、又は相談したくない気持ちになる場合、その理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

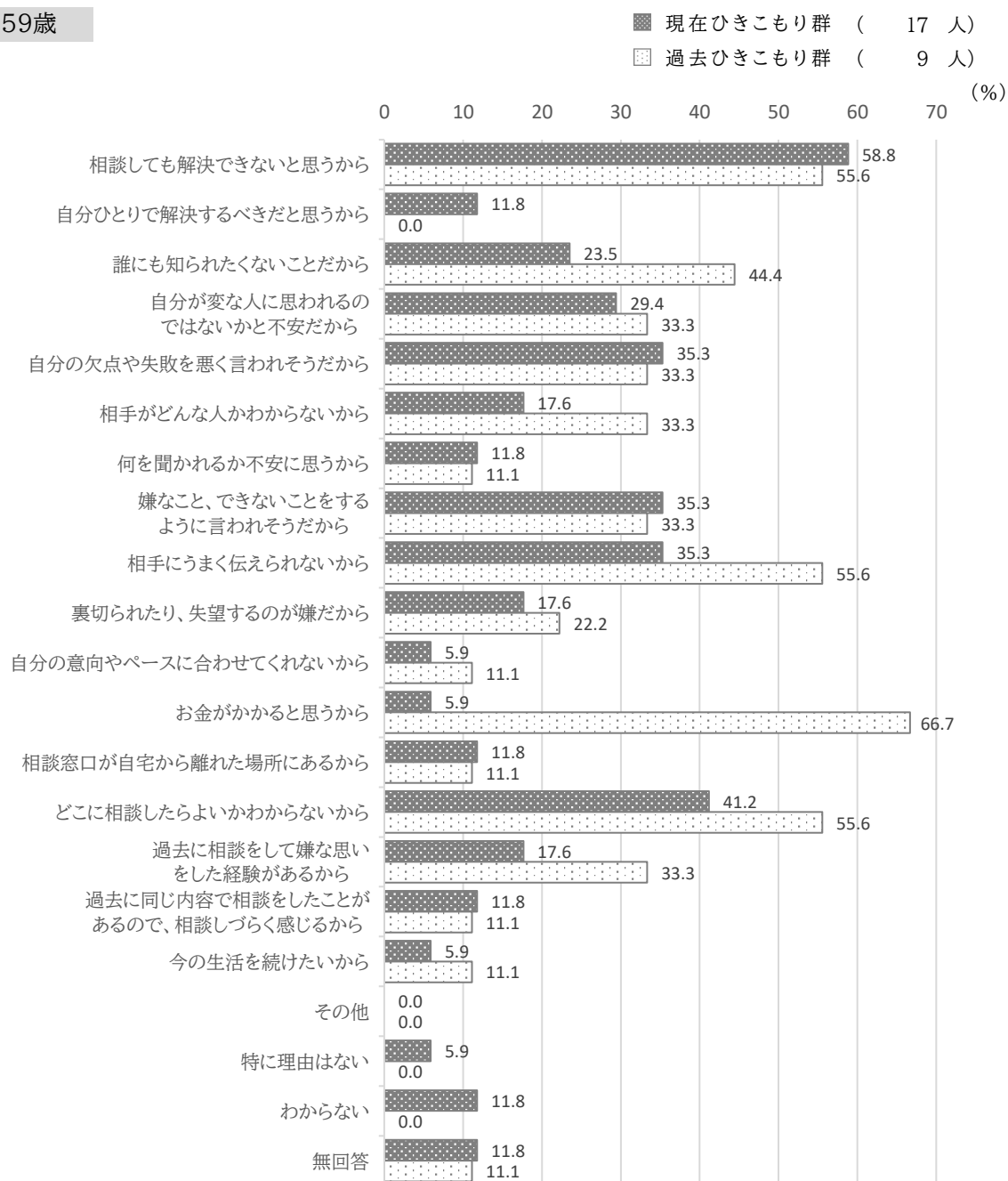
15歳～39歳

■ 現在ひきこもり群 (32 人)
□ 過去ひきこもり群 (18 人)



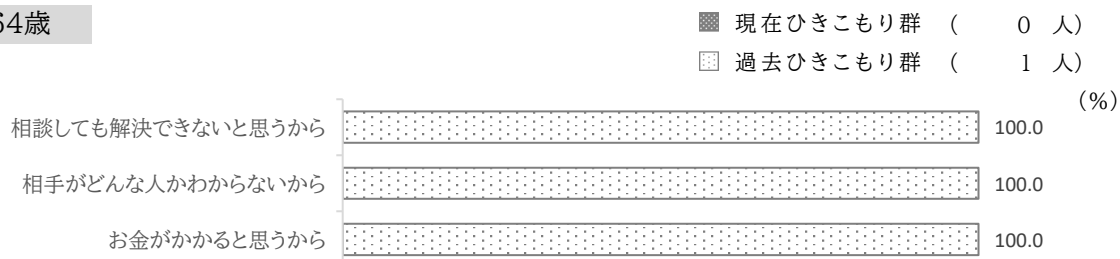
相談することができない、又は相談したくない気持ちになる理由については、現在ひきこもり群では「相談しても解決できないと思うから」が40.6%で最も多く、ついで「相手にうまく伝えられないから」が31.3%であった。過去ひきこもり群では「相手にうまく伝えられないから」が55.6%で最も多く、ついで「相談しても解決できないと思うから」が44.4%であった。

40歳～59歳



相談することができない、又は相談したくない気持ちになる理由については、現在ひきこもり群では「相談しても解決できないと思うから」が58.8%で最も多く、ついで「どこに相談したらよいかわからないから」が41.2%であった。過去ひきこもり群では「お金がかかると思うから」が66.7%で最も多く、ついで「相談しても解決できないと思うから」及び「相手にうまく伝えられないから」、「どこに相談したらよいかわからないから」が55.6%であった。

60歳～64歳

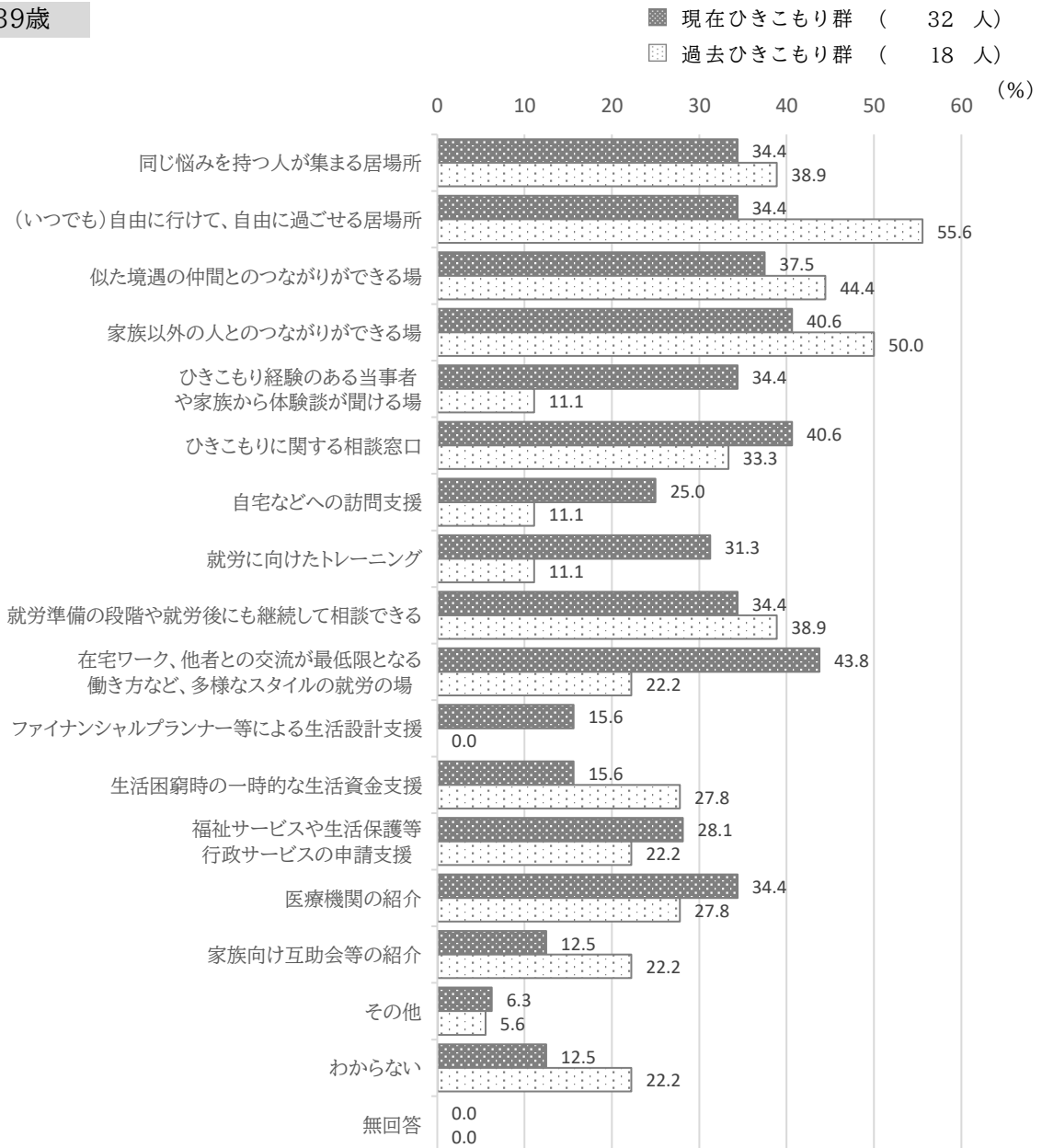


その他の内容

年代	内容
すべて	否定されたくない 親自身混乱しているところと最初に連絡したらいいのか分からないし、まだいいかとかためらいがあるので、背中を押してくれる人がいると心強い。

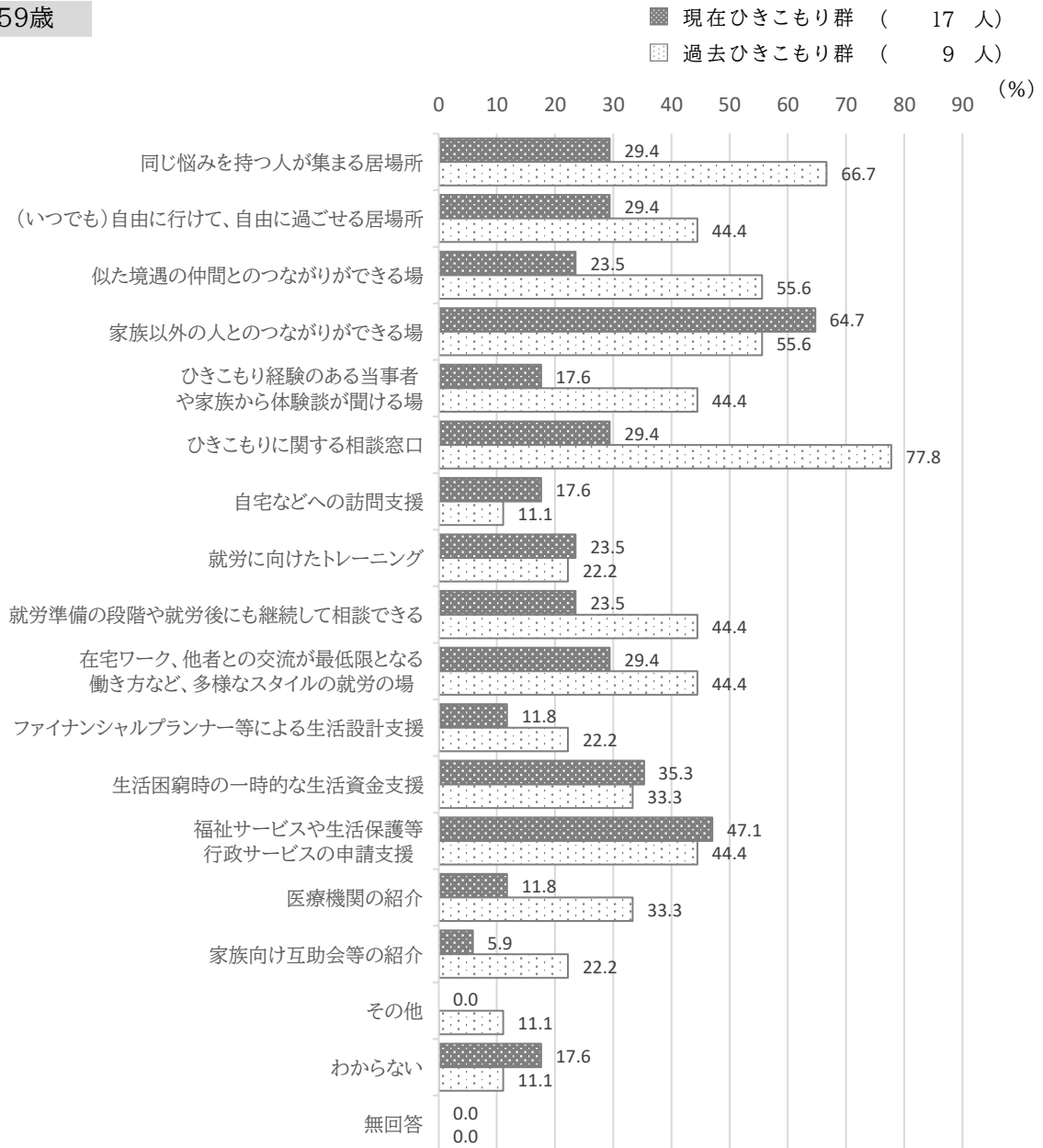
Q20 ひきこもりで悩む方々に対して、どのような支援等があると良いと、あなたは思いますか。
(〇はいくつでも)

15歳～39歳



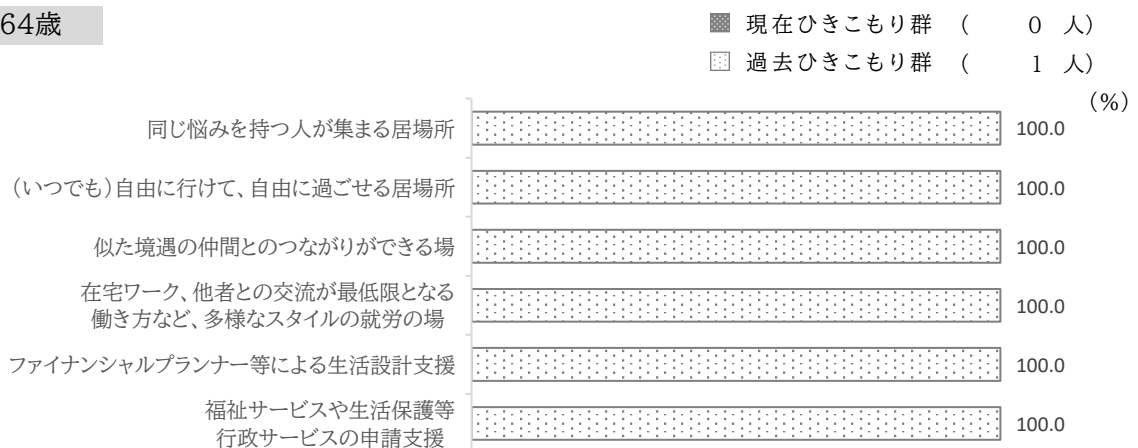
ひきこもりで悩む方々に対する支援については、現在ひきこもり群では「在宅ワーク、他者との交流が最低限となる働き方など、多様なスタイルの就労の場」が43.8%で最も多く、ついで「家族以外の人とのつながりができる場」及び「ひきこもりに関する相談窓口」が40.6%であった。過去ひきこもり群では「(いつでも)自由に行けて、自由に過ごせる居場所」が55.6%で最も多く、ついで「家族以外の人とのつながりができる場」が50.0%であった。

40歳～59歳



ひきこもりで悩む方々に対する支援については、現在ひきこもり群では「家族以外の人とのつながりができる場」が64.7%で最も多く、ついで「福祉サービスや生活保護等行政サービスの申請支援」が47.1%であった。過去ひきこもり群では「ひきこもりに関する相談窓口」が77.8%で最も多く、ついで「同じ悩みを持つ人が集まる居場所」が66.7%であった。

60歳～64歳



(3) 関係機関向けアンケート調査

1-(3) 調査報告書 関係機関向けアンケート調査

① 調査の概要

ア)調査目的

本調査は、ひきこもり当事者及び家族がいる世帯との関わる機会があると思われる各機関に対して、担当地域における対応状況等の調査を行うことによって、関係機関によるより効果的な相談・支援について、検討を行うため基礎資料の作成を目的として実施する。

イ)調査項目

- a. 基本属性について(Q1)
- b. 担当区域内的「ひきこもり状態にある方」への対応について(Q2～Q7)
- c. ひきこもり状態に係る相談・支援について(Q8～15)

ウ)調査対象

ひきこもり当事者や家族がいる世帯と関わる機会があると思われる関係機関

- ・札幌地域包括支援センター 28 箇所
- ・指定特定相談支援事業所 197 箇所
※委託相談支援事業所を含む
- ・札幌市区社会福祉協議会 11 箇所

エ)調査時期

令和 7 年 11 月 19 日～令和 8 年 1 月 23 日

オ)調査方法

電子メール配布・WEB 回答

カ)回収結果

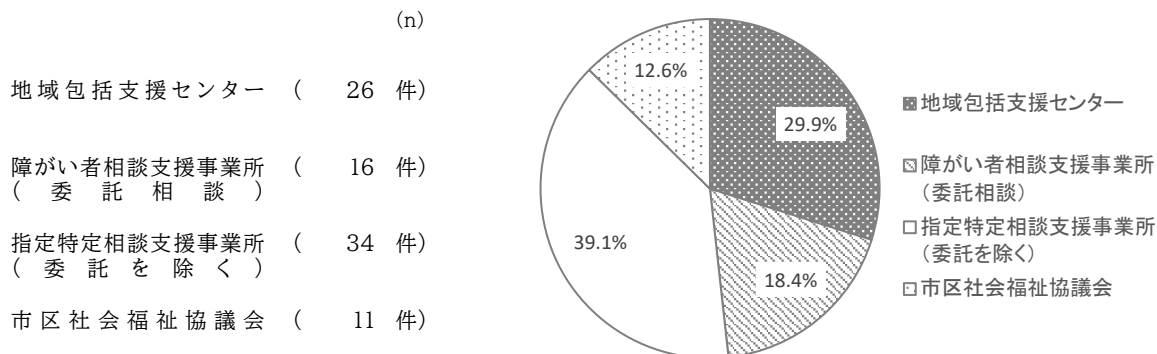
回収数(率) 87 箇所(36.9%)

② 調査の結果

※回答者全員がすべての質問に回答しているわけではないため、全体の数と内訳の合計が一致しない場合があります。

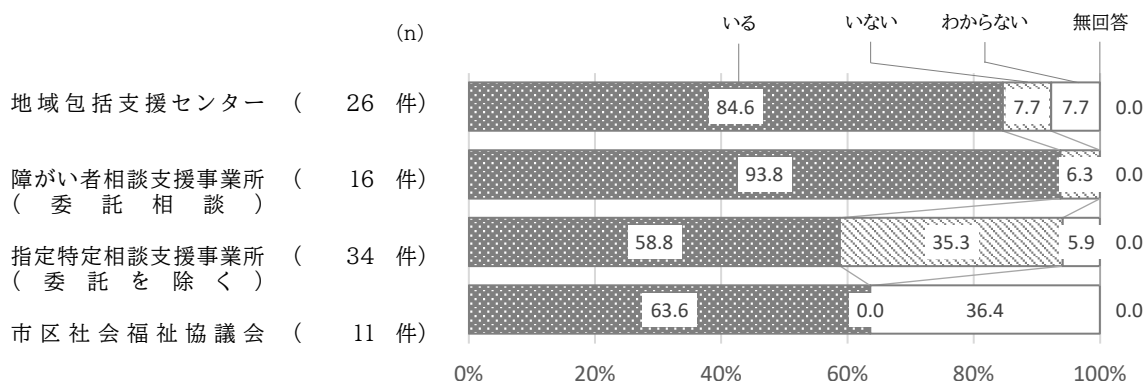
a. 基本属性について

Q1 貴機関について、該当するものを選択してください。(○はひとつだけ)



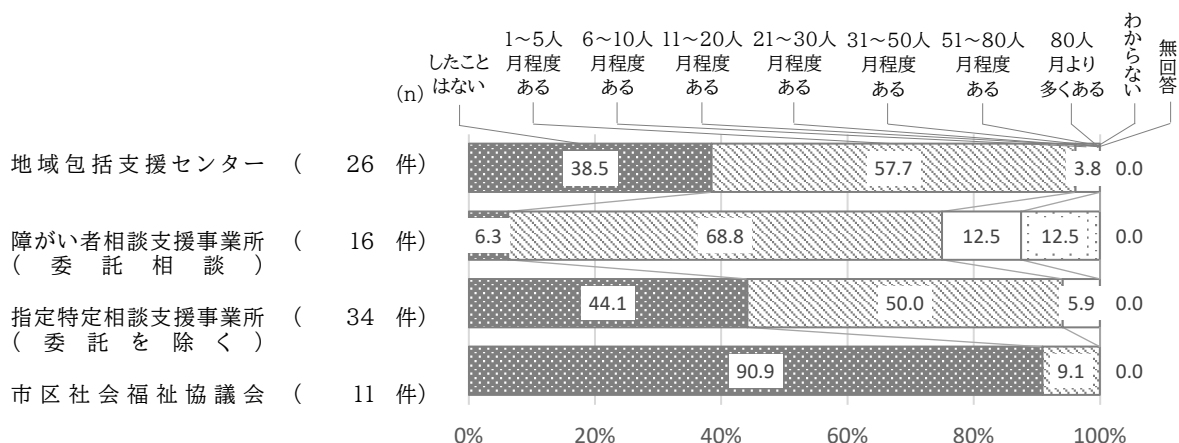
b. 担当区域内の「ひきこもり状態にある方」への対応について

Q2 現在、貴機関の担当する区域内に「ひきこもり状態にある方」がいますか。(○はひとつだけ)



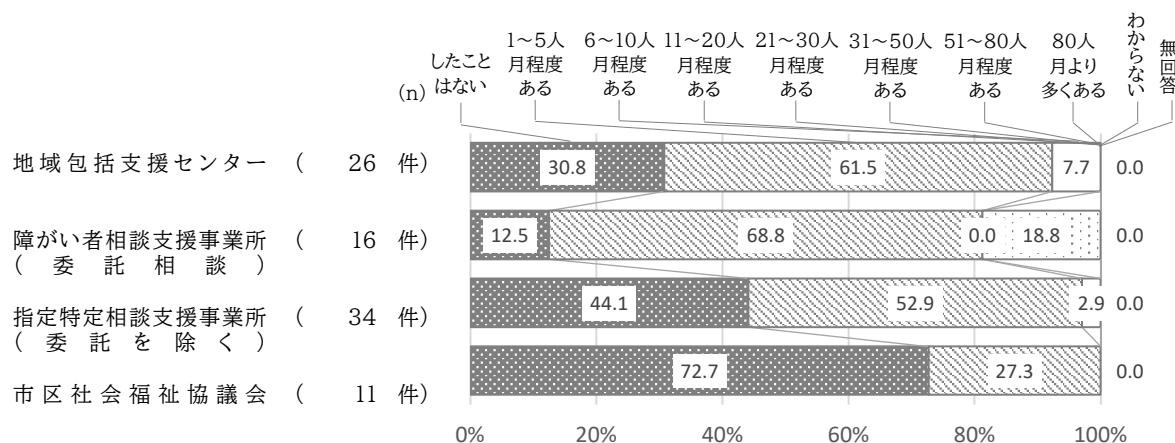
担当する区域内のひきこもり状態の方の存在については、全機関で「いる」が最も多く、地域包括支援センターで84.6%、障がい者相談支援事業所で93.8%、指定特定相談支援事業所で58.8%、市区社会福祉協議会で63.6%であった。

Q3 貴機関は、この6か月間に「ひきこもり状態にある方」当事者の相談を受けたり、支援を行ったりしたことがありますか。概算で構いませんのでお答えください(1か月平均)。(○はひとつだけ)



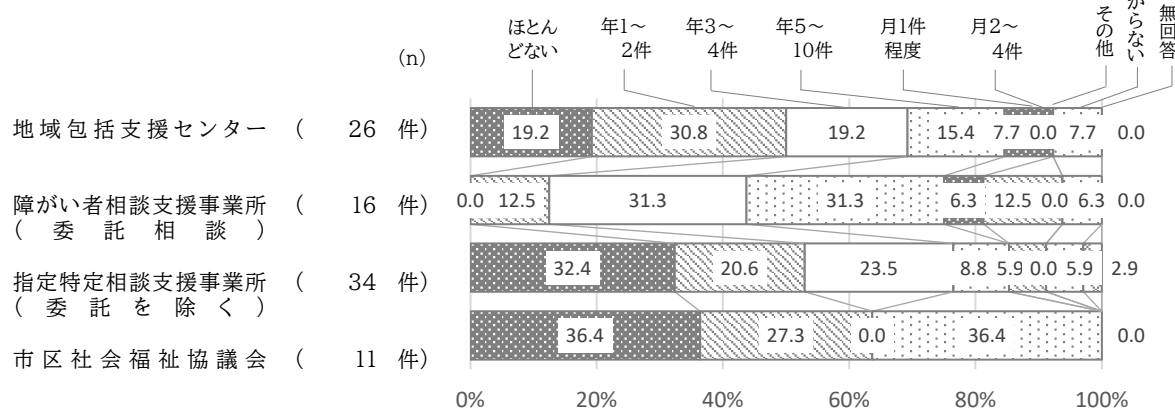
6か月間の当事者からの相談等については、「1~5人/月程度ある」が、地域包括支援センターで57.7%、障がい者相談支援事業所で68.8%、指定特定相談支援事業所で50.0%と多く、市区社会福祉協議会では「したことはない」が90.9%が多かった。

Q4 貴機関は、この6か月間に「ひきこもり状態にある方」のご家族の相談を受けたり、支援を行ったりしたことがありますか。概算で構いませんのでお答えください(1か月平均)。(〇はひとつだけ)



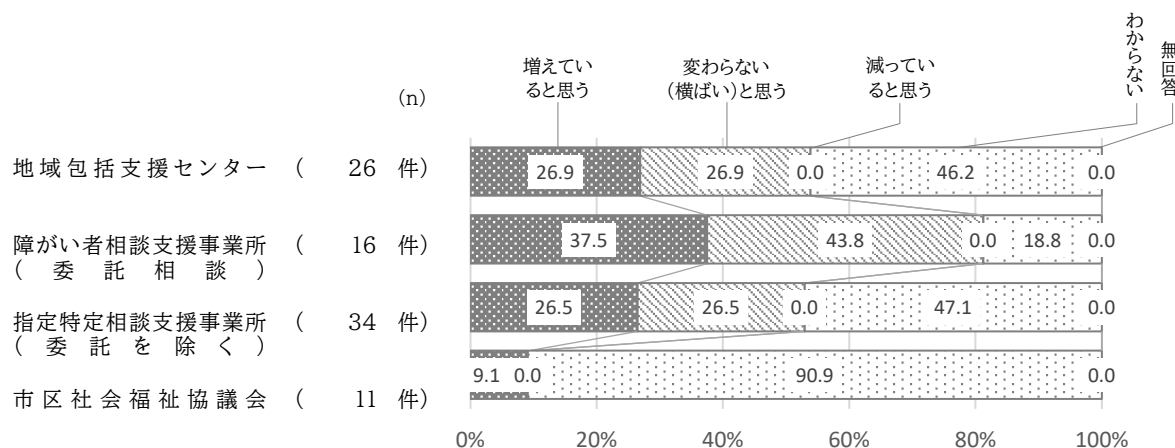
6か月間のご家族からの相談等については、「1～5人／月程度ある」が、地域包括支援センターで61.5%、障がい者相談支援事業所で68.8%、指定特定相談支援事業所で52.9%と多く、市区社会福祉協議会では「したことはない」が72.7%が多かった。

Q5 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることを新たに把握することは、どの程度ありますか。(〇はひとつだけ)



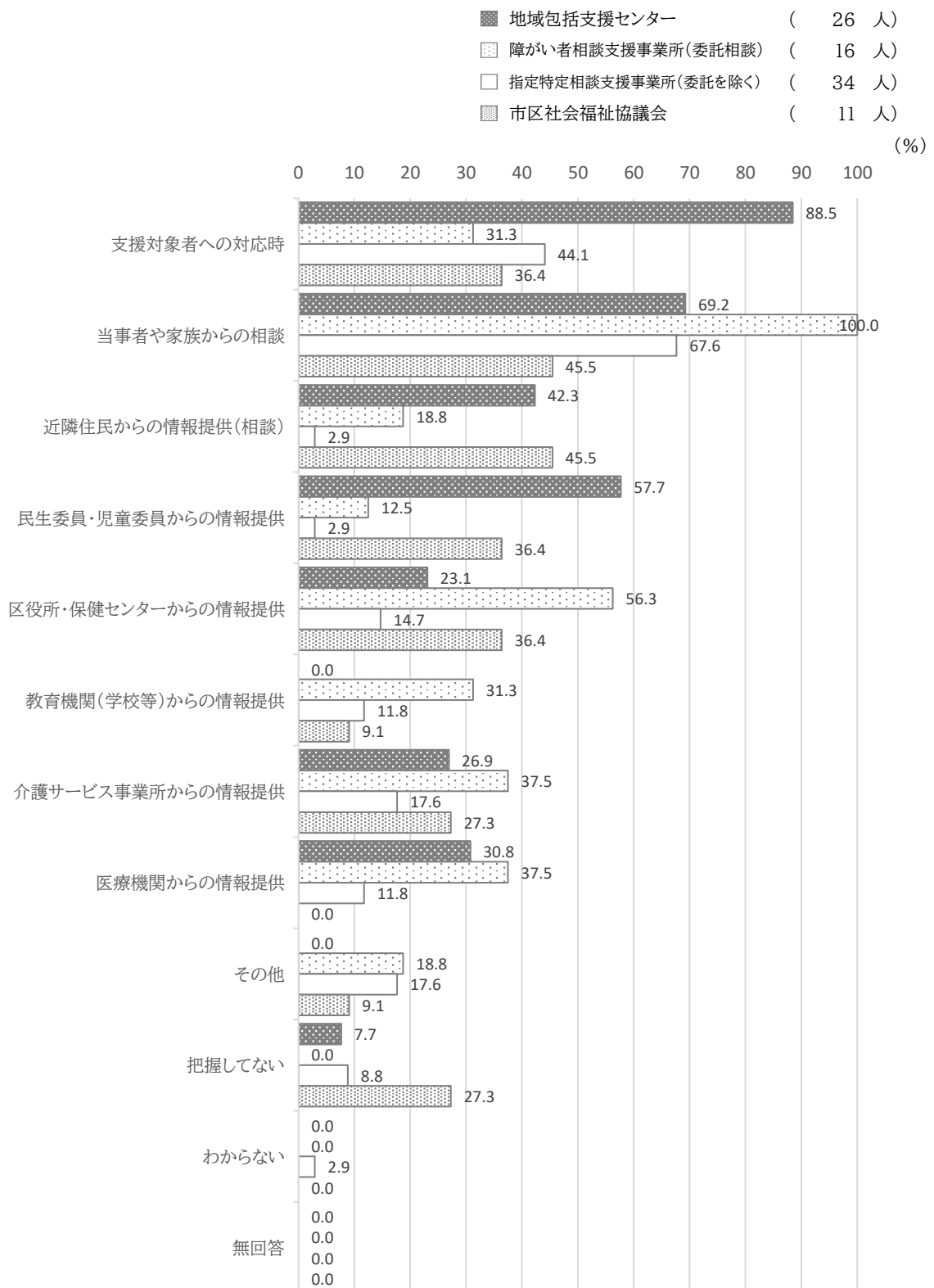
ひきこもり状態にある方を新たに把握する頻度は、地域包括支援センターで「年1～2件」が30.8%、障がい者相談支援事業所で「年3～4件」及び「年5～10件」が31.3%、指定特定相談支援事業所で「ほとんどない」が32.4%、市区社会福祉協議会では「ほとんどない」及び「年5～10件」が36.4%が多かった。

Q6 貴機関の令和5年度と令和6年度を比較して、ひきこもり状態にある方がいる世帯が増えていると思いますか。(〇はひとつだけ)



ひきこもり状態にある方がいる世帯については、「わからない」が地域包括支援センターで46.2%、指定特定相談支援事業所で47.1%、市区社会福祉協議会で90.9%と多く、障がい者相談支援事業所では「変わらない(横ばい)と思う」が43.8%が多かった。

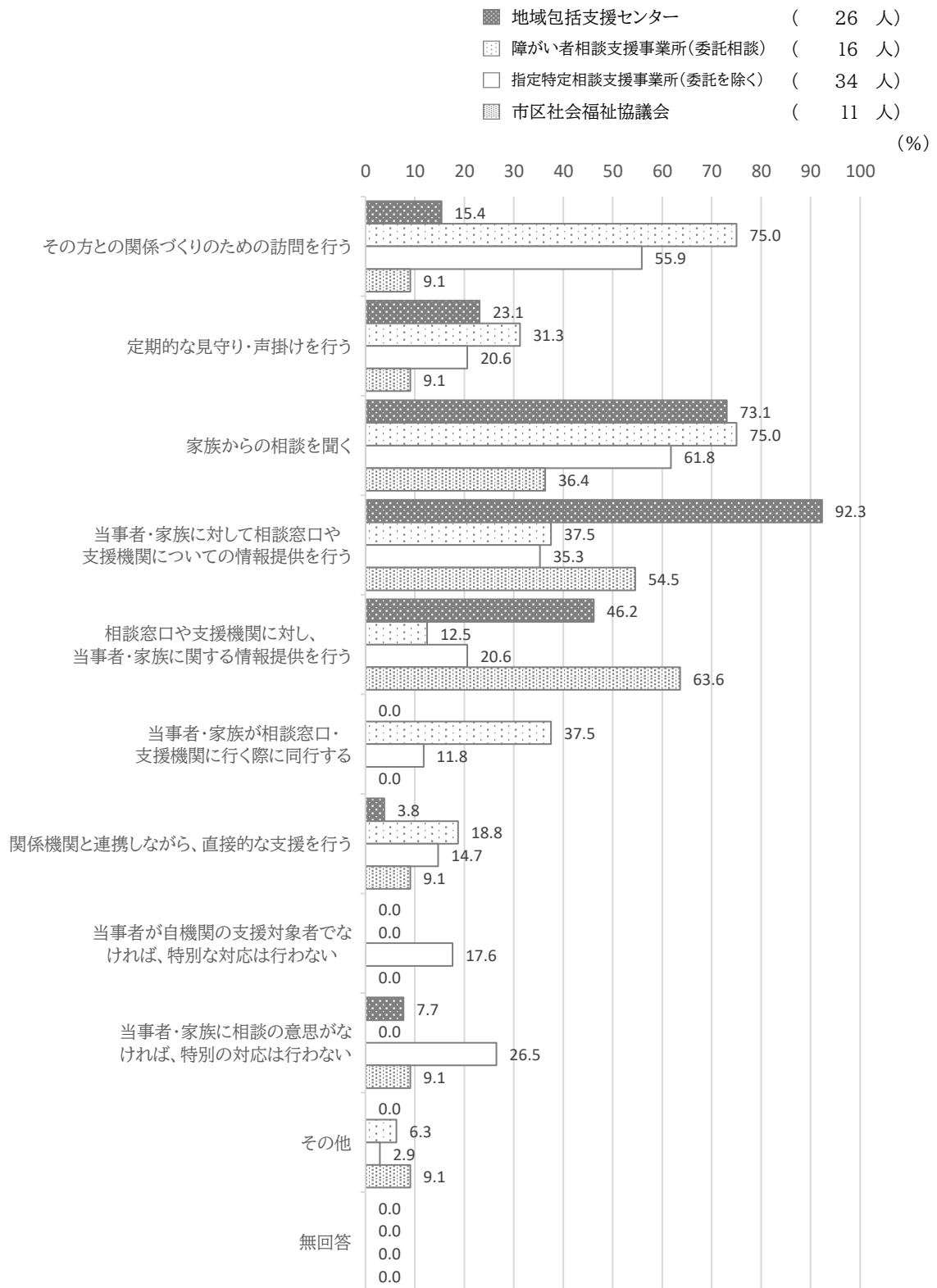
Q7 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることを、どのような方法で知りますか。該当するものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



ひきこもり状態にある方がいることを知る方法は、地域包括支援センターでは「支援対象者への対応時」が88.5%、障がい者相談支援事業所では「当事者や家族からの相談」が100%、指定特定相談支援事業所では「当事者や家族からの相談」が67.6%と多く、市区社会福祉協議会では「当事者や家族からの相談」及び「近隣住民からの情報提供(相談)」が45.5%で多かった。

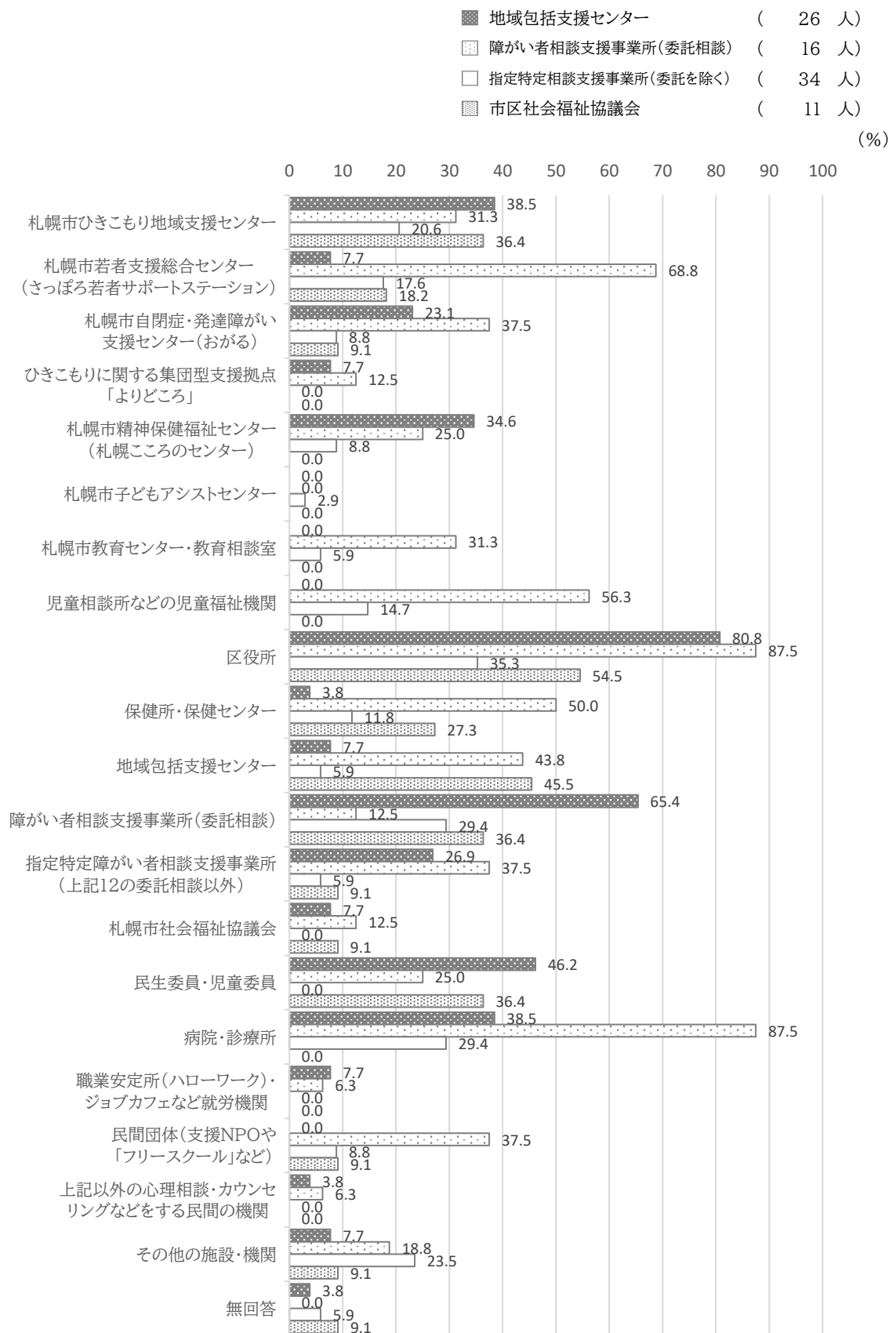
c. ひきこもり状態に係る相談・支援について

Q8 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることを知ったとき、どのような対応をすることが多いですか。多いと思うものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)



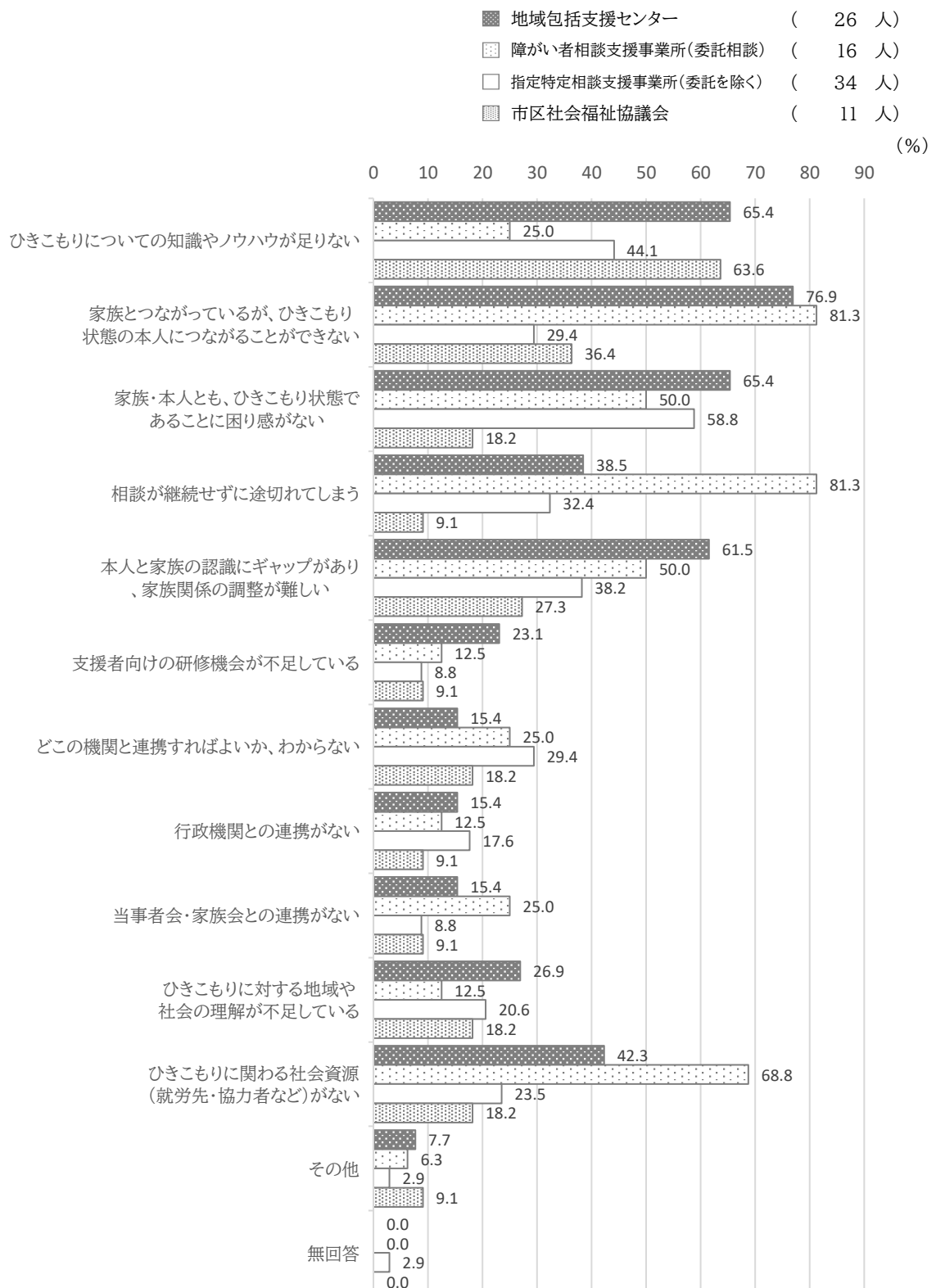
ひきこもり状態にある方がいることを知ったときの対応は、地域包括支援センターでは「当事者・家族に対して相談窓口や支援機関についての情報提供を行う」が92.3%、障がい者相談支援事業所では「その方との関係づくりのための訪問を行う」及び「家族からの相談を聞く」が75.0%、指定特定相談支援事業所では「家族からの相談を聞く」が61.8%と多く、市区社会福祉協議会では「相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う」が63.6%が多かった。

Q9 ひきこもりに係る相談・支援において、連携している(連携したことがある)関係機関をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)



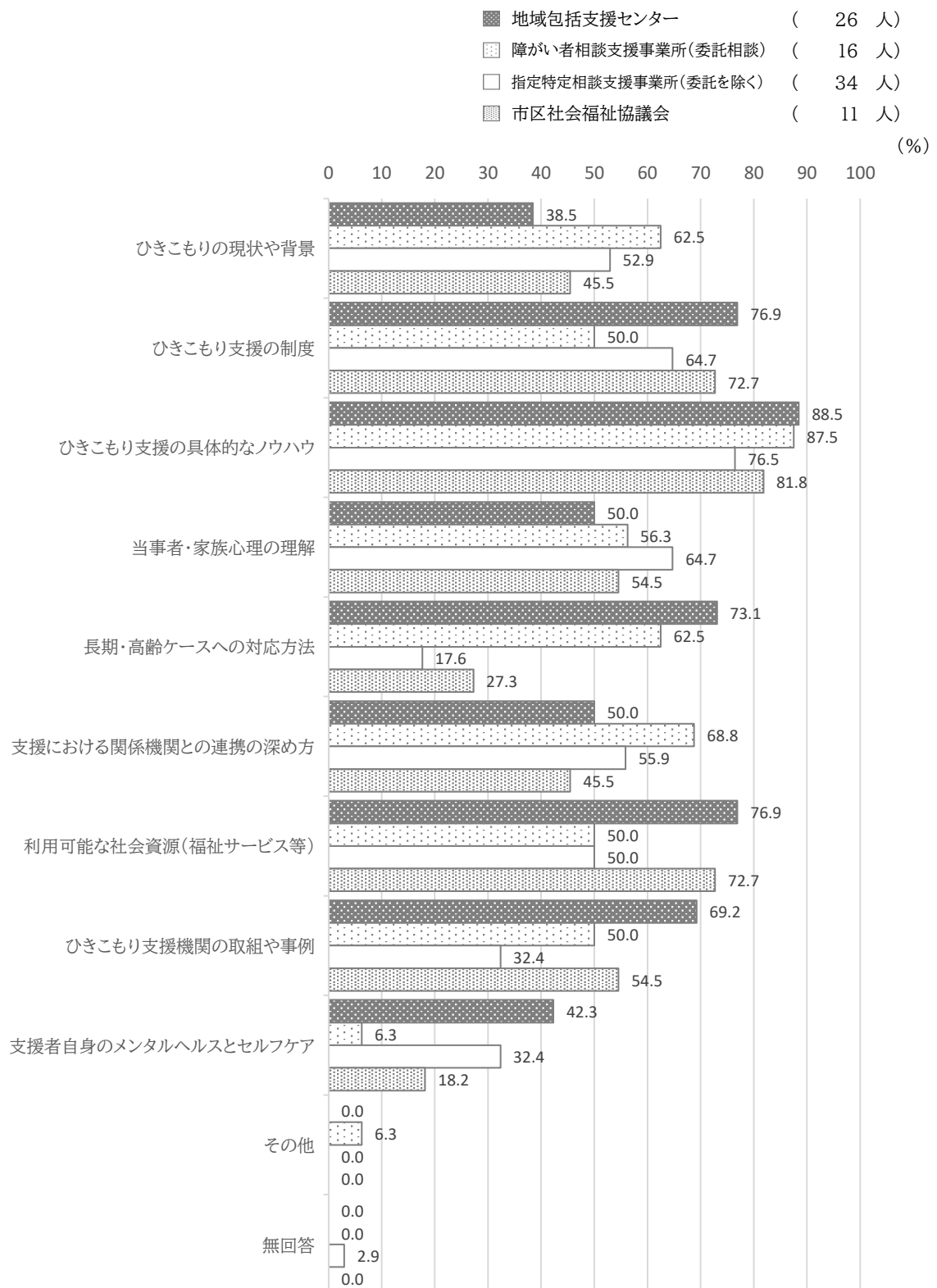
連携している関係機関は、全機関で「区役所」が最も多く、地域包括支援センターで80.8%、指定特定相談支援事業所で35.3%、市区社会福祉協議会で54.5%であった。障がい者相談支援事業所では「区役所」及び「病院・診療所」が87.5%であった。

Q10 貴機関がひきこもりに係る相談・支援を行う場合、特に課題と感じていることについて、お答えください。
(〇はいくつでも)



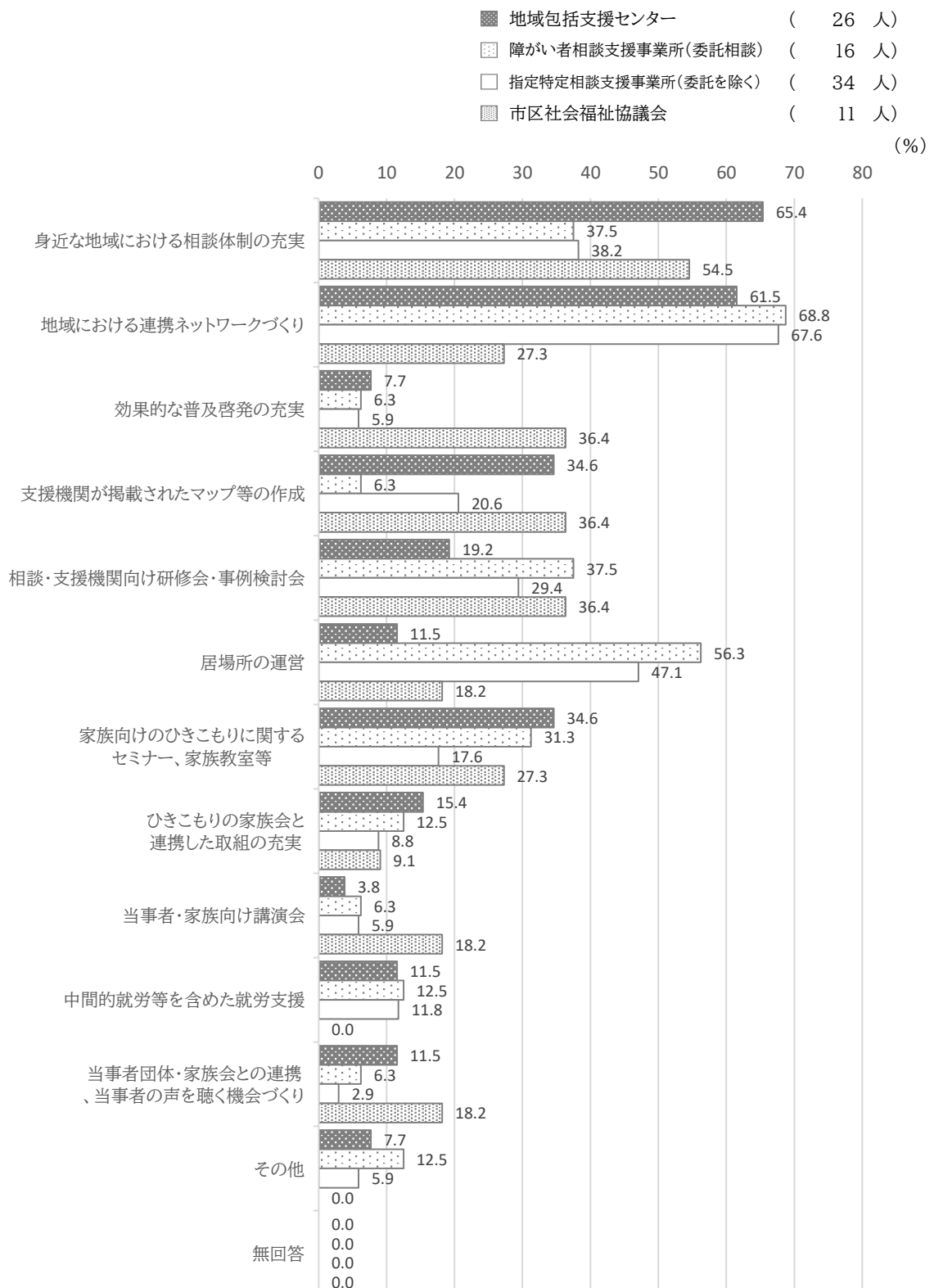
ひきこもりに係る相談・支援における課題については、地域包括支援センターでは「家族とつながっているが、ひきこもり状態の本人につなげることができない」が76.9%、指定特定相談支援事業所では「家族・本人とも、ひきこもり状態であることに困り感がない」が58.8%、市区社会福祉協議会では「ひきこもりについての知識やノウハウが足りない」が63.6%と多く、障がい者相談支援事業所では「家族とつながっているが、ひきこもり状態の本人につなげることができない」及び「相談が継続せずに途切れてしまう」が81.3%で多かった。

Q11 貴機関がひきこもりに係る相談・支援に対応するうえで、職員・スタッフが特に理解を深めたほうが良いと思うことを教えてください。(〇はいくつでも)



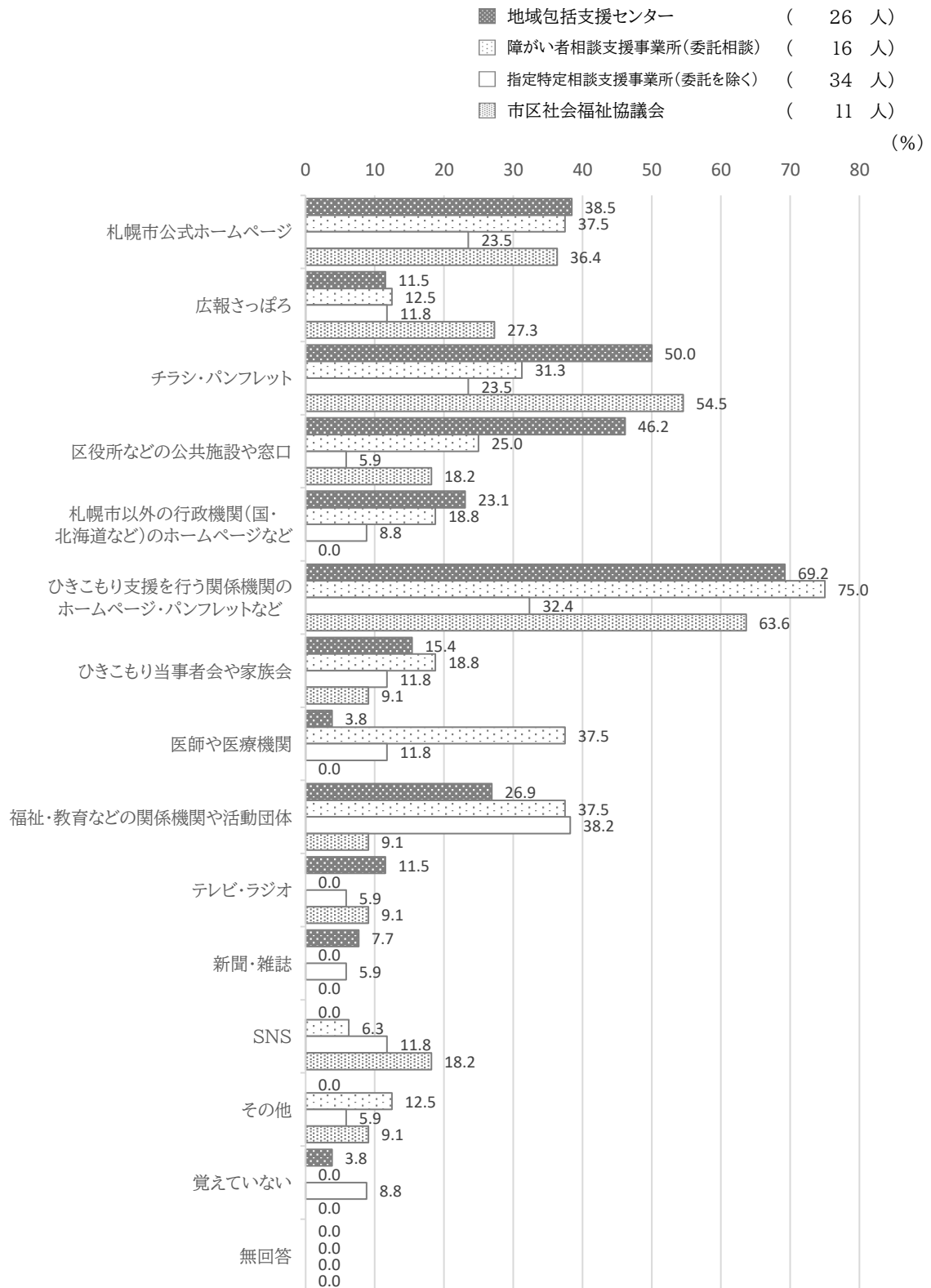
ひきこもりに係る相談・支援の対応時に職員・スタッフが理解を深めたほうが良いと思うことは、全機関で「ひきこもり支援の具体的なノウハウ」が最も多く、地域包括支援センターで88.5%、障がい者相談支援事業所で87.5%、指定特定相談支援事業所で76.5%、市区社会福祉協議会で81.8%であった。

Q12 ひきこもりに係る相談・支援に対応する際に、どのような取組があると良いと思いますか。3つまで○をつけてください。(○は3つまで)



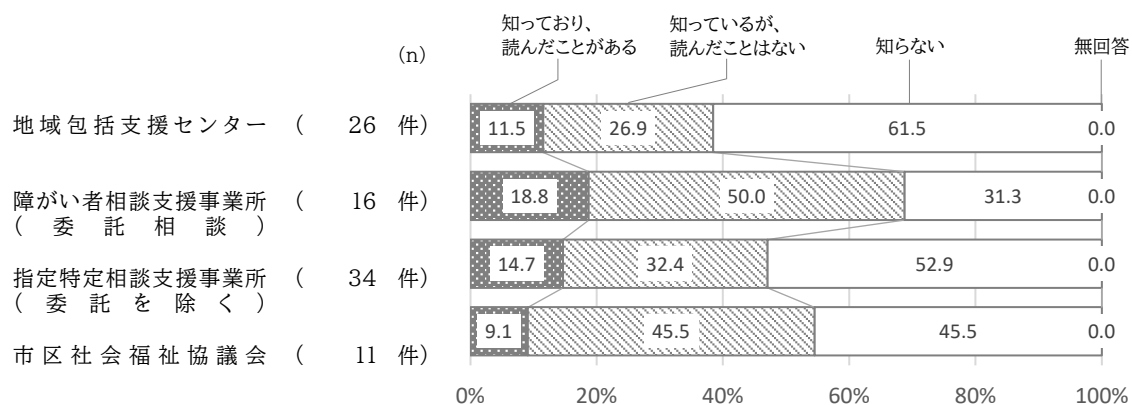
ひきこもりに係る相談・支援の対応時にあると良い取組は、「身近な地域における相談体制の充実」が、地域包括支援センターで65.4%、市区社会福祉協議会で54.5%と多く、「地域における連携ネットワークづくり」は、障がい者相談支援事業所で68.8%、指定特定相談支援事業所で67.6%と多かった。

Q13 あなたは、ひきこもりに係る相談・支援を行う関係機関や、ひきこもり支援に関する情報を何で知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



ひきこもりに係る関係機関や支援に関する情報を得る方法は、「ひきこもり支援を行う関係機関のホームページ・パンフレットなど」が、地域包括支援センターで69.2%、障がい者相談支援事業所で75.0%、市区社会福祉協議会で63.6%と多く、指定特定相談支援事業所では「福祉・教育などの関係機関や活動団体」が38.2%で多かった。

Q14 ひきこもり支援担当者だけではなく、ひきこもり状態にある人や家族に関わる全ての人に共通認識を持ていただきたい内容や、対象者に寄り添った支援を実現するためのポイントなどを記載した、「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤」が、令和7年1月に厚生労働省から発行されたことをご存じですか。(〇はひとつだけ)



「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤」については、地域包括支援センターでは「知らない」が61.5%、障がい者相談支援事業所では「知っているが、読んだことはない」が50.0%、指定特定相談支援事業所では「知らない」が52.9%、市区社会福祉協議会では「知っているが、読んだことはない」及び「知らない」が45.5%が多かった。

(4) 8050 問題に関するアンケート調査

1-(4) 調査報告書 8050 問題に関するアンケート調査

① 調査の概要

ア)調査目的

前回調査から7年が経過しており、いわゆる「8050問題」と言われる、高齢者の親と高齢化した子どものひきこもり支援の必要性について介護保険分野及び高齢福祉分野から発信と問題提起が行われるようになるなど、ひきこもり支援は多様性を帯びようになってきた。

本調査は、ひきこもりの長期化・高齢化等の社会情勢の変化を踏まえ、「8050問題」が生じている可能性がある世帯及び将来的に生じるリスクが比較的高いと思われる世帯への適切な相談・支援について、検討を行うための基礎資料の作成を目的として実施する。

イ)調査項目

- a. 基本属性について(Q1～Q6)
- b. 日常生活に関すること(Q7～Q9)
- c. 同居している家族のひきこもり状態に関すること(Q10～18)
- d. ひきこもり状態にある人の相談に関すること(Q19～20)
- e. 生活の困りごとなどについての相談・支援に関すること(Q21～24)
- f. 8050問題で悩む方々への支援等について(Q25～26)

ウ)調査対象

- a. 母集団 札幌市在住の、同一世帯内に満30歳から59歳までの子がいる、満60歳から89歳までの者
- b. 標本数 1,000人
- c. 抽出方法 無作為抽出法

エ)調査時期

令和7年11月17日～12月19日

オ)調査方法

郵送配布・郵送回収又はWEB回答

カ)回収結果

回収数(率) 503人(50.3%)
【郵送414人(41.4%)、Web回答89人(8.9%)】

② ひきこもり類型《いる(子:8050)群、いる(子以外)群、いない群》の定義

「8050問題」が生じている可能性がある世帯及び将来的に生じるリスクが比較的高いと思われる世帯についての調査を行うため、以下の者を調査対象としている。

・札幌市在住の、同一世帯内に満 30 歳から 59 歳までの子がいる、満 60 歳から 89 歳までの者 ※子がいる者(親)を対象に調査を実施

本調査では、調査対象者自身の意識に基づいた「世帯内のひきこもりの状態の方の有無」についての質問への回答により、以下の3つに分類する。

ア)いる(子:8050)群

調査対象者本人及び同居している家族の中にひきこもり状態の方がいる者を「世帯内にひきこもり状態の方がいる群」とし、かつ、ひきこもり状態の方が調査対象者の子である者の場合、「8050問題」が生じている可能性がある、または将来的に生じるリスクが比較的高い者として、「世帯内にひきこもり状態の子がいる群(8050)」と分類する。※以下、この分類の略称を「いる(子:8050)群」とする。

具体的な定義については、以下のとおり。

「Q10 現在、「あなた」及び「あなたが同居しているご家族」の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない状態の方はいますか。」について、「いる」を選択した者

かつ

「Q11 あなたから見て、あなたとその方の続柄を教えてください。」について、「ご自身のお子さん」を選択した者

イ)いる(子以外)群

前記、「世帯内にひきこもり状態の方がいる群」であるが、ひきこもり状態の方が調査対象者の子以外である者については、「世帯内にひきこもり状態の方がいる群(子以外)」と分類する。※以下、この分類の略称を「いる(子以外)群」とする。

具体的な定義については、以下のとおり。

「Q10 現在、「あなた」及び「あなたが同居しているご家族」の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない状態の方はいますか。」について、「いる」を選択した者

かつ

「Q11 あなたから見て、あなたとその方の続柄を教えてください。」について、「ご自身のお子さん」以外を選択した者

ウ)いない群

調査対象者本人及び同居している家族の中にひきこもり状態の方がいない者を「世帯内にひきこもり状態の方がいない群」と分類する。※以下、この分類の略称を「いない群」とする。

具体的な定義については、以下のとおり。

「Q10 現在、「あなた」及び「あなたが同居しているご家族」の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない状態の方はいますか。」について、「いない」を選択した者

なお、「無作為抽出アンケート調査」のような除外要件に関する質問項目を設けることが困難であることから、「広義のひきこもり群」に関する分類は行わない。

また、「札幌市在住の、同一世帯内に満 30 歳から 59 歳までの子がいる、満 60 歳から 89 歳までの者」の母数が明確でないため、出現率の推計も行わない。

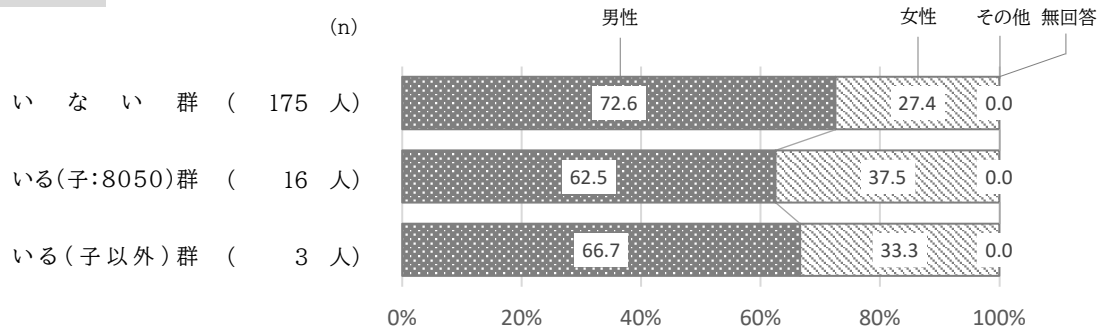
③ 調査の結果

※回答者全員がすべての質問に回答しているわけではないため、全体の数と内訳の合計が一致しない場合があります。

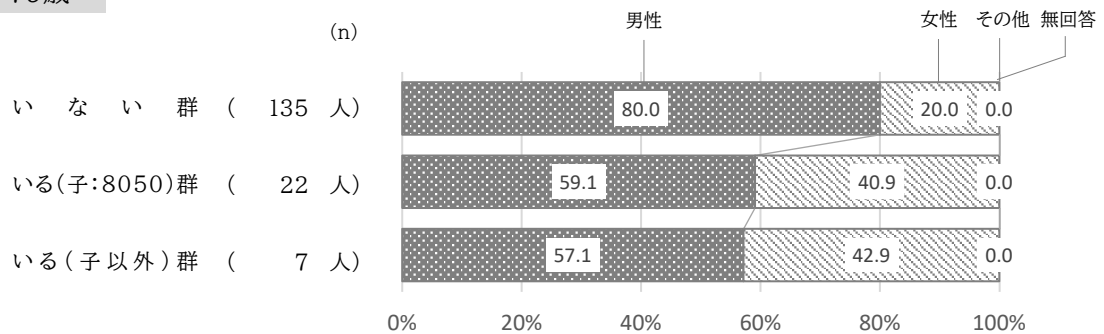
a. 基本属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

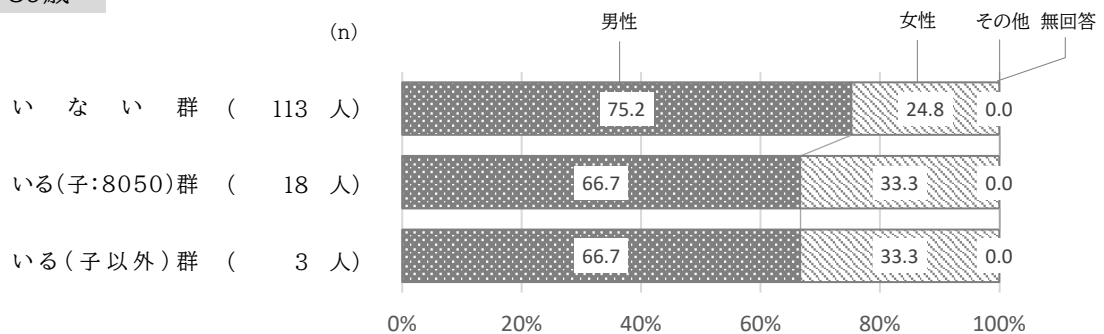
60歳～69歳



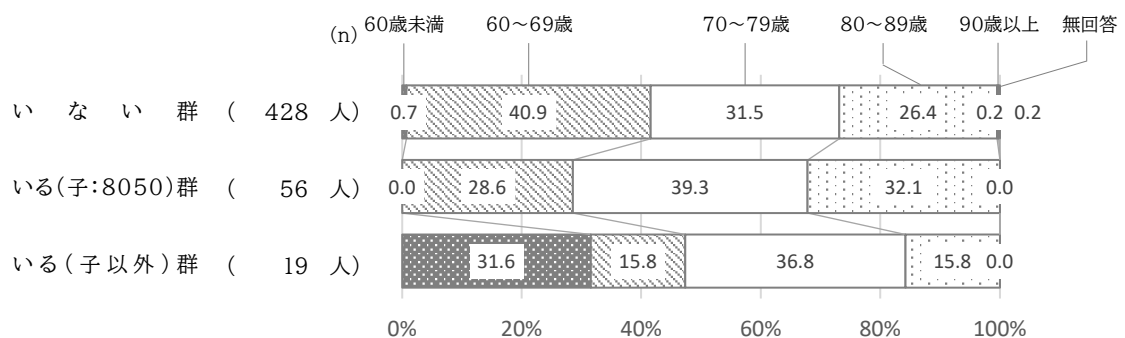
70歳～79歳



80歳～89歳

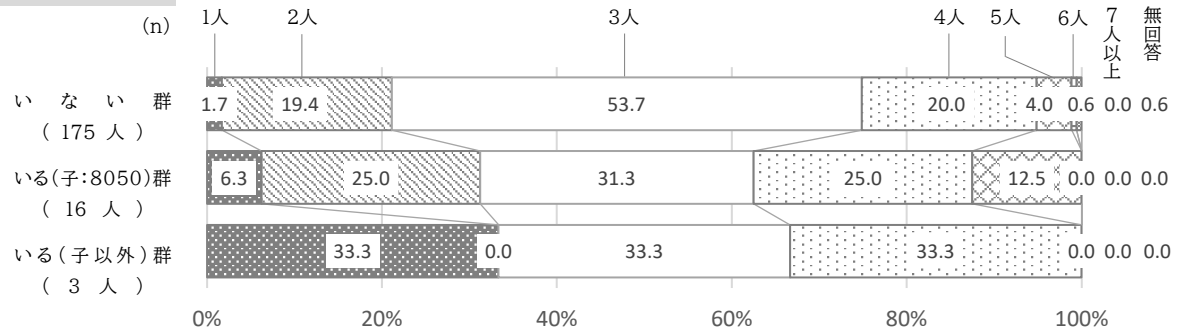


Q2 あなたの年齢(令和7年9月24日現在)を教えてください。(数字で具体的に)



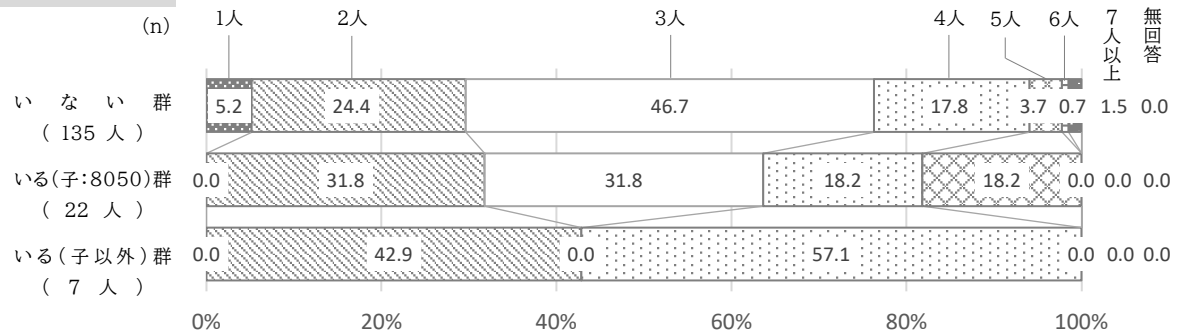
Q3 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

60歳～69歳



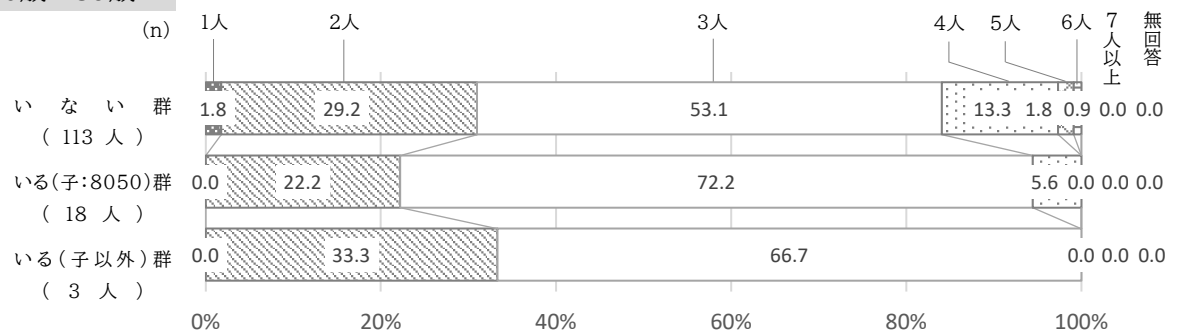
同居人数は、全群で「3人」が最も多く、いない群では53.7%、いる(子:8050)群では31.3%、いる(子以外)群では33.3%であった。

70歳～79歳



同居人数は、最も多いのが、いない群では「3人」で46.7%、いる(子:8050)群では「2人」及び「3人」で31.8%、いる(子以外)群では「4人」で57.1%であった。

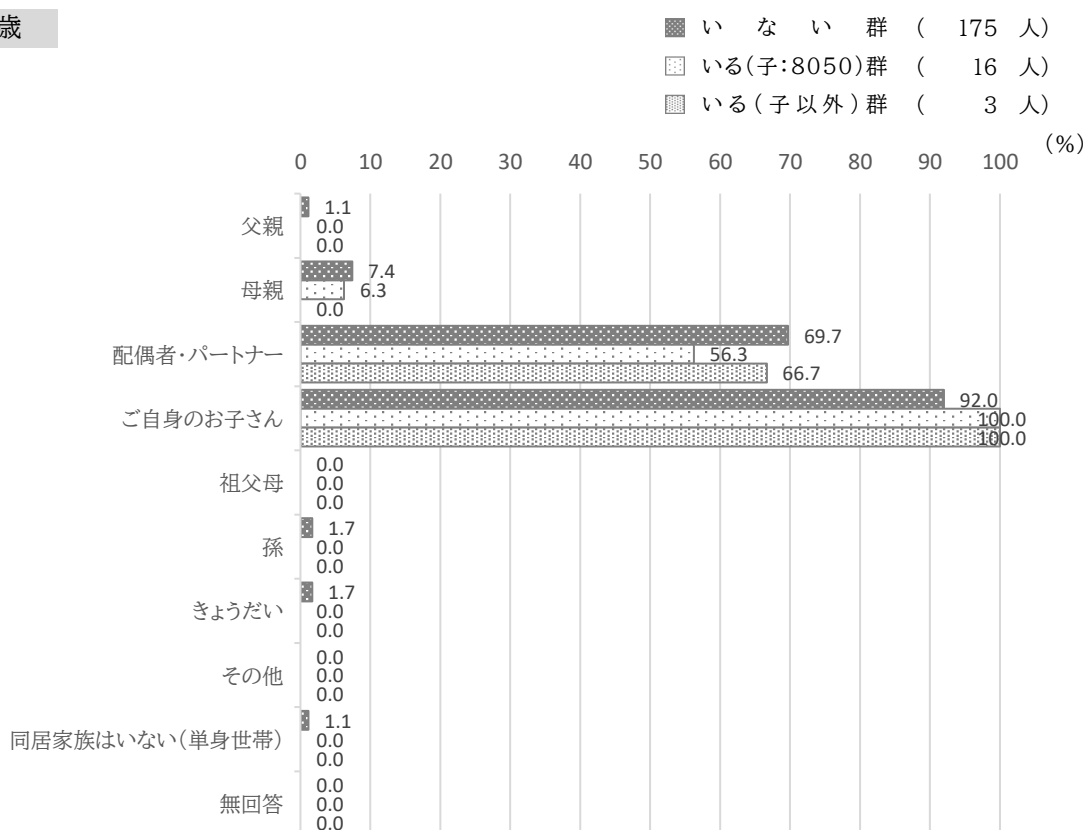
80歳～89歳



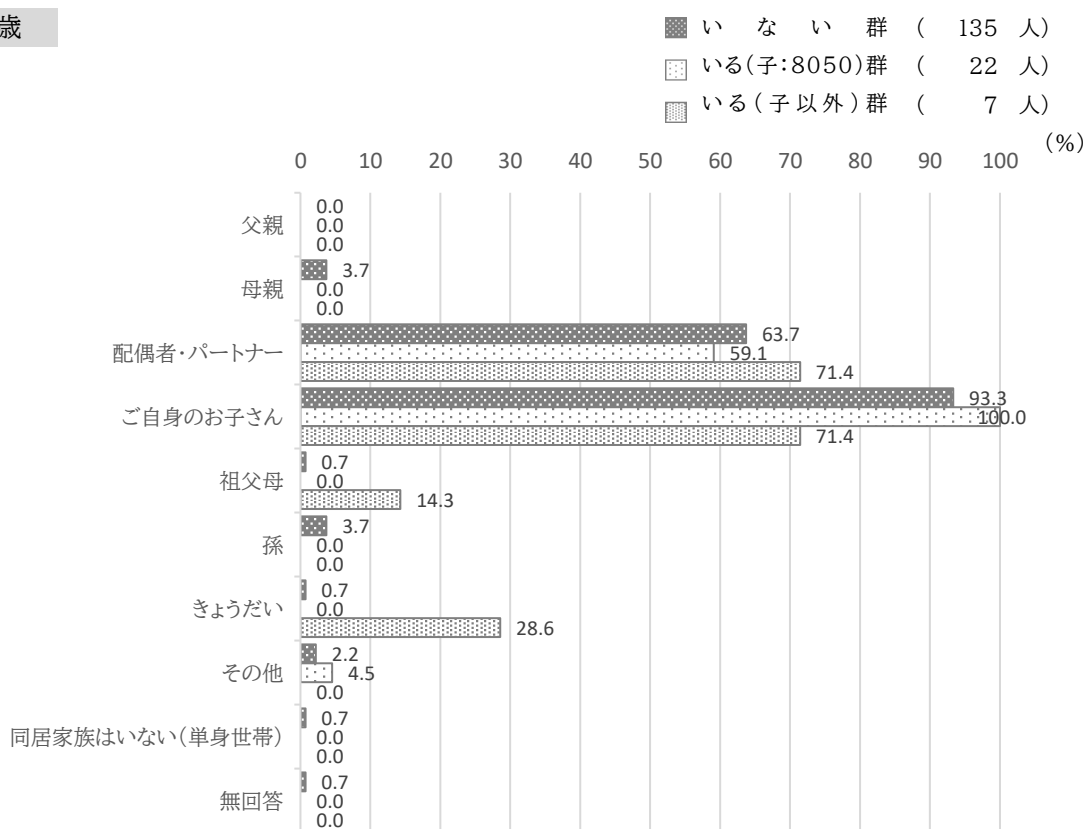
同居人数は、全群で「3人」が最も多く、いない群では53.1%、いる(子:8050)群では72.2%、いる(子以外)群では66.7%であった。

Q4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

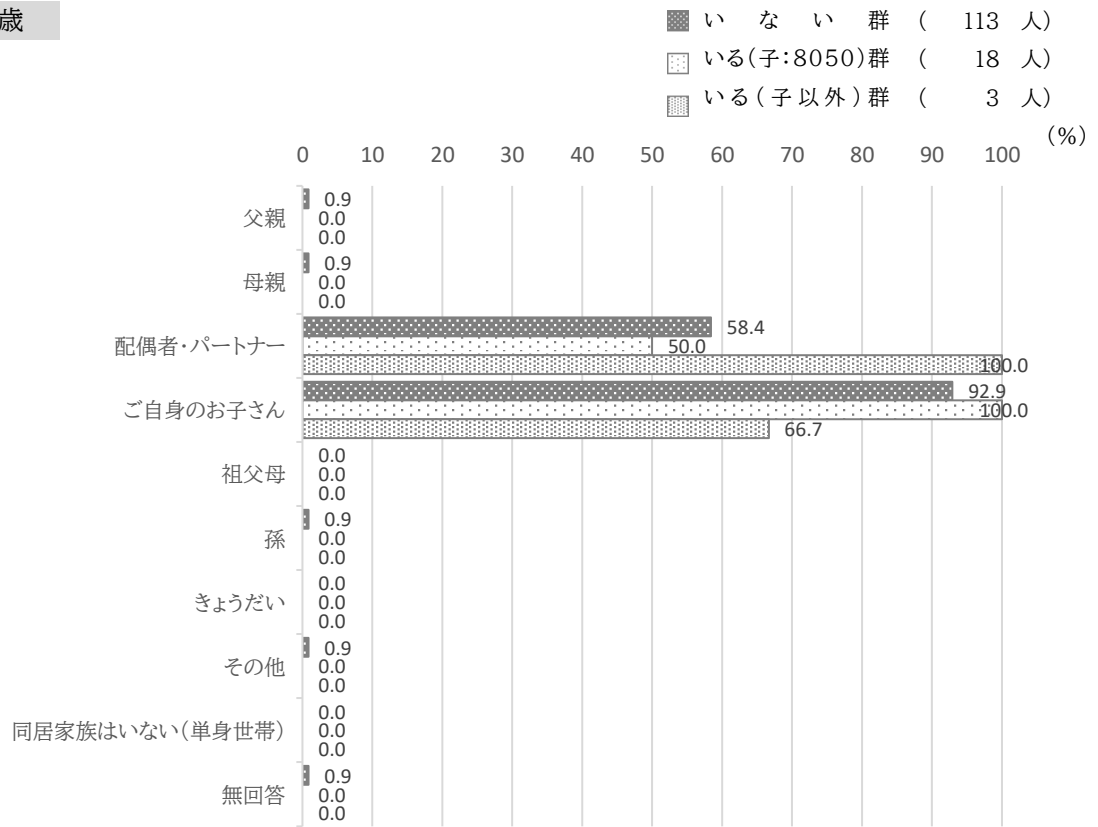
60歳～69歳



70歳～79歳

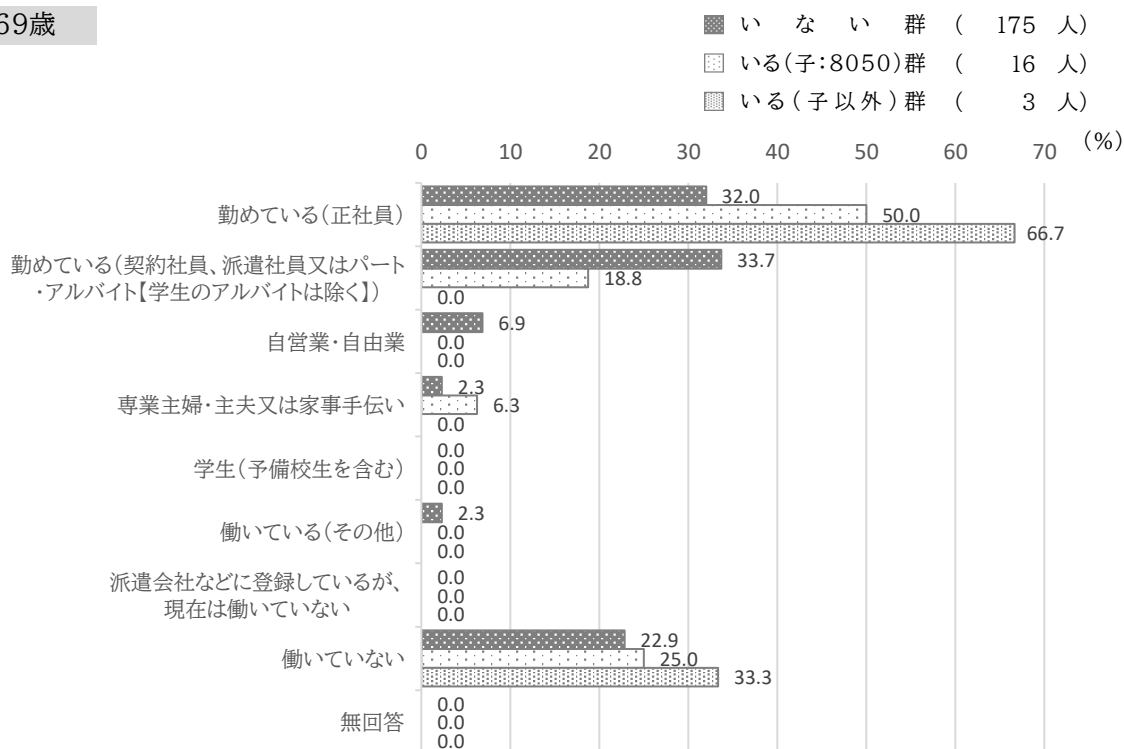


80歳～89歳



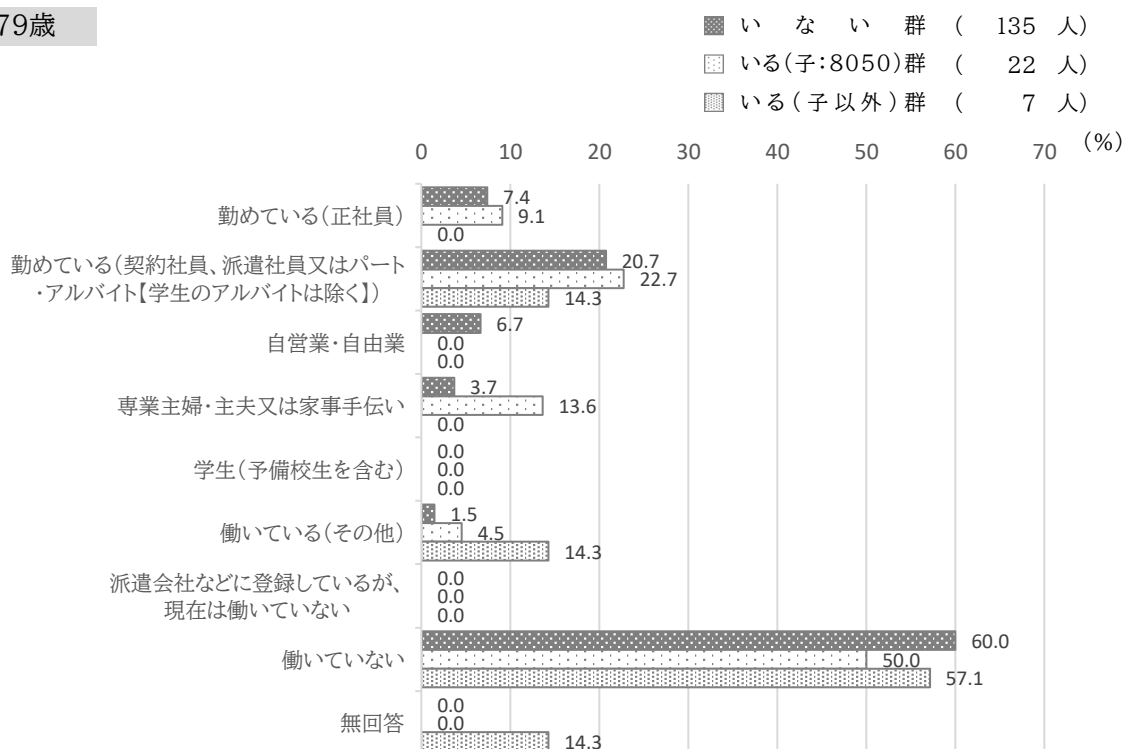
Q5 あなたの主な就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



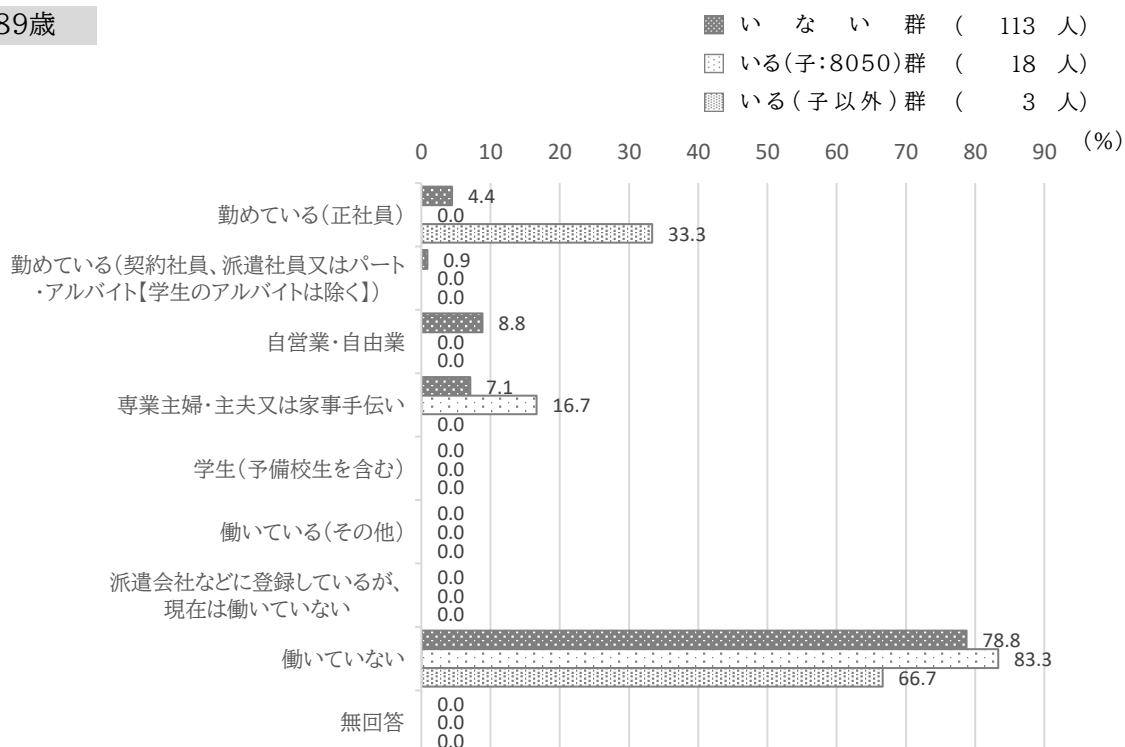
現在の就業状況については、最も多いのが、いない群では「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト【学生のアルバイトは除く】)」が33.7%、いる(子:8050)群では「勤めている(正社員)」が50.0%、いる(子以外)群では「勤めている(正社員)」が66.7%であった。

70歳～79歳



現在の就業状況については、全群で「働いていない」が最も多く、いない群では60.0%、いる(子:8050)群では50.0%、いる(子以外)群では57.1%であった。

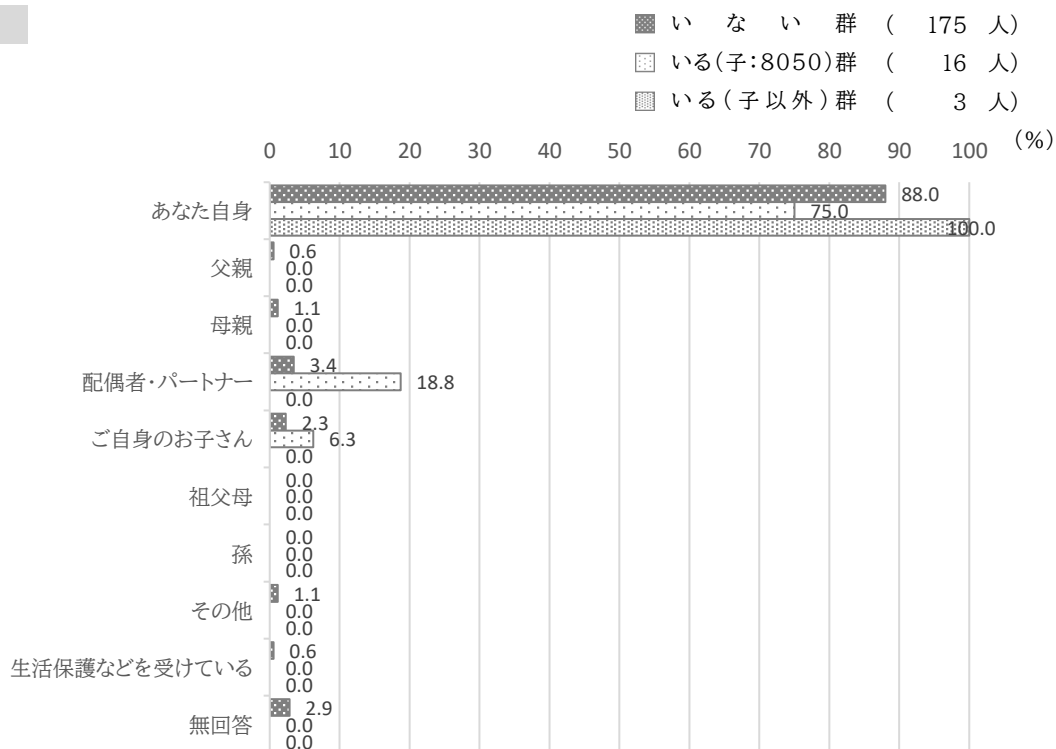
80歳～89歳



現在の就業状況については、全群で「働いていない」が最も多く、いない群では78.8%、いる(子:8050)群では83.3%、いる(子以外)群では66.7%であった。

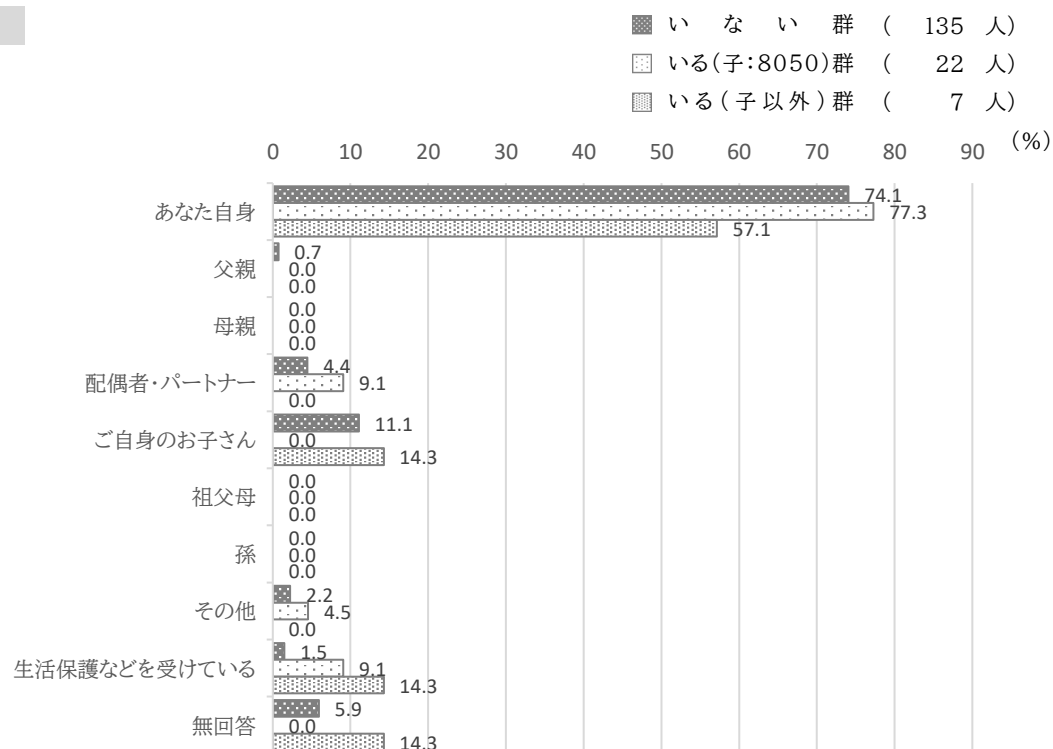
Q6 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



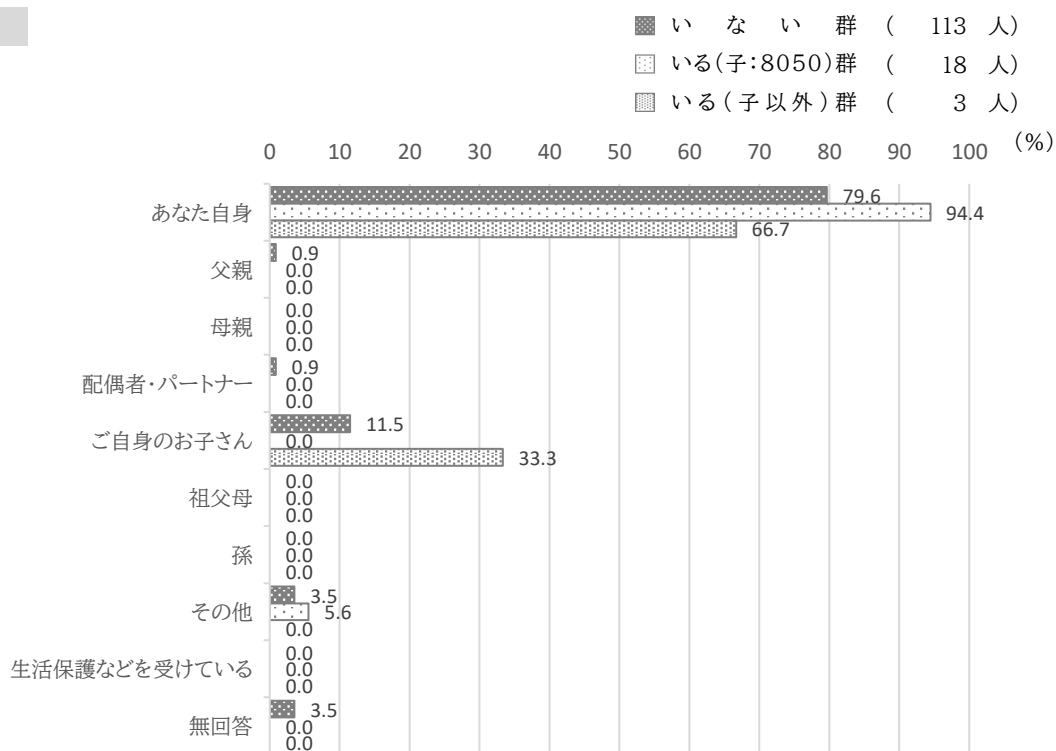
主な生計維持者については、全群で「あなた自身」が最も多く、いない群では88.0%、いる(子:8050)群では75.0%、いる(子以外)群では100.0%であった。

70歳～79歳



主な生計維持者については、全群で「あなた自身」が最も多く、いない群では74.1%、いる(子:8050)群では77.3%、いる(子以外)群では57.1%であった。

80歳～89歳

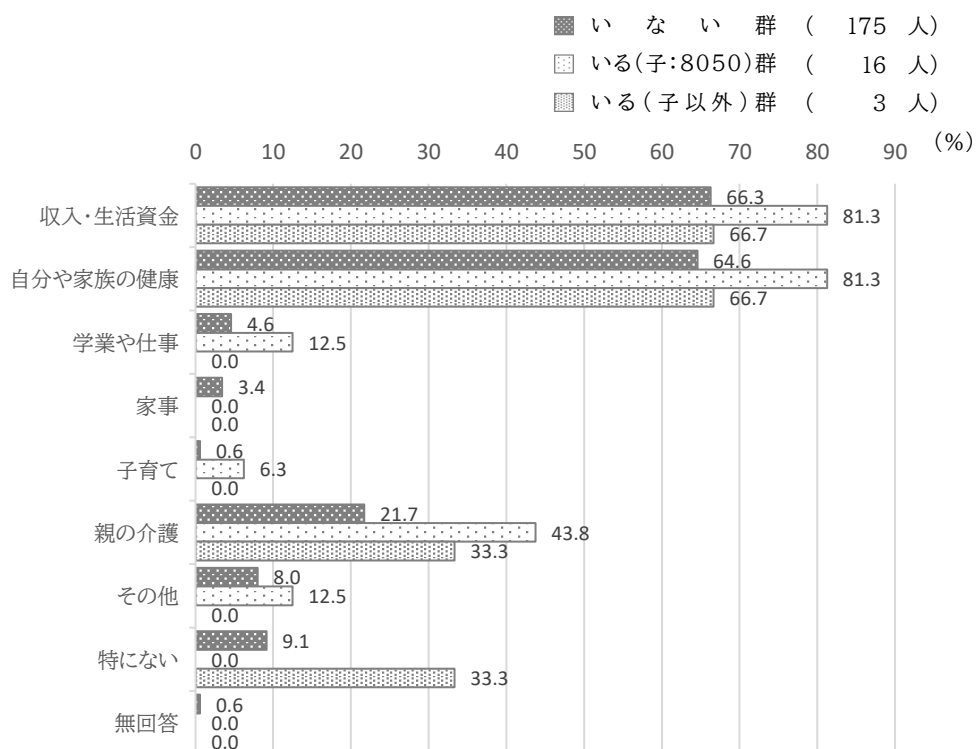


主な生計維持者については、全群で「あなた自身」が最も多く、いない群では79.6%、いる(子:8050)群では94.4%、いる(子以外)群では66.7%であった。

b. 日常生活に関すること

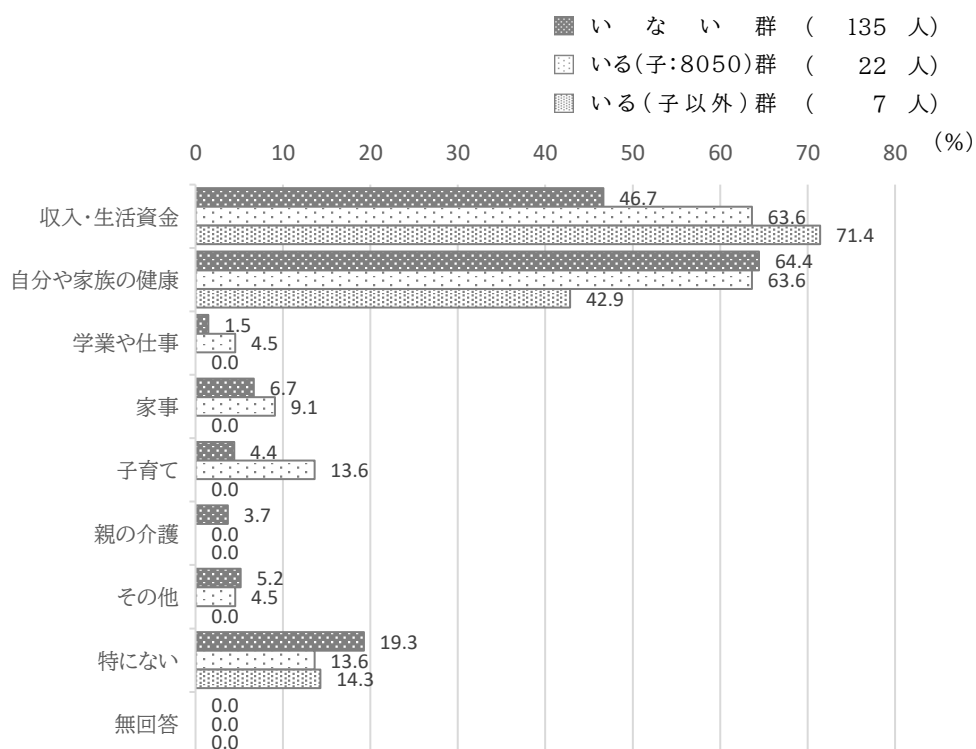
Q7 あなたが現在、日常生活において不安や悩みに思っている事柄は何ですか。(〇はいくつでも)

60歳～69歳



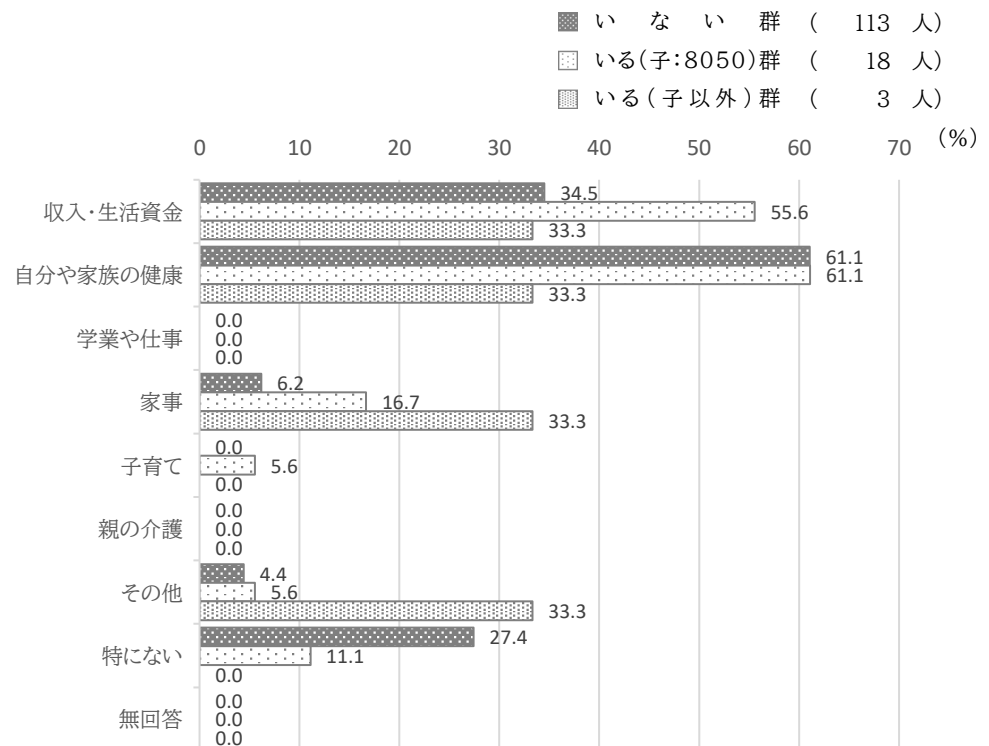
日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、いない群では「収入・生活資金」が66.3%で最も多く、ついで「自分や家族の健康」が64.6%であった。いる(子:8050)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」が81.3%、いる(子以外)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」が66.7%が最も多かった。

70歳～79歳



日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、最も多いのが、いない群では「自分や家族の健康」が64.4%、いる(子:8050)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」が63.6%、いる(子以外)群では「収入・生活資金」が71.4%であった。

80歳～89歳



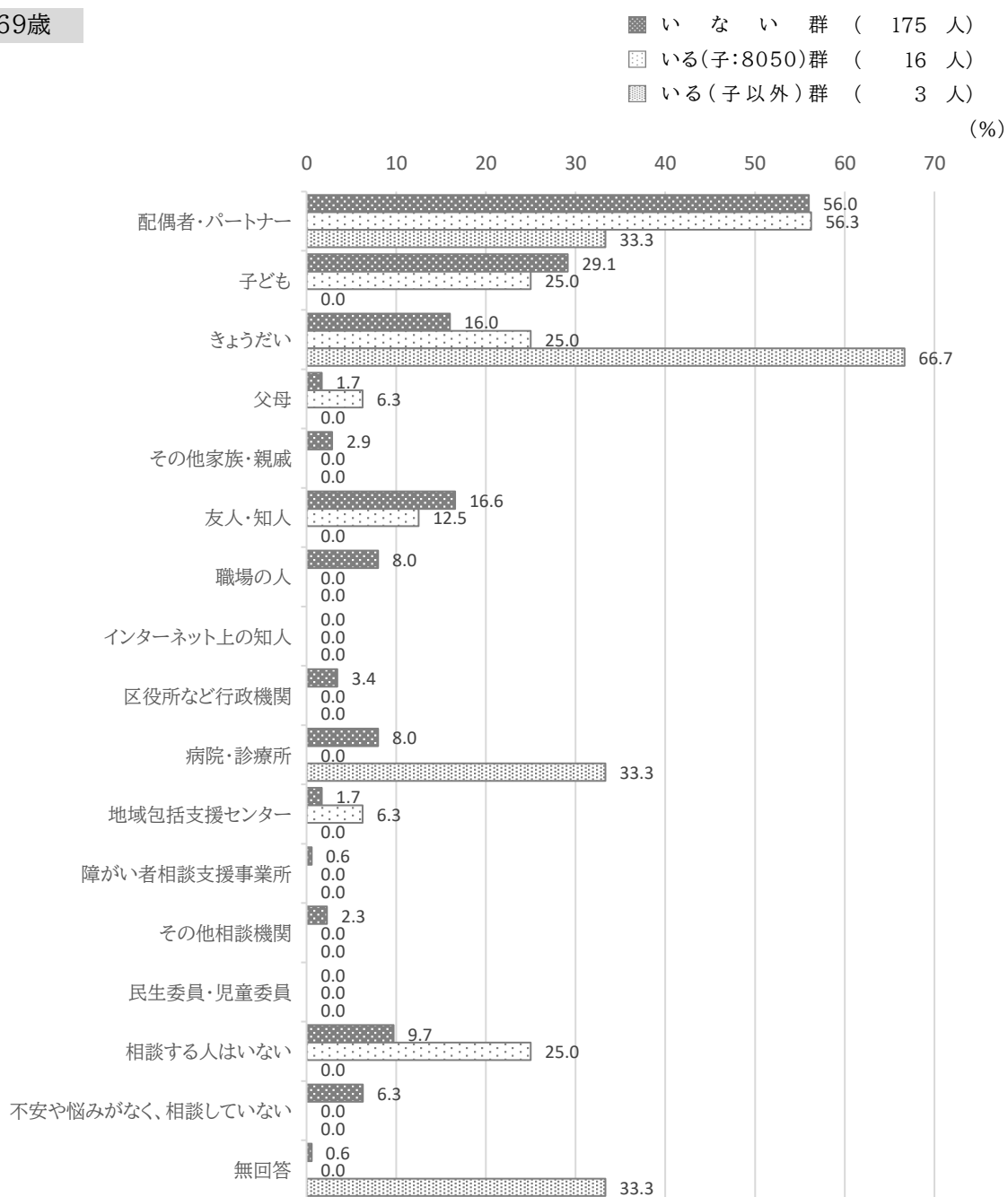
日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、いない群及びいる(子:8050)群では「自分や家族の健康」が61.1%で最も多く、いる(子以外)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」、「家事」、「その他」が33.3%で回答が分かれた。

その他の内容

年代	内容
すべて	子供の仕事(5件) 障がいのある子・病気の子の将来(4件) 子の将来・死後の子供のこと(4件) 健康・病気(3件) 老後の生活(3件) 家の老朽化、借家メンテナンス(3件) 認知症(2件) 終活 実家や先祖墓終い 退職後の年金金額 働けなくなった時の生活 買物

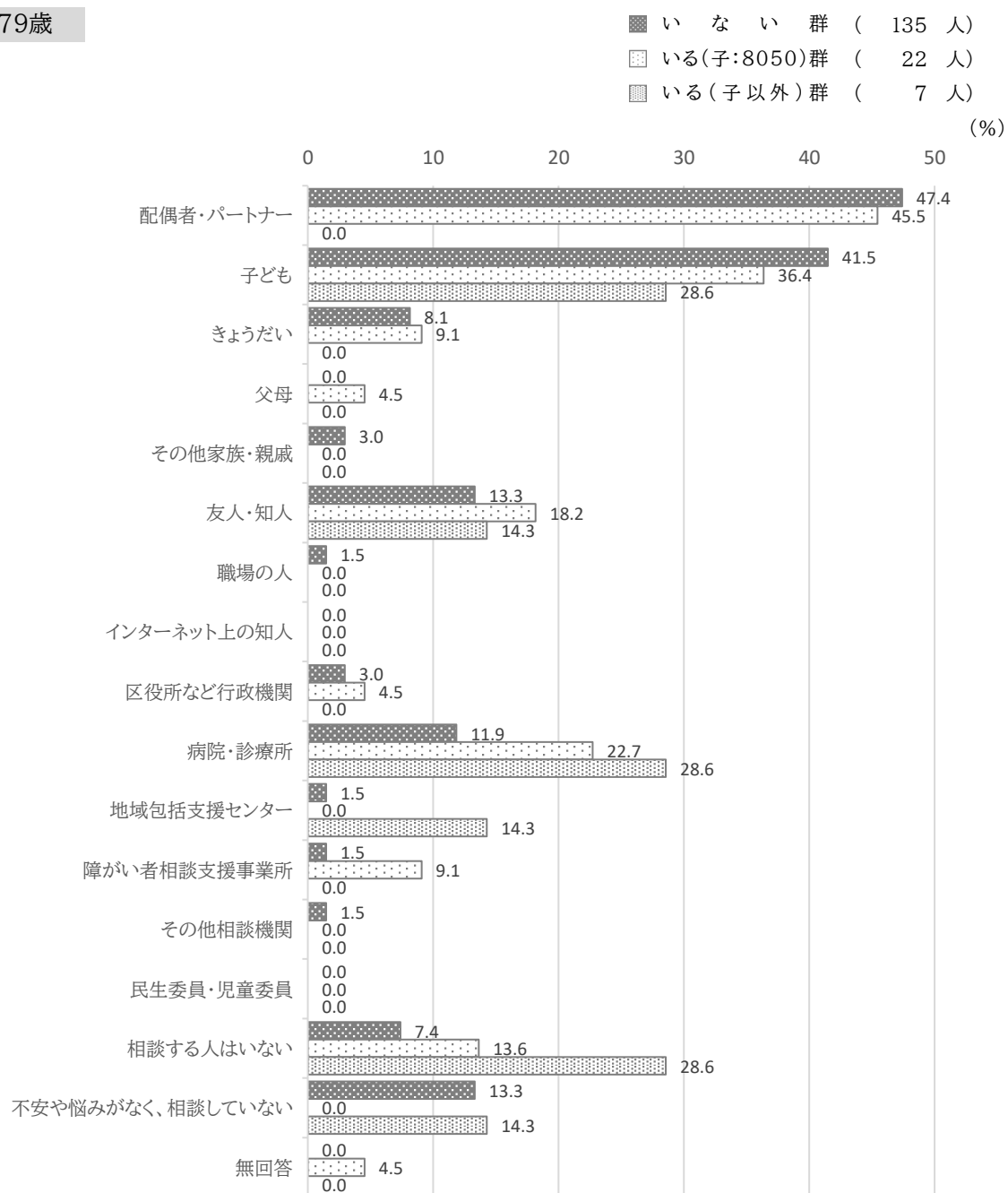
Q8 あなたは現在、日常生活の不安や悩みを誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

60歳～69歳



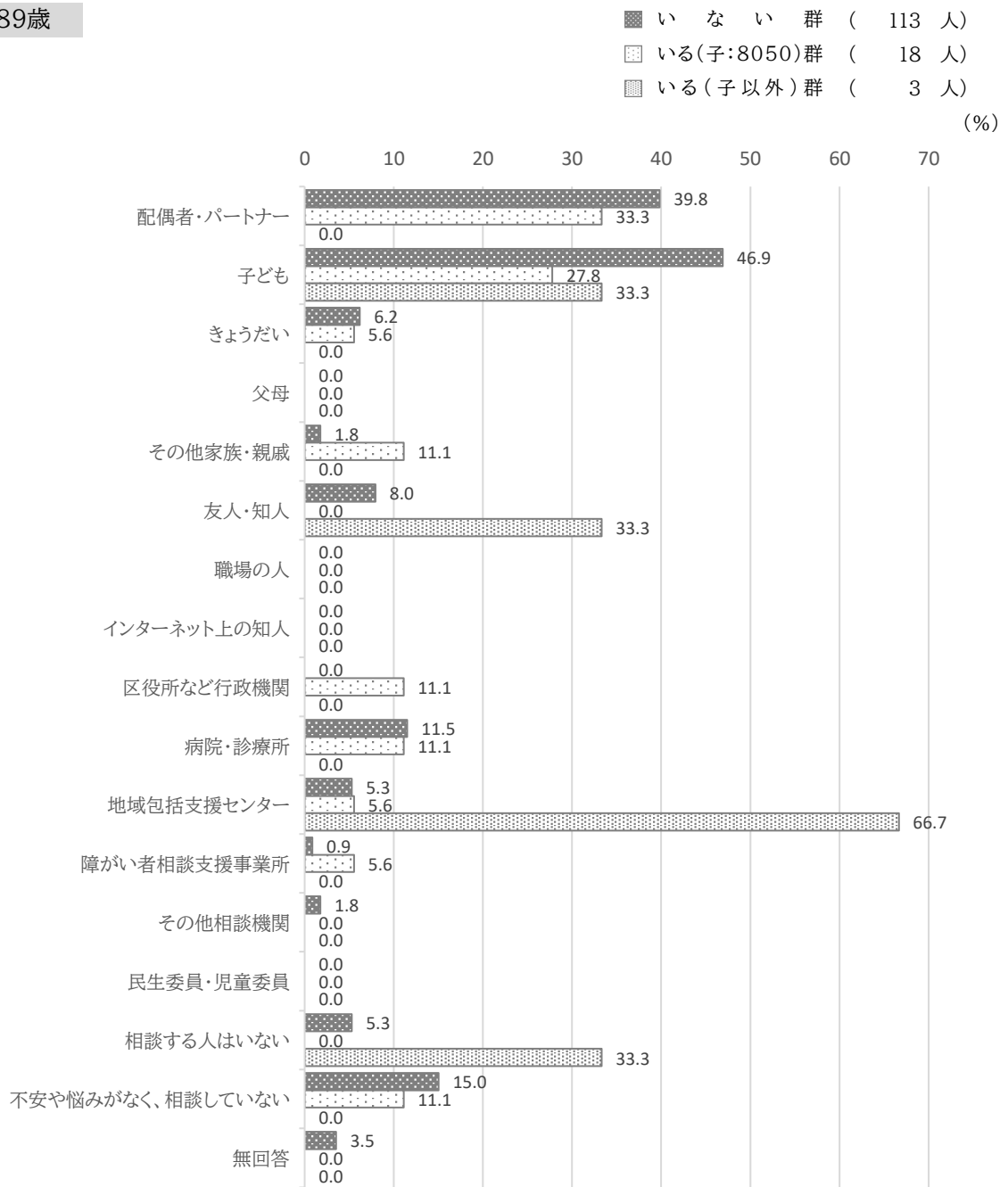
日常生活において不安や悩みの相談相手については、最も多いのが、いない群では「配偶者・パートナー」が56.0%、いる(子:8050)群では「配偶者・パートナー」が56.3%、いる(子以外)群では「きょうだい」が66.7%であった。

70歳～79歳



日常生活において不安や悩みの相談相手については、いない群では「配偶者・パートナー」が47.4%、いる(子:8050)群では「配偶者・パートナー」が45.5%で最も多く、いる(子以外)群では「子ども」及び「病院・診療所」、「相談する人はいない」が28.6%で回答が分かれた。

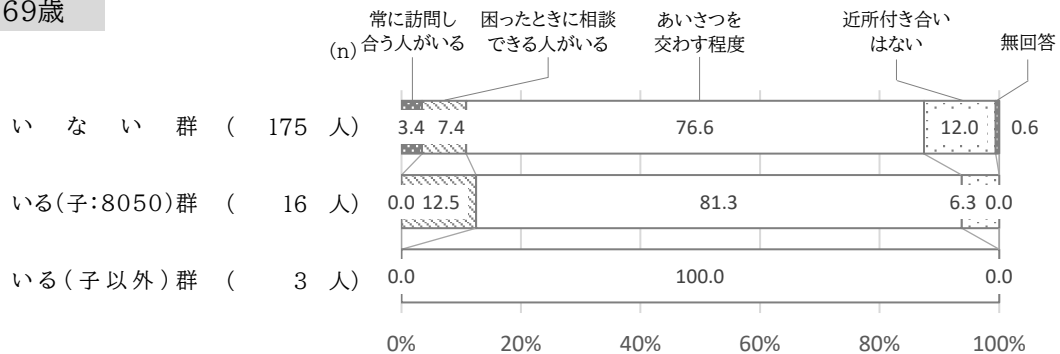
80歳～89歳



日常生活において不安や悩みの相談相手については、最も多いのが、いない群では「子ども」が46.9%、いる(子:8050)群では「配偶者・パートナー」が33.3%、いる(子以外)群では「地域包括支援センター」が66.7%であった。

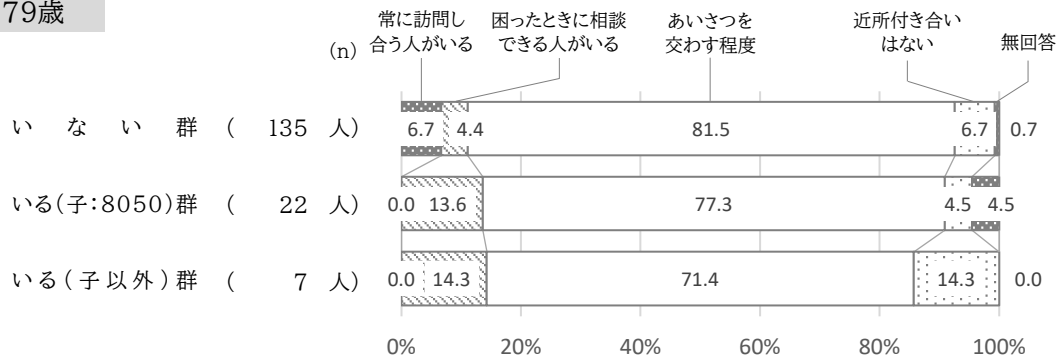
Q9 あなたのご近所の方との付き合い方の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



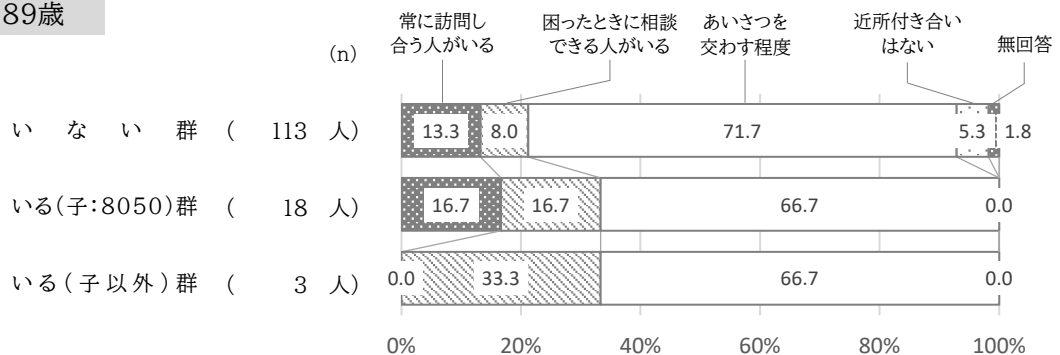
ご近所の方との付き合い方の状況は、全群で「あいさつを交わす程度」が最も多く、いない群では76.6%、いる(子:8050)群では81.3%、いる(子以外)群では100.0%であった。

70歳～79歳



ご近所の方との付き合い方の状況は、全群で「あいさつを交わす程度」が最も多く、いない群では81.5%、いる(子:8050)群では77.3%、いる(子以外)群では71.4%であった。

80歳～89歳

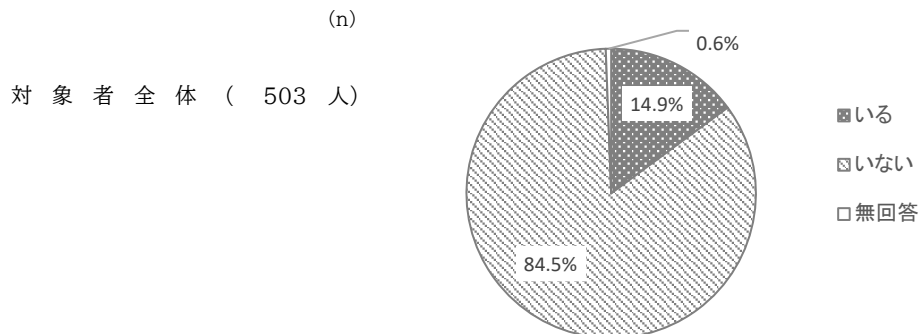


ご近所の方との付き合い方の状況は、全群で「あいさつを交わす程度」が最も多く、いない群では71.7%、いる(子:8050)群及びいる(子以外)群では66.7%であった。

c. 同居している家族のひきこもり状態に関すること

Q10 現在、「あなた」及び「あなたが同居しているご家族」の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない状態の方」はいますか。(○はひとつだけ)

※Q10の設問は、いない群という群を定義するために使用



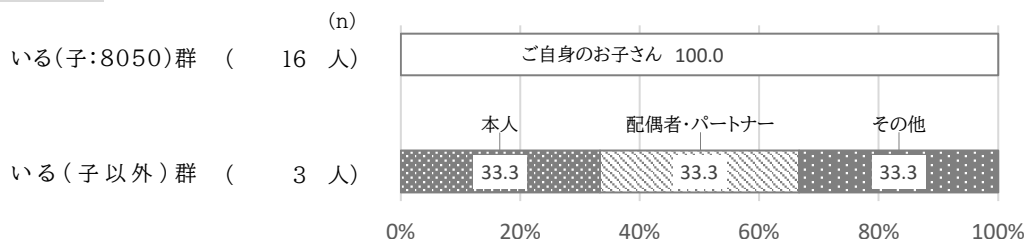
【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

Q11 あなたから見て、あなたとその方の続柄を教えてください。(○はひとつだけ)

※該当者が複数いる場合は、満30歳以上の方の中で年齢の一番低い方についてお答えください。

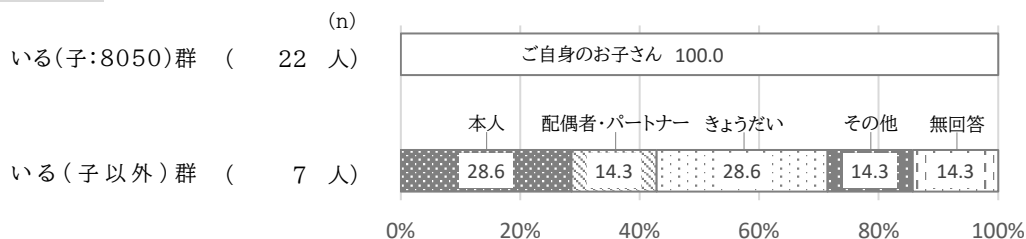
※Q11の設問は、いる(子:8050)群という(子以外)群を定義するために使用

60歳～69歳



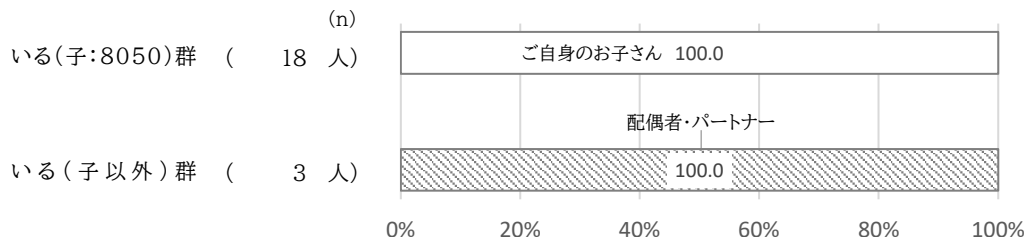
ひきこもり状態の方との続柄は、いる(子以外)群では「本人」が33.3%、「配偶者・パートナー」が33.3%、「その他」が33.3%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方との続柄は、いる(子以外)群では「本人」及び「きょうだい」が28.6%、「配偶者・パートナー」及び「その他」が14.3%であった。

80歳～89歳

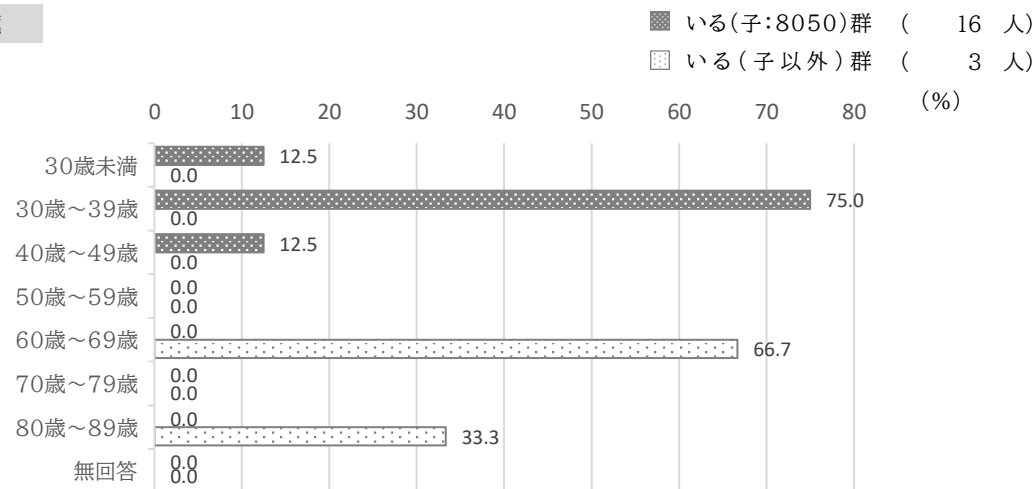


ひきこもり状態の方との続柄は、いる(子以外)群では「配偶者・パートナー」が100.0%であった。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

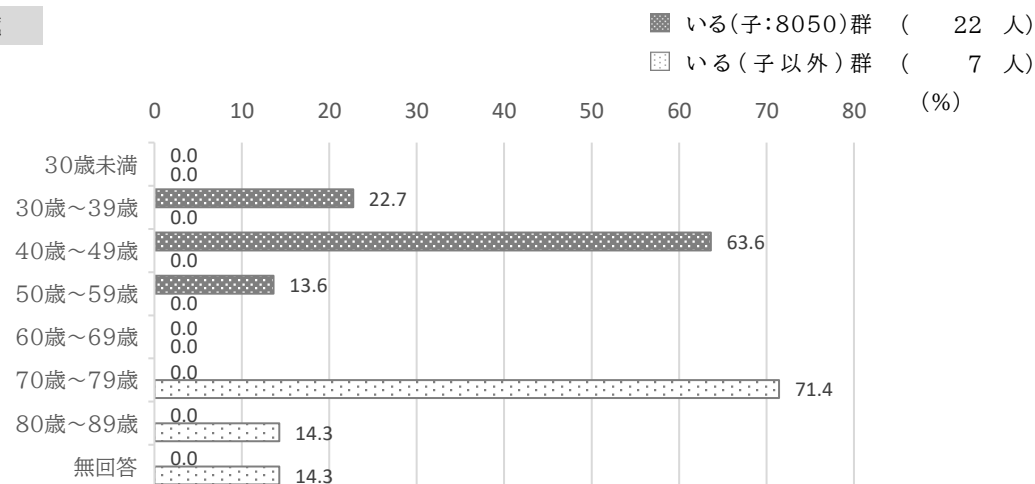
Q12 その方の現在(令和7年9月24日現在)の年齢を教えてください。(数字で具体的に)

60歳～69歳



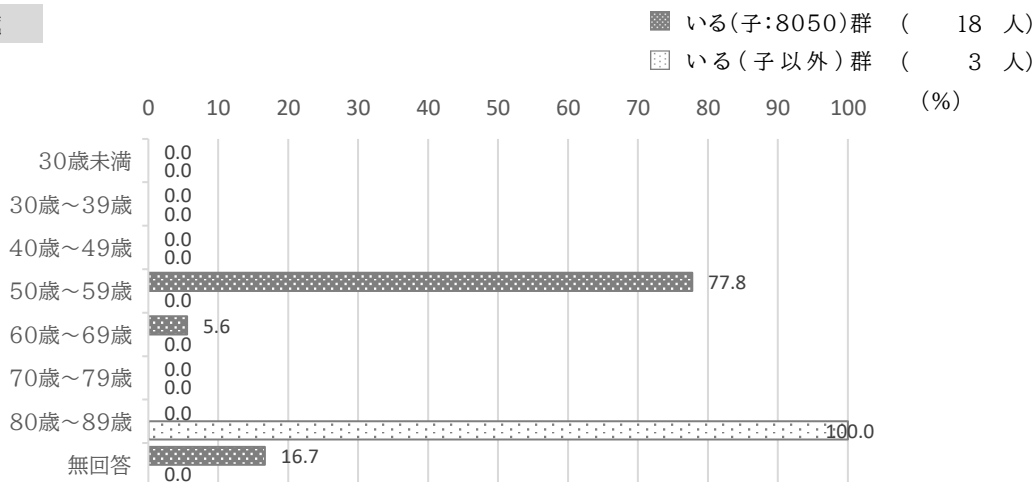
ひきこもり状態の方の年齢は、いる(子:8050)群では「30歳～39歳」が75.0%で最も多く、ついで「30歳未満」及び「40歳～49歳」が12.5%であった。いる(子以外)群では「60歳～69歳」が66.7%で最も多く、ついで「80歳～89歳」が33.3%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方の年齢は、いる(子:8050)群では「40歳～49歳」が63.6%で最も多く、ついで「30歳～39歳」が22.7%であった。いる(子以外)群では「70歳～79歳」が71.4%で最も多く、ついで「80歳～89歳」が14.3%であった。

80歳～89歳

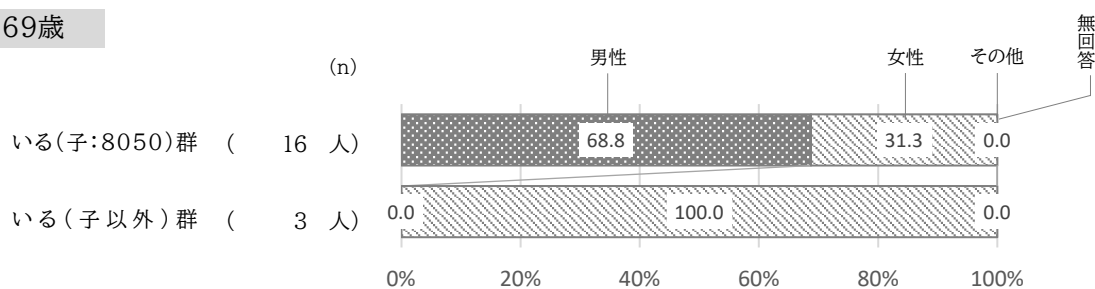


ひきこもり状態の方の年齢は、いる(子:8050)群では「50歳～59歳」が77.8%で最も多く、ついで「60歳～69歳」が5.6%であった。いる(子以外)群では「80歳～89歳」が100.0%で最も多かった。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

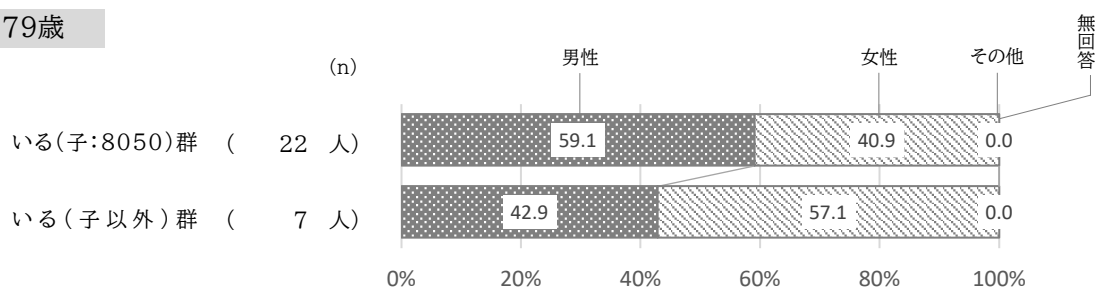
Q13 その方の性別をお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



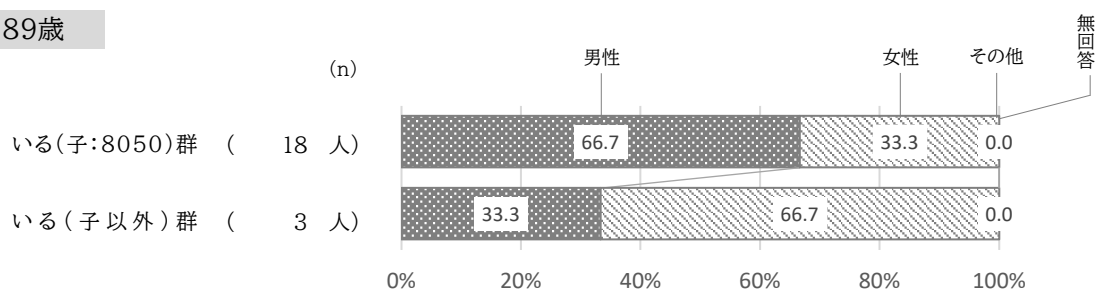
ひきこもり状態の方の性別は、いる(子:8050)群では「男性」が68.8%で「女性」が31.3%であった。いる(子以外)群では「女性」が100.0%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方の性別は、いる(子:8050)群では「男性」が59.1%で「女性」が40.9%であった。いる(子以外)群では「男性」が42.9%で「女性」が57.1%であった。

80歳～89歳

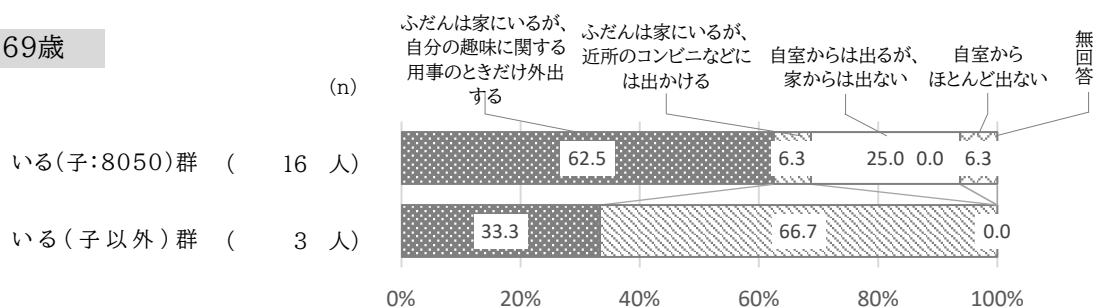


ひきこもり状態の方の性別は、いる(子:8050)群では「男性」が66.7%で「女性」が33.3%であった。いる(子以外)群では「男性」が33.3%で「女性」が66.7%であった。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

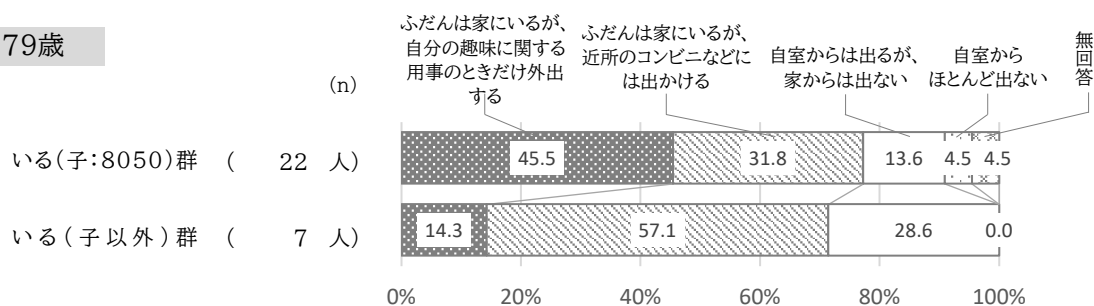
Q14 その方の現在の外出の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



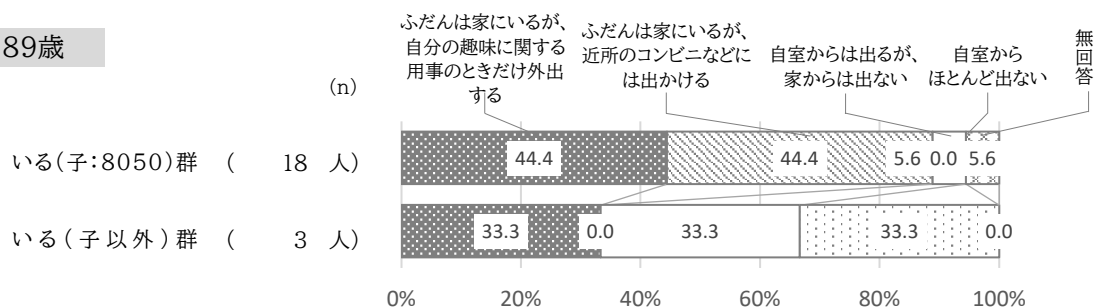
ひきこもり状態の方の外出状況については、最も多いのが、いる(子:8050)群では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が62.5%、いる(子以外)群では「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が66.7%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方の外出状況については、最も多いのが、いる(子:8050)群では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が45.5%、いる(子以外)群では「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が57.1%であった。

80歳～89歳

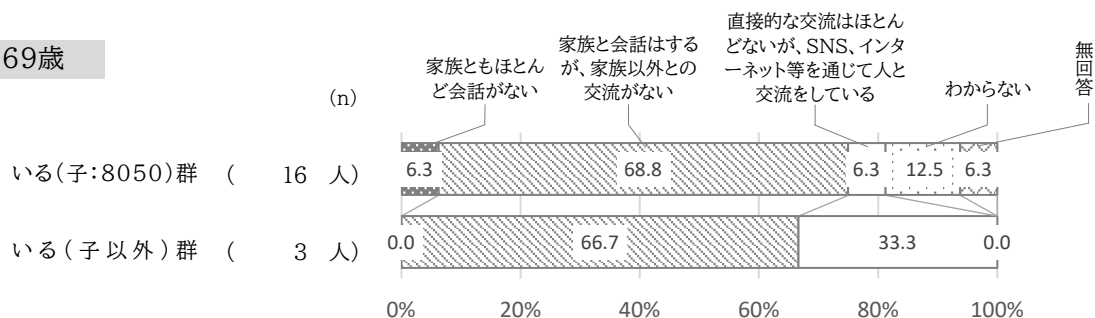


ひきこもり状態の方の外出状況については、いる(子:8050)群では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」及び「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が44.4%、いる(子以外)群では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」及び「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」が33.3%で回答が分かれた。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

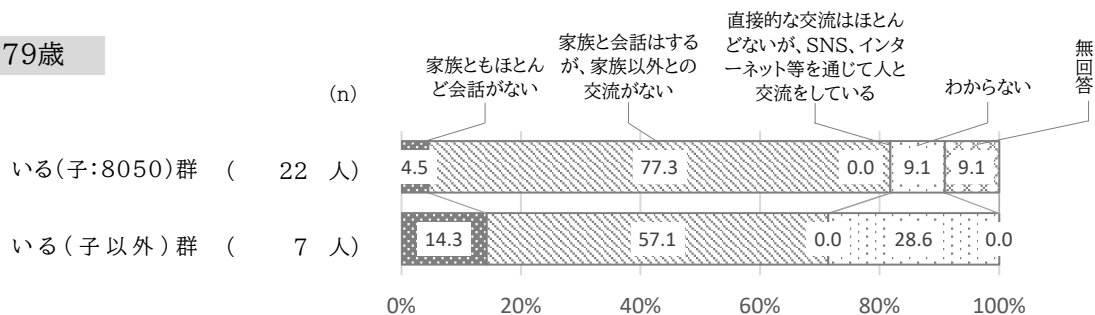
Q15 その方の現在の交流の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



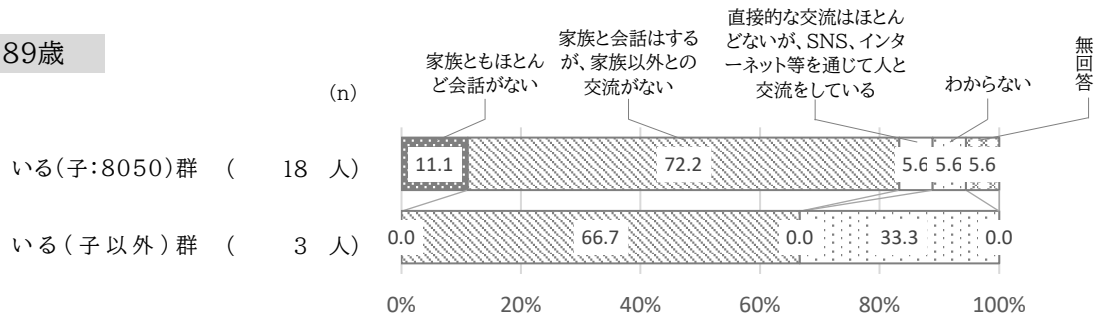
ひきこもり状態の方の交流の状況については、両群で「家族と会話はするが、家族以外との交流がない」が最も多く、いる(子:8050)群では68.8%、いる(子以外)群では66.7%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方の交流の状況については、両群で「家族と会話はするが、家族以外との交流がない」が最も多く、いる(子:8050)群では77.3%、いる(子以外)群では57.1%であった。

80歳～89歳

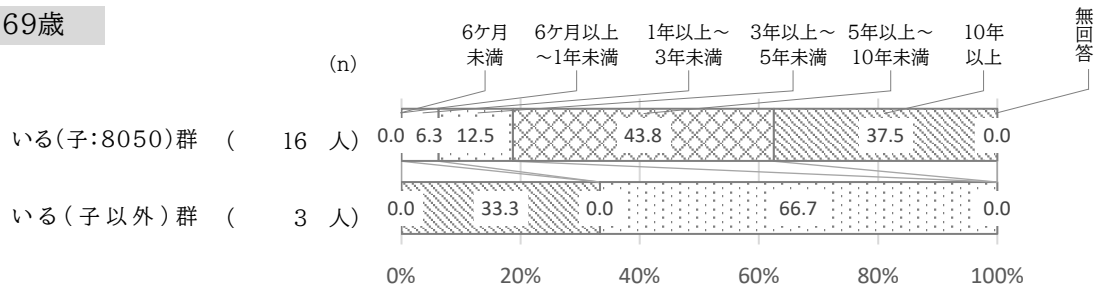


ひきこもり状態の方の交流の状況については、両群で「家族と会話はするが、家族以外との交流がない」が最も多く、いる(子:8050)群では72.2%、いる(子以外)群では66.7%であった。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

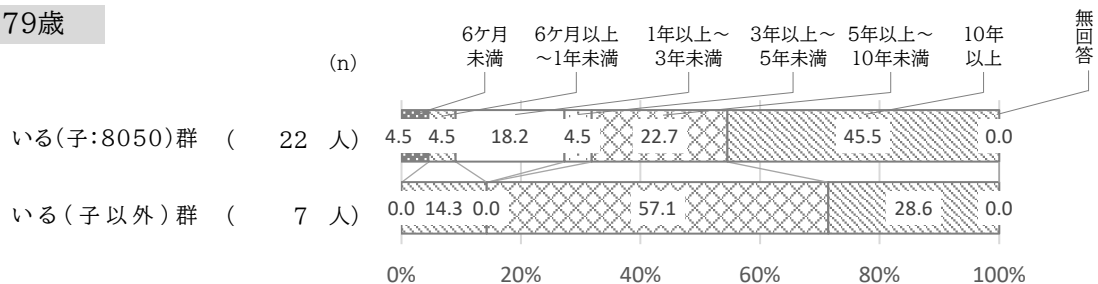
Q16 その方が現在の状態になって、どのぐらい経ちますか。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



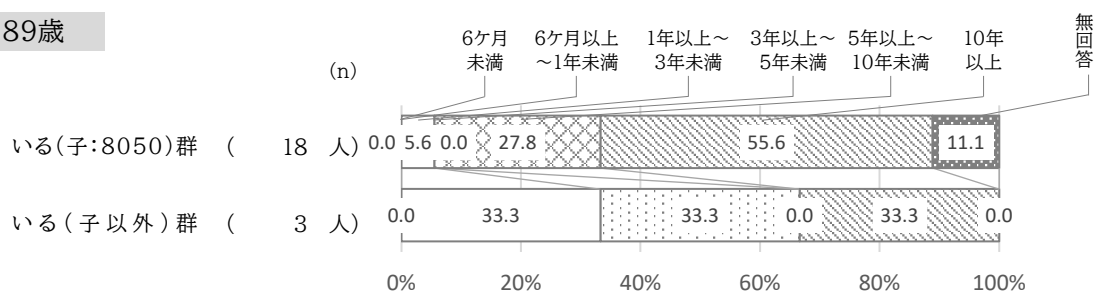
ひきこもり状態の方が現在の状況になってからの期間は、最も多いのが、いる(子:8050)群では「5年以上～10年未満」が43.8%、いる(子以外)群では「3年以上～5年未満」が66.7%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方が現在の状況になってからの期間は、最も多いのが、いる(子:8050)群では「10年以上」が45.5%、いる(子以外)群では「5年以上～10年未満」が57.1%であった。

80歳～89歳

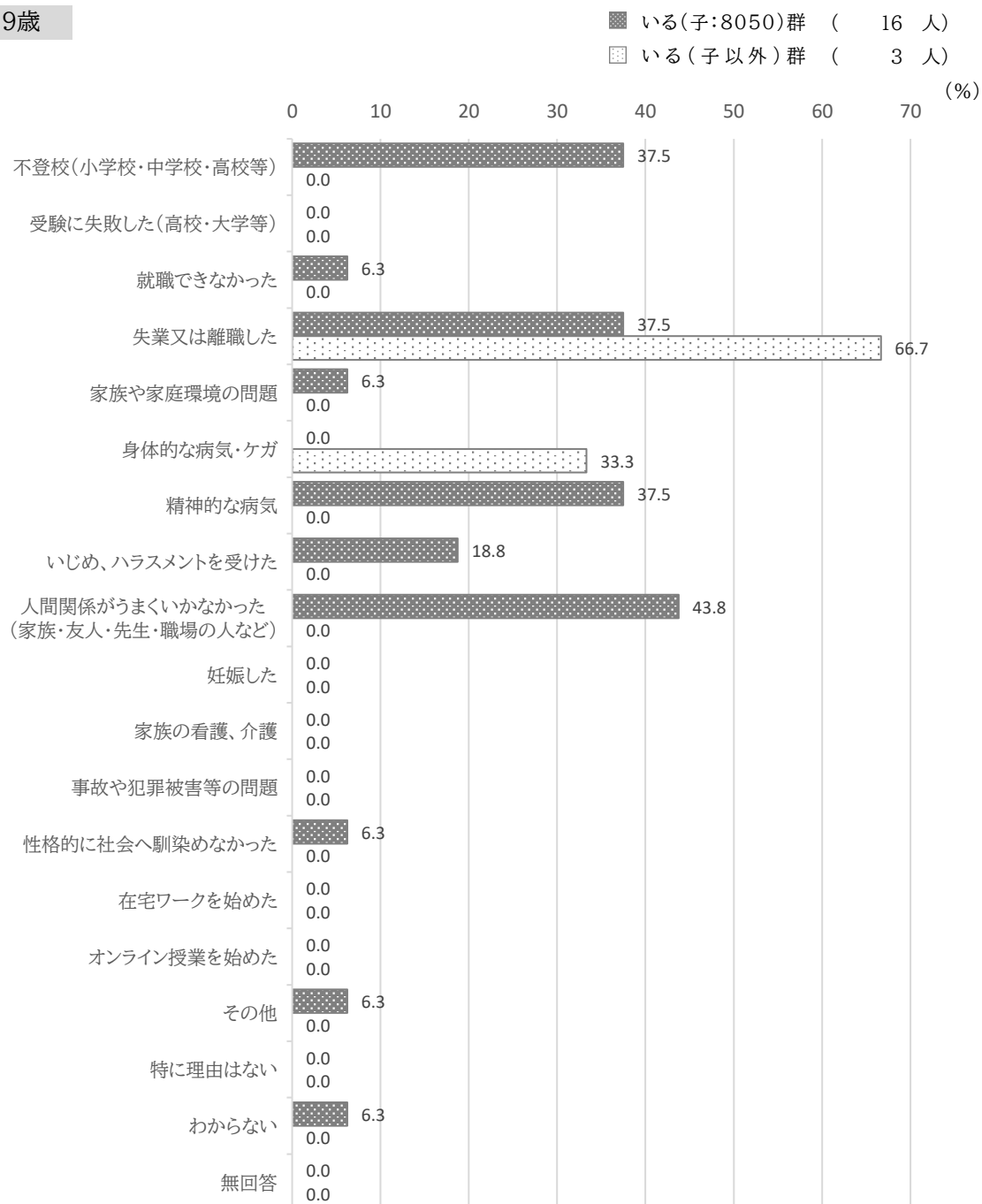


ひきこもり状態の方が現在の状況になってからの期間は、いる(子:8050)群では「10年以上」が55.6%で最も多く、いる(子以外)群では「1年以上～3年未満」及び「3年以上～5年未満」、「10年以上」が33.3%で回答が分かれた。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

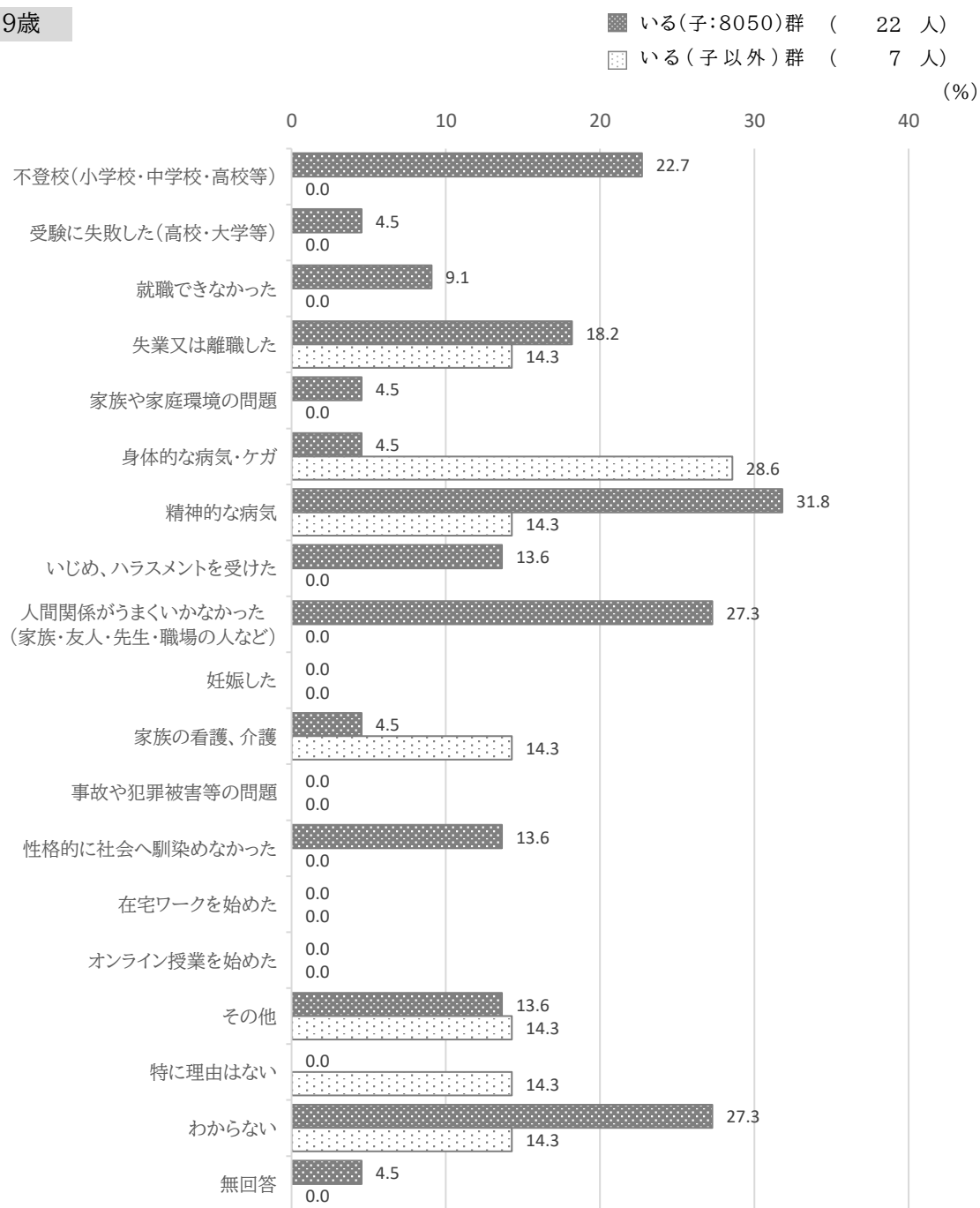
Q17 その方が現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

60歳～69歳



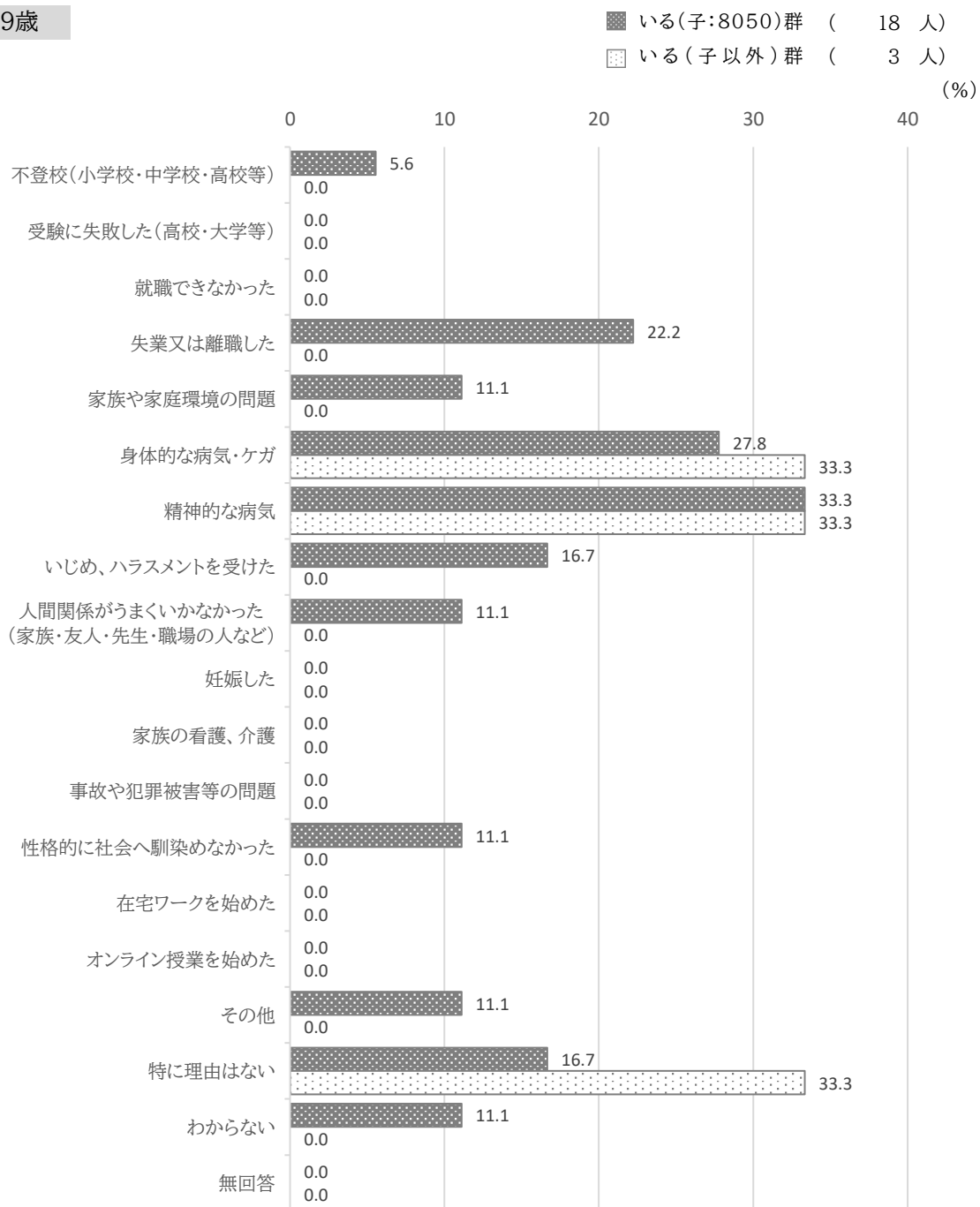
ひきこもり状態の方が現在の状態になったきっかけについては、いる(子:8050)群では「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が43.8%で最も多く、ついで「不登校(小学校・中学校・高校等)」及び「失業又は離職した」、「精神的な病気」が37.5%であった。いる(子以外)群では「失業又は離職した」が66.7%で最も多く、ついで「身体的な病気・ケガ」が33.3%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方が現在の状態になったきっかけについては、いる(子:8050)群では「精神的な病気」が31.8%で最も多く、ついで「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」及び「わからない」が27.3%であった。いる(子以外)群では「身体的な病気・ケガ」が28.6%で最も多く、ついで「失業又は離職した」及び「精神的な病気」、「家族の看護、介護」、「その他」、「特に理由はない」、「わからない」が14.3%であった。

80歳～89歳

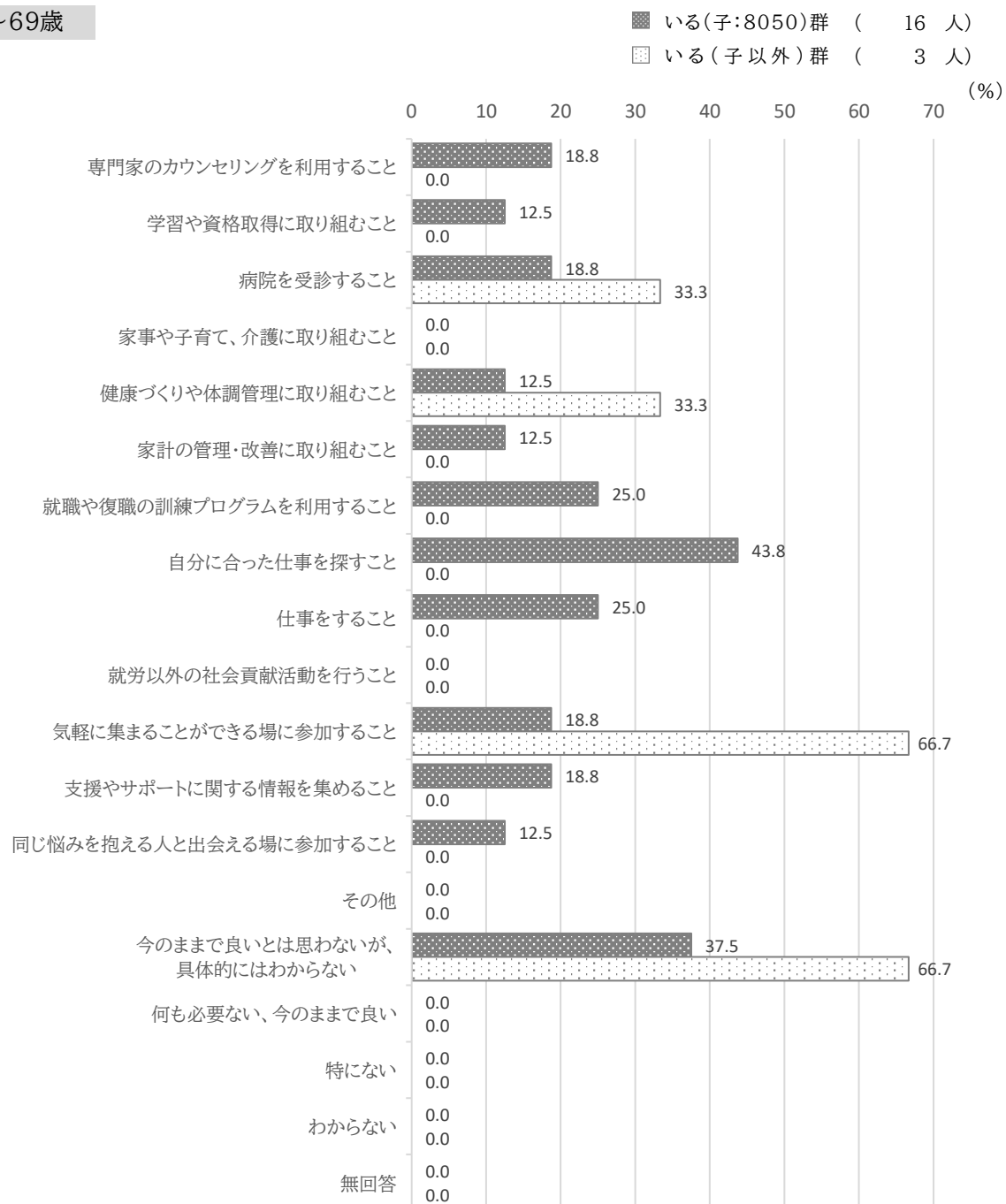


ひきこもり状態の方が現在の状態になったきっかけについては、いる(子:8050)群では「精神的な病気」が33.3%で最も多く、ついで「身体的な病気・ケガ」が27.8%であった。いる(子以外)群では「身体的な病気・ケガ」及び「精神的な病気」、「特に理由はない」が33.3%で回答が分かれた。

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

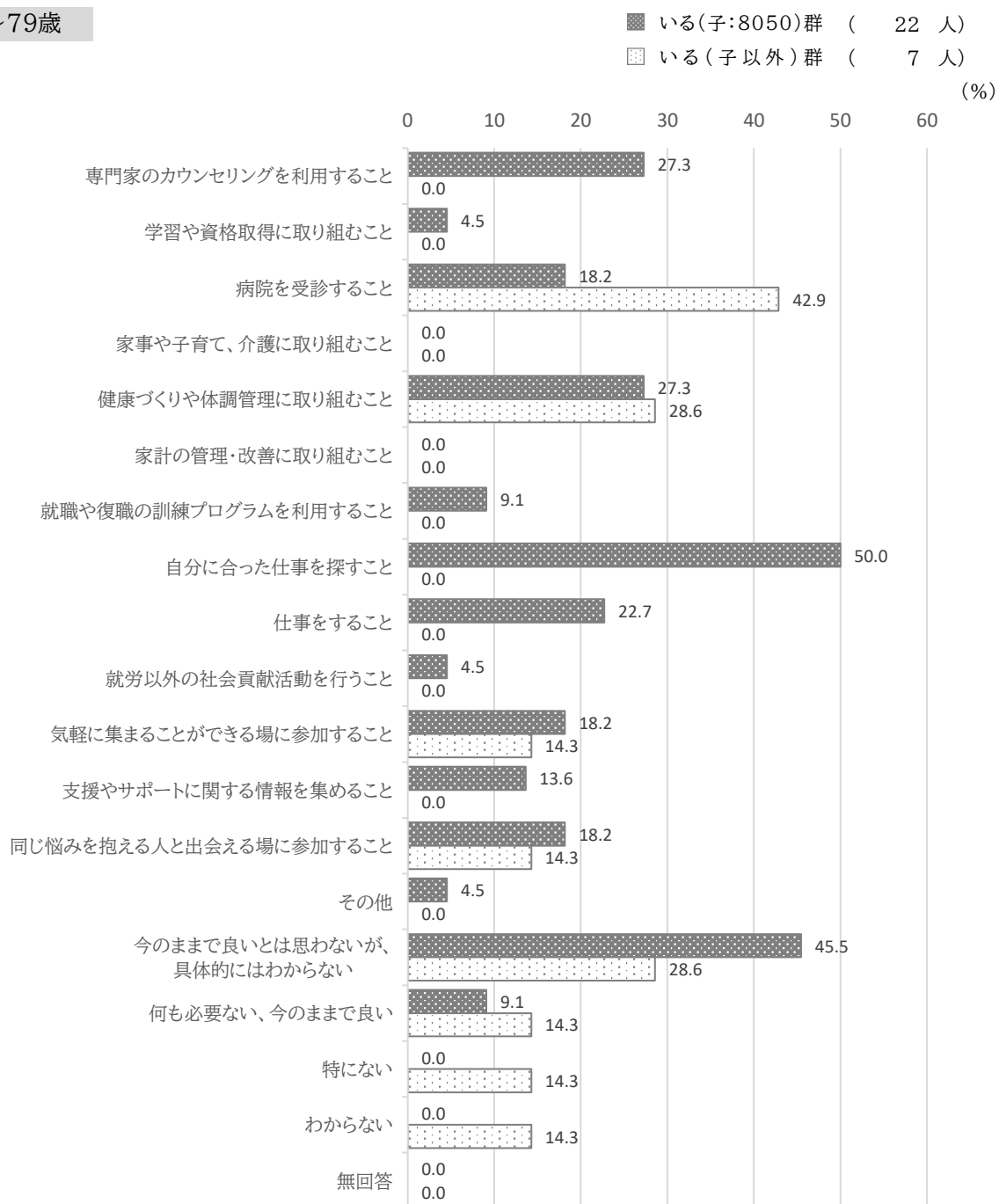
Q18 その方にとってこれから必要と、あなたが思うことはありますか。(○はいくつでも)

60歳～69歳



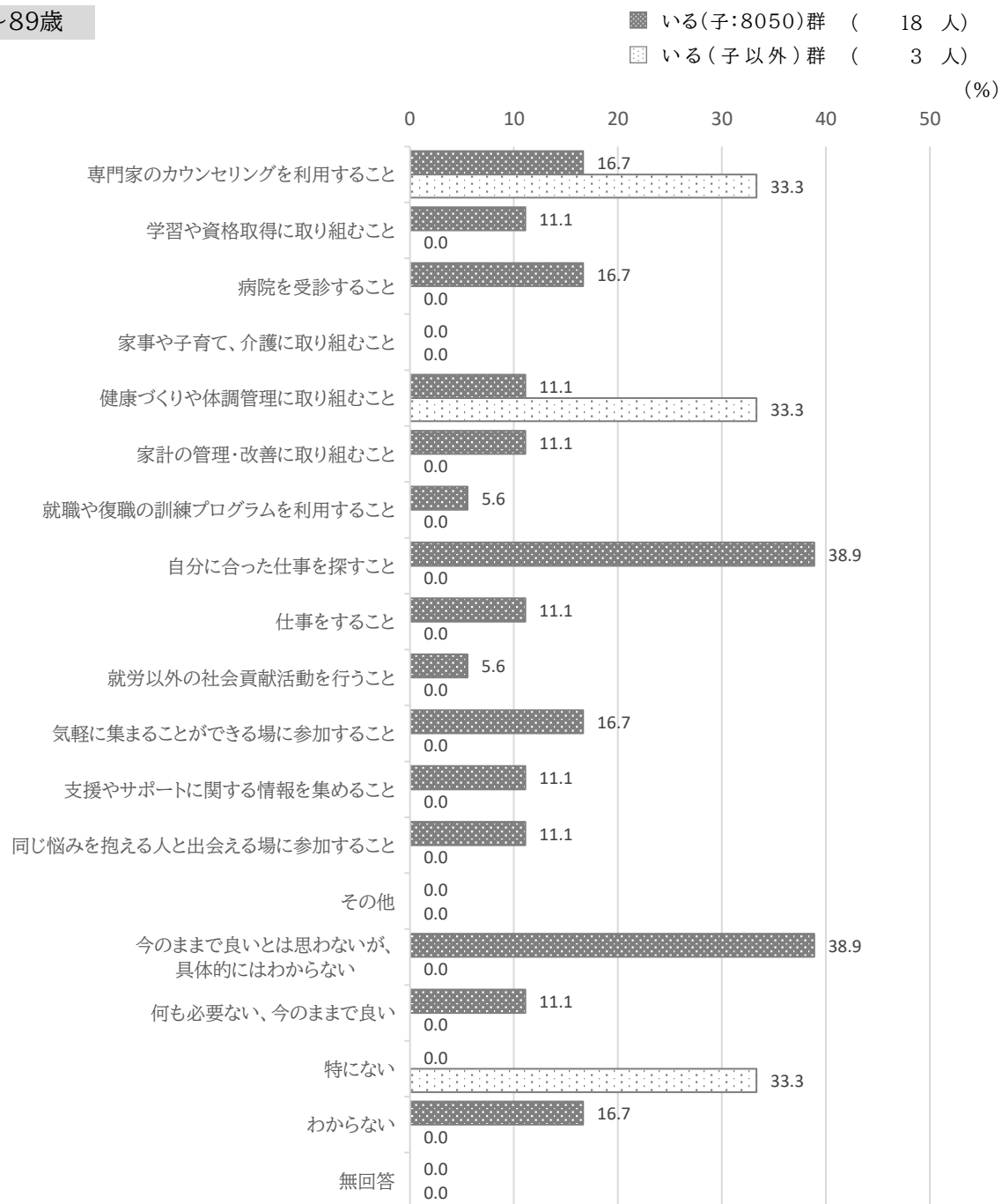
ひきこもり状態の方にとってこれから必要なことは、いる(子:8050)群では「自分に合った仕事を探すこと」が43.8%で最も多く、ついで「今のままで良いとは思わないが、具体的にはわからない」が37.5%であった。いる(子以外)群では「気軽に集まることができる場に参加すること」及び「今のままで良いとは思わないが、具体的にはわからない」が66.7%で最も多かった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方にとってこれから必要なことは、いる(子:8050)群では「自分に合った仕事を探すこと」が50.0%で最も多く、ついで「今のままで良いとは思わないが、具体的にはわからない」が45.5%であった。いる(子以外)群では「病院を受診すること」が42.9%で最も多く、ついで「健康づくりや体調管理に取り組むこと」及び「今のままで良いとは思わないが、具体的にはわからない」が28.6%であった。

80歳～89歳



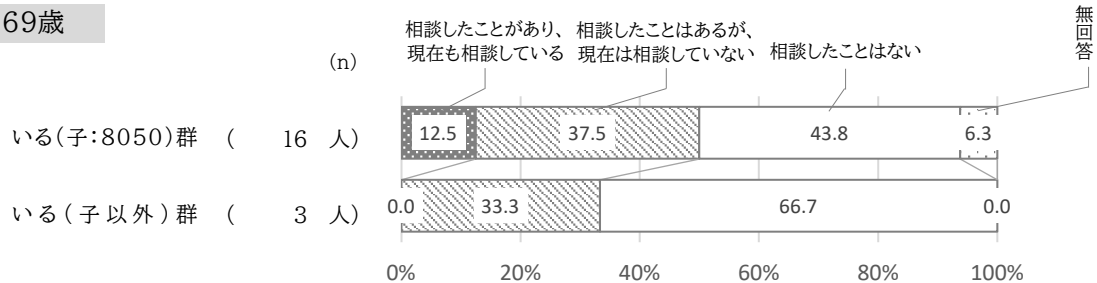
ひきこもり状態の方にとってこれから必要なことは、いる(子:8050)群では「自分に合った仕事を探すこと」及び「今のままで良いとは思わないが、具体的にはわからない」が38.9%で最も多く、いる(子以外)群では「専門家のカウンセリングを利用すること」及び「健康づくりや体調管理に取り組むこと」、「特にな」が33.3%で回答が分かれた。

d. ひきこもり状態にある人の相談に関すること

【Q10で、「1.いる」に○をつけた方のみ回答】

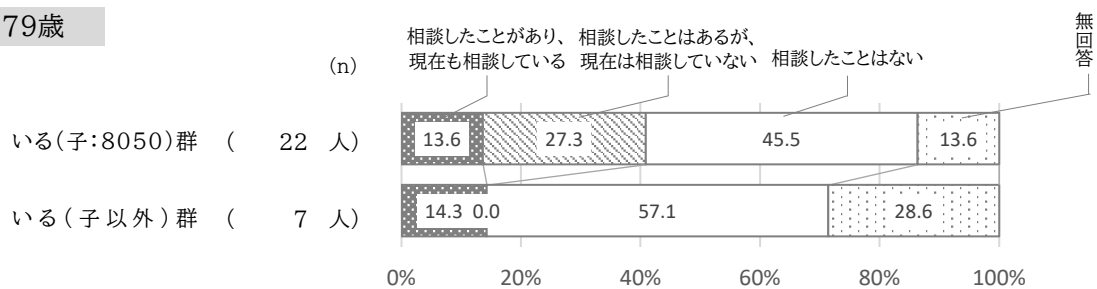
Q19 「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態の方が世帯の中にいること」について、専門機関や医療機関などに相談したことはありますか。(○はひとつだけ)

60歳～69歳



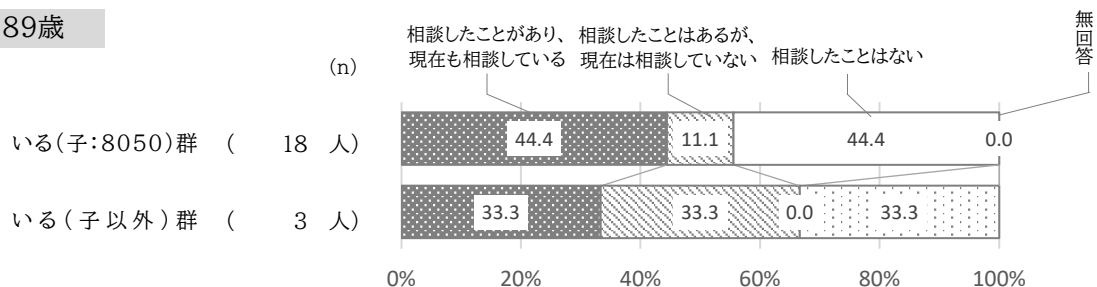
ひきこもり状態の方について、専門機関や医療機関への相談状況は、両群で「相談したことはない」が最も多く、いる(子:8050)群で43.8%、いる(子以外)群で66.7%であった。

70歳～79歳



ひきこもり状態の方について、専門機関や医療機関への相談状況は、両群で「相談したことはない」が最も多く、いる(子:8050)群で45.5%、いる(子以外)群で57.1%であった。

80歳～89歳



ひきこもり状態の方について、専門機関や医療機関への相談状況は、いる(子:8050)群では「相談したことがあり、現在も相談している」及び「相談したことはない」が44.4%で最も多く、いる(子以外)群では「相談したことがあり、現在も相談している」及び「相談したことはあるが、現在は相談していない」が33.3%で回答が分かれた。

【Q19で、2～3に○をつけた方のみ回答】

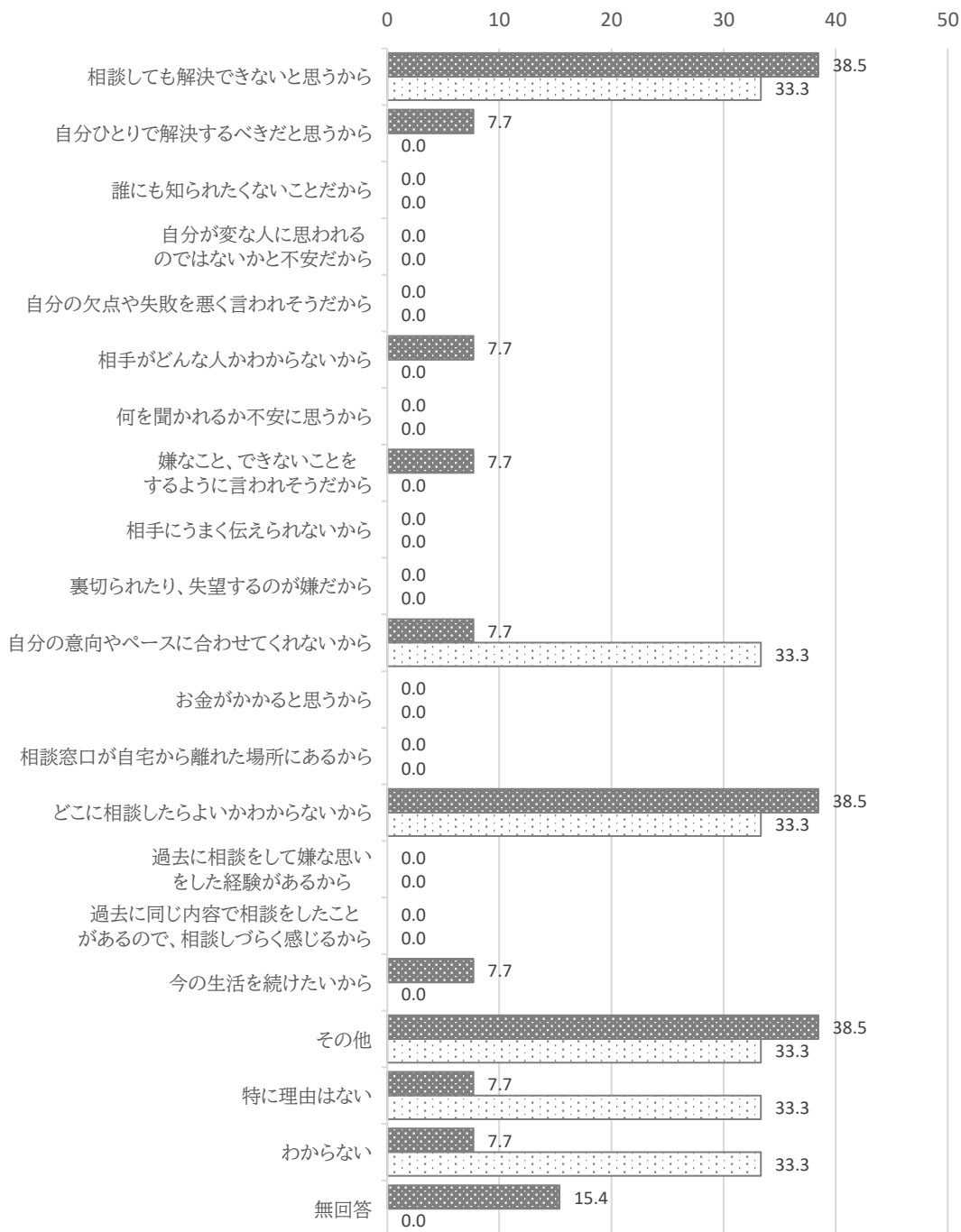
Q20「相談したことはあるが、現在は相談していない」又は「相談したことはない」理由は何ですか。(○はいくつでも)

60歳～69歳

■ いる(子:8050)群 (13 人)

□ いる(子以外)群 (3 人)

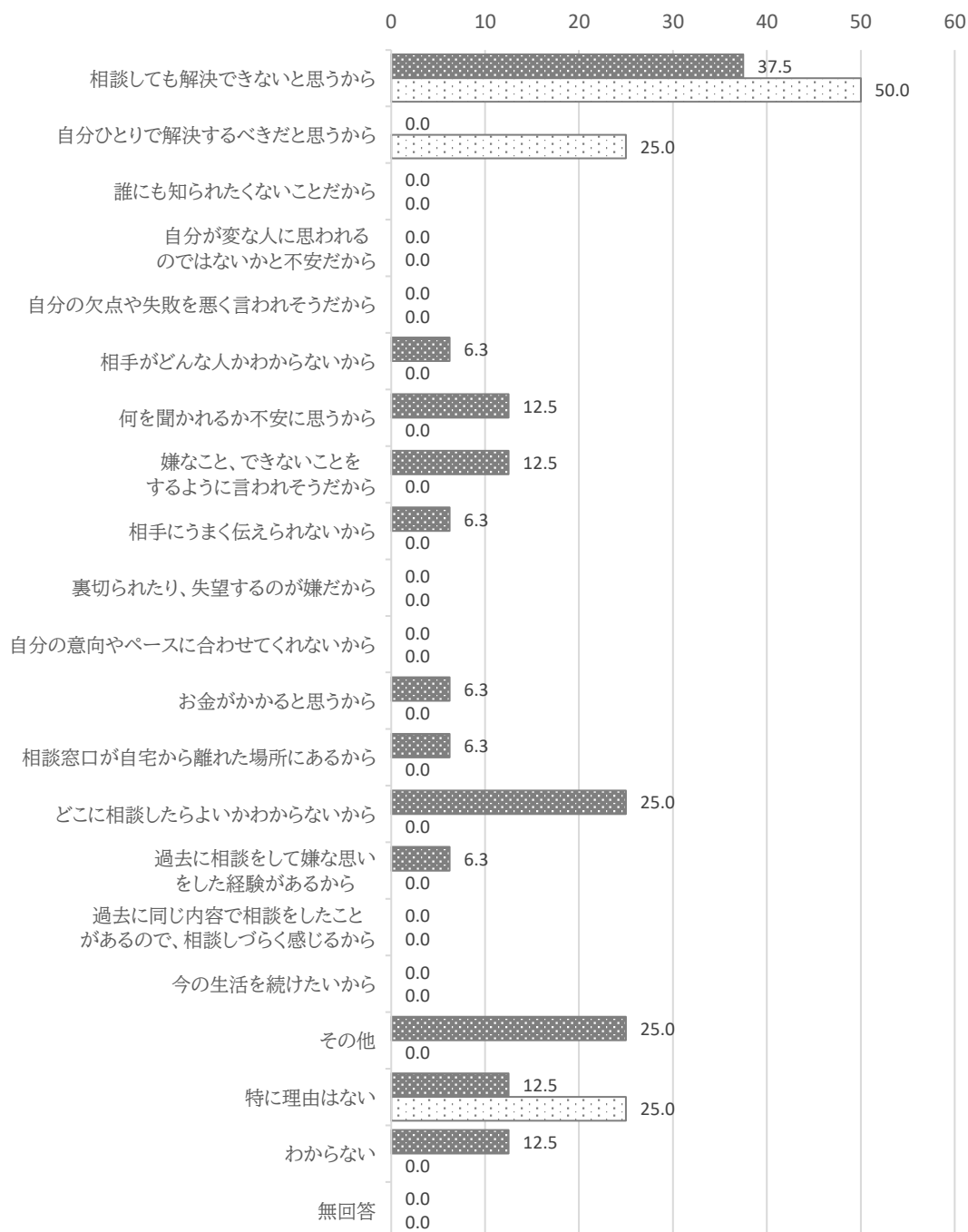
(%)



相談しない理由については、いる(子:8050)群では「相談しても解決できないと思うから」及び「どこに相談したらよいかわからないから」、「その他」が38.5%であった。いる(子以外)群では「相談しても解決できないと思うから」及び「自分の意向やペースに合わせてくれないから」、「どこに相談したらよいかわからないから」、「その他」、「特に理由はない」、「わからない」が33.3%で回答が分かれた。

70歳～79歳

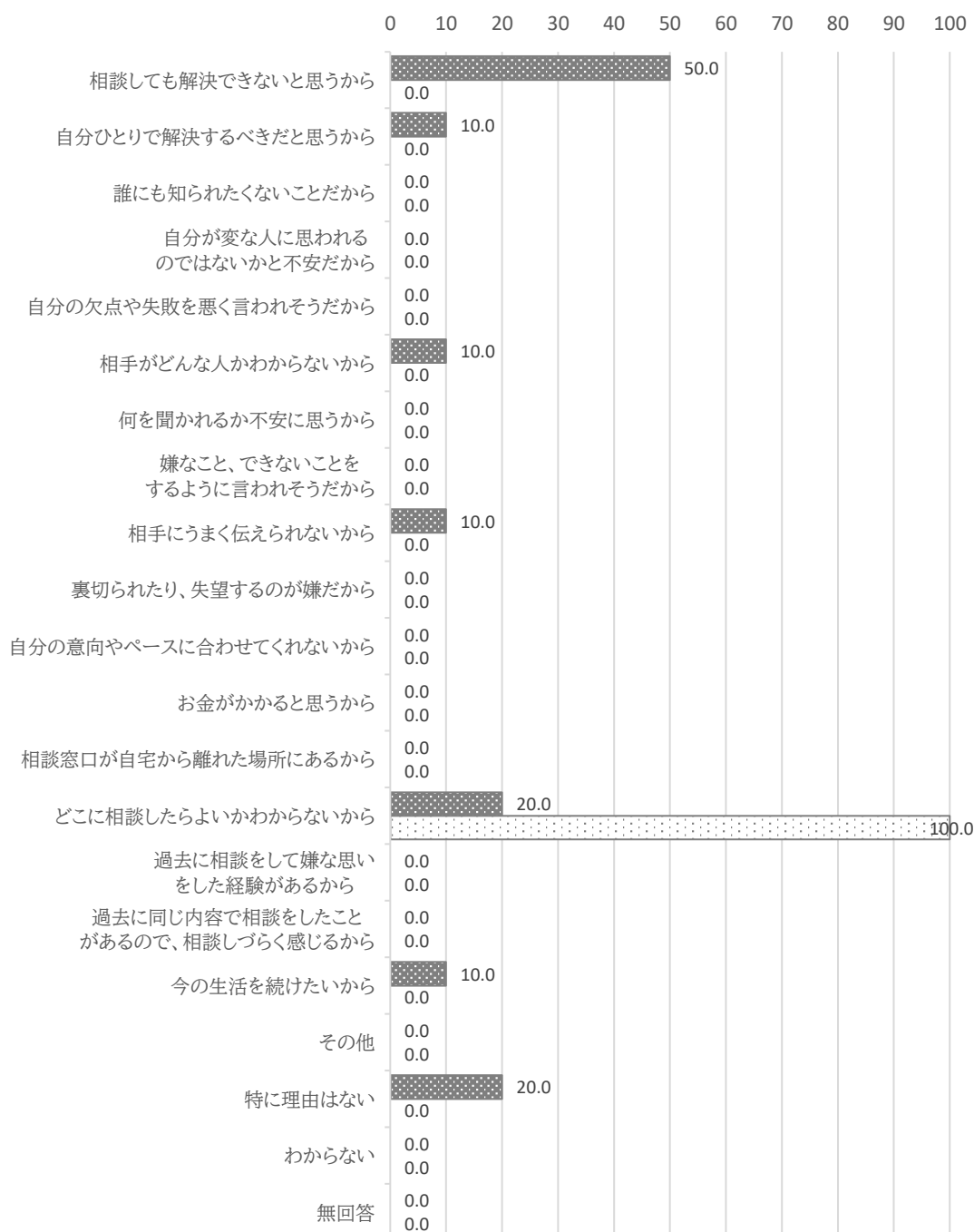
■ いる(子:8050)群 (16 人)
 □ いる(子以外)群 (4 人)
 (%)



相談しない理由については、いる(子:8050)群では「相談しても解決できないと思うから」が37.5%で最も多く、ついで「どこに相談したらよいかわからないから」、「その他」が25.0%であった。いる(子以外)群では「相談しても解決できないと思うから」が50.0%で最も多く、ついで「自分ひとりで解決するべきだと思うから」及び「特に理由はない」が25.0%であった。

80歳～89歳

■ いる(子:8050)群 (10 人)
 ▨ いる(子以外)群 (1 人)
 (%)



相談しない理由については、いる(子:8050)群では「相談しても解決できないと思うから」が50.0%で最も多く、いる(子以外)群では「どこに相談したらよいかわからないから」が最も多かった。

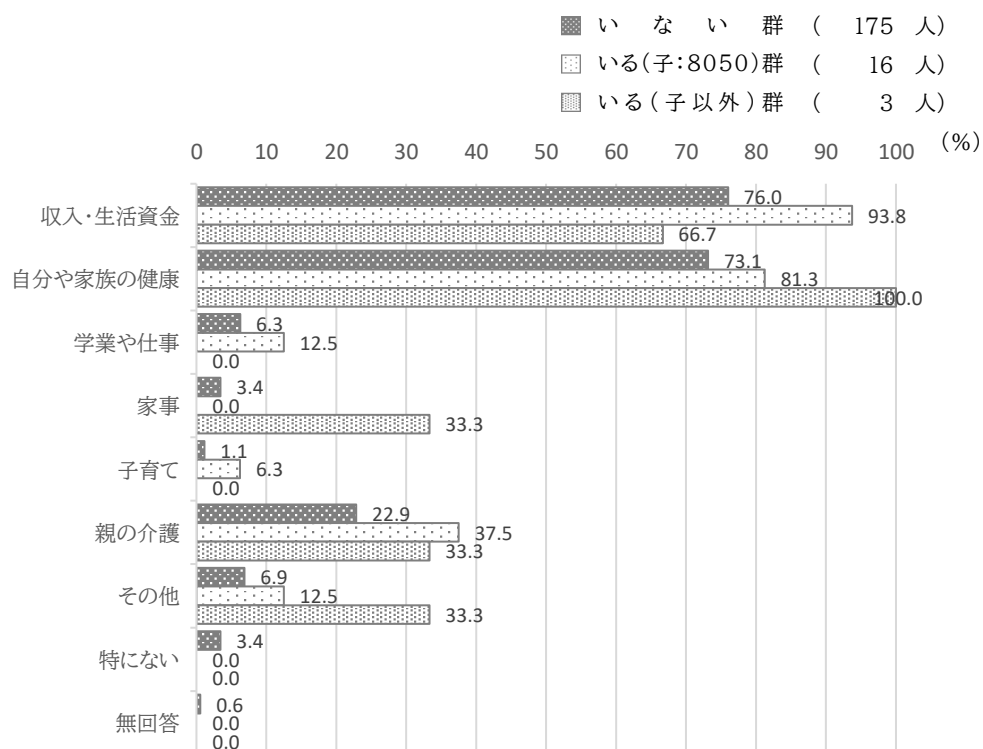
その他の内容
 (抜 粋)

年代	内容
すべて	本人が病院に通院治療中のため(2件) 相談する程の事ではないので 少し良い方向にある為、もう少し様子をみようと思っている為 色々とした時期もあったが、どこに相談していいのか困った。 コロナ禍の影響で行きずらくなってしまった 本人の気持ちと相談中

e. 生活の困りごとなどについての相談・支援に関すること

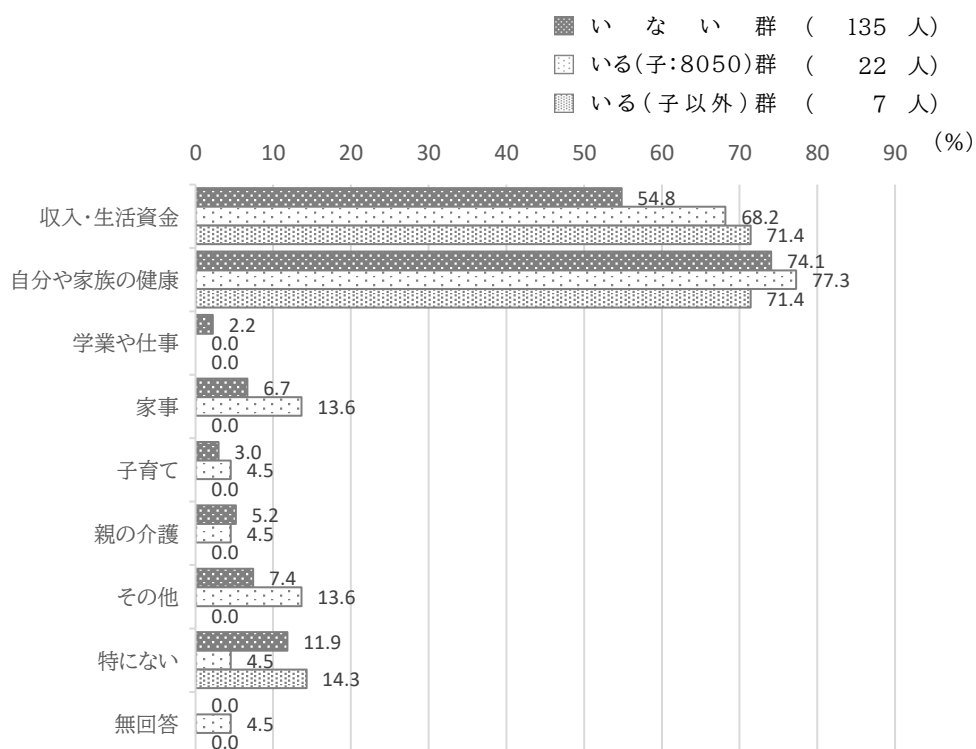
Q21 あなたが将来について考えたとき、心配なことや悩みに思う事柄は何ですか。(〇はいくつでも)

60歳～69歳



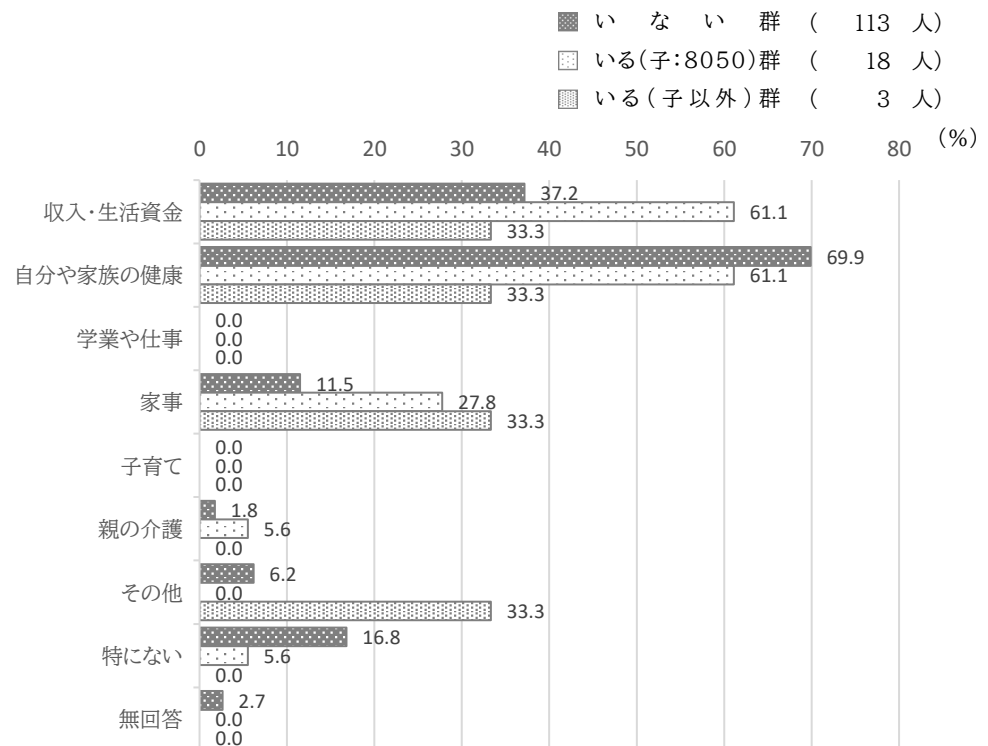
将来の心配なことや悩みに思う事柄は、いない群では「収入・生活資金」が76.0%で最も多く、ついで「自分や家族の健康」が73.1%であった。いる(子:8050)群では「収入・生活資金」が93.8%で最も多く、ついで「自分や家族の健康」が81.3%であった。いる(子以外)群では「自分や家族の健康」が100.0%で最も多く、ついで「収入・生活資金」が66.7%であった。

70歳～79歳



将来の心配なことや悩みに思う事柄は、いない群では「自分や家族の健康」が74.1%で最も多く、ついで「収入・生活資金」が54.8%であった。いる(子:8050)群では「自分や家族の健康」が77.3%で最も多く、ついで「収入・生活資金」が68.2%であった。いる(子以外)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」が71.4%で最も多かった。

80歳～89歳



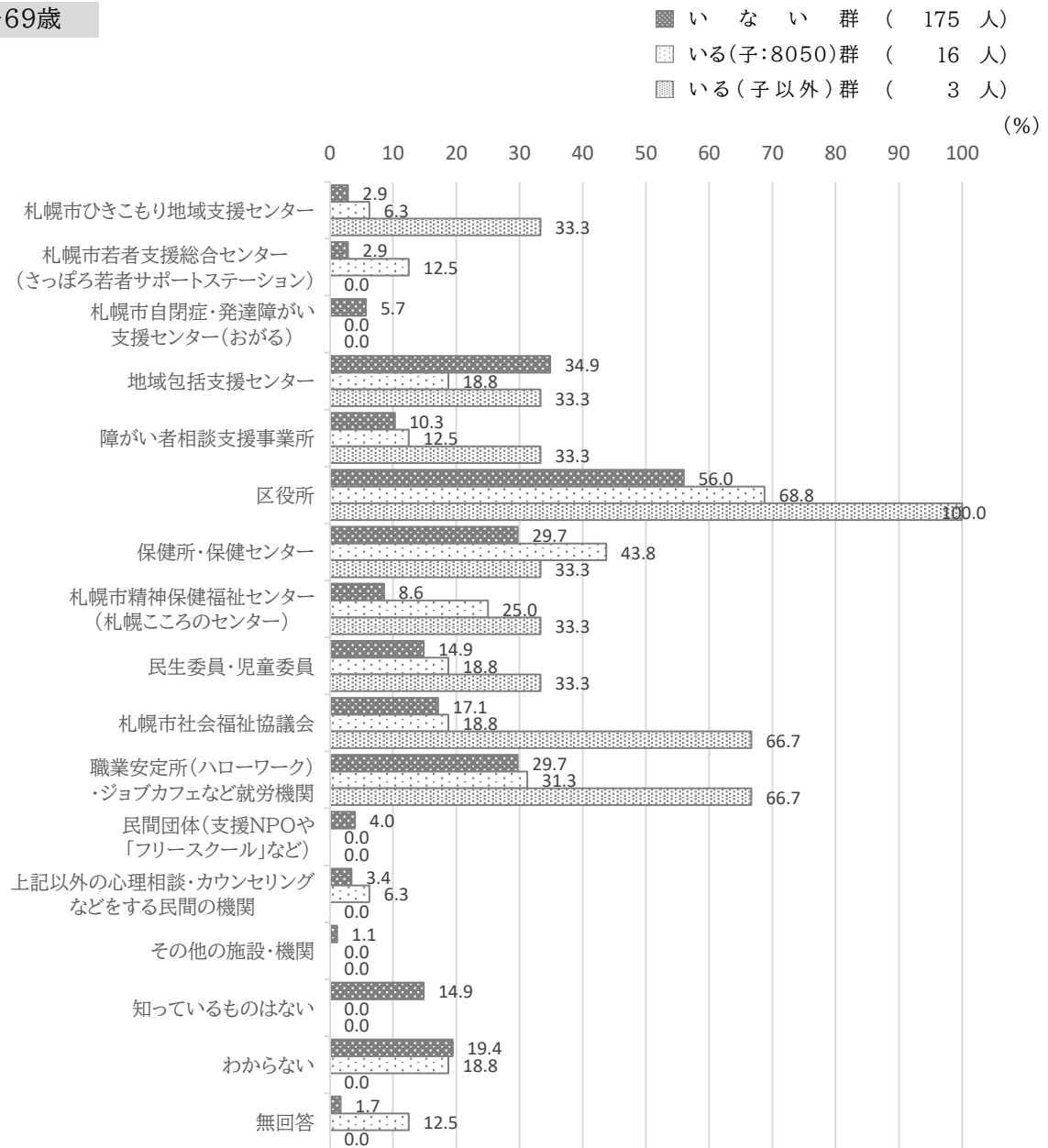
将来の心配なことや悩みに思う事柄は、いない群では「自分や家族の健康」が69.9%で最も多く、ついで「収入・生活資金」が37.2%であった。いる(子:8050)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」が61.1%で最も多かった。いる(子以外)群では「収入・生活資金」及び「自分や家族の健康」、「家事」、「その他」が33.3%で回答が分かれた。

その他の内容

年代	内容
すべて	子供の将来(8件) 自分が居なくなった時の子の生活(4件) 子供の結婚(3件) 子供の仕事(2件) 子供の自立(2件) 老後の生活(2件) 家の老朽化、貸家維持(2件) 家の存続、墓じまい(2件) 相続(2件) 障害者となった子の「親亡き後」問題 障害児の介護 子供の病気 年金だけで生活できるか不安 いつまで働けばいい？ 老人ホームさがし デイサービス、ショートステイ等へ全く行く事を拒否 買物 話しづらい

Q22 生活や困りごとについて相談できる窓口として、あなたが知っている窓口・相談機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

60歳～69歳

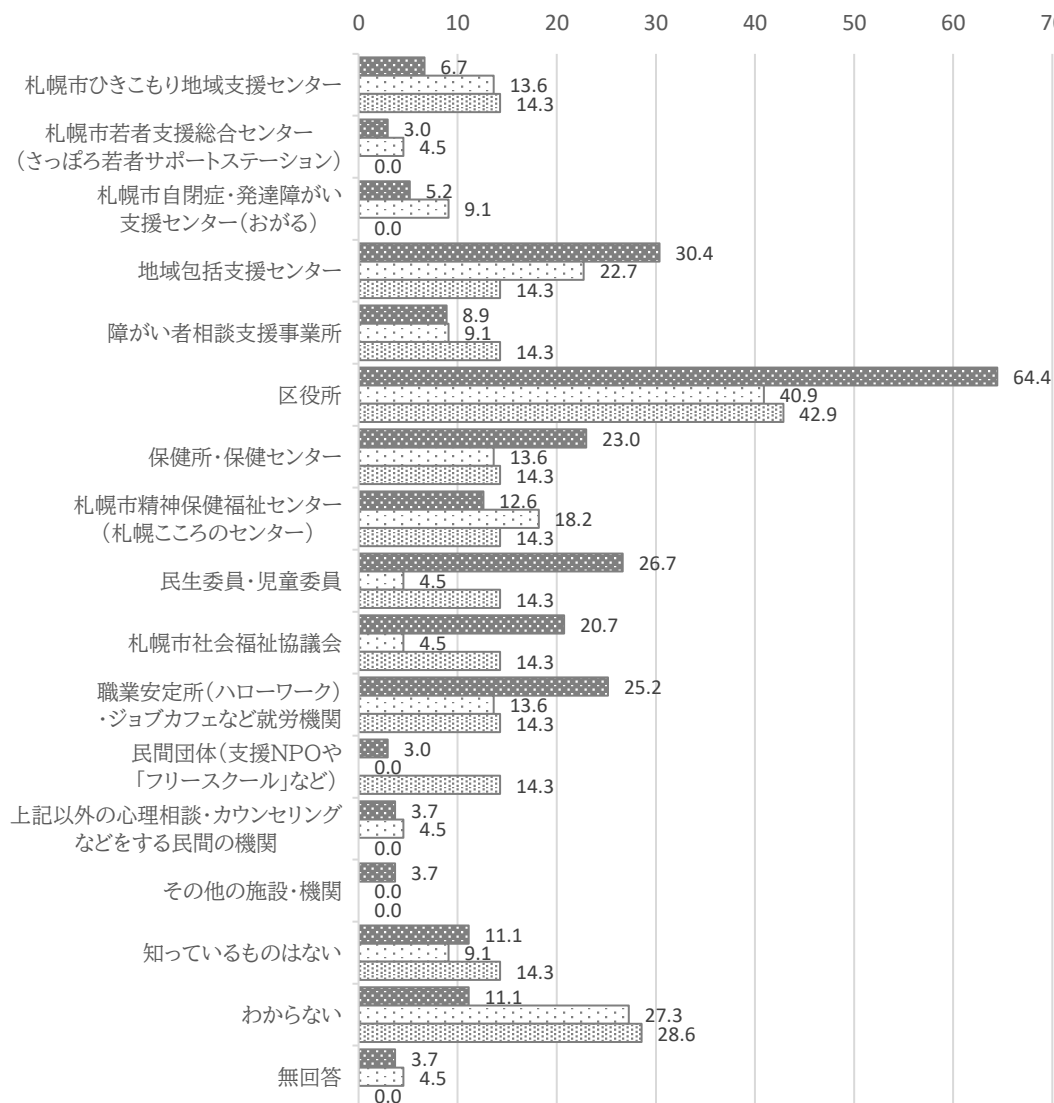


知っている生活や困りごとについての相談窓口は、いない群では「区役所」が56.0%で最も多く、ついで「地域包括支援センター」が34.9%であった。いる(子:8050)群では「区役所」が68.8%で最も多く、ついで「保健所・保健センター」が43.8%であった。いる(子以外)群では「区役所」が100.0%で最も多く、ついで「札幌市社会福祉協議会」及び「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェなど就労機関」が66.7%であった。

70歳～79歳

■ い な い 群 (135 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (22 人)
 ▩ いる(子以外)群 (7 人)

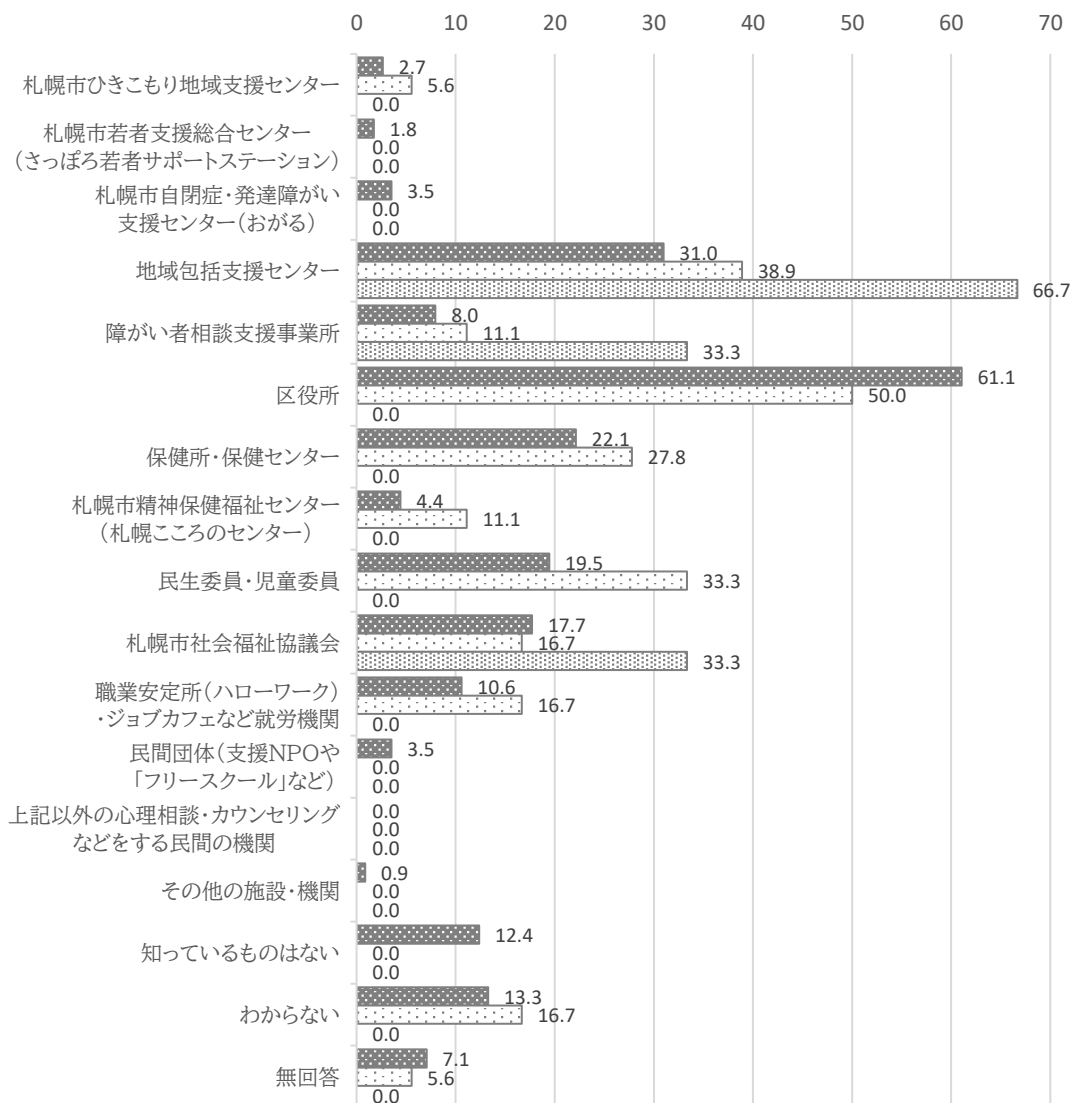
(%)



知っている生活や困りごとについての相談窓口は、いない群では「区役所」が64.4%で最も多く、ついで「地域包括支援センター」が30.4%であった。いる(子:8050)群では「区役所」が40.9%で最も多く、ついで「わからない」が27.3%であった。いる(子以外)群では「区役所」が42.9%で最も多く、ついで「わからない」が28.6%であった。

80歳～89歳

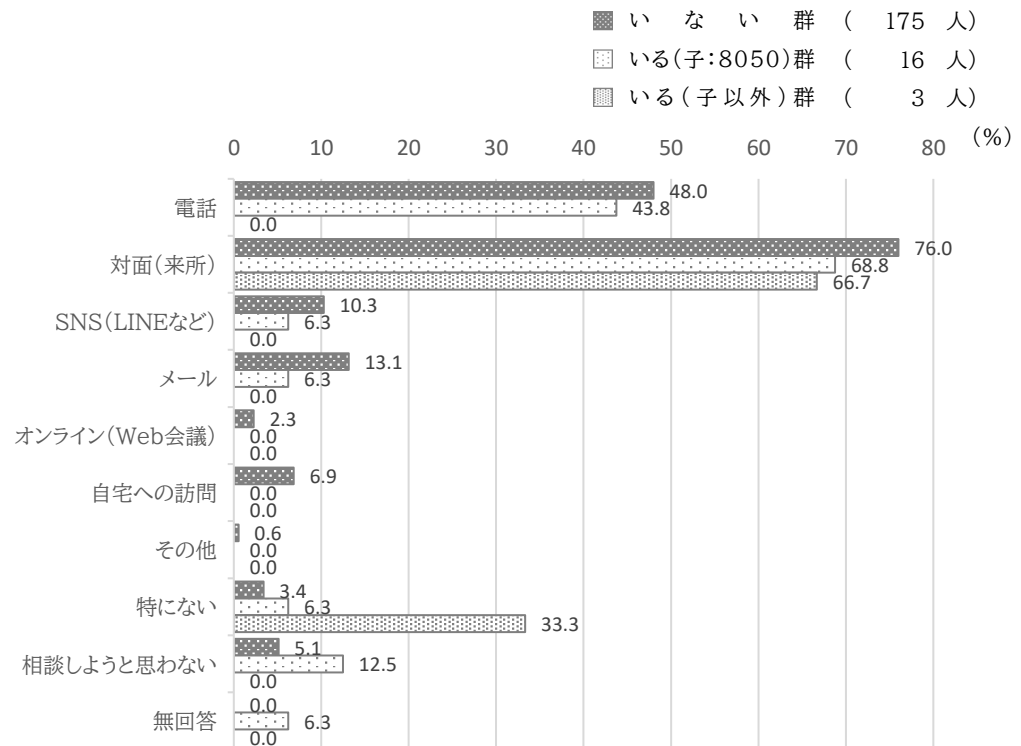
■ い な い 群 (113 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (18 人)
 ▩ いる(子以外)群 (3 人)
 (%)



知っている生活や困りごとについての相談窓口は、いない群では「区役所」が61.1%で最も多く、ついで「地域包括支援センター」が31.0%であった。いる(子:8050)群では「区役所」が50.0%で最も多く、ついで「地域包括支援センター」が38.9%であった。いる(子以外)群では「地域包括支援センター」が66.7%で最も多く、ついで「障がい者相談支援事業所」及び「札幌市社会福祉協議会」が33.3%であった。

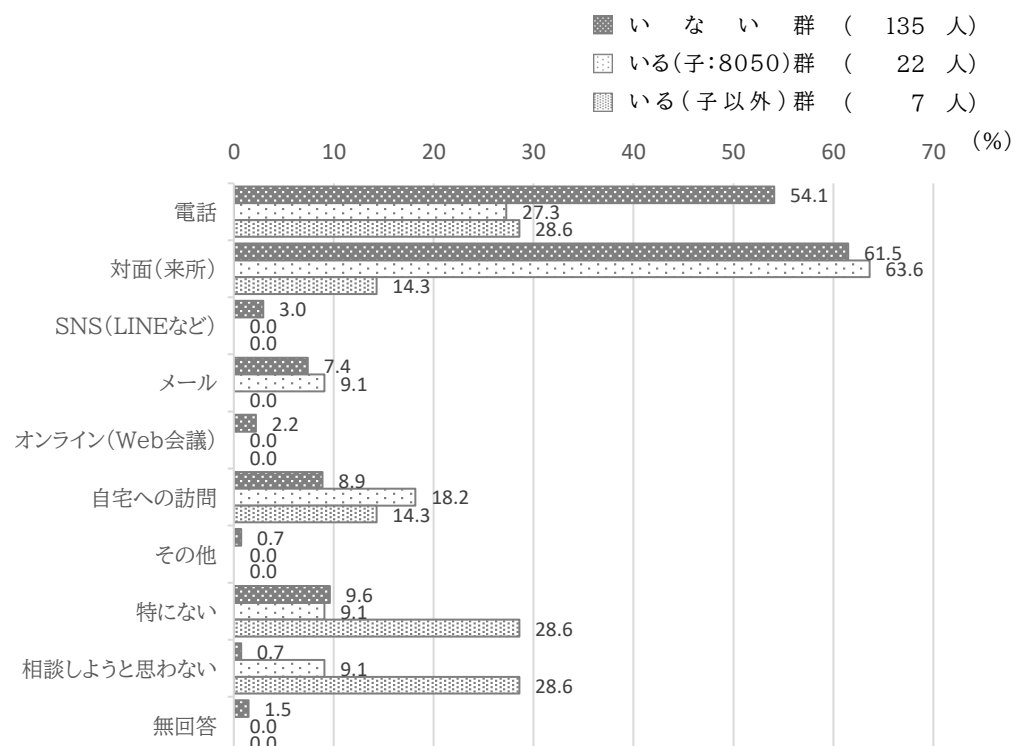
Q23 あなたが悩みや困りごとを抱えて、行政機関(区役所などの窓口)に相談しようと思ったとき、どのような方法で相談したいですか。(〇はいくつでも)

60歳～69歳



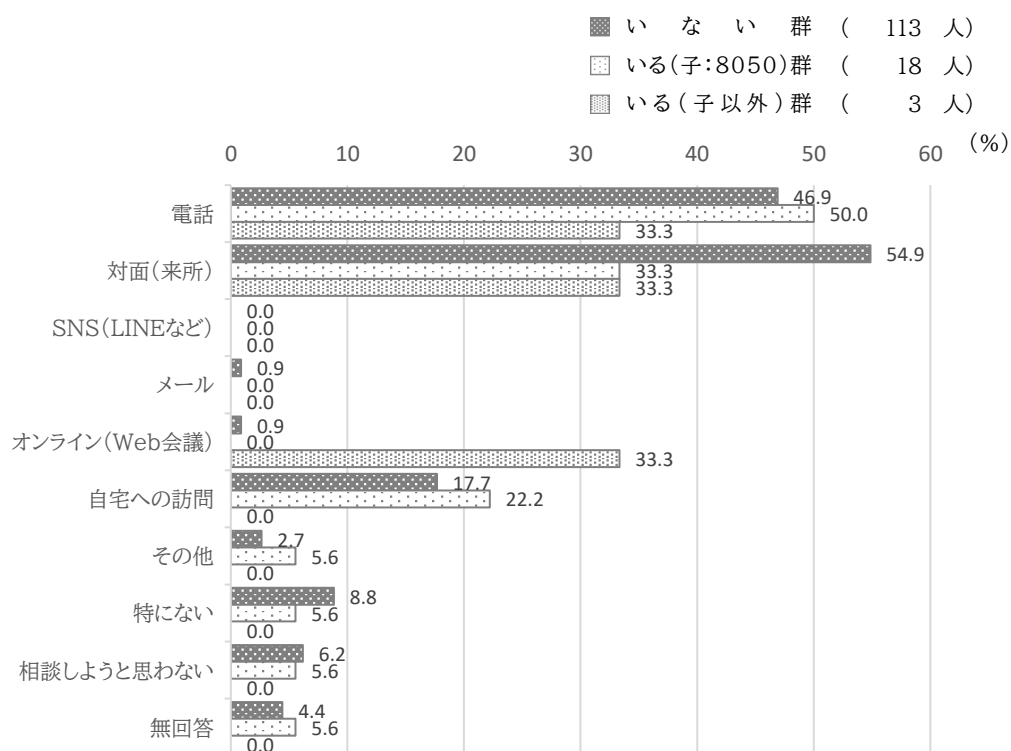
行政機関に相談しようとする時の方法は、全群で「対面(来所)」が最も多く、いない群では76.0%、いる(子:8050)群では68.8%、いる(子以外)群では66.7%であった。

70歳～79歳



行政機関に相談しようとする時の方法は、いない群では「対面(来所)」が61.5%で最も多く、ついで「電話」が54.1%であった。いる(子:8050)群では「対面(来所)」が63.6%で最も多く、ついで「電話」が27.3%であった。いる(子以外)群では「電話」及び「特にない」、「相談しようと思わない」が28.6%で回答が分かれた。

80歳～89歳

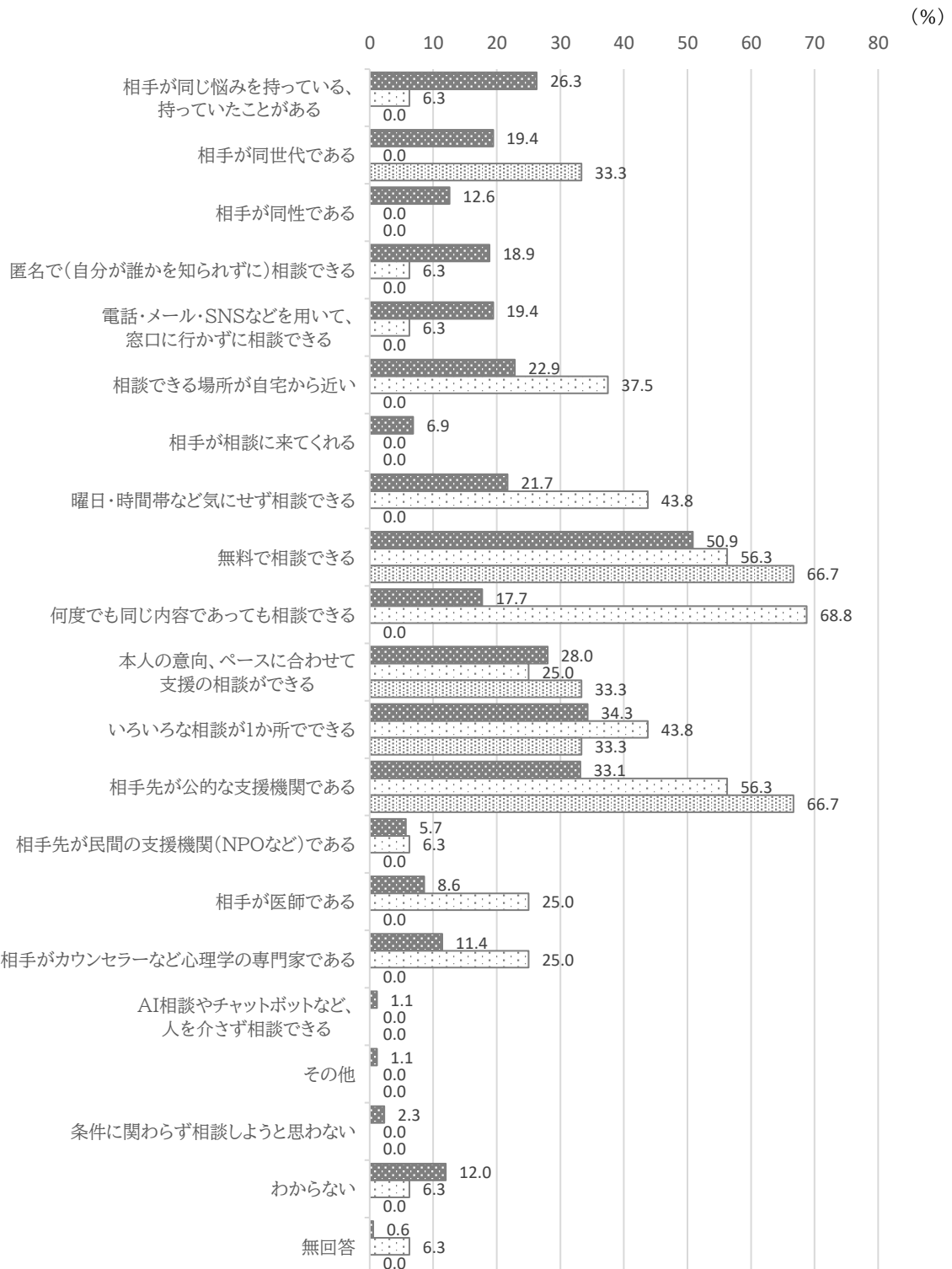


行政機関に相談しようとする時の方法は、いない群では「対面(来所)」が54.9%で最も多く、ついで「電話」が46.9%であった。いる(子:8050)群では「電話」が50.0%で最も多く、ついで「対面(来所)」が33.3%であった。いる(子以外)群では「電話」及び「対面(来所)」、「オンライン(Web会議)」が33.3%で回答が分かれた。

Q24 あなたは困りごとについて、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

60歳～69歳

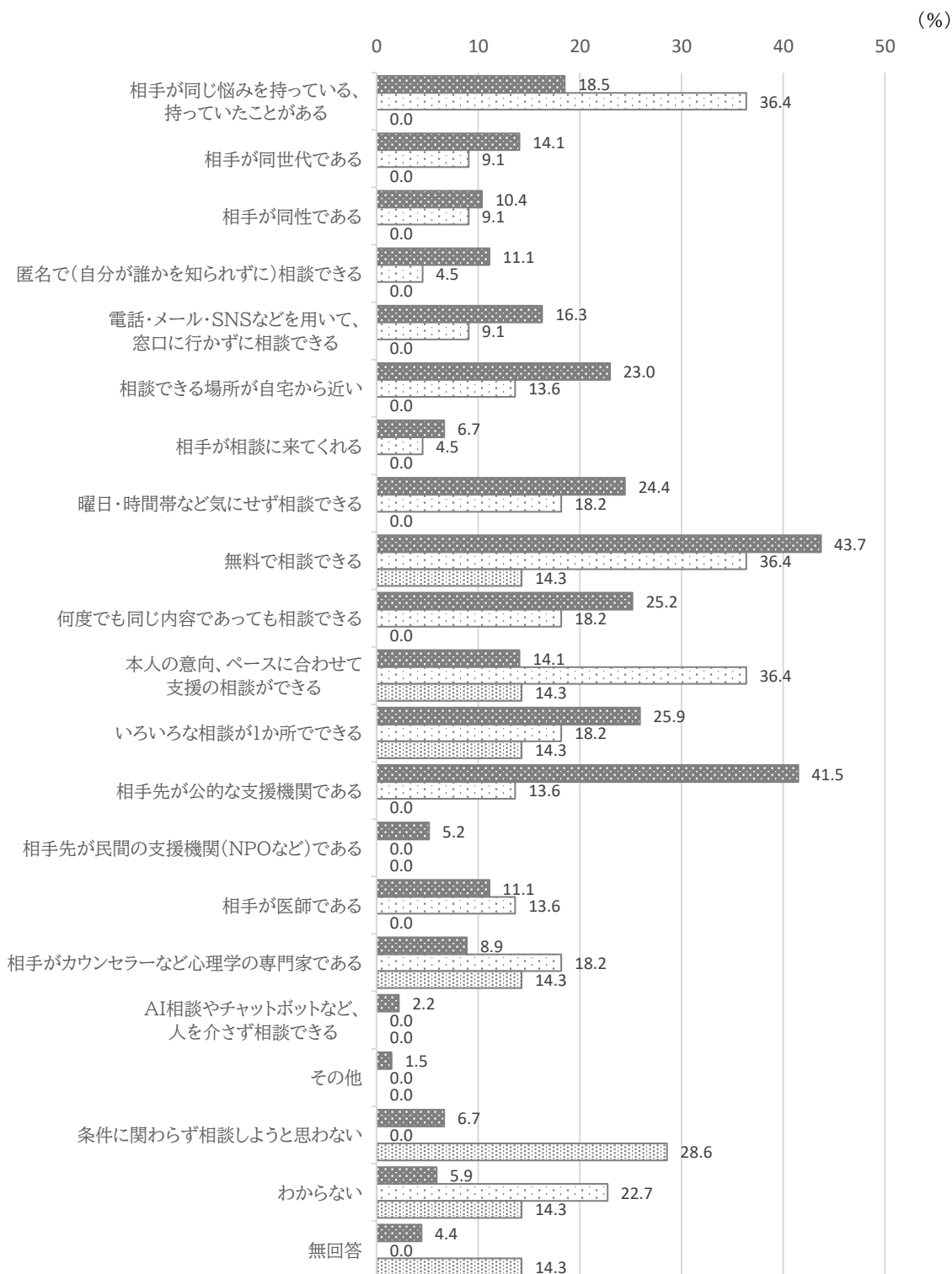
■ い ない 群 (175 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (16 人)
 ▩ いる(子以外)群 (3 人)



家族や知り合い以外に相談したい場所については、いない群では「無料で相談できる」が50.9%で最も多く、ついで「いろいろな相談が1か所で行える」が34.3%であった。いる(子:8050)群では「何度でも同じ内容であっても相談できる」が68.8%で最も多く、いる(子以外)群では「無料で相談できる」及び「相手先が公的な支援機関である」が66.7%で最も多かった。

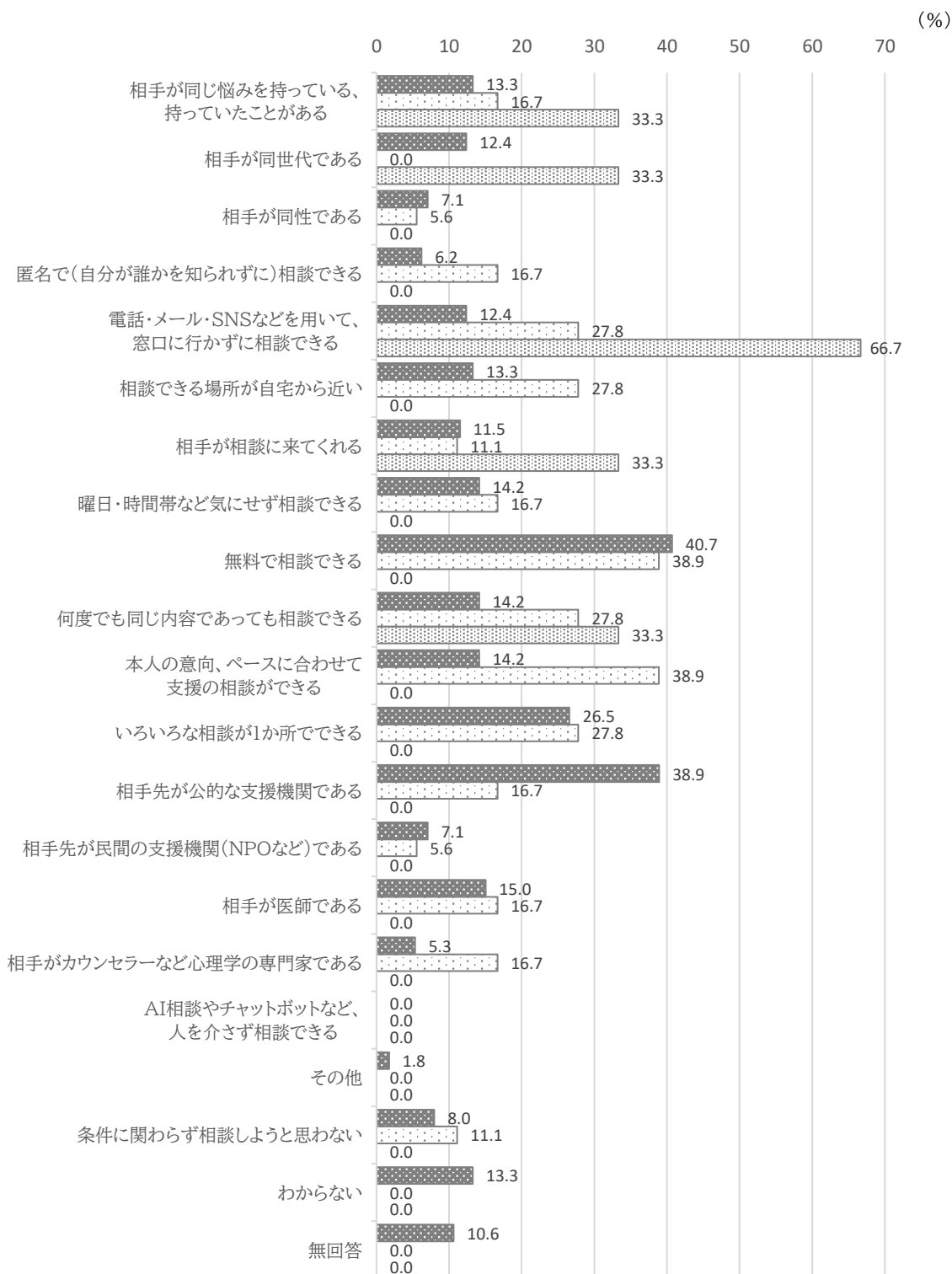
70歳～79歳

■ い ない 群 (135 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (22 人)
 ▩ いる(子以外)群 (7 人)



家族や知り合い以外に相談したい場所については、いない群では「無料で相談できる」が43.7%で最も多く、ついで「相手先が公的な支援機関である」が41.5%であった。いる(子:8050)群では「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」及び「無料で相談できる」、「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が36.4%で最も多く、いる(子以外)群では「条件に関わらず相談しようと思わない」が28.6%で最も多かった。

■ い ない 群 (113 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (18 人)
 ▩ いる(子以外)群 (3 人)

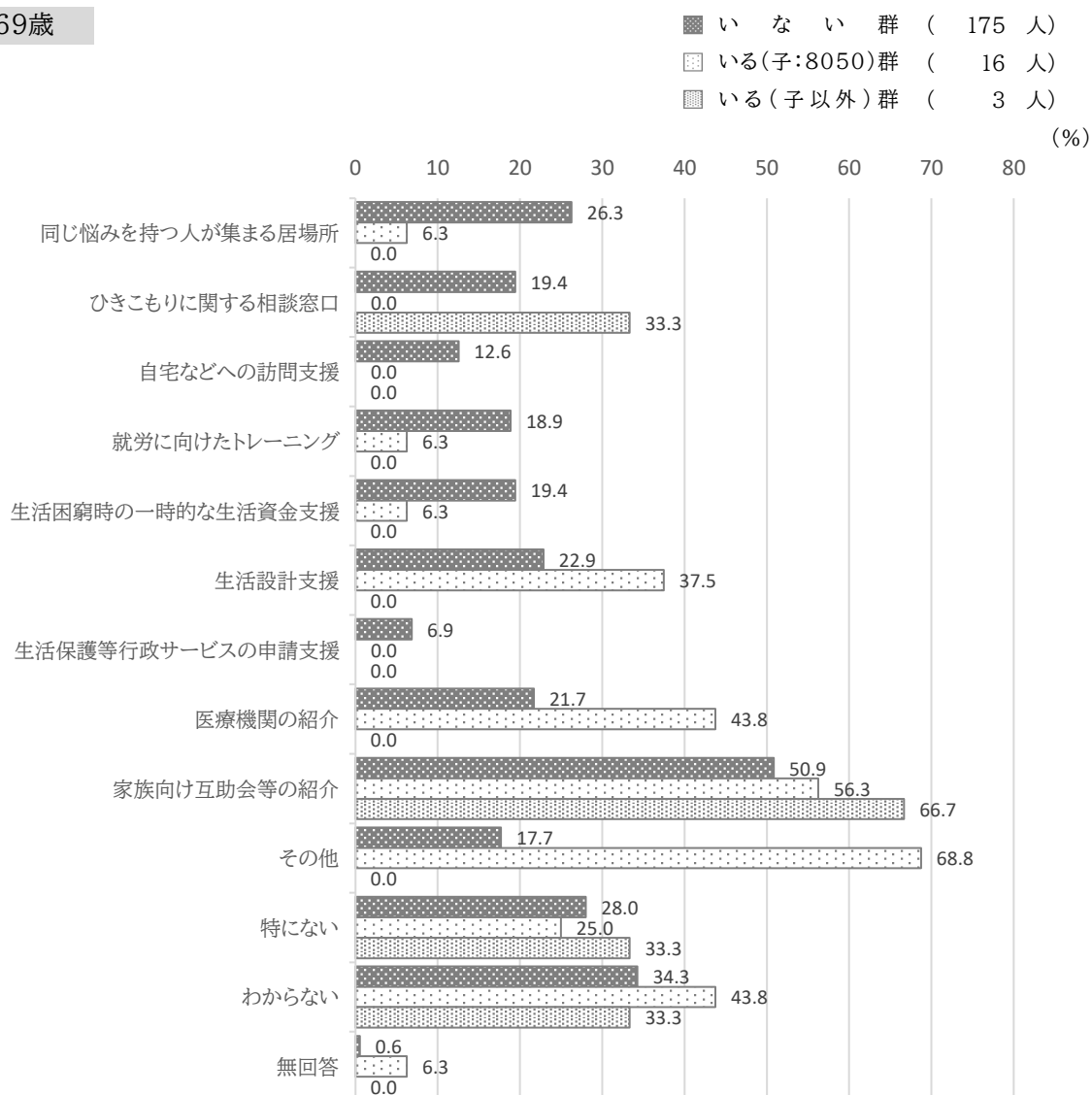


家族や知り合い以外に相談したい場所については、いない群では「無料で相談できる」が40.7%で最も多く、ついで「相手先が公的な支援機関である」が38.9%であった。いる(子:8050)群では「無料で相談できる」及び「本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる」が38.9%で最も多く、いる(子以外)群では「電話・メール・SNSなどを用いて、窓口に行かずに相談できる」が66.7%で最も多かった。

f. 8050問題で悩む方々への支援等について

Q25 8050問題で悩む方々に対して、どのような支援等があると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

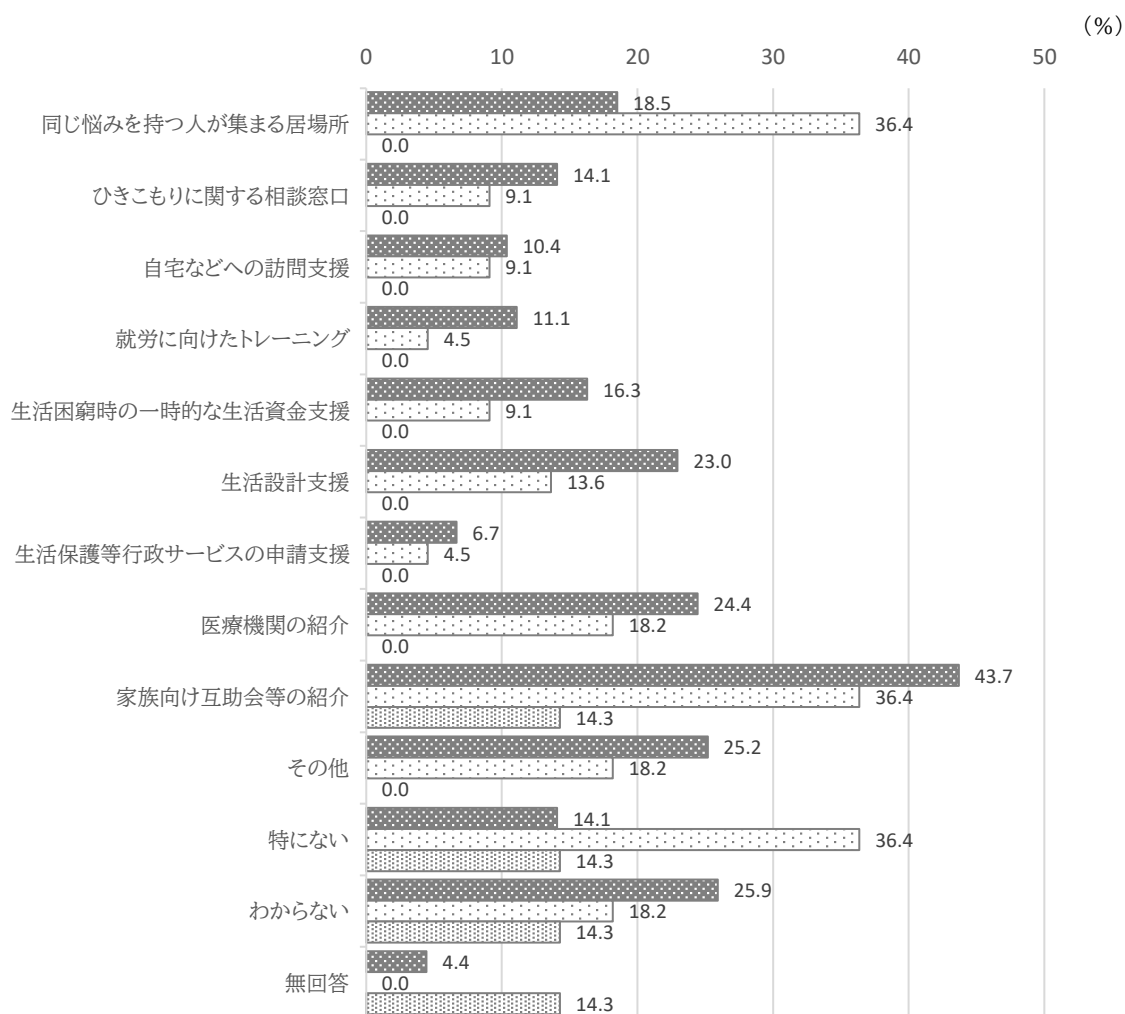
60歳～69歳



8050問題で悩む方々に対する支援については、いない群では「家族向け互助会等の紹介」が50.9%で最も多く、いる(子:8050)群では「その他」が68.8%で最も多く、ついで「家族向け互助会等の紹介」が56.3%であった。いる(子以外)群では「家族向け互助会等の紹介」が66.7%で最も多かった。

70歳～79歳

■ い な い 群 (135 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (22 人)
 ▩ いる(子以外)群 (7 人)

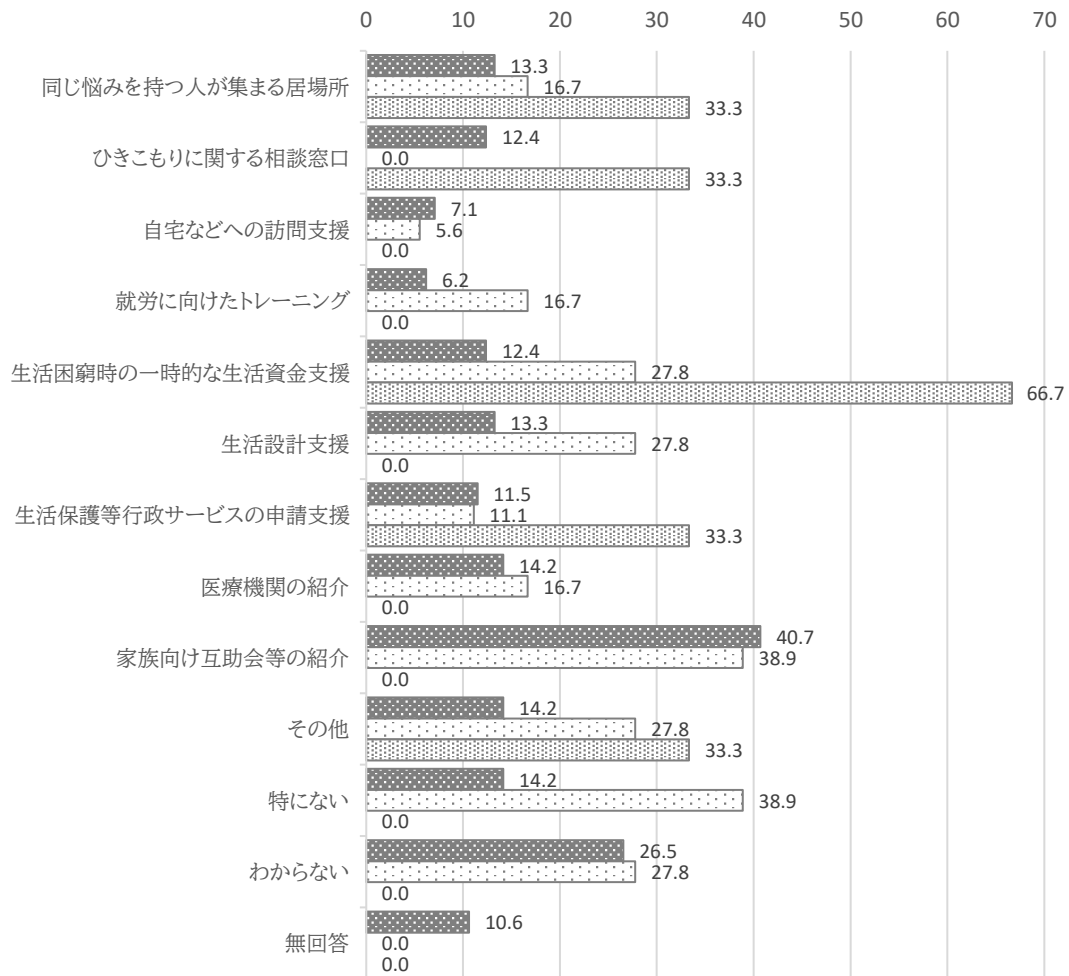


8050問題で悩む方々に対する支援については、いない群では「家族向け互助会等の紹介」が43.7%で最も多く、ついで「わからない」が25.9%であった。いる(子:8050)群では「同じ悩みを持つ人が集まる居場所」及び「家族向け互助会等の紹介」、「特にない」が36.4%と最も多く、いる(子以外)群では「家族向け互助会等の紹介」及び「特にない」、「わからない」が14.3%で回答が分かれた。

80歳～89歳

■ い な い 群 (113 人)
 ▨ いる(子:8050)群 (18 人)
 ▩ いる(子以外)群 (3 人)

(%)



8050問題で悩む方々に対する支援については、いない群では「家族向け互助会等の紹介」が40.7%で最も多く、ついで「わからない」が26.5%であった。いる(子:8050)群では「家族向け互助会等の紹介」及び「特にない」が38.9%と最も多く、いる(子以外)群では「生活困窮時の一時的な生活資金支援」が66.7%で最も多かった。

その他の内容

年代	内容
すべて	親の介護、老人ホーム グループホーム、老人介護施設の拡充 自分や配偶者に介護が必要になったときの受け入れ先や相談窓口 心身、経済的な支援 相談機関が対応できる課題を明示するリスト

